山梨県北巨摩郡須玉町

腰巻遺跡（第１～３次調査）

２００４
須玉町外１ヶ村病院組合
明野村教育委員会
須玉町教育委員会

山梨県北巨摩郡須玉町

腰巻（こしまき）遺跡（第１次調査）

老人保健施設「しおかわ福寿の里」建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004

須玉町外1ヶ村病院組合

明野村教育委員会

須玉町教育委員会

例　言

1　本書は、山梨県北巨摩郡須玉町藤田字腰巻787番地ほかに所在した腰巻（こしまき）遺跡の発掘調査報告書である。

2　本遺跡の現地発掘調査は、平成6年6月20日に着手し、平成6年9月13日に完了した。

3　発掘調査は、須玉町外1ヶ村病院組合立老人保健施設「しおかわ福寿の里」建設工事に伴い実施した。

4　発掘調査は、明野村教育委員会、須玉町教育委員会、須玉町外1ヶ村病院組合が協同で実施した。調査組織は下記のとおりである。

調査主体　明野村教育委員会・須玉町教育委員会
調査担当　明野村教育委員会文化財調査員　佐野　隆
須玉町教育委員会文化財担当　山路恭之助
須玉町教育委員会調査補助員　深沢裕三
調査事務局　須玉町外1ヶ村病院組合

5　本書の執筆、編集は佐野があたった。

6　本遺跡の発掘調査に係る公文書は須玉町教育委員会および須玉町外1ヶ村病院組合が作成保管し、遺跡の出土品及び調査に係る諸記録は明野村教育委員会が保管している。

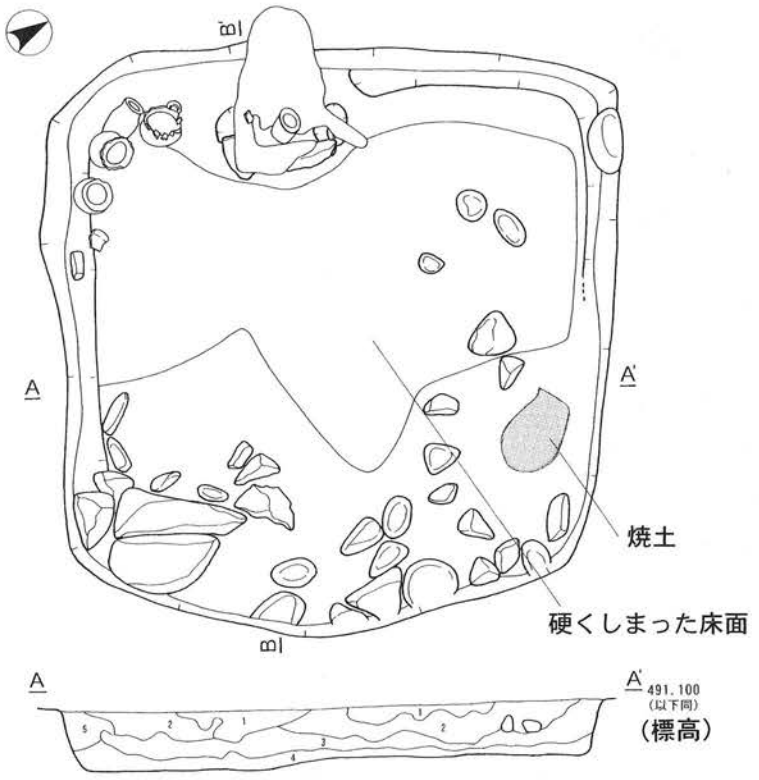
7　本遺跡の調査及び報告書作成に際し、次の方々にご指導、ご教示を賜った。ご芳名を記し感謝したい。（敬称略）
坂本美夫（山梨県埋蔵文化財センター）、瀬田正明（一宮町教育委員会）、平野修（帝京大学山梨文化財研究所）、保坂康夫（山梨県埋蔵文化財センター）、森原明廣（山梨県埋蔵文化財センター）、山下孝司（韮崎市教育委員会）

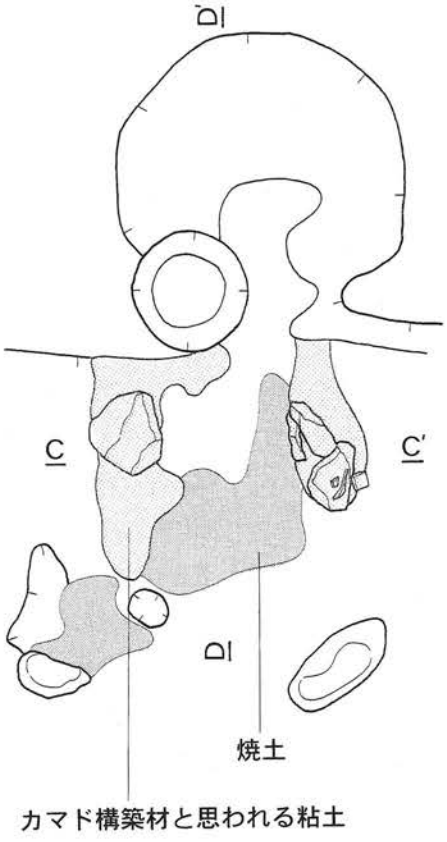
8　調査参加者（五十音順、敬称略）
阿部恵子、石渡節子、今村憲一、上野如子、小野良子、河手寿子、菊地てる代、篠原啓子、清水祐至、清水小春、清水みゆき、田中利行、筒井つや子、壺屋てる子、中田朗、入戸野きぬよ、入戸野たかじ、入戸野つるじ、入戸野宏、橋本隆廣、早川潤、福田和久、福田佐つき、堀内としえ、松田かね代、三井幸子、三井義満、三塚てつ子、皆川和子、皆川知子、宮崎庄八、宮崎俊子、宮崎房子、山口か志子、山田直樹、東京大学考古学研究会

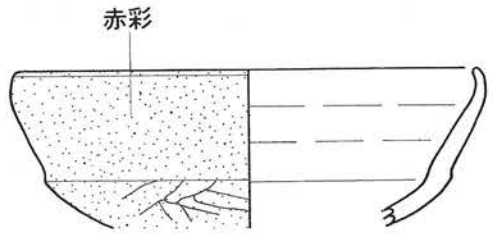
凡　例

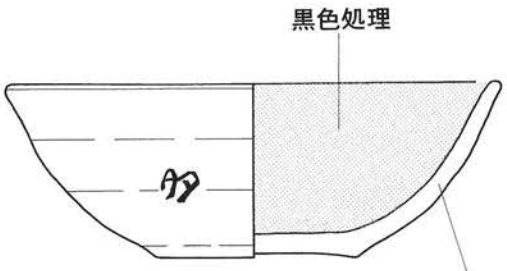
1　報告書中の地図は、国土地理院発行5万分の1地形図「八ヶ岳」「韮崎」、須玉町外1ヶ村病院組合作成「しおかわ福寿の里」用地現況図（250分の1）、須玉町作成「須玉町管内図」（1万分の1）を使用した。

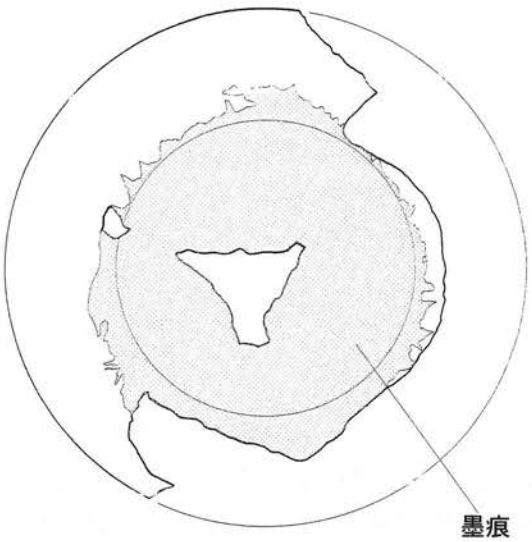
2　図版中の網掛等の意味するところは以下のとおりである。


B
B'
A
A'
焼土
硬くしまった床面
A
A'
491.100
(以下同)
(標高)

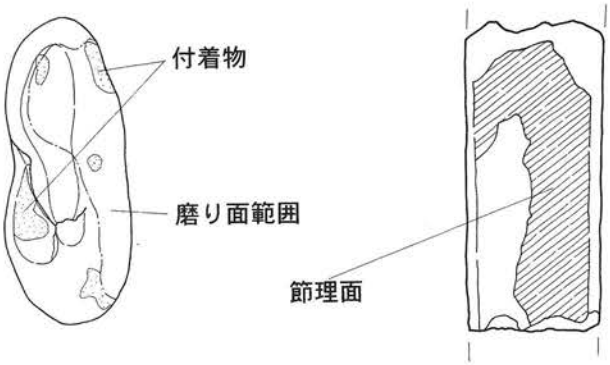

D
D'
C
C'
焼土
カマド構築材と思われる粘土


赤彩


黒色処理
土師器・土師質土器


墨痕

煤の付着
須恵器


付着物
磨り面範囲
節理面

本文目次

例言・凡例
第１章　調査に至る経緯…… 1
第２章　遺跡をめぐる環境 ……4
第３章　古墳時代の遺構と遺物……14
第４章　奈良時代の遺構と遺物……24
第５章　平安時代の遺構と遺物……32
第６章　その他の遺構と遺物……35

表 目 次

第１表　遺跡地名表 …… 9
第２表　遺物観察表 ……121

図版目次

第１図　調査区位置図 …… 2
第２図　遺跡全体図 …… 3
第３図　周辺の古墳時代遺跡分布図 …… 6
第４図　周辺の奈良時代遺跡分布図 …… 7
第５図　周辺の平安時代遺跡分布図 …… 8
第６図　１号住居　１号住居出土遺物 ……38
第７図　１号住居出土遺物 ……39
第８図　３号住居　３号住居カマド ……40
第９図　３号住居出土遺物 ……41
第10図　３号住居出土遺物 ……42
第11図　４号住居 ……43
第12図　４号住居カマド　４号住居出土遺物 ……44
第13図　４号住居出土遺物 ……45
第14図　５号住居　５号住居カマド ……46
第15図　５号住居出土遺物 ……47
第16図　５号住居出土遺物 ……48
第17図　８号住居 ……49
第18図　８号住居出土遺物 ……50
第19図　８号住居出土遺物 ……51
第20図　９号住居　９号住居カマド ……52
第21図　９号住居出土遺物 ……53
第22図　10号住居　10号住居カマド ……54
第23図　10号住居出土遺物 ……55
第24図　11号住居　11号住居出土遺物 ……56
第25図　12号住居　12号住居カマド ……57
第26図　12号住居出土遺物 ……58
第27図　12号住居出土遺物　16号住居　16号住居出土遺物　17a号住居 ……59
第28図　17a号住居カマド　17a号住居出土遺物 ……60
第29図　17b号住居　17b号住居カマド ……61
第30図　17b号住居出土遺物 ……62
第31図　17b号住居出土遺物　17c号住居　17c号出土遺物 ……63
第32図　17d号住居　17d号住居出土遺物　17号住居出土遺物 ……64
第33図　18a号・18b号住居　18b号住居カマド ……65
第34図　18a号住居出土遺物 ……66
第35図　18a号住居出土遺物　18b号住居出土遺物 …67
第36図　18b号住居出土遺物 ……68
第37図　19a号・19b号住居　19b号住居カマド ……69
第38図　19b号住居出土遺物 ……70
第39図　20号・22号住居　20号住居カマド ……71
第40図　20号住居出土遺物　21号住居出土遺物……72

第41図　21号住居出土遺物 (1/2)　24号住居 (1/40)　24号住居出土遺物 (1/2、6 1/4) ……73
第42図　26号住居　26号住居出土遺物 ……74　第43図　27号住居　27号住居カマド ……75
第44図　27号住居出土遺物 ……76　第45図　28号・36号住居　28号住居出土遺物 ……77
第46図　28号住居出土遺物 ……78　第47図　36号住居出土遺物 ……79
第48図　29号住居出土遺物　30号住居 ……80　第49図　30号住居出土遺物 ……81
第50図　30号住居出土遺物 ……82　第51図　32号住居　32号住居カマド ……83
第52図　32号住居カマド　32号住居出土遺物……84
第53図　34号・38a号・38b号住居 ……85　第54図　34号住居出土遺物 ……86
第55図　38a号住居カマド　38a号住居出土遺物 ……87
第56図　38a号住居出土遺物 ……88　第57図　38a号住居出土遺物 ……89
第58図　38b号住居カマド　38b号住居出土遺物 ……90
第59図　38b号住居出土遺物 ……91　第60図　38b号住居出土遺物　35号住居 ……92
第61図　37号住居　37号住居出土遺物 ……93　第62図　37号住居出土遺物 ……94
第63図　37号住居出土遺物　39号住居出土遺物……95
第64図　41号住居　41号住居カマド ……96　第65図　41号住居出土遺物 ……97
第66図　41号住居出土遺物 ……98　第67図　42号住居　42号住居カマド ……99
第68図　42号住居出土遺物 ……100　第69図　43a号・43b号住居 ……101
第70図　43a号住居カマド　43a号住居出土遺物 ……102
第71図　43a号住居出土遺物 ……103　第72図　43b号住居カマド　43b号住居出土遺物 ……104
第73図　43b号住居出土遺物 ……105　第74図　46号住居　46号住居カマド ……106
第75図　51号住居　51号住居出土遺物 ……107　第76図　52号・53号住居 ……108
第77図　52号住居カマド　52号住居出土遺物 ……109
第78図　52号住居出土遺物 ……110　第79図　53号住居カマド ……111
第80図　53号住居出土遺物 ……112　第81図　掘立柱建物 ……113
第82図　掘立柱建物 ……114　第83図　掘立柱建物 ……115
第84図　掘立柱建物 ……116　第85図　1号溝　1号溝出土遺物 ……117
第86図　1b号・2号掘立柱建物出土遺物　その他の時期の遺物 ……118
第87図　その他の時期の遺物 ……119　第88図　遺構外出土遺物 ……120

第1章　調査に至る経緯

山梨県北巨摩郡明野村と須玉町が運営する須玉町外1ヶ村病院組合は、平成6年に組合立老人保健施設「しおかわ福寿の里」建設を計画した。明野村教育委員会と須玉町教育委員会は、両町村の共同事業であることから埋蔵文化財の発掘調査を共同で実施することとし、平成6年4月に事業用地において埋蔵文化財所在確認調査（試掘調査）を実施した。

所在確認調査では事業用地4,600㎡に試掘坑13ヶ所、試掘溝10ヶ所を設け、遺構の有無を確認した。その結果、縄文時代、古墳時代、奈良時代、平安時代の出土品と、古墳時代を主体とする遺構の存在を確認し、事業用地の全域で発掘調査の実施が必要と判断した。

所在確認調査の結果を受けて、須玉町教育委員会と病院組合事務局とで事業の実施と埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、事業の実施に先立ち事業用地全域で記録保存のための発掘調査を実施することとした。調査に要する経費は病院組合を組織する明野村と須玉町が全額を負担することとした。発掘調査は、所在確認調査と同様に明野村教育委員会と須玉町教育委員会が共同で実施することとした。

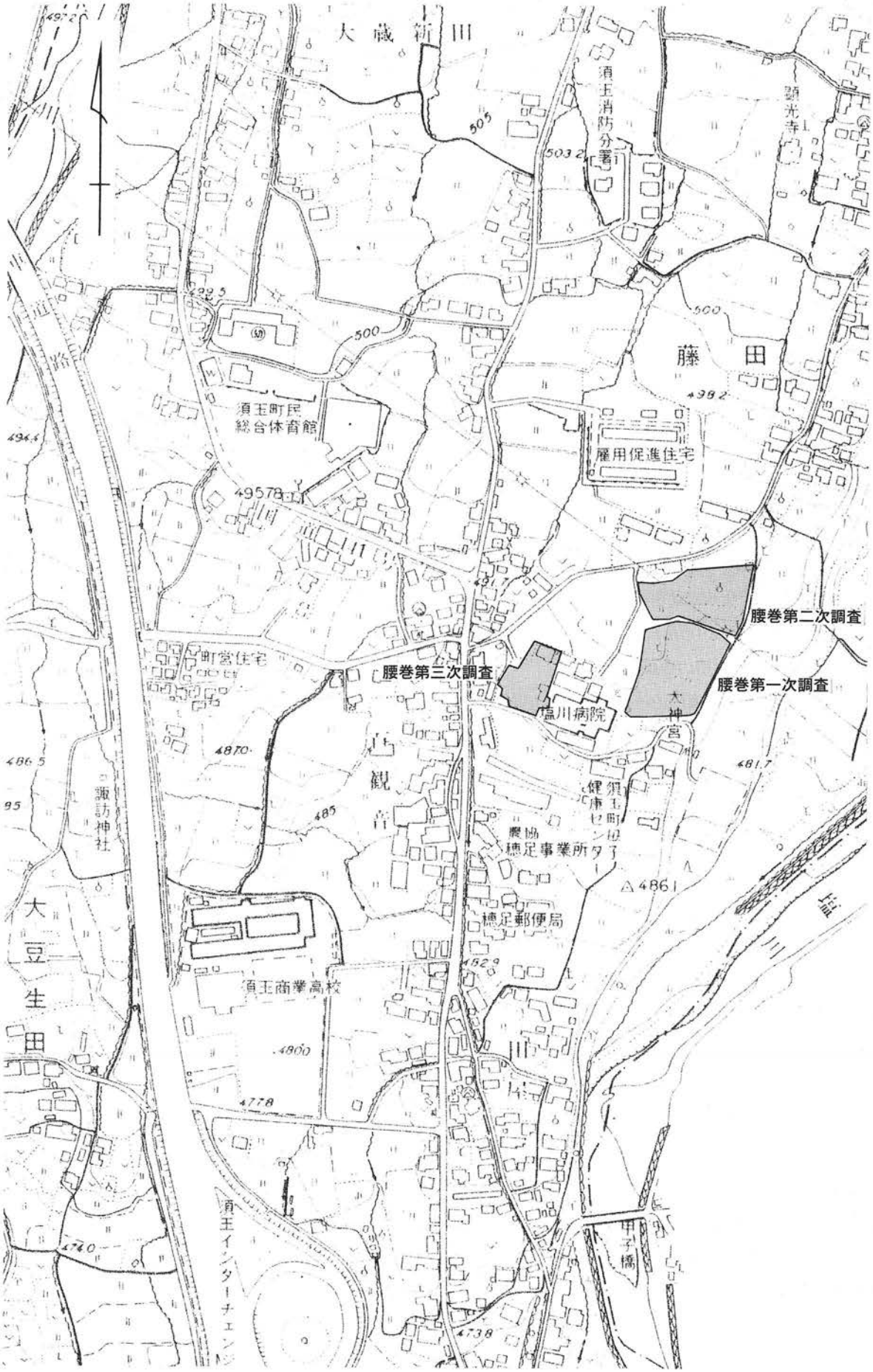
現地での発掘調査は、平成6年6月20日から同年9月13日にかけて実施し、調査対象面積は4,600㎡であった。所在確認調査の結果から積算した発掘調査費の総額は12,360,000円で、病院組合の出資比率に従い明野村が1/3、須玉町が2/3を負担した。

水田に囲まれた事業用地での発掘調査は、調査期間が農繁期にあたったこともあり、埋没谷内で多量の湧水に苦しめられ、必ずしも万全の成果を得ることはできなかった。しかし、所在確認調査で想定した遺構数を大きく上回る遺構を検出し、古墳時代の住居17軒、奈良時代の住居18軒、平安時代の住居7軒、掘立柱建物16棟を調査し、テンバコ45箱分の土器、石器、金属製品を得た。

調査記録と出土品の整理作業は、当初の調査計画で想定した調査費全額を現地調査に充てざるを得なかったため、次年度以降に延期することとし、平成7年度に洗浄、注記、復元作業を須玉町教育委員会で、実測、報告書作成作業を明野村教育委員会が実施した。

先述したとおり、腰巻遺跡内において計画された老人保健施設「しおかわ福寿の里」建設工事に先立ち、明野村教育委員会と須玉町教育委員会では、工事用地内の埋蔵文化財所在確認調査を実施したが、この時点で腰巻遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったため、調査においては、まず遺跡の有無を確認することを第一の目的とした。この結果、複数の試掘坑で縄文時代の土器と土師器が出土したため、埋蔵文化財包蔵地であると判断し、次に用地内における遺跡の広がりと遺構の有無、遺構密度を確認するために2m幅の試掘溝10本を掘削した。調査期間の制約上、試掘溝の表土を重機で剥ぎ取り、下層を人力で掘削することとした。この調査の結果、竪穴住居跡とみられる遺構が数ヶ所で確認され、現地形から推測される旧微地形を勘案すると、用地全体に遺跡が分布していることが確実視された。

以上の事前調査の結果を踏まえ、施設建設工事計画により遺跡に破壊が及ぶ範囲を把握する作業を行った。建設工事では、北から南へ緩く傾斜する従前の地形を、北側で削平し南側に盛土することで平坦な用地を造成することとされていた。また施設は用地のほぼ中央に建設され、基礎工事等による掘削は地表下深くまで及ぶ。遺跡を現状保存できる可能性が残された区域は、南側に予定されている駐車場の一部のみであった。建設工事を担当する病院組合事務局と協議した結果、用地全面を発掘調査しても調査経費に大きな差がないと予想されること、現状保存区域を設定することで工事の実施とのちの土地利用計画に支障が生じる可能性が残ることなどの理由により、本発掘調査は、老人保健施設建設用地の全体を対象に実施することとした。



第1図　調査区位置図（1/5,000）

第２図　遺跡全体図（数字は遺構番号を示す）

第2章　遺跡をめぐる環境

腰巻遺跡は、山梨県北巨摩郡須玉町藤田787番地一帯に所在する。

山梨県北西部は、西は赤石山脈（南アルプス）で長野県伊那地方と接し、北は休火山八ヶ岳の緩やかな山麓で長野県諏訪地方とつながる。東には主峰金峰山を戴く秩父山地が迫り、標高2000mを超える山並みに三方を囲まれた地域である。

それぞれの山並みからは、駿河湾に注ぐ富士川の支流が発している。赤石山脈北部の高峰甲斐駒ケ岳からは釜無川が南北に細長い低地を刻み、八ヶ岳では須玉川、甲川などの河川が、山麓に大小の谷を刻みながら田畑を潤している。秩父山地に発する塩川は、深い渓谷を刻んで谷あいをうねるように流れ、その両岸には幾段もの河岸段丘が発達している。八ヶ岳南麓の河川と塩川は、腰巻遺跡の南方で合流して河岸の低地を形成しながら南流し、甲府盆地へつながるほそい回廊を用意している。塩川は、やがて釜無川、笛吹川と合流し甲府盆地西端を駿河湾めざして流れ下る。

遺跡は、塩川右岸の河岸段丘上に立地する。段丘面には、旧自然堤防と思われる南に僅かに傾斜する微高地が展開し、遺跡は、そうした微高地上に位置する。標高は490mほどで、現在、遺跡の周辺は、組合立塩川病院があるほか、主に宅地と水田として利用されている。表層の耕作土と堆積土の下層には、河川砂礫が堆積している。現在の年平均気温は13度、年平均降水量は1,151mmで、冬季には「八ヶ岳おろし」と呼ばれる強い北寄りの季節風が吹き付ける。

遺跡のある須玉町藤田字腰巻とその周辺は、穂足地区と呼ばれる。この穂足地区は、東の塩川、西の須玉川にはさまれ、地区の南端で両河川が合流する。かつて両河川により形成された氾濫原は、東西幅1,000mほどの平坦面を残して東西両側が侵食され、塩川沿いでは河岸段丘の発達が顕著である。腰巻遺跡は氾濫原の東端に位置し、塩川との現比高差は50mほどである。

須玉川と塩川は合流した後、南に流れ下るが、その右岸に、東西600mから1,000mの平坦な氾濫原を南北6.5kmにわたって形成している。この平坦地は、「藤井平」と呼ばれ、古くから水田が広がる穀倉地帯であった。藤井平には縄文時代から弥生時代、さらに中世に至る多数の遺跡が知られ、山梨県北西部の拠点的地域であったといえる。そして、穂足地区は氾濫原「藤井平」の北端とみることができる。

藤井平と穂足地区は、穀倉地帯として重視されただけではなかった。古代においては、甲斐国中心部と信濃国東部、現在の長野県佐久地方とをむすぶ主要幹線「穂坂路」が、塩川をはさんで接する茅ヶ岳山麓を南北に延び、中世以降には、「佐久往還」（現国道141号線）が、甲斐国と信濃国を結んでいた。古代末から中世初頭には、甲斐源氏の一族が、穂足地区の北側の若神子地区に拠点を構えたといわれるように、中世には交通の要衝であり、甲斐国北西部の拠点としての性格も持ち合わせていた。こうした地理条件は、古代においても同様であったと考えられる。

腰巻遺跡とその周辺の遺跡の分布から、甲斐国北西部の歴史環境をみたい（第3図）。

縄文時代には多数の遺跡が知られた八ヶ岳南麓と茅ヶ岳山麓周辺は、丘陵地形が大半でしかも高冷地であるためか、弥生時代になると遺跡数が激減する。それでも弥生時代後期には八ヶ岳南麓の柳坪遺跡（24）、穂足地区の腰巻遺跡（118）、藤井平の中田小学校遺跡（78）、堂ノ前遺跡（89）などの集落遺跡が散見される。

古墳時代前期になると遺跡数が増加する。八ヶ岳南麓では柳坪遺跡（24）、酒呑場遺跡（28）、頭無遺跡（30）などの集落遺跡が知られ、北村遺跡（34）では方形周溝墓群が調査されている。茅ヶ岳山麓でも神取遺跡（129）の集落と大日川原遺跡（128）の方形周溝墓群が調査されている。藤井平周辺でも坂井南遺跡（93）などで集落と墓域が確認されている。

一方で古墳時代中期の遺跡は少なく、八ヶ岳南麓の龍角遺跡（33）、龍角西遺跡（32）、原町農業高校遺跡（36）、藤井平で枇杷塚遺跡（98）が知られる程度である。しかし龍角遺跡と龍角西遺跡のように一定数の住居群が知られ、古墳時代前期から集住が強まる傾向にあると推測することができる。

古墳時代後期にはこうした集住傾向がさらに顕著になり、かつ地域の中心的な集落が出現するようである。八ヶ岳

南麓では柳坪遺跡（24）、柳坪北遺跡（23）がみられる一方、藤井平北端にあたる腰巻遺跡（118）は古墳時代後期から奈良平安時代と継続して一定規模の集落が経営されている。藤井平の上横屋遺跡（92）はごく限られた面積が調査されたのみであるが、そこで検出された住居跡は激しく重複し、かなりの住居をともなう集落であると見込まれる。

こうした古墳時代後期の集落群に、6世紀後半から7世紀にかけての群集墳を築造した勢力をみることができる。八ヶ岳南麓では天王塚古墳、三つ墓古墳、須玉川沿いの低地では湯沢古墳群、茅ヶ岳山麓では三之蔵古墳群、藤井平では火の雨塚古墳が知られる。これらの古墳群と築造集団との具体的関係は不詳であるが、古墳が所在する地域周辺には古墳時代後期の集落遺跡が知られ、一定規模の地域集団が成立していたと考えられる。

保坂康夫氏によると、こうした伝統的な集団のうち八ヶ岳南麓に生活した人々は7世紀代に入ると姿を消すという（保坂 2002）。そして、時を同じくして腰巻遺跡に少なからぬ住居をともなう集落が築かれたことから、八ヶ岳南麓などの集団が集住して腰巻遺跡の集落を形成したと推測される。保坂氏は腰巻遺跡への集住が律令制の確立期から50年ほど先んじていることを指摘し、自然環境の変化が集住を促したとしている。

韮崎市宮ノ前遺跡とその周辺の微地形を分析した高橋学氏は、塩川の現谷底平野には、埋没旧中州と埋没旧河道の存在が読み取れ、宮ノ前遺跡などの古代集落は埋没急中州上に立地するとした（高橋 1992）。一方、埋没旧河道は、洪水に見舞われる恐れが残るものの、地下水位が高く灌漑用水の引水が容易であるため、水田などの生産域に想定されるという。

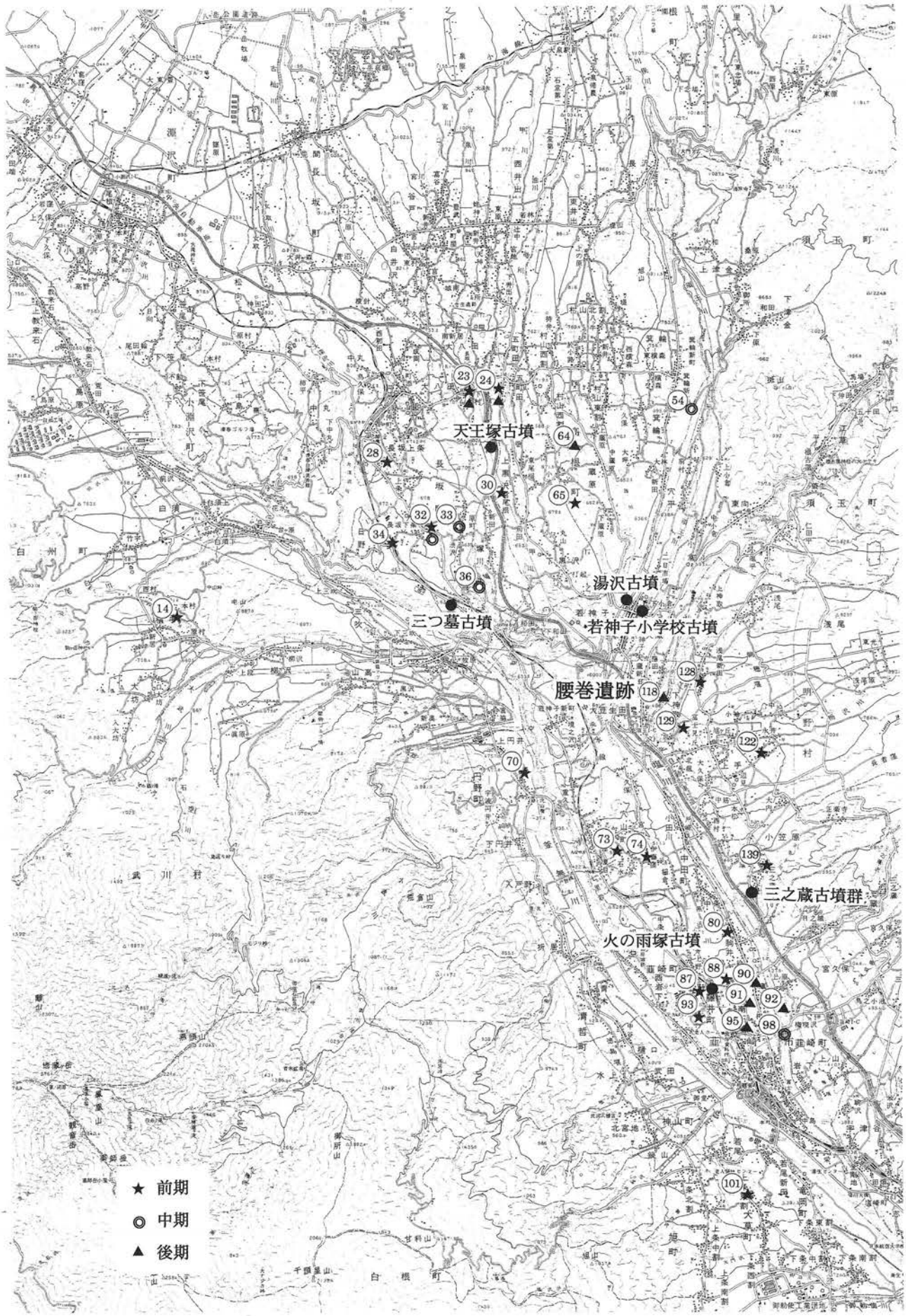
宮ノ前遺跡では、弥生時代前期とされる水田跡が発見されているが、藤井平を見渡すと、古墳時代前期から平安時代に至るまで連綿と一定規模以上の集落遺跡が知られている。そして特に8世紀初頭頃から集落が拡大していくようである。高橋氏によると、こうした集落の成長の背景には、生産域として良好な条件に恵まれた埋没旧河道の状況を想定することができる。刻々と変化する塩川の旧氾濫原にあって、順次、集落適地、生産適地となった埋没旧中州、埋没旧河道に人々が住し、また水田を開発するようになったものと思われる。

藤井平の北端、腰巻遺跡周辺においても、藤井平の古墳時代集落出現とほぼ同時期に集落遺跡が出現することから、宮ノ前遺跡周辺で観察された旧地形の環境変化と土地利用が予想されるところである。保坂氏が想定する八ヶ岳南麓からの移住と腰巻遺跡周辺への集住現象の背景には、以上のような自然環境の変化が考えられる。

引用文献

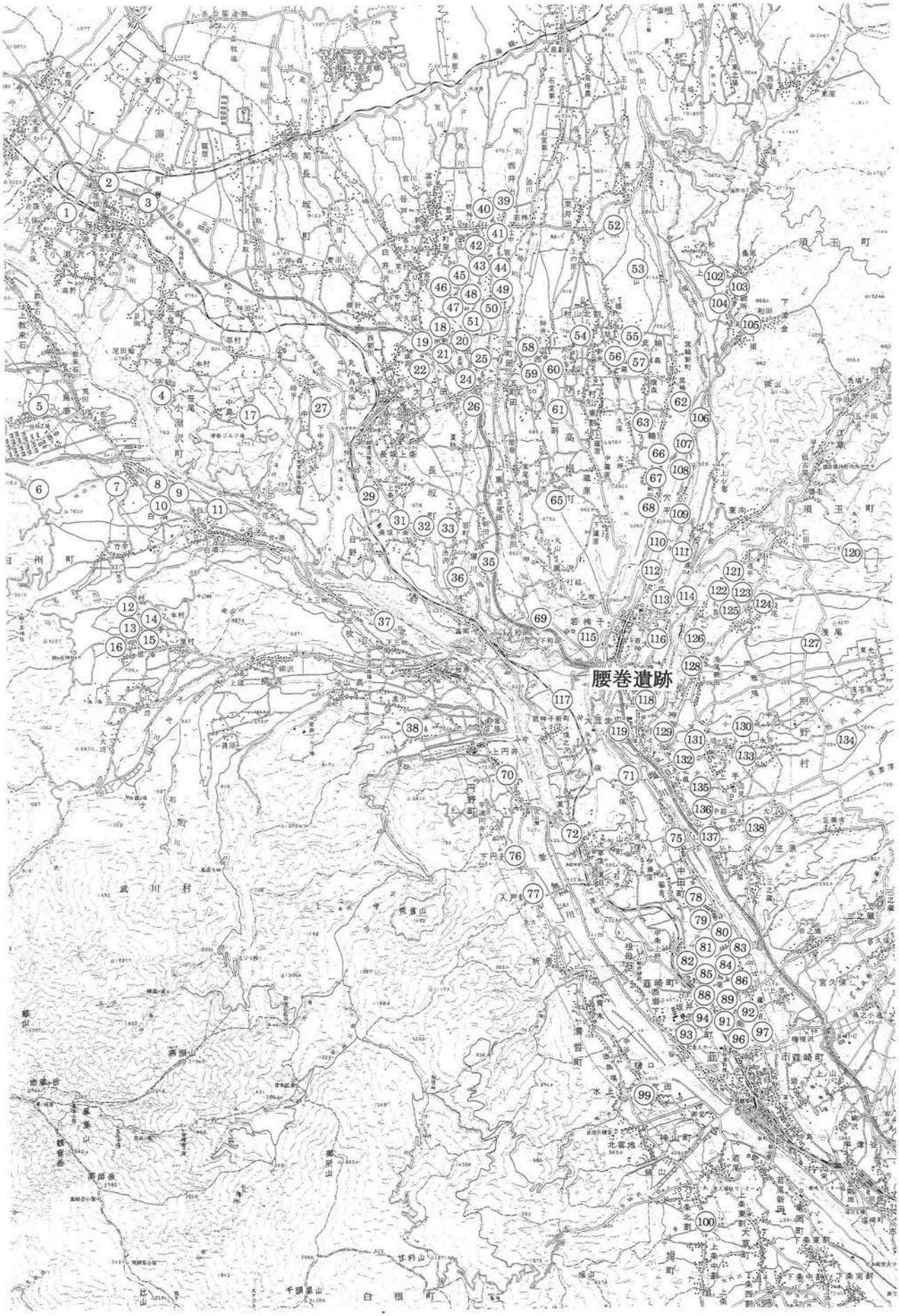
高橋　学 1992 「宮ノ前遺跡の地形環境分析」『宮ノ前遺跡』韮崎市教育委員会ほか

保坂康夫 2002 「第二節　律令制展開期の生活の変化」『須玉町史』通史編第一巻第一編第七章　須玉町



第3図　周辺の古墳時代遺跡分布図（1/50,000）

第4図　周辺の奈良時代遺跡分布図（1/50,000）



第5図　周辺の平安時代遺跡分布図（1/50,000）

第１表　遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	時期	遺構	特記事項	出典
1	竹原	小淵沢町	9世紀後半	住居（平安3）、鍛冶遺構	鉄滓、羽口多数出土	1
2	中原	小淵沢町	平安時代	住居（平安3）		2
3	上平出	小淵沢町	平安時代	住居（平安7）		2
4	前田	小淵沢町	9世紀後半	住居（平安11）、掘立柱建物5棟	土師器焼成遺構、「寺」墨書	3・4
5	上小用	白州町	平安時代	住居（平安８）		5・6
6	大原１	白州町	平安時代	住居（平安１）		7
7	雑木	白州町	10世紀中頃～11世紀	住居（平安7）	「禅寺」墨書	8
8	所帯Ⅰ	白州町	9世紀前半～9世紀後半	住居（平安6）、堀立柱建物4棟		9
9	所帯Ⅱ	白州町	9世紀前半～9世紀後半	住居（平安10）、堀立柱建物2棟	所帯Ⅰ遺跡と一体の遺跡と思われる	9
10	坂下	白州町	9世紀後半	住居（平安4）、掘立柱建物	「浄」墨書、土馬	10
11	旧営原小学校	白州町	9世紀後半～10世紀前半	住居（平安6）	土錘、「女」、「本」、「東」墨書	11
12	西之久保	白州町	平安時代	住居（平安3）		12
13	上北田	白州町	平安時代	住居（平安3）		13
14	古御所東	白州町	古墳時代（前期）、平安時代（9世紀後半～12世紀）	住居（古墳2、平安42）	墨書「社」？「長」、「本」、「千」、掘立柱建物？	14
15	新居道上	白州町	9世紀後半～11世紀	住居（平安7）	掘立柱建物？	15
16	上北田3	白州町	9世紀後半	住居（平安3）、掘立柱建物	掘立柱建物は中世か	15
17	西蕪南	長坂町	10世紀前半～	住居（平安2）		16
18	大八田・原田	長坂町	9世紀後半～10世紀後半	住居（平安8）		17
19	南新居西	長坂町	10世紀	住居（平安6）		18
20	深草	長坂町	9世紀後半	住居（平安1）		19
21	小和田館跡	長坂町	10世紀前半	住居（平安9）、掘立柱建物		20・21
22	小屋敷	長坂町	平安時代	住居（平安9）		22・23
23	柳坪北	長坂町	古墳時代（前・後期）	住居（古墳1）		24
24	柳坪	長坂町	古墳時代（前・後期）、平安時代（9世紀後半～10世紀末）	住居（古墳10・平安50）	革金具、巡方、木製品	25・26
25	窪田	長坂町	平安時代	住居（平安1）		27
26	石原田北	長坂町	10世紀中頃～12世紀初頭	住居（平安20）		28・29
27	健康村	長坂町	9世紀後半～12世紀初頭	住居（平安14）		30
28	酒呑場	長坂町	古墳時代（前期）	住居（古墳15）　掘立柱建物5		31・32
29	長坂上条	長坂町	平安時代	住居（平安4）		33
30	頭無	長坂町	古墳時代（前期）	住居（古墳2）		25
31	紺屋	長坂町	9世紀後半～10世紀後半	住居（平安10）	墨書「南」、「東」、「長」、鉄滓	34・35
32	龍角西	長坂町	古墳時代（前・中期）、平安時代（9世紀末～10世紀後半）	住居（古墳10・平安7）		36
33	龍角	長坂町	古墳時代（中期）、平安時代（10世紀前半）	住居（古墳数軒・平安1）	長坂町教育委員会の教示による	
34	北村	長坂町	古墳時代（前期）	方形周溝墓6基		37
35	宮久保	長坂町	9世紀後半～10世紀初頭	住居（平安4）、堀立柱建物1棟		38
36	原町農業高校前（下原）遺跡	長坂町	古墳時代（中期）、平安時代	住居（古墳1・平安2）		39
37	宮間田	武川村	9世紀前半～11世紀	住居（平安74）、堀立柱建物45棟	墨書「牧」、「千村」、「生」、「矢」、「南」、鍛冶遺構、金属製品多数、土錘、羽口、帯金具	40・41
38	向原	武川村	平安時代	住居（平安3）		42
39	東原	大泉村	9世紀後半～10世紀末	住居（平安12）、鍛冶遺構1基、掘立柱建物3棟		43
40	東姥神Ｂ	大泉村	9世紀後半～10世紀後半	住居（平安8）、掘立柱建物、鍛冶遺構	「安曇」墨書	44
41	中村	大泉村	9世紀～10世紀	住居（平安7）	銅製帯金具出土、東姥神遺跡と一体の遺跡か？	45
42	天神	大泉村	平安時代	住居（平安8）		46
43	谷戸城跡周辺遺跡	大泉村	平安時代	住居（平安1）		47
44	寺所第2	大泉村	平安時代	住居（平安37）、掘立柱建物2、土坑250基		48
45	城下	大泉村	10世紀～11世紀前半	住居（平安26）、掘立柱建物	丸鞆、緑釉陶器、耳皿、土錘	49
46	豆生田第3	大泉村	9世紀前半～10世紀後半	住居（平安8）、掘立柱建物		50
47	金生	大泉村	9世紀前半～10世紀後半	住居（平安6）		51
48	寺所	大泉村	9世紀末～10世紀末	住居（平安47）、掘立柱建物3棟、土坑12基、溝4条	墨書土器多数出土、耳皿	52・53
49	甲ッ原	大泉村	平安時代	住居（平安2）		54
50	原田	大泉村	9世紀後半	住居（平安5）、堀立柱建物1棟		49
51	木ノ下・大坪	大泉村	9世紀後半～10世紀後半	住居（平安8）、溝3条、堀立柱建物2棟、土坑8基	4間×4間総柱建物あり	55
52	薬師堂	高根町	9世紀前半～9世紀後半	住居（平安6）	八ヶ岳南麓では古い時期の集落	56
53	妻ノ神	高根町	平安時代	住居（平安1）		57
54	八ッ牛・八ッ牛北	高根町	11世紀	住居（平安4）、掘立柱建物2棟		59
55	東久保	高根町	9世紀中頃～10世紀末	住居（平安33）、掘立柱建物7棟	鉄滓130kg出土、鍛冶工房址、羽口多数出土、石製錘「権」出土、1間×4間、2間×4間の長大な掘立柱建物あり	60
56	青木北	高根町	9世紀中頃～10世紀末	住居（平安12）、掘立柱建物5棟、土坑12基	東久保遺跡南方に連続する一体の遺跡、礎石を有する竪穴住居あり	61
57	社口	高根町	9世紀中頃～10世紀末	住居（平安14）	鍛冶関連土坑あり	62・63

番号	遺跡名	所在地	時期	遺構	特記事項	出典
58	西原北	高根町	9世紀後半	住居（平安2）		56
59	西原	高根町	9世紀前半～10世紀後半	住居（平安2）		64
60	藤林寺跡	高根町	9世紀後半	住居（平安3）	時期不明の1間×9間の長大な掘立柱建物1棟あり	59
61	高内	高根町	9世紀後半	住居（平安7）		56
62	川又坂上	高根町	9世紀前半	住居（平安1）	古墳時代中期の遺構あり	65
63	海道前	高根町	9世紀後半	住居（平安3）		66
64	小池土取場	高根町	古墳時代（後期）			
65	小池神ノ前	高根町	古墳時代（前期）平安時代	住居（古墳9・平安1）		67
66	宮の前	高根町	9世紀～10世紀	住居（平安2）		68
67	大林上	高根町	平安時代	住居（平安6）		68
68	蔵原東久保	高根町	平安時代	住居（平安3）		69
69	湯沢	高根町	9世紀前半～10世紀後半	住居（平安27）、堀立柱建物8棟、柵列4条	布目瓦、金銅製鈴、円筒形土製品、巡方、「隆平永宝」、土師器焼成遺構、牧監政庁説あり	45・70
70	石之坪	韮崎市	古墳時代（前期）平安時代	住居（平安52）、方形周溝遺構		71・72
71	上本田	韮崎市	8世紀～10世紀後半	住居（奈良平安11）、掘立柱建物		73
72	次第窪	韮崎市	平安時代	住居（平安6）		74
73	宿尻	韮崎市	古墳時代（前期）	住居（古墳3）		75
74	伊藤窪第2	韮崎市	古墳時代（前期）	住居（古墳2）		76
75	中道	韮崎市	11世紀	住居（平安4）		77
76	水無	韮崎市	10世紀～11世紀	住居（平安2）	八稜鏡出土	78
77	半縄田	韮崎市	9世紀後半～11世紀	住居（平安7）、掘立柱建物1棟	漆紙片、瓦塔、土錘、羽口、鍛冶遺構	79
78	中田小学校	韮崎市	8世紀～12世紀	住居（奈良平安22）、　掘立柱建物2棟	「葛井」墨書、金銅製鈴2点	80
79	前田	韮崎市	8世紀～12世紀	住居（奈良2・平安10）	羽口、鉄製品多数	81
80	立石	韮崎市	古墳時代（前期）平安時代	住居（古墳2・平安4）	羽口	82
81	宮ノ前第2	韮崎市	9世紀	住居（奈良平安10）、　掘立柱建物10棟	集落内寺院、瓦、瓦塔	83
82	宮ノ前	韮崎市	8世紀～11世紀	住居（奈良平安417）　掘立柱建物54棟	条里溝、奈良三彩、円面硯、緑釉陶器、鉄製品多数、帯金具、鏡、「寺」墨書	84
83	駒井	韮崎市	8世紀後半～10世紀	住居（奈良平安2）	8世紀後半の住居、円筒状土製品	85
84	宮ノ前第5	韮崎市	8世紀～11世紀	住居（奈良平安12）、堀立柱建物1棟	主体となる遺構の時期は9世紀、漆紙、須恵器大甕、宮ノ前遺跡の厨房施設か	86
85	北後田	韮崎市	8世紀～10世紀後半	住居（奈良平安66）、堀立柱建物4棟	平安時代の住居41軒	87
86	宮ノ前第3	韮崎市	8世紀～9世紀後半	住居（奈良平安6）、掘立柱建物2棟	鍛冶遺構、羽口、円筒状土製品、鉄製轡？、漆紙、「尸殿」、「田」、「仲」、「足」、「丁」、「上」墨書	88
87	坂井	韮崎市	古墳時代（前期）	住居（古墳1）、方形周溝墓2基		89
88	後田	韮崎市	古墳時代（前期）、平安時代（8世紀～10世紀後半）	住居（古墳2・奈良3・平安9）、掘立柱建物1棟	羽口	90
89	堂ノ前	韮崎市	8世紀～9世紀後半	住居（奈良平安16）		91
90	坂井堂之前	韮崎市	古墳時代（後期）			
91	後田堂ノ前	韮崎市	古墳時代（後期）8世紀～11世紀	住居4軒（古墳4・奈良2・平安2）	9世紀の住居1軒、11世紀の住居1軒	92
92	上横屋	韮崎市	古墳時代（後期）、奈良・平安時代	住居（古墳15・奈良平安3）		93
93	坂井南	韮崎市	古墳時代（前期）、平安時代	住居（古墳98・平安7）、方形周溝墓12基		94～97
94	三宮地	韮崎市	10世紀	住居（平安15）、堀立柱建物5棟	巡方、灰釉陶器製風字硯	98
95	後田第2	韮崎市	古墳時代（後期）	住居（古墳6）		99
96	北下条	韮崎市	8世紀～9世紀	住居（奈良平安9）		100
97	下横屋	韮崎市	平安時代	住居（平安2）		101
98	枇杷塚	韮崎市	古墳時代（中期）	住居（古墳2）		102
99	新田	韮崎市	9世紀後半～12世紀	住居（平安6）	「仁」、呪文墨書	103
100	大輪寺東	韮崎市	9世紀前半	住居（平安2）		104
101	久保屋敷	韮崎市	古墳時代（前期）	住居（古墳4）		105
102	原の前	須玉町	9世紀～10世紀？	住居（平安1）		106
103	桑原南	須玉町	9世紀末～10世紀後半	住居（平安7）	大型掘立柱建物は平安時代の遺構か？	106
104	津金御所前	須玉町	9世紀～10世紀？	住居（平安1）	焼失住居	106
105	御屋敷西	須玉町	9世紀～10世紀？	住居（平安2）、掘立柱建物2棟		106
106	川又南	須玉町	平安時代	住居（平安5）		107
107	西川	須玉町	9世紀後半～10世紀後半	住居（平安14）	鉄滓	108・109
108	夏目原	須玉町	平安時代	住居（平安2）		106
109	飯米	須玉町	平安時代	住居（平安7）		106
110	蟹坂	須玉町	平安時代	住居（平安2）		106
111	蟹坂東	須玉町	平安時代	住居（平安2）		106
112	宮田・笠張	須玉町	9世紀後半	住居（平安2）		106
113	中尾城	須玉町	10世紀後半	住居（平安2）		110
114	飛津	須玉町	10世紀～11世紀	住居（平安4）		111
115	大小久保	須玉町	9世紀後半	住居（平安4）、土師器焼成遺構8基	ロクロ整形の内黒坏、土師器甕の生産址、布目瓦、甲斐型模倣坏	112
116	滝下	須玉町	9世紀後半～12世紀	住居（平安7）		106

番号	遺跡名	所在地	時期	遺構	特記事項	出典
117	山之神	須玉町	平安時代	住居（平安1）		113
118	腰巻・腰巻北	須玉町	古墳時代（後期）、奈良、平安時代（8世紀～10世紀後半）	住居（古墳33 ・奈良18・平安9）、掘立柱建物16棟	「大徳」墨書あり	
119	大豆生田	須玉町	8世紀～11世紀	住居（奈良平安9）、石列、礎石建物	布目瓦、緑釉陶器、羽口、「西」墨書	114
120	上ノ原	須玉町	9世紀中頃～10世紀後半	住居（平安72）、掘立柱建物10棟	ムギ類炭化種実を検出、「隆平永寶」、緑釉陶器	115
121	北原	明野村	平安時代	住居（平安6）、掘立柱建物2棟		116
122	諏訪原	明野村	平安時代	住居(平安1)	未報告	
123	中村道祖神	明野村	平安時代	住居（平安3）		117
124	宮後	明野村	9世紀後半～10世紀後半	住居（平安21）、掘立柱建物4棟	周辺にも同時期の遺跡あり	118
125	薬師堂	明野村	平安時代	住居（平安1）		119
126	寺前	明野村	9世紀後半～12世紀	住居（平安約90）、掘立柱建物約20棟	鉄製鈴、火葬施設、火葬墓、鍛冶遺構	120・121
127	梅之木	明野村	9世紀後半～10世紀後半	住居（平安121）、掘立柱建物32棟	馬歯骨、焼きゴテ	122～124
128	大日川原	明野村	古墳時代（前期）、平安時代（9世紀後半）	住居（古墳1・平安1）、方形周溝墓12基		125
129	神取	明野村	古墳時代（前期）、奈良、平安時代（9世紀前半～10世紀後半）	住居（古墳8・奈良1・平安11）	「信」、「?」墨書	126
130	普門寺	明野村	9世紀前半	住居（平安1）		127
131	桑森	明野村	平安時代	住居（平安1）		128
132	村之内Ⅱ・Ⅲ	明野村	9世紀後半～12世紀	住居（平安24）	鍛冶遺構	129
133	高台・中谷井	明野村	古墳時代（前期）、平安時代（9世紀後半～10世紀末）	住居（平安12）	緑釉陶器	129
134	永井原Ⅴ	明野村	平安時代	溝1条	「小笠原牧」関連遺構か	124
135	屋敷添	明野村	9世紀後半～10世紀後半	住居（平安23）	駿河地方の土師器坏類似品	130
136	屋敷添第2	明野村	9世紀後半～10世紀初頭	住居（平安2）		131
137	深山田	明野村	8世紀～10世紀後半	住居（奈良平安4）	茅ヶ岳西麓唯一の8世紀代の集落跡	132
138	下大内	明野村	9世紀後半～11世紀	住居（平安12）	「延喜通寶」、「女」墨書多数	131
139	中原	明野村	古墳時代（前期）		未報告	

報告書一覧

1	佐藤勝広	1998	『小淵沢町竹原遺跡』	小淵沢町教育委員会
2	末木 健	1974	『山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－北巨摩郡小淵沢町地内-』	山梨県教育委員会
3	佐藤勝広	1983	『前田遺跡』	小淵沢町教育委員会
4	佐藤勝広	1985	『前田遺跡』	小淵沢町教育委員会
5	杉本 充	1999	「上小用遺跡（第4次調査）」『八ヶ岳考古平成10年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
6	杉本 充・五味孝広	2000	「上小用遺跡（第5次調査）」『八ヶ岳考古平成11年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
7	杉本 充	1997	「大原遺跡」『八ヶ岳考古平成8年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
8	杉本 充	1997	『雑木遺跡』	白州町教育委員会
9	折井 敦	1989	『所帯Ⅰ遺跡・所帯Ⅱ遺跡』	白州町教育委員会
10	折井 敦	1988	『坂下遺跡』	白州町教育委員会
11	杉本 充	1997	『旧営原小学校遺跡』	白州町教育委員会
12	杉本 充	1998	『西之久保遺跡』	白州町教育委員会
13	杉本 充	1993	『上北田遺跡』	白州町教育委員会
14	杉本 充	1999	『古御所東遺跡』	白州町教育委員会
15	折井 敦	1991	『上北田3遺跡・新居道上遺跡』	白州町教育委員会
16	村松佳幸	2002	「西蕪南遺跡」『八ヶ岳考古平成13年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
17	桜井真貴	1989	『大八田・原田遺跡』	長坂町教育委員会
18	桜井真貴	1991	『南新居西遺跡』	長坂町教育委員会
19	桜井真貴	1987	『深草遺跡・別当十三塚遺跡・別当遺跡・糀屋遺跡』	長坂町教育委員会
20	岡本範之	1984	『小和田遺跡発掘調査概報』	長坂町教育委員会
21	鈴木治彦	1986	『小和田館跡（小和田北遺跡）』	長坂町教育委員会
22	小宮山 隆	1997	『小屋敷遺跡』	長坂町教育委員会
23	村松佳幸	2001	『小屋敷遺跡－第2次発掘調査』	小屋敷遺跡発掘調査団
24	櫛原功一	2002	『柳坪北遺跡』	柳坪北遺跡発掘調査会
25	末木 健	1975	『山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－北巨摩郡長坂・明野・韮崎地内－』	山梨考古学研究会
26	米田明訓	1986	『柳坪遺跡』	山梨県教育委員会
27	村松佳幸	2003	「窪田遺跡」『八ヶ岳考古平成14年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
28	平野 修ほか	2001	『石原田北遺跡』	石原田北遺跡発掘調査団
29	小宮山 隆	1999	『石原田北遺跡』	石原田北遺跡発掘調査団
30	板倉歓之ほか	1994	『健康村遺跡』	新宿区区民健康村遺跡調査団
31	能代幸和ほか	1997	『酒飲場遺跡（第1・2次調査）』	山梨県教育委員会
32	保坂康夫・村松佳幸	1997	『酒呑場遺跡（第3次）』	山梨県教育委員会
33	小宮山 隆	1997	『長坂上条遺跡概報』	長坂町教育委員会
34	村松佳幸	2001	『紺屋遺跡第1次発掘調査報告書』	長坂町教育委員会
35	宮沢公雄	2000	『紺屋遺跡第2次発掘調査報告書』	紺屋遺跡発掘調査団
36	村松佳幸	2001	『龍角西遺跡』	長坂町教育委員会
37	小宮山 隆	1996	『北村遺跡』	長坂町教育委員会
38	村松佳幸	1999	『宮久保遺跡』	長坂町教育委員会
39	保坂和博	2003	『原町農業高校前（下原）遺跡（第1次）』	山梨県教育委員会
40	平野 修	1986	『宮間田遺跡発掘調査概報』	武川村教育委員会
41	平野 修	1988	『宮間田遺跡』	武川村教育委員会
42	竹田眞人・平山恵一	2000	「向原遺跡」『八ヶ岳考古平成11年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
43	保坂康夫	1998	『東原遺跡』	山梨県教育委員会
44	櫛原功一	1985	『東姥神Ｂ遺跡』	大泉教育委員会
45	山梨県史	2001	『山梨県史資料編１　原始・古代1・考古（遺跡）』	山梨県
46	新津 健・米田明訓	1994	『天神遺跡』	山梨県教育委員会
47	渡邊泰彦・伊藤公明	2001	『史跡谷戸城跡及び周辺遺跡』「八ヶ岳考古平成12年度年報」	北巨摩市町村文化財担当者会
48	伊藤公明	1996	『寺所第2遺跡』『年報－平成7年度』	北巨摩市町村文化財担当者会
49	新津 健・八巻与志夫	1990	『城下・原田遺跡』	山梨県教育委員会
50	櫛原功一	1986	『大豆生田第3遺跡』	大泉村教育委員会
51	八巻与志夫	1988	『金生遺跡Ⅰ（中世編）』	山梨県教育委員会
52	新津 健・八巻与志夫	1987	『寺所遺跡』	山梨県教育委員会
53	伊藤公明・渡辺泰彦	2000	『寺所遺跡（第2次発掘調査報告）』	大泉教育委員会
54	山本・今福	1997	『甲ッ原遺跡Ⅲ（第2次・第3次調査）』	山梨県教育委員会
55	佐藤勝広	1983	『木ノ下・大坪遺跡』	大泉教育委員会
56	雨宮正樹	1997	『妻の神遺跡・西原北遺跡・大明神遺跡・薬師堂遺跡・当り町遺跡・薬師堂東遺跡・高内遺跡・原家の前遺跡・一本松遺跡・前原遺跡』	高根町教育委員会
57	八巻与志夫	1989	『妻ノ神遺跡』	山梨県教育委員会
59	雨宮正樹	1997	『藤林寺跡遺跡・八ッ牛遺跡・持井北遺跡・八ッ牛北遺跡・下風呂遺跡・米田遺跡・米田北遺跡』	高根町教育委員会
60	雨宮正樹	1984	『東久保遺跡』	高根町教育委員会
61	森 和敏	1992	『青木北遺跡・梅の木遺跡』	山梨県教育委員会
62	櫛原功一ほか	1997	『社口遺跡第3次調査報告書』	社口遺跡発掘調査団
63	雨宮正樹	1995	『社口遺跡』	高根町教育委員会
64	雨宮正樹	1987	『西原遺跡・当町遺跡』	高根町教育委員会
65	新津 健・三田村美彦	1993	『川又坂上遺跡』	山梨県教育委員会
66	雨宮正樹	1998	『海堂前遺跡・青木遺跡』	高根町教育委員会
67	雨宮正樹	2002	「小池神の前遺跡」『八ヶ岳考古平成13年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
68	田口明子	2000	『古堰遺跡・大林上遺跡・宮の前遺跡・海堂前Ｃ遺跡・大林遺跡』	山梨県教育委員会
69	雨宮正樹	2001	「蔵原東久保遺跡」『八ヶ岳考古平成12年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会

70	浅利 司・保坂康夫	1990	『湯沢遺跡』	山梨県教育委員会
71	櫛原功一	2000	『石之坪遺跡（東地区）』	韮崎市教育委員会
72	閏間俊明	1998	「石之坪遺跡」『八ヶ岳考古平成9年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
73	山下孝司	1992	『上本田遺跡』	韮崎市教育委員会
74	秋山圭子	2003	『次第窪遺跡』	韮崎市教育委員会
75	中山誠二	1993	『宿尻遺跡』	山梨県教育委員会
76	山下孝司	1991	『伊藤窪第2遺跡』	韮崎市教育委員会
77	山下孝司	1986	『金山遺跡・下木戸遺跡・中道遺跡』	韮崎市教育委員会
78	山下孝司	1996	『水無遺跡』	韮崎市教育委員会
79	山下孝司	1995	『半縄田遺跡』	韮崎市教育委員会
80	山下孝司	1985	『中田小学校遺跡』	韮崎市教育委員会
81	山下孝司	1988	『前田遺跡』	韮崎市教育委員会
82	山下孝司	1994	『立石遺跡』	韮崎市教育委員会
83	山下孝司	1991	『宮ノ前第2遺跡・北堂地遺跡』	韮崎市教育委員会
84	平野 修・櫛原功一	1992	『宮ノ前遺跡』	韮崎市遺跡調査会
85	保坂康夫	1986	『駒井遺跡発掘調査報告書』	山梨県教育委員会
86	山下孝司	1997	『宮ノ前第5遺跡』	韮崎市教育委員会
87	山下孝司	1990	『北後田遺跡』	韮崎市教育委員会
88	山下孝司	1993	『宮ノ前第3遺跡』	韮崎市教育委員会
89	山下孝司	1998	『坂井遺跡』	韮崎市教育委員会
90	山下孝司	1989	『後田遺跡』	韮崎市教育委員会
91	山下孝司	1987	『中本田遺跡・堂の前遺跡』	韮崎市教育委員会
92	伊藤正彦	1997	『後田堂ノ前遺跡』	韮崎市遺跡調査会
93	秋山圭子・閏間俊明	1999	『上横屋遺跡』	韮崎市教育委員会
94	山下孝司	1984	『坂井南遺跡』	韮崎市教育委員会
95	山下孝司	1988	『坂井南』	韮崎市教育委員会
96	山下孝司	1995	『坂井南（大原）遺跡』	韮崎市教育委員会
97	伊藤正彦	1996	「坂井南遺跡（第7次調査）」『年報－平成7年度』	北巨摩市町村文化財担当者会
98	閏間俊明ほか	1998	『三宮地遺跡』	韮崎市遺跡調査会
99	伊藤正彦	1996	『後田第2遺跡』	韮崎市教育委員会
100	山下孝司	1991	『北下条遺跡』	韮崎市教育委員会
101	山下孝司	1991	『下横屋遺跡』	韮崎市遺跡調査会
102	山下孝司	1996	「枇杷塚遺跡」『年報－平成7年度』	北巨摩市町村文化財担当者会
103	伊藤正彦	1996	『新田遺跡』	韮崎市遺跡調査会
104	新津 健ほか	1990	『大輪寺東遺跡』	山梨県教育委員会
105	米田明訓	1984	『久保屋敷遺跡』	山梨県教育委員会
106	須玉町	1998	『須玉町史第1巻・古代・中世』	須玉町
107	山路恭之助	1986	『川又南遺跡発掘調査概報』	須玉町教育委員会
108	八巻与志夫	1988	『西川遺跡』	山梨県教育委員会
109	山路恭之助	1988	『西川遺跡』	須玉町教育委員会
110	山路恭之助	1984	『中尾城遺跡・塚田遺跡』	須玉町教育委員会
111	山路恭之助	2000	「飛津遺跡」『八ヶ岳考古平成11年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
112	山路恭之助	1983	『大小久保遺跡』	須玉町教育委員会
113	山路恭之助	2003	『山ノ神遺跡』	須玉町教育委員会
114	末木 健ほか	1976	『山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－北巨摩郡須玉町地内－』	山梨県教育委員会
115	平野 修・櫛原功一	1999	『上ノ原遺跡』	上ノ原遺跡発掘調査団
116	大森隆志	1988	『北原遺跡』	明野村教育委員会
117	大森隆志	1990	『千野木Ⅰ・Ⅱ遺跡、池の下遺跡・踊石Ⅱ遺跡・中村道祖神遺跡』	明野村教育委員会
118	大森隆志	1991	『宮後遺跡・浦田遺跡』	明野村教育委員会
119	大森隆志	1989	『踊石Ⅱ遺跡・薬師堂遺跡・白山Ⅰ遺跡』	明野村教育委員会
120	明野村埋蔵文化財センター	1999	『寺前遺跡調査概報』	明野村教育委員会
121	明野村埋蔵文化財センター	2000	『寺前遺跡見学会資料』	明野村教育委員会
122	佐野　隆	2002	『梅ノ木遺跡Ⅰ』	明野村教育委員会
123	大山裕喜	2003	『梅ノ木遺跡Ⅱ』	明野村教育委員会
124	大山裕喜	2004	『梅ノ木Ⅲ・永井原Ⅴ遺跡』	明野村教育委員会
125	高田賢治ほか	2001	『大日川原遺跡』	明野村教育委員会
126	佐野　隆	1994	『神取』	明野村教育委員会
127	宮沢公雄	1987	『普門寺遺跡』	明野村教育委員会
128	佐野　隆	1998	「桑森遺跡」『八ヶ岳考古平成9年度年報』	北巨摩市町村文化財担当者会
129	佐野　隆	1995	『村之内Ⅱ・Ⅲ遺跡、高台・中谷井遺跡』	明野村教育委員会
130	佐野　隆	1993	『屋敷添』	明野村教育委員会
131	佐野　隆	1997	『下大内遺跡・屋敷添第2遺跡・中原遺跡』	明野村教育委員会
132	佐野　隆	2000	『深山田遺跡』	明野村教育委員会

第3章　古墳時代の遺構と遺物

腰巻遺跡第1次発掘調査で検出された古墳時代の遺構は、以下に報告する竪穴住居17軒である。なお2号、13号から15号、23号、25号、29号、31号、33号、39号、40号、45号、47号から50号の各住居番号は、確認時に遺構認定したものの掘削調査の結果、有意な遺構と判断されなかったため欠番とする。

1号住居（第6図～第7図、写真図版1）

位置・重複　調査区南西隅に位置し、溝跡と重複する。住居埋土の断面観察により、溝跡が新しいことを確認した。

形状・規模　南北推定5.5m、東西5.9mの方形で、竪穴は深さ0.6mである。床面積は27.2㎡。主軸方向はN-16°-Wである。

床　　面　床面は地山のしまった細砂層を利用しており、貼床ではない。全面にわたり固く踏みしめられている。

壁　　溝　壁際に壁溝らしき小溝が検出された箇所もあるが、明確な壁溝は設けられていない。

カ　マ　ド　北壁中央で、灰色粘質土と焼けた礫、焼土を検出した。カマドは溝跡に切られており、原形をとどめない。溝跡南側に粘質土が広がっていることから、おそらく、溝の掘削以前にすでにカマドは破壊されていたものと思われる。北壁には短い煙道が検出された。

柱　　穴　柱穴と思われる規則正しく配置されたピットが4箇所で検出された。複数のピットが重複し合って検出された。

遺　　物　埋土第1層（黒色土）から、大小の礫に混じって多数の土師器破片が出土している。6図6の須恵器坏は床面から10cm程度浮いた第2層出土である。6図と7図に図示した遺物は、いずれも破片で、第1層出土である。7図8はミニチュア土器である。古墳時代後期の土師器坏類破片は90点、0.718kg、古墳時代後期の土師器甕類破片は747点、12.69kg、平安時代の土師器坏破片が2点、0.02kg、須恵器坏破片が0.12kg、須恵器甕類破片は17点、0.42kg、石器5点、1.55kg、石製紡錘車1点0.03kgが出土している。平安時代の土師器破片は、調査区外で近接する住居跡かあるいは溝跡に属する遺物と思われる。

時　　期　住居の時期を直接的に示すと思われる遺物は出土していないが、破片資料は概ね古墳時代後期に位置づけられる。6図6の須恵器坏から7世紀前半段階に位置づけられようか。

調 査 所 見　柱穴と柱穴に連結する小溝、北壁沿いの壁溝の検出数から、本住居は2回以上の拡張があったものと推測される。カマドの検出状況、床面上に遺物が残されていないことから、本住居は廃絶時に道具類が片付けられ、また、カマドが破壊されたものと思われる。埋土が自然堆積した後、第1層上面に多数の礫が土器破片とともに廃棄されたようである。遺物には少なからぬ平安時代の土師器破片が混じっている。本住居は、遺構の特徴から古墳時代後期に属するものと推測されるが、おそらく調査区外で9世紀代の平安時代住居が近接しているものと推測される。

3号住居（第8図～第10図、写真図版1）

位置・重複　調査区の南西隅に位置する。重複する遺構はないが、4号住居と近接する。

形状・規模　南北4.2m、東西4.1mの方形で、竪穴は深さ35cmである。床面積は14㎡で、主軸方向はN-25°-Wである。

床　　面　床面は地山のしまった細砂層を利用しており、貼床ではない。全面にわたり固く踏みしめられている。

壁　　溝　西壁と南壁の一部に小溝が検出されたほかは、壁溝は確認されなかった。

カ　マ　ド　北壁中央で灰色粘質土、袖石と焼けた平たい礫、焼土が検出された。短い煙道が検出された。袖石2枚は、原位置で立った状態で検出されたが、カマドは人為的に破壊されていると思われる。

柱　　穴　柱穴は検出されなかった。浅い小ピットがみられたが、いずれも地山礫を抜き取った痕跡と思われる。

遺　　物　大半の遺物は第4層と第5層から出土している。9図5の鉢がカマド西側の床面から5cm程度浮いた

位置で、9図6がカマドで出土している。鉄製品2点が出土している。古墳時代後期の土師器坏類破片は4点0.58kg、土師器甕破片は308点5.58kg、平安時代の土師器坏皿破片は74点0.5kg、須恵器甕類破片は7点0.22kgが出土している。平安時代の土師器破片は4号住居からの混入と考えられる。

時　　期　住居の時期を直接に示すと思われる遺物は出土していないが、図示した資料から7世紀前半段階と想定しておきたい。

5号住居（第14図～第16図、写真図版2）

位置・重複　調査区の南西隅に位置し、4号住居と重複する。4号住居は奈良時代の住居であり、5号住居より新しい。

形状・規模　南北4.5m、東西4.8m、竪穴は深さ45cmである。床面積は推定17.5㎡、主軸方向は、N-1°-Eである。

床　　面　床面は大小の礫が多数混じる砂礫層で、固く踏みしめられた箇所や貼床は確認されていない。

壁　　溝　検出されていない。

カ　マ　ド　北壁のやや西寄りで、袖石と焼土、粘質土が検出された。2枚の袖石は原位置で立って検出されたが、カマドは人為的に破壊されているものと思われる。

柱　　穴　床面に地山の礫が多数露出しているためであろうか、柱穴は一切、確認されなかった。

遺　　物　埋土に大小の礫が多数含まれており、遺物は全てそれらの礫とともに出土している。礫の下の床面直上で出土した遺物もあるが、いずれも小破片で、住居に直接関連すると確信できる出土状況ではない。唯一の例外は15図8の土師器高坏で、カマド中央部で逆さになって出土している。15図6は破片を接合すると完形に近く復元されるが、埋土中から散在して出土している。古墳時代後期の土師器坏類破片は90点0.82kg、甕類破片は362点8.5kg、奈良時代の土師器坏皿破片は5点0.08kg、須恵器坏類破片は8点0.15kg、石器1点0.14kg、鉄製品1点が出土している。

時　　期　高坏を別にすると住居に直接属すると思われる遺物はないが、古墳時代後期、7世紀後半段階と想定しておきたい。

調査所見　調査区のなかでも4号住居、5号住居が位置するあたりは、地山に大小の礫が多数含まれており、本住居の埋土に混じる多数の礫は、4号住居等の掘削時に地山から掘り出されて、廃棄されたものと想像できる。本住居の埋土には洪水による砂礫の堆積は確認されておらず、また、他の住居でも洪水の発生を示唆する状況は認められない。したがって本住居埋土の礫は、少なくとも洪水によりもたらされたものとは考えられない。

8号住居（第17図～第19図、写真図版2）

位置・重複　調査区の南西寄りに位置し、9号住居と重複する。9号住居は奈良時代の住居である。南側に小型の35号住居が近接する。35号住居がやや新しい時期と思われ、あまりに近接しているため、同時に並存したものとは思われない。

形状・規模　南北5m、東西5.3m、竪穴は深さ35cmである。床面積は20.8㎡、主軸方向はN-6°-Eである。

床　　面　固くしまった地山の細砂層を床面とし、貼床は検出されていない。南壁の中央から住居の中央部、北壁中央のカマド周辺に床面が特に固く踏みしめられており、後述する4本の主柱穴の外側はさほどにしまっていない。

壁　　溝　全周にわたって壁溝らしき小溝が検出されたが、非常に浅く、単に床面と壁面の接点がやや深めに掘り込まれたに過ぎないのかもしれない。

カ　マ　ド　北壁の中央で焼けた細長い礫と焼土が検出されたが、9号住居に切られており、詳細は不明である。

柱　　穴　規則正しく配置された4本の柱穴が中央付近に検出された。北東角の柱穴は非常に浅く10cm程度であるが、ほかはいずれも40cmほどの深さに掘り込まれている。この4本の周囲にも30cmから40cm程度の深さのピッ

トが検出されている。南西隅のピットは規則正しく配置された4本の柱穴のうち西側の2本と直線的に並んでいるため、住居の構造に係るものと想像される。西壁から柱穴のうちの1基に延びる小溝が検出されている。

遺　　物　19図4は胴部で半分に割られた土師器甕であるが、住居北東隅付近の床面上で出土している。これ以外の遺物は、一部に床面直上から出土したものがあるが、多くは埋土中から出土した。床面上で出土した遺物も小破片のみである。古墳時代後期の土師器坏類は265点3.04kg、甕類破片は308点9.3kg、須恵器甕類破片は2点0.2kgが出土している。

時　　期　住居の時期を端的に示す資料が少ないが、埋土出土の遺物から、6世紀末から7世紀前半頃の遺構と想定したい。

調査所見　住居埋土には炭化材小片や焼土粒子、焼土塊が含まれている。住居の床面も一部が焼土化していた。しかし、焼け落ちた炭化材などは一切検出されず、本住居が焼失住居であることを示す明快な状況は確認されなかった。埋土の断面観察によると、住居は自然堆積した埋土で埋められた後、東西両壁付近に大小の礫が人為的に投棄されたようである。したがって住居廃絶にともない住居に火をかけるような行為があったとしても、その後、焼け落ちた建築材等は片付けられたものと考えられる。

10号住居（第22図～第23図、写真図版2）

位置・重複　調査区南西寄りに位置し、9号住居、12号住居と近接する。9号住居は奈良時代の遺構、12号住居は古墳時代後期でもやや新しい時期の遺構である。本住居では、2軒の住居の重複が認められるが、古い遺構については平面形を確認することができなかった。

形状・規模　新しい住居は南北3.1m、東西推定3.4mの方形、竪穴の深さは40cmである。古い住居は南北3m程度でおそらくは方形の遺構であったろうと推測される。新旧住居全体の床面積は10.3㎡で、新住居の主軸線方向はN-7°-Eである。

床　　面　固くしまった地山を床面としており、貼床は検出されていない。カマド西側には大きな地山の礫が床面上に突出している。

壁　　溝　南壁と西壁付近で小溝が検出されたが、浅く壁溝とは考えにくい。

カ　マ　ド　北壁中央で焼礫、焼土、粘質土が検出されたが、カマドは原形をとどめていない。短い煙道が検出されている。

柱　　穴　住居の南東隅で深さ30cmの土坑が検出されたが、柱穴は確認されなかった。土坑は床面を切って掘り込まれ、かつ住居と同じ埋土で埋まっていた。住居廃絶時には開口していたと考えられる。

遺　　物　23図10はカマド西側の埋土中、床面から10cmほどの位置で、ほぼ完形で出土している。23図11は、カマド内とその周辺から出土した破片が接合して、完形の半分程度の大きさに復元されている。ほかの遺物はいずれも埋土中からの出土で、破片資料ばかりである。古墳時代後期の土師器坏類破片は65点0.98kg、甕類は157点6.17kg、須恵器坏類破片は3点0.08kgがそれぞれ出土している。古い住居の埋土から出土した遺物はない。

時　　期　住居の時期を直接的に示す資料はないが、新住居は、埋土出土遺物から古墳時代後期、7世紀前半頃の遺構と考えておきたい。古い住居はそれ以前の時期としかいえない。

調査所見　不規則な平面形から、2軒以上の遺構が重複していると考えた。実際、埋土の断面観察でも西側で遺構の重複を確認することができる。しかし、古い遺構の平面形は確認できず、カマド等の付属施設についても検出されなかった。

11号住居（第24図、写真図版3）

位置・重複　調査区南西寄りで検出された。12号住居と近接する。

形状・規模　南北2.5m、東西2.6mの小型で方形の竪穴遺構である。竪穴の深さは30cm程度である。床面積は3.4

㎡、主軸方向はN-15°-Wである。

床　　面　固くしまった地山を床面にしており、貼床は検出されていない。

壁　　溝　西壁から北壁にかけてと南東隅とに小溝を検出したが、浅く壁溝とは考えられない。

カ　マ　ド　カマドは検出されなかった。北壁近くの床面が若干焼土化していたが、袖石の埋め込み痕跡や粘質土等は確認されず、常設のカマドが設置されていたとは考えられない。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　遺物はいずれも破片で、埋土の上層部で出土している。古墳時代後期の坏類破片は19点0.17kg、甕類は57点1.7kg、須恵器甕類破片1点0.01kgが、それぞれ出土している。

時　　期　埋土中から出土した遺物をもとに想定すると、古墳時代後期、7世紀後半と考えておきたい。

調査所見　後述する12号住居もほぼ同時期であるが、あまりに近接しており、同時に並存したとは考えにくい。近接することと、11号住居遺物がいずれも埋土上層からの出土であることを考え合わせると、これらの遺物は12号住居から混入した可能性もありうる。小型の竪穴遺構でカマドも確認されない本住居の機能について、有用な情報は得られなかった。

17b号住居（第29図～第31図、写真図版4）

位置・重複　調査区中央からやや北寄りに位置し、17a号、17c号住居に近接する。調査区北西部から南東にかけて旧流路と思われる黒色土帯があり、本住居は旧流路内に位置する。

形状・規模　南北4m、東西4mの方形で、竪穴は深さ50cm、床面積は13.9㎡。主軸方向はN-2°-Wである。

床　　面　旧流路に住居が設けられているためか湧水がひどく、固くしまった床面は確認できなかった。実測図に示した床面は、カマドとカマド底を基準に想定した。掘削調査の過程では、埋土下層に焼土粒子と炭化物粒子が含まれていたため、それらの有無をもって床面を確認したが、その高さはカマドから想定される床面の高さと整合した。

壁　　溝　床面と同様、その有無を確認できなかった。

カ　マ　ド　北壁中央で、粘質土、焼土、礫、煙道を検出したが、原形はとどめていない様子で、湧水のため、本来袖石を有していたかどうかを確認することはできなかった。

柱　　穴　湧水のために確認できなかった。

遺　　物　遺物は埋土中と床面直上から出土しているが、ひどい湧水のために遺物が泥と化した埋土といっしょに動いてしまい、正確な出土位置を記録できなかった。奈良時代の遺物が図中に含まれるが、これは掘削調査の際、黒色土中で壁の確認が遅れ、隣接する17c号住居にまで食い込んで掘削したため、一部の遺物を17b号住居分として取り上げたことによる。加えて、元来、17c号住居からの混入があったことも考えられる。30図2の手づくね整形の土師器坏は、住居北東角の床面直上から出土した。古墳時代後期の土師器坏類破片は28点0.48kg、甕類は106点2.6kg、奈良時代の土師器坏類は2点0.034kg、甕類は8点0.54kgが出土している。

時　　期　資料数は少ないが、カマドの形状も勘案すると、古墳時代後期、7世紀前半代としたい。

調査所見　本住居のほかにも旧流路内で数軒の住居が検出され、いずれも湧水のために重複の有無の確認、壁面と床面の検出、遺物の取り上げに苦慮し、満足な調査はできなかった。手探り状態で壁面を探してようやく平面形を確認したが、この間に隣接し合う住居間で遺物が混じり合い、分別できなくなってしまったものもある。これら分別不可能な遺物は、32図3～6に一括して提示した。湧水は水田耕作にともなう滲水で、農閑期には出水しない。

17d号住居（第32図、写真図版4）

位置・重複　調査区中央北寄りに位置し、16号住居、17a号住居と近接する。16号住居と南西角でわずかに重複する。

形状・規模　南北2.9m、東西2.8mの方形で、竪穴は深さ0.5mである。床面積は6.1㎡。主軸方向はN-102°-Wで

ある。

床　　面　湧水のために床面の状況を確認できなかった。地山起源の黄褐色土が確認されることから、地山をそのまま床面としたか、黄褐色土の貼床であったと推測される。

壁　　溝　北西角に小溝を検出したが、すぐに水が湧いてきたため、ほかの箇所で壁溝と思われる施設を確認することができなかった。

カ　マ　ド　東壁のやや南寄りに袖石、粘質土、焼土を検出した。東壁から長さ1.5ｍの煙道が17ｂ号住居に向かって延びているが、17ｂ号住居の調査の過程で、気づかないまま焼土と礫2点を残して破壊してしまった。

柱　　穴　湧水のため柱穴の有無を確認できなかった。

遺　　物　埋土中から土師器坏破片と土師器甕破片が出土したほか、土師器甕類破片61点0.99kg、須恵器坏類破片2点0.035kg、須恵器甕類破片1点0.02kgが出土した。

時　　期　出土遺物が限られ、また湧水のために正確な出土位置を確認できなかったが、それらから判断すると7世紀前半頃と思われる。

調査所見　南壁沿いに礫がまとまって出土したが、床面から20cm近く浮いているため、埋土中に投棄されたものと思われる。

18号住居（第33図～第36図、写真図版4）

位置・重複　調査区南寄りに位置し、18ａ号住居と18ｂ号住居の2軒が重複している。以下、18ａ号住居と18ｂ号住居とに分けて報告する。

18ａ号住居（第33図～第35図、写真図版4）

形状・規模　南北2.5ｍ、東西2.9ｍの方形で、竪穴の深さは0.4ｍである。床面積は6.5㎡。主軸方向は、N-85°-Eである。

床　　面　固くしまった黄褐色土の地山をそのまま床面としている。

壁　　溝　検出されなかった。

カ　マ　ド　検出されなかった。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　古墳時代後期の土師器坏類は13点0.13kg、土師器甕類破片が47点0.83kg、須恵器甕類破片4点0.06kgが埋土から出土している。18ｂ号住居と接合する破片が多く、18ａ号住居に直接関連するものは少ないと思われる。奈良平安時代の遺物は出土していない。

時　　期　18ｂ号住居を破壊して掘り込まれていることから、18ｂ号住居より新しい遺構である。奈良平安時代の遺物が一切みられないことから、7世紀代の住居と考えたい。

調査所見　竪穴は浅く残るのみであったため埋土の堆積状況を図化しなかった。埋土はほかの住居と同様、しまりのない黒色土で、堆積状況から18ａ号住居が18ｂ号住居を破壊して掘り込まれていることが確認された。埋土中に投棄された礫が多数出土している。特に西壁沿いに多数の礫が、壁に沿って列状に検出された。この状況からも18ａ号住居があたらしいことが確認された。

カマドを探査したが、焼土、袖石、焼礫、粘質土など、カマド施設を思わせる状況は一切確認されなかった。実測図には、床面に密着した礫の分布を示したが、これらをみてもカマドと思しき箇所は認められない。

18ｂ号住居（第33図・第35図～第36図、写真図版4）

形状・規模　南北6.7ｍ、東西5.0ｍの長方形で、竪穴の深さは0.3ｍである。床面積は29.5㎡、主軸方向は、N-99°-Eである。

床　　面　地山を床面としている。壁沿いを除いて固く踏みしめられている。

壁　　溝　東壁以外の壁沿いで小溝を検出したほか、北壁から南側へ延びる小溝が検出された。

カ　マ　ド　東壁からやや内側に寄った位置に、焼土と袖石と思われる板状礫が検出された。土師器甕破片も多数出土している。

柱　　穴　検出されなかった。南西角で直径 1.2 m、深さ 0.6 mの土坑が検出された。土坑埋土は踏み固められておらず、住居使用時には開口していたものと思われる。遺物は出土していない。

遺　　物　埋土とカマド周辺から、古墳時代の土師器坏類破片 71 点 0.91 kg、甕類破片 88 点 3.99 kgが出土している。34 図 1 の坏はカマド東側床面から出土し、ほぼ完形である。35 図 6 の坏は住居南東隅から出土しており、ほぼ完形である。36 図 1 の高坏は、カマド南側で東壁沿いから出土しており、やはりほぼ完形品である。

時　　期　出土遺物は破片が多いが、そのなかで完形に近いものが数点ある。これらで床面出土あるいはカマド周辺から出土したものを根拠にすると、本住居は 6 世紀末から 7 世紀初頭頃と考えられる。

調 査 所 見　18 a号住居と同様、埋土を図化しなかったが、やはり自然堆積したと思われる黒色土で埋まり、埋土中には礫が投棄されていた。カマドの南側 0.3 mの床面上に大きな礫 2 点と多孔石 1 点がまとまって置かれていた。多孔石は縄文時代の石器と思われるから、遺跡内で出土した多孔石を搬入したものと思われる。

29 号住居・39 号住居（第 48 図・第 63 図）

調 査 所 見　調査区中央北寄りの 28 号住居と 37 号住居との間で古墳時代と平安時代の遺物がまとまって出土したため 29 号住居と 39 号住居としたが、住居プランを確認できなかった。そこでトレンチにより調査を進めたが、深い位置で出土品がないこと、床面などが検出されなかったことなどから、最終的に住居と判断することはできなかった。なぜ遺物がまとまって出土したのか解明できなかった。

30 号住居（第 48 図～第 50 図、写真図版 6）

位置・重複　調査区中央北寄りに位置する。

形状・規模　南北 3.3 m、東西 3.4 mの方形で、竪穴の深さは 45 cm。床面積は 8.9 ㎡で、住居の主軸方向はN-20°-Wである。

床　　面　調査中に大量の湧水があったため、床面の状況を確認できなかった。

壁　　溝　湧水のため床面上で遺構確認できなかった。

カ　マ　ド　湧水を排水するためにやむなく排水溝を重機で掘削したところ、不運にもカマドを破壊してしまい充分な確認ができなかったが、北壁中央よりやや東寄りで焼土と焼礫が検出された。

柱　　穴　湧水のため床面上で遺構確認できなかった。

遺　　物　カマドと思われる地点で赤彩された土師器坏（49 図 1）と完形の土師器甕（49 図 5）が出土した。またカマド西側、住居北西角近くの床面上でほぼ完形の土師器甕（50 図 3）が、住居東壁中央から 50 図 2 の球胴甕が、49 図 2 の土師器坏はカマドと思われる地点から 70 cmほど南側の床面上でそれぞれ出土している。これらを含めて住居全体から古墳時代の土師器坏と破片が 35 点 0.58 kg、土師器甕と破片が 73 点 7.88 kg、須恵器甕破片 3 点 0.06 kg、奈良時代と思われる土師器坏破片が 10 点 0.07 kg、出土位置は不明だが刀子 1 点が出土している。

時　　期　出土品の特徴から古墳時代後期の 7 世紀後半と思われる。

調 査 所 見　住居床面からは焼土と炭化した建物部材が出土している。湧水がひどく出土したはしから崩れていってしまうため、住居全体での出土状況を写真で記録することができなかったが、図示したとおり部材は放射状に出土している。

34号住居（第53図～第54図、写真図版7）

位置・重複　調査区中央に位置する。38a号住居と38号b号住居と重複する。34号住居が最も古い遺構である。

形状・規模　南北推定6.6m、東西6.7mの方形で、竪穴の深さは25cmである。床面積は推定38.9㎡で住居主軸方向はN-0°である。

床　　面　固くしまった黄褐色の砂質地山を床面としている。

壁　　溝　壁沿いに浅い溝を検出した。

カ　マ　ド　北壁中央で焼土を検出した。調査区全体で湧水が激しいためやむなく重機を用いて排水溝を掘削したところ本住居の北側1/4を破壊してしまった。この掘削作業の際に地山礫と思われる大きな花崗岩と焼土が検出された。この焼土はカマドと思われる。

柱　　穴　38a号、38b号住居と重複しない北側で2ヶ所の柱穴を検出した。また38a号住居内でも2ヶ所で柱穴を検出した。38a号住居内で検出された柱穴は34号住居の小溝との位置関係から34号住居に属する施設と判断した。以上により本住居には4本の柱穴が備わっていたと考えられる。

遺　　物　54図6の球胴甕は、胴中央で故意に割られているようであるが、カマドがあったと思われる地点の南側の床面上で出土している。これを含めて住居全体から古墳時代の土師器坏破片31点1.02kg、土師器甕破片128点2.25kg、須恵器甕破片25点0.47kg、刀子破片1点が出土した。

時　　期　出土遺物から古墳時代後期7世紀前半代の遺構と思われる。

調 査 所 見　本調査区中では最大規模の住居であるが、排水溝で北壁を失ったのは残念であり迂闊であった。4ヶ所で検出された柱穴から壁に向って小溝1～3本が延び、何らかの施設の存在と改修が伺えるが、施設の性格を示す資料は得られなかった。

35号住居（第60図、写真図版7）

位置・重複　調査区南西寄り、8号住居南に隣接する。重複はないが8号住居とごく近接する。

形状・規模　南北2.3m、東西1.8mの方形の小型住居で、竪穴の深さは40cmである。床面積は2.8㎡、住居の主軸方向はN-93°-Eである。

床　　面　明黄褐色の固くしまった砂質地山を床面としており、貼床は検出されなかった。

壁　　溝　検出されなかった。

カ　マ　ド　東壁中央で焼土、礫、浅いくぼみが検出された。礫に被熱痕は認められず、カマド構築材かどうか分からない。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　古墳時代の土師器坏破片8点0.04kg、土師器甕破片37点0.47kgが埋土から出土した。図示できるものはなかった。

時　　期　遺構の時期を明示する出土品はなかったが、出土品の特徴から古墳時代後期7世紀前半代の遺構と思われる。

調 査 所 見　本調査区の住居と思われる遺構のなかでは最小規模である。明確ではなかったがカマドと思われる施設が検出されていること、18a号住居、43b号住居など小型の住居がほかにも検出されていることから、本遺構も住居と考えた。

38a号住居（第53図・第55図～第57図、写真図版7）

位置・重複　調査区中央に位置し、34号住居、38b号住居と重複する。本住居は34号住居より新しく、38b号住居より古い。遺構検出当初は、34号住居と38号住居の2軒が重複すると判断したが、調査が進捗するにつれ38号住居がさらに2軒の重複であることが判明した。

形状・規模　西壁沿いで検出された周溝の本数から本住居は1回の拡張を経ていると想定される。拡張後の住居は南北4.7 m、東西5.5 m、床面積は20.9 ㎡である。拡張前の住居は南北4.7 m、東西4.8 m、床面積は18.4 ㎡である。竪穴の深さはともに50 cmである。住居主軸方向はN-2°-Eである。

床　　面　明黄褐色の固くしまった砂質地山を床面としており、貼床は検出されなかった。

壁　　溝　壁際に浅い溝を検出したほか、床面上でも小溝が検出された。

カ マ ド　北壁中央で煙道、粘土、礫、焼土、浅いくぼみを検出した。煙道は34号住居埋土を掘り込み灰色粘土を交えた土で築かれている。両袖石は比較的原形を留め、カマド本体を構築したと思われる被熱した粘土塊も出土している。天井石や袖石の一部は外されて移動しているようである。

柱　　穴　床面上で数基のピットが検出されたが、うち2基は本住居が切る34号住居の柱穴と思われる。ほかのピットで本住居の構造にかかわると推測されるのは、住居中央の東寄りで検出された深さ40 cmのピットである。

遺　　物　調査の当初は38 a号住居と38 b号住居の出土品を分別することなく処理していた。38号住居全体として取上げたものは、古墳時代の土師器坏破片101点0.49 kg、土師器甕破片481点6.44 kg、奈良時代の土師器坏破片38点0.21 kg、須恵器坏破片12点0.09 kg、須恵器甕破片11点0.2 kgである。38 a号住居として取上げたものは、古墳時代の土師器坏破片40点0.33 kg、土師器甕破片260点11.35 kg、奈良時代の土師器坏破片24点0.35 kg、須恵器坏破片7点0.22 kg、須恵器甕破片22点0.84 kg、紡錘車1点、刀子1点である。59図～60図に示した出土品のほとんどは埋土中から破片状態で出土したものである。56図1の土師器甕は住居北東角寄りの東壁沿いで床面から10 cm程度の高さで横倒しになって出土している。口縁部の一部が欠損しているがほぼ完形である。57図6の紡錘車はカマドの70 cm南の埋土中で出土した。

時　　期　出土状況から本住居の時期を明示する資料はないが、34号住居を切り、奈良時代と思われる38 b号住居に切られる重複関係と埋土中の出土品から、古墳時代後期7世紀後半の遺構と思われる。

調査所見　カマド南側から住居中央にかけて検出された不定形のくぼみの中央には地山の大きな礫がある。床面では暗褐色土で充填された土坑のようにみえたため発掘したが、おそらくは住居を構築する際にこの大きな礫を掘り出そうとした痕跡ではないかと思われる。床面では東西南北それぞれの方向に延びる小溝を検出したが、その機能を示唆する情報は得られなかった。

41号住居（第64図～第66図、写真図版8）

位置・重複　調査区北西隅に位置する。

形状・規模　南北3.6 m、東西3.7 mの方形で、竪穴の深さは30 cmほどである。床面積は11.0 ㎡、住居の主軸方向はN-98°-Wである。東側は地山に礫が多く含まれるためか壁が大きく歪んでいる。

床　　面　黒色土と黄褐色土が混じる地山を床面としている。貼床は検出されなかったが床は固くしまっていた。地山には多数の礫が混じり、壁と床面に露出している。

壁　　溝　東壁以外で浅い溝が検出された。

カ マ ド　西壁の中央寄り西寄りで比較的原形を留めたカマドが検出された。カマドは袖石に灰色の粘土を貼り付け、扁平で細長い礫を天井にわたしてある。天井石はずり落ちて原位置を留めていない。カマド内から完形の土師器甕と坏破片が出土した。カマド底部には支石が残る。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　カマドとカマド南側の住居南西角で完形ないしほぼ完形の土師器甕5点が出土したほか、住居床面上で土師器坏の大型破片が出土している。65図1と66図1、66図5はカマド内で出土した。65図6、65図9、65図10、65図11、66図2、66図3は住居南西角の床面上でまとまって出土した。65図8のみ床面から10 cmほど浮いて出土し、半分程度の大きな破片状態であった。これらを含めて住居全体の出土品は、古墳時代の土師器坏破片95点1.88 kg、土師器甕破片239点17.2 kg、小型土器1点0.03 kg、礫器1点である。

時　　期　カマド内とその周辺の出土品は住居に直接的に属するものと思われ、古墳時代後期7世紀前半の遺構と思われる。

調査所見　焼失住居ではないにもかかわらず本住居内に多量の土器が残された理由は分からないが、古墳時代後期の住居での土器セットを示すものと考える。

43a号住居（第69図～第71図、写真図版8）

位置・重複　調査区南東寄りに位置し、43b号住居と重複し、43b号住居が新しい。

形状・規模　南北4.4m、東西4.9mの方形で、竪穴の深さは60cmである。床面積は14.4㎡、住居の主軸方向はN-5°-Wである。

床　　面　礫が混じる黄褐色の砂質の地山を床としており、貼床は検出されなかった。

壁　　溝　43b号住居と重複する範囲を除き、壁沿いに深さ10cm程度の浅い溝が検出された。

カ　マ　ド　北壁のほぼ中央に位置する。袖石の周囲に植物繊維を混ぜ合わせた粘土が良好に残る状態で検出された。特にカマド内部の壁体の粘土は被熱して赤く硬化し、しっかりと袖石に貼り付いた状態であった。粘土中には植物繊維が混ぜ込まれた痕跡が明瞭に観察された。このように粘土がしっかりと袖石を覆っているため袖石には顕著な被熱痕が認められなかった。袖石は河原の礫が用いられていて、このような礫は遺跡の地山あるいはすぐ東側を流れる塩川の河床で容易に採取することができる。カマドから壁の外側に長さ1.5mの煙道が延びている。煙道の先端には直行する小溝が掘られ、礫と小さな丸石が溝内から出土している。煙道部で焼土は検出されていない。

柱　　穴　柱穴と思われる2基の小ピットが検出された。西壁から住居中央に向って浅い溝が検出され、溝内に小ピットがある。この小ピットは深さが30cmほどあり、43b号住居内でもちょうど対称的な位置に同様のピットが検出された。この2基の小ピットが柱穴と考えた。ほかに床面上で浅いピットが検出されたがおそらく地山礫の抜き取り痕と思われる。

遺　　物　70図2の土師器坏はカマド煙道で出土している。71図1と71図2もカマド内から出土した。73図4の須恵器坏は南壁沿いの埋土中から出土した。本住居は当初、43号住居1軒として調査をはじめたため、埋土中の出土品も一括して取上げている。その出土量は古墳時代の土師器坏破片58点0.55kg、土師器甕破片433点10.14kg、奈良時代の土師器坏破片22点0.44kg、須恵器坏破片14点0.14kg、須恵器甕破片11点1.01kg、刀子1点、礫器4点である。43a号住居と43b号住居とを区別するようになった後の本住居出土品の総量は、古墳時代の土師器坏破片3点0.19kg、土師器甕破片11点0.4kg、小型土器1点0.03kgである。

時　　期　カマドの出土品は古墳時代後期7世紀後半頃に位置付けられると思われ、一方埋土中では須恵器坏など奈良時代に位置付けられる出土品がみられる。後述する43b号住居との重複関係からも本住居は古墳時代後期7世紀後半に位置づけられると思われる。

調査所見　遺構検出時には1軒の住居と判断して調査に着手したが、その後2軒の住居の重複であることが判明した。セクションベルトでの埋土断面の観察と、カマドの残存状況から43b号住居が43a号住居を切ることを確認した。本住居を古墳時代後期の遺構と判断したが、43b号住居が奈良時代の遺構と考えられることとも矛盾しない。西壁沿いの床面上で焼土と炭化材が混じる黒褐色土が出土したが、焼失住居と判断するほどの量ではない。同様の焼土と炭化材は重複する43b号住居床面上でも検出されている。

51号住居（第75図、写真図版9）

位置・重複　調査区南東寄りに位置する。

形状・規模　南北4.7m、東西3.8mの範囲で暗灰色の落ち込みがみられ、遺物も出土したため住居と認定し調査したが、カマドなどの施設は確認されなかった。竪穴の深さは20cmほどである。

床　　面　検出されなかった。

壁　　溝　検出されなかった。

カ　マ　ド　遺構の北東部に浅いくぼみがみられたが焼土などは検出されなかった。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　遺構全体に礫と坏破片等が散在していた。75図2の土師器坏はほぼ完形である。出土品の総量は古墳時代の土師器坏8点0.92kg、土師器甕破片73点0.95kgである。

時　　期　出土品の特徴から古墳時代後期、7世紀中頃と思われる。

調査所見　住居跡か判断する材料がなかったが、何らかの竪穴遺構であると思われる。

第4章　奈良時代の遺構と遺物

調査区では奈良時代と思われる住居13軒が検出されている。古墳時代の住居に比べて概して小型で、住居北壁にカマドを設けるものと東壁に設けるものとがみられる。

4号住居（第11図～第13図、写真図版1）

位置・重複　調査区南西角に位置する。古墳時代後期の3号住居、5号住居と近接、重複する。本住居が新しい。

形状・規模　南北4.6m、東西3.9mの長方形で竪穴の深さは35cm。床面積は15.6㎡、住居の主軸方向はN-8°-Wである。埋土中には大量の礫が投棄されていた。

床　　面　固くしまった明黄褐色の砂質地山を床面とし、貼床は検出されなかった。床面には地山に含まれる大小の礫が露出している。

壁　　溝　住居の南半の壁沿いに小溝を検出した。

カ　マ　ド　北壁中央で灰色粘土、焼土、浅い窪み、煙道が検出された。カマドは原形を留めていない。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　12図1の土師器坏はカマドの粘土中から出土した。埋土中から古墳時代の土師器坏破片37点0.41kg、土師器甕破片199点3.53kg、平安時代の土師器坏破片8点0.264kg、土師器皿破片2点0.02kg、須恵器坏破片7点0.24kg、須恵器甕破片7点0.13kgが出土した。武蔵型土師器甕（13図1・3）の出土が注目される。

時　　期　12図1の土師器坏を根拠に奈良時代の遺構と推測する。

9号住居（第20図～第21図、写真図版2）

位置・重複　調査区中央西寄りに位置し、古墳時代後期の8号住居と重複し10号住居と接する。

形状・規模　南北3.6m、東西3.7mの方形で、竪穴の深さは40cmである。床面積10.5㎡で住居主軸方向はN-7°-Eである。

床　　面　明黄褐色の固くしまった地山を床面としており、貼床は検出されなかった。

壁　　溝　壁際で浅い溝が検出された。

カ　マ　ド　北壁東寄りで礫、灰色粘土、焼土、煙道を検出した。カマド底には厚さ10cmほどの焼土が検出された。崩れたカマドの内部から21図1の土師器坏が、また崩れたカマド粘土上から21図2の土師器坏が出土した。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　カマド周辺と埋土中から古墳時代の土師器坏破片5点0.06kg、土師器甕破片86点2.72kg、奈良平安時代の土師器坏皿破片31点0.52kg、礫器2点が出土した。21図1には墨書がみられる。

時　　期　カマド出土の土師器坏から奈良時代の遺構と考えられる。

12号住居（第25図～第27図、写真図版3）

位置・重複　調査区南西寄りに位置し、11号住居に近接する。

形状・規模　南北5m、東西5.4m、竪穴の深さ60cm、床面積は18.1㎡である。平面形は方形で、北壁からカマド煙道が長く延びる。壁溝が3本検出され、2回の拡張が想定される。最も内側の壁溝に囲まれた床面積は11.9㎡、2本目の壁溝に囲まれた床面積は15.2㎡である。

床　　面　固くしまった地山を床面としており、貼床は検出されなかった。壁際を除くほぼ全面が、踏み固められている。

壁　　溝　3本の壁溝がほぼ全周にわたり検出された。壁溝は深さ5cm程度と浅く、平安時代住居のそれと較べると頼りない感じであるが、もっとも外側の壁溝は明瞭に確認されている。内側2本は非常に浅く、本当に壁溝と認

定してよいか判然としない。

カ　マ　ド　北壁中央で粘質土、焼土、礫を検出した。カマドは礫が抜き取られ破壊されているが、粘質土で形作られた両袖がぼんやりと残り、東側の袖石が原位置を保っている。煙道が北壁から1.2mほど延びている。カマドの粘質土中から土製の人形が正位で出土した。住居中央の床面が焼土化しており、カマドと同質の灰色の粘質土が検出されている。住居の中央部に常設のカマドがあったとは考えにくいが、仮設的なカマド類似の施設が設けられていたのであろうか。直径20cm、深さ20cmほどの小ピットが検出されている。

柱　　穴　住居中央の左右に規則的に小ピットが配置されている。西側は小溝が壁に向かって延びている。東側は2基のピットがあり、いずれも30cmから50cmと深い。小溝は検出されなかった。東側のピットのさらに南側でピットを検出したが、こちらは地山礫の抜き取り痕と思われる。

遺　　物　大半の遺物は破片状態で、埋土上層において大小の礫とともに出土している。ただし26図7の須恵器坏蓋は住居北西角の床面上で内面を上にして出土している。カマドから土製人形1点が出土している。住居中央付近の埋土上層部で銅製環1点が出土した。礫や土器破片に混じって出土しており、特別な出土状況を確認することはできなかった。出土品総量は、土師器坏類破片が81点0.84kg、甕類は407点9.12kg、須恵器坏蓋類は6点0.24kg、土製人形1点0.04kg、銅製環1点0.01kgが、それぞれ出土している。

時　　期　遺物は埋土上層の出土が多いが、それらから判断すると奈良時代と思われる。

調査所見　調査区内に限ってのことであるが、奈良時代に位置づけられる住居のうち、本住居は最大規模を誇り、柱穴、壁溝、カマドも、よく整っている印象を受ける。加えて、人形、銅製環といった遺物が出土している。

16号住居（第27図、写真図版3）

位置・重複　調査区中央に位置する。17a号住居、17d号住居と近接する。

形状・規模　南北2.6m、東西2.7mの方形で、竪穴の深さは35cmである。床面積は4.8㎡で住居主軸方向はN-92°-Eである。

床　　面　固くしまった明黄褐色の砂質地山を床面としている。貼床は検出されなかった。

壁　　溝　壁沿いに浅い溝を検出した。

カ　マ　ド　東壁の中央よりやや南寄りで灰色粘土、焼土、礫を検出した。カマドは原形を留めていない。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　埋土から破片が出土している。古墳時代の土師器坏破片2点0.04kg、土師器甕破片65点0.9kg、奈良平安時代の土師器坏皿破片7点0.03kg、須恵器破片7点0.1kgである。

時　　期　出土品が少ないが、図示した須恵器破片から奈良時代の遺構である可能性がある。

17a号住居（第27図～第28図、写真図版3）

位置・重複　調査区中央に位置する。16号住居、17d号住居と近接する。住居周辺は埋没谷で黒色土が数十センチ以上堆積している。そのため本住居とその周辺の住居を確認時に分離して認識することができず、17号住居として調査を開始した。調査が進むにつれて4軒の住居がまとまって分布していることが判明し、17a号から17d号住居と呼称することとした。

形状・規模　南北2.8m、東西2.4mの方形で、竪穴の深さは50cmである。床面積は5.4㎡で住居主軸方向はN-88°-Eである。

床　　面　16号住居と同様の床面と思われるが、湧水がひどく確認できなかった。調査時においても床面高はカマドの礫の状況をみながらようやく確認した。

壁　　溝　湧水のため確認作業ができなかった。

カ　マ　ド　北壁の中央よりやや東寄りで礫、粘土、焼土、煙道が検出された。

柱　　穴　湧水のため確認作業ができなかった。

遺　　物　埋土中から奈良時代の土師器坏1点0.002kg、土師器甕破片58点1.03kg、須恵器坏破片5点0.14kgが出土した。17a号住居に分離する以前に17号住居一括として処理した出土品は古墳時代の土師器坏破片24点0.17kg、土師器甕破片488点8.37kg、奈良時代の土師器破片14点0.01kg、平安時代の土師器甕破片13点0.1kg、須恵器坏破片7点0.075kg、須恵器甕破片3点0.14kgである。

時　　期　出土品が少ないが、図示した土師器甕から奈良時代の遺構である可能性がある。

17c号住居（第31図、写真図版4）

位置・重複　調査区中央に位置し、17a号住居、17b号住居と近接する。

形状・規模　南北2.7m、東西2.8mの方形で、竪穴の深さは35cmである。床面積は4.9㎡で住居主軸方向はN-1°-Wである。

床　　面　湧水のため確認作業ができなかった。

壁　　溝　湧水のため確認作業ができなかった。

カ　マ　ド　住居北東角で焼土と礫を検出した。湧水のため充分な調査ができなかった。

柱　　穴　湧水のため確認作業ができなかった。

遺　　物　17a号住居の項で報告したとおり17号住居一括で処理した出土品と17c号住居で取上げた出土品とがある。17c号住居では古墳時代の土師器坏破片6点0.024kg、奈良時代の土師器坏破片4点0.017kg、土師器甕破片42点5.62kg、土器片製円盤1点が出土した。第31図5の土師器坏は本住居の遺物と思われる。

時　　期　出土品が少ないが奈良時代の遺構である可能性がある。

26号住居（第42図、写真図版5）

位置・重複　調査区北寄りに位置する。

形状・規模　南北4.2m、東西4.5mの方形で、床面積は14.7㎡、住居主軸方向はN-79°-Eである。

床　　面　固くしまった明黄褐色の砂質地山を床面としている。貼床は検出されなかった。床面には地山の礫が多数露出している。

壁　　溝　床面に礫が多いためか検出できなかった。住居北西角を囲むように浅い溝がコの字状に検出されたが、その機能を示す資料を得ることはできなかった。

カ　マ　ド　東壁の中央よりやや南寄りで焼土を検出したが、カマドは全く原形を留めていない。

柱　　穴　住居中央で2基のごく浅いピットが検出された。ピットの深さは5cm程度だが、これらが柱穴の可能性がある。

遺　　物　42図3を除き埋土中から小破片が出土したのみである。3は住居南西角から出土した須恵器坏で2/3程度が残っていた。住居全体では古墳時代の土師器坏破片13点0.1kg、土師器甕破片1点0.01kg、奈良平安時代の土師器坏破片66点0.5kg、土師器甕破片227点3.34kg、須恵器坏破片12点0.45kgが出土した。

時　　期　住居の時期を示す資料に恵まれないが、奈良時代の遺構と思われる。

27号住居（第43図～第44図、写真図版6）

位置・重複　調査区の北寄りに位置する。

形状・規模　南北3.1m、東西3.6mのやや不整形の方形で、竪穴の深さは0.2mである。床面積は6.3㎡。主軸方向はN-9°-Wである。

床　　面　地山を床面としており、貼床は検出されていない。地山は、大小の礫が露出した黄褐色の細砂質である。

壁　　溝　西壁と南壁沿いが溝状に浅く窪んでいたが、床面に礫が多いため明確に壁溝と認定することはできなかっ

た。

カ　マ　ド　東壁中央で礫、焼土、粘質土を検出した。左右の袖石は比較的良好に残り、カマドの原形をうかがわせる。煙道は検出されなかった。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　古墳時代の土師器坏類は11点0.22kg、甕類は45点1.91kg、奈良時代の土師器坏類2点0.03kg、須恵器坏破片1点0.05kg、甕類3点0.07kg、石器1点0.08kg、砥石1点0.42kg、紡錘車1点0.05kgが出土している。主に埋土から出土した破片資料である。砥石は住居中央の床面上で出土している。紡錘車は南壁中央の床面から若干浮いた位置で、壁に貼りつくようにして出土している。

時　　期　破片資料のみであるが、これらから奈良時代の遺構と推測される。

28号住居（第45図～第46図、写真図版6）

位置・重複　調査区中央北寄りに位置し、36号住居と重複する。36号住居が新しい。

形状・規模　南北4.0m、東西3.9mの方形で、竪穴は深さ33cmである。床面積10.9㎡で主軸方向はN-1°-Wである。遺構の南1/3は36号住居に切られて失われている。

床　　面　黒褐色の地山を床面としており、地山の小礫が露出している。湧水のため硬度は確認できなかった。

壁　　溝　湧水のために床面上で遺構確認ができなかった。

カ　マ　ド　焼土、粘土などは一切検出されなかった。北東角の壁に貼りつくようにして土師器甕破片がまとまって出土している。カマド構造材として利用されたならば、ここをカマドと想定することができるがどうであろうか。

柱　　穴　湧水のために床面上で遺構確認ができなかった。

遺　　物　古墳時代の土師器坏破片8点0.07kg、土師器甕破片1点0.08kg、奈良平安時代の土師器坏破片24点0.2kg、土師器甕破片114点2.7kg、須恵器甕破片16点0.66kgが埋土中から出土している。小さな破片であるが畿内系坏が出土している。

時　　期　遺構の時期を明確に示す出土品はなかったが埋土中の出土品は奈良時代の土師器坏と甕、須恵器が卓越しているため、奈良時代の遺構である可能性が高い。

32号住居（第51図～第52図、写真図版6）

位置・重複　調査区中央北東寄りに位置する。

形状・規模　南北3m、東西3.4mの方形で、竪穴の深さは30cmである。床面積は6.8㎡、住居の主軸方向はN-92°-Eである。

床　　面　黄褐色の固くしまった砂質地山を床面としている。貼床は検出されなかった。

壁　　溝　壁際に浅い溝が検出された。

カ　マ　ド　東壁中央のやや南寄りで粘土、礫、焼土、煙道が検出された。周囲にカマド構造材と思われる大きな礫が散在しており、カマドは一部の袖石を除き原形をとどめていない。

柱　　穴　柱穴は検出されなかった。南壁中央付近の床面上で浅いくぼみが3ヶ所で検出された。出入口施設に係る小ピットであるかもしれない。

遺　　物　埋土中から奈良時代の土師器坏破片1点0.02kg、土師器甕破片25点1.32kg、須恵器4点0.1kgが出土している。

時　　期　遺構の時期を明示する出土品はないが、奈良時代の遺構と思われる。

36号住居（第45図・第47図、写真図版6）

位置・重複　調査区中央の北寄りに位置し、28号住居と重複する。ともに奈良時代の遺構と考えられるが、埋土断

面観察から本住居が新しいと判断した。

形状・規模　南北3m、東西2.9mの方形で、竪穴の深さは70cmである。床面積は7.3㎡、住居の主軸方向はN-72°-Wである。調査中に湧水があり壁がみるみる崩れていってしまったため、写真では住居の南半分がクレーター状になっている。

床　　面　多量の湧水のため確認できなかった。

壁　　溝　多量の湧水のため確認できなかった。

カ　マ　ド　多量の湧水のため確認できなかった。

柱　　穴　多量の湧水のため確認できなかった。

遺　　物　多量の湧水のために重複する28号住居との境界がはっきりしないまま遺物の取上げ処理をせざるを得なかった。そのために28号住居と本住居の一括取上げ処理した小破片遺物は両住居に渡って混ざり合ってしまったものもあると思われる。現地調査で本住居の遺物と判断して取上げたものは、奈良時代の土師器坏破片25点0.39kg、甕破片42点1.44kg、須恵器坏破片13点0.84kgである。

時　　期　出土遺物から奈良時代の遺構と思われる。

37号住居（第61図～第63図、写真図版7）

位置・重複　調査区中央の北寄りに位置する。

形状・規模　南北3.1m、東西4.3mの長方形で、竪穴の深さは45cmである。南壁に張り出しがある。床面積は12.7㎡、住居の主軸方向はN-6°-Eである。

床　　面　黄褐色の砂質地山を床面としている。湧水のため貼床があるかどうかは確認できなかった。床面には地山に含まれる礫が露出している。

壁　　溝　湧水のため確認できなかった。

カ　マ　ド　北壁中央のやや東寄りに浅いくぼみと礫、わずかな焼土を検出した。

柱　　穴　湧水のため確認できなかった。

遺　　物　埋土からの出土品は、古墳・奈良時代の土師器坏破片401点2.35kg、土師器甕破片1147点13.3kg、須恵器坏破片1点0.09kg、須恵器甕破片27点0.6kg、紡錘車2点、鉄製品1点である。本遺跡の調査で唯一の甑が注目される。

時　　期　出土遺物から奈良時代の遺構と思われる。

38b号住居（第53図・第58図～第60図、写真図版7）

位置・重複　調査区中央に位置し、34号住居、38a号住居と重複する。本住居が最も新しい。

形状・規模　南北2.9m、東西3.9mの長方形で、床面積は8.7㎡、住居主軸方向はN-87°-Eである。

床　　面　固くしまった明黄褐色の砂質地山を床面としており、貼床は検出されなかった。

壁　　溝　東壁以外の壁沿いで浅い溝を検出した。

カ　マ　ド　東壁のほぼ中央部で礫、灰色粘土、焼土、くぼみ、煙道を検出した。カマド煙道は38a号住居埋土に掘り込まれている。カマドを構成したと思われる礫は一部の袖石を除いて原位置を留めず、カマド焚き口部辺りで積み重ねられるようにして出土した。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　38a号住居の項でも報告したとおり、38a号住居と38b号住居は当初単に38号住居として調査をはじめたため、出土品の一部が混在してしまった。58図1の須恵器短頸壺破片は住居南壁沿いの床面上で出土している。59図4の須恵器坏破片は住居南東角から出土している。59図1、2、3の土師器坏はカマドで出土している。住居全体の出土品は古墳時代の土師器坏破片28点0.31kg、甕破片147点3.12kg、奈良時代の土師器坏18点0.54kg、須

恵器坏破片11点0.4kg、甕破片7点0.08kgである。ほかに38号住居一括として処理したものが38a号住居の項に報告してある。

時　　期　カマド内の出土品から奈良時代の遺構と思われる。

調査所見　当初、38号住居1軒と認識して調査をはじめたところ、38b号住居のカマドを検出し、2軒の重複であることに気づいた。そのため本住居の東壁は掘り飛ばしてしまった。38b号住居の埋土セクションを観察すると重複関係が確認されたが、38a号住居と38b号住居の埋土色の違いはわずかであり、遺構検出面では両者の違いを認識できなかった。

42号住居（第67図～第68図、写真図版8）

位置・重複　調査区南東角に位置し、44号住居に近接する。

形状・規模　南北4.2m、東西4.7mの方形で、竪穴の深さは40cm。床面積は14.7㎡で住居主軸方向はN-9°-Eである。

床　　面　固くしまった明黄褐色の砂質地山を床面としており、貼床は検出されなかった。床面には地山の礫が若干露出している。住居中央付近の床面が特に固くしまり、平坦であった。

壁　　溝　検出されなかった。住居の中央と西壁の間でL字状に浅い小溝を検出した。

カ　マ　ド　北壁の中央よりやや東寄りで粘土、礫、焼土、短い煙道を検出した。カマドは原形を留めていない。カマドからは68図4の土師器甕破片がまとまって出土した。

柱　　穴　検出されなかった。南壁沿いで浅いピット2基が検出され、出入口の施設に関連するものである可能性がある。

遺　　物　古墳時代の土師器坏破片6点0.05kg、土師器甕破片80点5.01kg、奈良時代の土師器坏破片26点0.21kg、須恵器坏破片13点0.3kg、須恵器甕破片3点0.14kg、鉄製品2点、縄文時代の打製石斧破片、くぼみ石1点、磨石1点が主に埋土から出土した。

時　　期　カマドで出土した土師器甕が本住居の時期を示すと考えられることから奈良時代の遺構と思われる。

43b号住居（第69図・第72図～第73図、写真図版8）

位置・重複　調査区南東寄りに位置し、43a号住居と重複する。遺構確認当初、2軒の重複と認識できず43号住居1軒として調査に着手した。

形状・規模　南北3.1m、東西3.3mの方形で、竪穴の深さは70cm。床面積は6.7㎡で住居主軸方向はN-13°-Wである。

床　　面　固くしまった明黄褐色の砂質地山を床面としており、貼床は検出されなかった。床面には地山の礫が若干露出している。

壁　　溝　地山の礫が多い北壁沿いを除き、浅い溝が検出された。

カ　マ　ド　北壁の中央よりやや東寄りで粘土、礫、焼土、煙道を検出した。カマドは原形を留めていない。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　43b号住居からは古墳時代の土師器甕破片8点0.18kg、奈良時代の土師器坏破片1点0.003kgが出土している。このほか43号住居として一括して処理した出土品があり、43a号住居の項に報告してある。72図1の土師器坏は住居南西角の埋土から出土している。

時　　期　43a号住居中にも奈良時代の須恵器やいわゆる盤状坏といわれる土師器坏が混じっているが、それらは本住居に属するものである可能性がある。本住居出土品とあわせて本住居の時期を示している可能性があり、本住居は奈良時代と考えておきたい。

調査所見　43a号住居の項でも報告したとおり、床面上で焼土、炭化材が混じる黒褐色土が出土したが、焼失住居

と判断されるほどの量ではない。43 a号住居と 43 b号住居の埋土中には多量の礫が投棄されており、周辺の住居を建設する際に出土した礫が搬入されたものと思われる。この多量の礫の出土状況も両住居の重複関係に合致した様相であった。

46 号住居（第 74 図、写真図版 8）

位置・重複　調査区南東角に位置し、42 号住居、43 号住居と重複する。

形状・規模　南北 3.2 m、東西 3.5 mの方形で、竪穴の深さは 30 cm。床面積は 8.0 ㎡で住居主軸方向はN-29° -Wである。

床　　面　固くしまった明黄褐色の砂質地山を床面としており、貼床は検出されなかった。床面には地山の礫が多数露出している。

壁　　溝　南壁沿いで浅い溝が検出された。

カ マ ド　住居の北西角で礫と焼土を検出した。カマドは袖石の一部と天井石と思われる礫を除き、原形を留めていない。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　埋土から奈良時代の土師器坏破片 5 点 0.06 kg、甕破片 11 点 0.46 kg、須恵器甕破片 2 点 0.03 kgが出土した。

時　　期　住居の時期を示す資料に恵まれなかったが、埋土中の出土品から奈良時代の遺構と思われる。

52 号住居（第 76 図～第 78 図、写真図版 9）

位置・重複　調査区中央の東寄りに位置し、53 号住居と重複する。本住居が古く 53 号住居が新しい。

形状・規模　南北 5.0 m、東西 4.6 mの方形で、竪穴の深さは 40 cmである。床面積は 19.5 ㎡、住居主軸方向はN-12 ° -Eである。

床　　面　大小の礫が多数混じる暗黄褐色の地山を床面とし、貼床は検出されなかった。

壁　　溝　床面に礫が多く混じるためか、精査したが検出されなかった。

カ マ ド　北壁東寄りで礫、焼土、浅いくぼみが検出された。カマドは原形を留めていない。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　77 図 2、77 図 4、78 図 1 はカマドから出土した。77 図 1 と 78 図 3 の砥石は東壁沿いの埋土中で出土している。いずれも破片である。住居全体では古墳時代の土師器坏破片 42 点 0.3 kg、土師器甕破片 209 点 2.97 kg、奈良時代の土師器坏 12 点 0.46 kg、須恵器坏破片 2 点 0.2 kg、須恵器甕破片 6 点 0.77 kg、砥石 1 点である。

時　　期　カマド出土遺物から奈良時代の遺構と考えられる。

53 号住居（第 76 図・第 79 図～第 80 図）

位置・重複　調査区中央の東寄りに位置し、52 号住居と重複する。本住居が新しい。

形状・規模　東西 5.0 mの方形で、竪穴の深さは 35 cmである。住居主軸方向はN-90° -Eである。調査区の湧水を排水するために溝を掘削したところ、本住居の北半分を破壊してしまった。そのため南北の規模と床面積は不明である。本住居は 52 号住居を調査中にその存在に気づいたもので、東壁と南壁の一部を検出することができなかった。

床　　面　大小の礫が多数混じる暗黄褐色の地山を床面とし、貼床は検出されなかった。

壁　　溝　西壁から南壁にかけて小溝を検出した。

カ マ ド　東壁の中央よりやや南寄りで灰色粘土、礫、焼土を検出した。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　埋土から古墳時代の土師器坏破片 26 点 0.15 kg、奈良時代の土師器坏破片 18 点 0.32 kg、土師器甕破

片 190 点 3.0 kg、須恵器坏破片 4 点 0.03 kg、須恵器甕破片 17 点 0.27 kgが出土した。

時　　期　出土遺物から奈良時代の遺構と考えられる。

第5章　平安時代の遺構と遺物

平安時代と思われる住居は5軒が検出され、平安時代の住居の可能性がある遺構2基が検出された。

19a号住居（第37図、写真図版5）

位置・重複　調査区北東角に位置し、19b号住居と重複する。本住居が古く19b号住居が新しい。

形状・規模　南北3.6m、東西4.5mの方形で、竪穴の深さは30cmである。床面積は11.1㎡、住居主軸方向はN-65°-Wである。

床　　面　固くしまった明黄褐色の砂質地山を床面とし、貼床は検出されなかった。床面には地山に混じる大きな礫が突出している。

壁　　溝　北壁の一部を除き周溝が検出された。住居南西角に短い溝が検出されている。

カ　マ　ド　北壁の中央よりやや東寄りに焼土と浅いくぼみが検出された。19b号住居に切られているためカマド本体と礫は検出されなかった。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　本住居は当初1軒の住居と判断して調査を始めたところ、19a号住居と19b号住居の2軒の重複であることが判明した。そのため出土遺物も19号住居1軒でまとめて取上げている。19a号住居と19b号住居の双方の出土品総量は、古墳時代の土師器坏破片7点0.044kg、土師器甕破片7点0.21kg、平安時代の土師器坏破片28点0.316kg、土師器甕破片126点1.073kg、須恵器坏1点0.136kg、須恵器甕13点0.44kg、礫器1点である。

時　　期　図示できる出土品に恵まれなかったが平安時代の住居と考えられる。

19b号住居（第37図～第38図、写真図版5）

位置・重複　調査区北東角に位置し、19a号住居と重複する。本住居が新しく19a号住居が古い。

形状・規模　本住居は周溝の形状から1回の拡張を経ていると思われる。拡張後の住居は南北3.0m、東西3.6mの長方形で、床面積は8.9㎡。拡張前の住居は南北3.0m、東西2.6mの長方形で、床面積は5.8㎡。竪穴の深さは35cmで、住居の主軸方向はともにN-23°-Wである。北壁沿いに高圧電線鉄塔のアース線が埋設されており、北壁は床面近くを除いて破壊されていた。

床　　面　固くしまった明黄褐色の砂質地山を床面とし、貼床は検出されなかった。

壁　　溝　拡張前、拡張後ともに全周で浅い溝を検出した。

カ　マ　ド　北壁中央よりやや東寄りで焼土、礫、灰色粘土を検出した。カマド上に高圧電線鉄塔のアース線が埋設されており、一部が破壊されていた。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　第38図1は19b号住居南西角の埋土中で、2は19b号住居北東角の床面上で、4の甕破片はカマドと周辺でそれぞれ出土した。

時　　期　カマド周辺の出土品から平安時代の住居と考えられる。

20号住居（第39図～第40図、写真図版5）

位置・重複　調査区北東角に位置し、19号住居と近接する。22号住居と重複し、本住居が新しい。

形状・規模　南北3.7m、東西4.1mの方形で竪穴の深さは40cmである。床面積は11.2㎡で住居の主軸方向はN-21°-Wである。39図の住居平面図に示したとおり、本住居の周囲が、22号住居の重複部分とは別に浅く掘られている。住居建設時の荒掘りの痕跡かと思われる。

床　　面　固くしまった明黄褐色の砂質地山を床面とし、貼床は検出されなかった。

壁　　溝　壁沿いに浅い溝を検出した。

カ　マ　ド　北壁中央のやや東寄りで灰色粘土、礫、焼土、浅い掘り込みを検出した。両袖石の一部が原位置を留めていると思われる。

柱　　穴　検出されなかった。住居南西角で浅いくぼみが検出された。

遺　　物　埋土中からは古墳時代の土師器甕9点0.1kg、奈良平安時代の土師器坏破片24点0.35kg、土師器甕破片71点0.92kg、須恵器坏破片6点0.07kg、須恵器甕破片7点0.21kg、刀子破片2点が出土した。

時　　期　住居の時期を明確に示す資料に恵まれなかった。埋土中の出土品は、40図1が奈良時代の盤状坏、40図4は平安時代の土師器甕と時期が分かれる。しかし土師器甕は多量の破片がまとまって出土していることから平安時代の遺構と考えておきたい。

21号住居（第40図～第41図、写真図版5）

位置・重複　調査区北東角に位置する。19a号住居と19b号住居に近接する。

形状・規模　本住居は礫だらけの地山中にぼんやりと変色した部分があることから住居と判断したものである。不定形の長方形で竪穴の深さは10cmに満たないが、その形状から2軒の住居が南北にずれて重複していると考えられる。実際に発掘調査したところ住居かどうか明確に判断できなかった。床面と思われる面にはわずかに焼土や炭化物がまとまる箇所があり、それらがカマドの痕跡であったとも考えられる。そのような理由で本住居は詳細図を作図することなく調査を終了した。

床　　面　多くの礫を含む明黄褐色の砂質地山を床面とし、貼床は検出されなかった。

壁　　溝　検出されなかった。

カ　マ　ド　本住居が2軒の住居の重複と考えた場合、遺構の中央部分と北端の2ヶ所で確認された焼土がカマドの位置を示すものと考えられる。したがって、それぞれの住居のカマドは北壁の中央からやや東寄りに位置したものと思われる。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　平安時代の土師器坏破片が床面上と埋土から出土している。出土量は古墳時代の土師器坏破片1点0.03kg、平安時代の土師器坏破片140点1.33kg、平安時代の土師器皿破片40点0.3kg、平安時代の土師器甕破片71点0.92kg、須恵器坏破片6点0.07kg、須恵器甕破片7点0.21kgである。内面を黒色処理した土師器坏が多い。

時　　期　2軒の住居と想定した場合、両住居とも平安時代の遺構と考えられる。

22号住居（第39図、写真図版5）

位置・重複　調査区北東角に位置し、20号住居と重複する。本住居が古い。

形状・規模　南北3.9mで、東西もほぼ同様程度の方形であると推測される。竪穴の深さは20cmである。住居の大半は20号住居に切られて失われている。

床　　面　固くしまった明黄褐色の砂質地山を床面とし、貼床は検出されなかった。

壁　　溝　住居の北西角で浅い溝を検出した。

カ　マ　ド　北壁の中央付近と思われる位置で焼土を検出した。これがカマドの痕跡と思われる。

柱　　穴　検出されなかった。

遺　　物　平安時代の土師器坏破片1点0.06kg、土師器甕破片5点0.26kgが出土した。

時　　期　出土品はいずれも小破片のみであり、住居の時期を示す資料はない。平安時代と思われる20号住居に切られていること、遺構の位置、煙道のないカマドの形状、19a号住居と19b号住居との対比などから判断して、本住居も平安時代の遺構である可能性が高いと思われる。しかし20号住居では古墳時代の遺物が数多く出土し、またわずかながら奈良時代の遺物が出土しており、本住居が古墳時代もしくは奈良時代の遺構である可能性を示唆すると

も考えられる。

24号住居（第41図）

位置・重複　調査区北端に位置する。19号住居に近接する。

形状・規模　東西3.4ｍで竪穴の深さは20㎝。遺構の北半分は調査区外で、形状と規模は不明である。

床　　面　固くしまった明黄褐色の砂質地山を床面とし、貼床は検出されなかった。

壁　　溝　壁沿いで浅い溝を検出した。

カ　マ　ド　調査区外に位置すると思われる。周囲の19号住居、20号住居、21号住居から推測すると北壁に位置する可能性が高い。

柱　　穴　調査区内では検出されていない。

遺　　物　41図に示した古相の遺物の他に平安時代の土師器坏11点0.11㎏、土師器甕破片18点0.34㎏、須恵器甕破片2点0.04㎏が出土した。

時　　期　遺構の時期を明確に示す資料は得られなかったが、平安時代の可能性が考えられる。

調査所見　本住居は遺跡の調査が終了する間際になって確認されたため、充分な調査の時間を得られなかった。埋土は19号住居、20号住居と同様の暗褐色の埋土であった。

第6章　その他の遺構と遺物

掘立柱建物跡とその可能性があるピットのまとまりが16ヶ所で検出された。現地で掘立柱建物であると判断できた1号、2号掘立柱建物を除き、ほかの建物跡についてはピット位置を計測したデータが事故により消失しピット位置と出土品の照合ができなくなった。そのため時期を推定することができない。それら位置を特定できないピットの出土品の大半は古墳時代の土師器坏、甕の破片で、ほかに奈良時代の土師器坏、甕の破片、須恵器破片がある。平安時代の出土品はごくわずかである。

1号掘立柱建物

位置・重複　調査区南東角に位置し、13号掘立柱建物、4号掘立柱建物と重複する。奈良時代の42号住居、46号住居と近接する。現地調査では1棟の総柱建物と考えたが、整理作業の段階で2棟の側柱建物に分離されると判断した。それぞれ1a号掘立柱建物、1b号掘立柱建物として以下に報告する。

1a号掘立柱建物（第81図、第86図）

形状・規模　南北1間2m、東西2間4mの側柱建物で、ピットの深さは30cmほどである。

遺　　物　柱穴と思われるピットから縄文時代の土器破片3点、古墳・奈良時代の土師器甕細片3点、奈良時代の土師器坏細片1点（86図1）が出土している。

時　　期　ピット出土品から奈良時代の遺構と考えられる。

1b号掘立柱建物（第81図）

形状・規模　南北2間2.7m、東西2間4.1mの側柱建物で、ピットの深さは30cmほどである。ピットの一部が1a号掘立柱建物ピットと重複するが、現地で新旧関係を確認できなかった。

遺　　物　柱穴と思われるピットから縄文時代の土器破片4点、古墳・奈良時代の土師器甕細片20点、古墳時代の土師器坏細片8点、奈良時代の土師器坏破片3点が出土している。

時　　期　ピット出土品から奈良時代の遺構と考えられる。

2号掘立柱建物（第81図、第86図）

位置・重複　調査区の中央南寄りに位置し、38b号住居に近接する。

形状・規模　南北2間2.4m、東西2間4mのやや歪んだ側柱建物で、ピットの深さは30cmほどである。

遺　　物　柱穴と思われるピットから奈良時代の土師器甕細片3点、須恵器甕破片1点（86図2）が出土している。

時　　期　ピット出土品から奈良時代の遺構と考えられる。

3号掘立柱建物（第81図）

位置・重複　調査区南西角に位置し、15号掘立柱建物と重複する。3号住居、18a号住居に近接する。

形状・規模　南北2間3.8m、東西3間7.2mの歪んだ側柱建物で、ピットの深さは30cmほどである。

4号掘立柱建物（第82図）

位置・重複　調査区南東角に位置し、1号掘立柱建物、1号溝跡と重複する。42号住居に近接する。

形状・規模　南北2間3.2m、東西3間6mの側柱建物で、ピットの深さは30cmほどである。

5号掘立柱建物（第82図）

位置・重複　調査区北端に位置し、16号掘立柱建物、奈良時代の26号住居と重複する。

形状・規模　南北推定3間4.6m、東西1間1.4m以上の側柱建物で、ピットの深さは30cmほどである。

6号掘立柱建物（第82図）

位置・重複　調査区中央西寄りに位置し、12号掘立柱建物、古墳時代の8号住居と重複する。

形状・規模　南北3間5.2m以上、東西1間1.6m以上の側柱建物で、ピットの深さは30cmほどである。

7号掘立柱建物（第82図）

位置・重複　調査区南東寄りに位置し、43号住居、46号住居に近接する。

形状・規模　南北推定2間2.7m、東西推定2間2mの側柱建物で、ピットの深さは20cmほどである。

8号掘立柱建物（第82図）

位置・重複　調査区西端に位置し、奈良時代の12号住居と重複する。

形状・規模　南北3間3.8mの側柱建物で、ピットの深さは30cmほどである。

9号掘立柱建物（第83図）

位置・重複　調査区北東角に位置し、平安時代の20号住居と重複する。

形状・規模　南北3間4.6m、東西3間5.6mの総柱建物の可能性がある遺構で、ピットの深さは30cmほどである。

10号掘立柱建物（第83図）

位置・重複　調査区南西角に位置し、3号掘立柱建物、古墳時代の18号住居と重複する。

形状・規模　南北推定2間3.2m、東西推定3間4.6mの側柱建物で、ピットの深さは20cmほどである。

11号掘立柱建物（第83図）

位置・重複　調査区中央北寄りに位置し、16号掘立柱建物、奈良時代の28号住居と重複する。

形状・規模　南北2間3.8m、東西1間2.1mの側柱建物で、ピットの深さは30cmほどである。

12号掘立柱建物（第83図）

位置・重複　調査区中央西寄りに位置し、6号掘立柱建物、古墳時代の8号住居と重複する。

形状・規模　南北3間3.8m、東西3間4.1mの側柱建物で、ピットの深さは30cmほどである。

13号掘立柱建物（第83図）

位置・重複　調査区の南東角に位置し、1a号掘立柱建物、1b号掘立柱建物と重複する。奈良時代の46号住居に近接する。

形状・規模　5基のピットが規則正しく配列することから掘立柱建物と想定した。南北2間3.6m、東西1間2mの長方形で、ピットの深さは30cmほどである。

14号掘立柱建物（第84図）

位置・重複　調査区西端に位置し、12号住居と重複する。

形状・規模　南北推定4間8m、東西2間5.4mの総柱建物の可能性がある遺構で、ピットの深さは20cmから90cmほどである。

15 号掘立柱建物（第 84 図）

位置・重複　調査区南西角に位置し、3 号掘立柱建物と重複する。

形状・規模　南北推定 3 間 6.2 m、東西 1 間 2.3 mの側柱建物で、ピットの深さは 20 cmほどである。

16 号掘立柱建物（第 84 図）

位置・重複　調査区北端に位置し、5 号掘立柱建物、26 号住居と重複する。

形状・規模　南北 3 間 6.6 m、東西 1 間 2.4 mの側柱建物で、ピットの深さは 30 cmほどである。

1 号溝跡（第 85 図）

位置・重複　調査区南端を東西方向に延び、古墳時代の 1 号住居と重複する。本遺構が新しい。

形状・規模　幅1.1m、東西50m、深さ 50 cmの溝跡で、西から東に向って緩やかに下る勾配である。溝の西端と東端の高低差は 60 cmで東端が低い。溝断面はU字状で、埋土に流水の痕跡と思われるような砂礫の堆積は認められなかった。

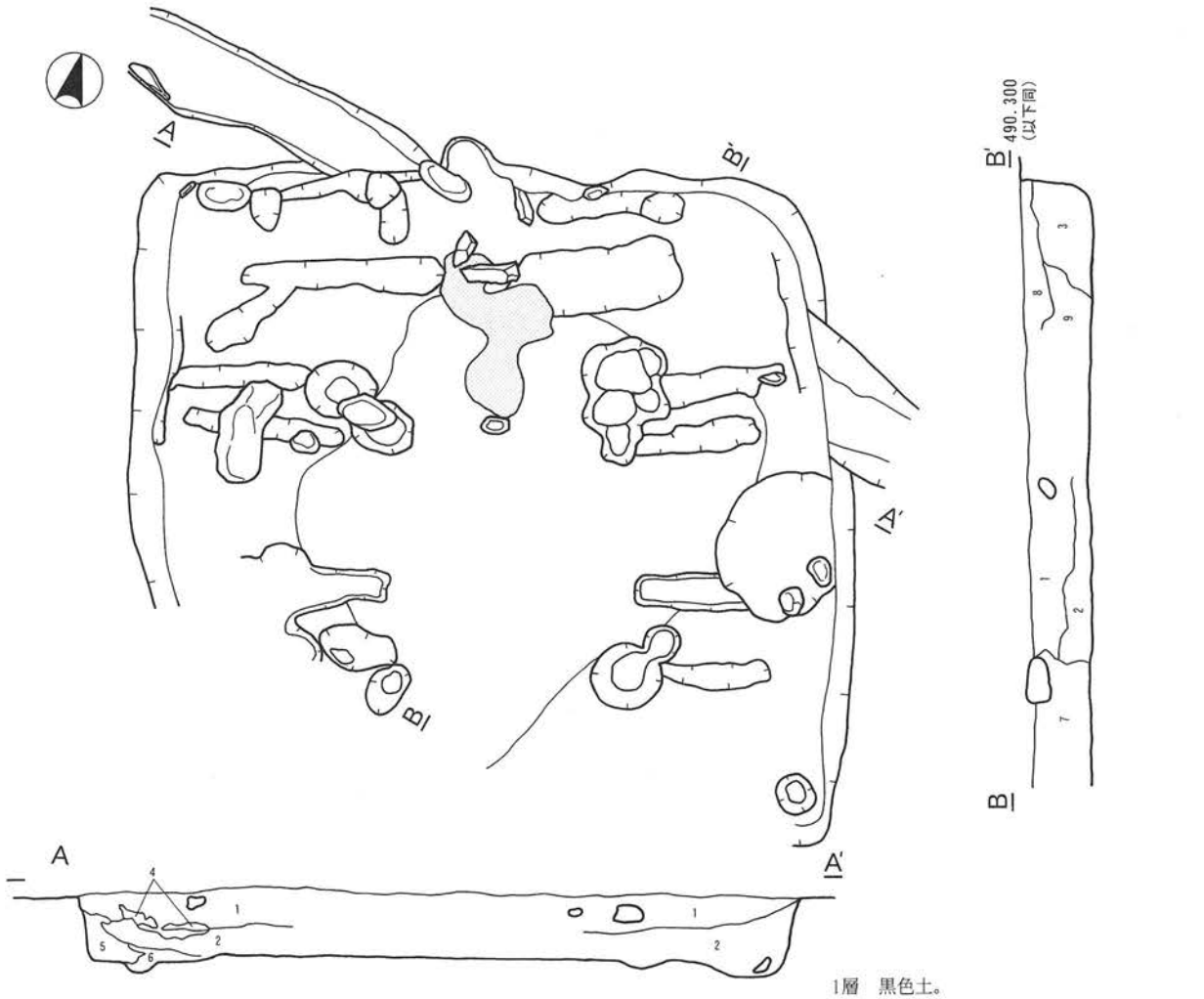
遺　　物　古墳時代から奈良時代の土師器坏破片 36 点、土師器甕破片 95 点、須恵器破片 9 点、平安時代と思われる土師器坏細片 1 点が出土している。

時　　期　1 号住居との重複関係から古墳時代の 1 号住居より新しい。溝の時期を明確に示す出土品には恵まれなかった。周囲に平安時代の遺構がみられないにもかかわらず平安時代と思われる土師器坏 1 点が含まれていることから、平安時代の遺構の可能性が考えられる。

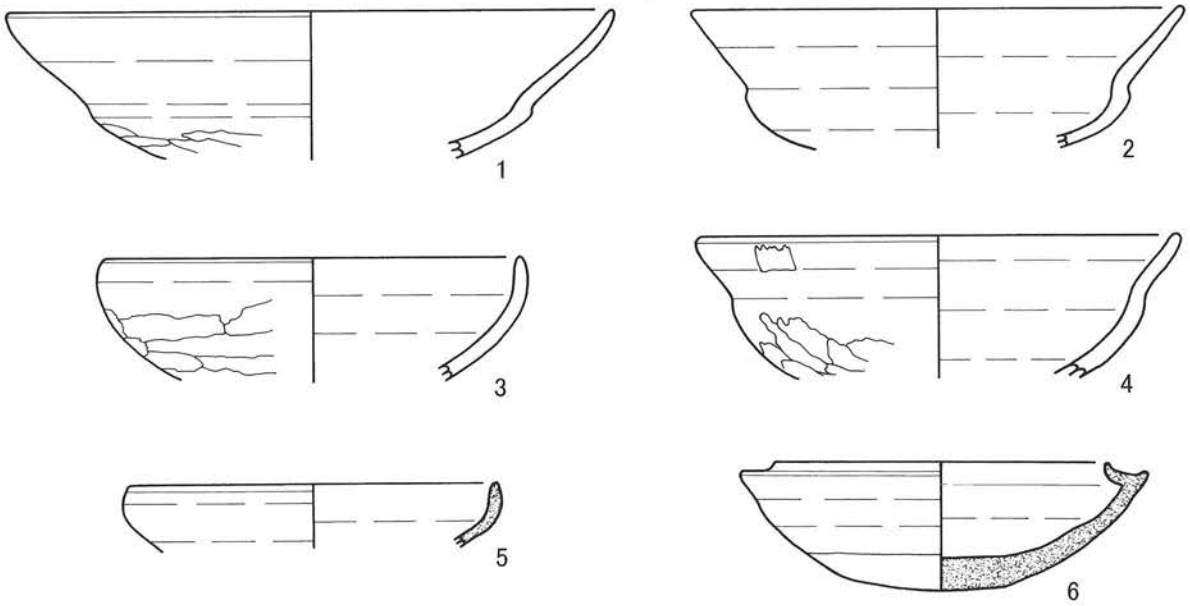
遺構外の出土遺物（第 86 図～第 88 図）

調査区の中央、16 号住居から 32 号住居の周辺で縄文時代の遺物が出土している。出土品は縄文時代中期後半曽利式、加曽利E式が中心で、ほかに打製石斧などの石器、土偶破片がある。

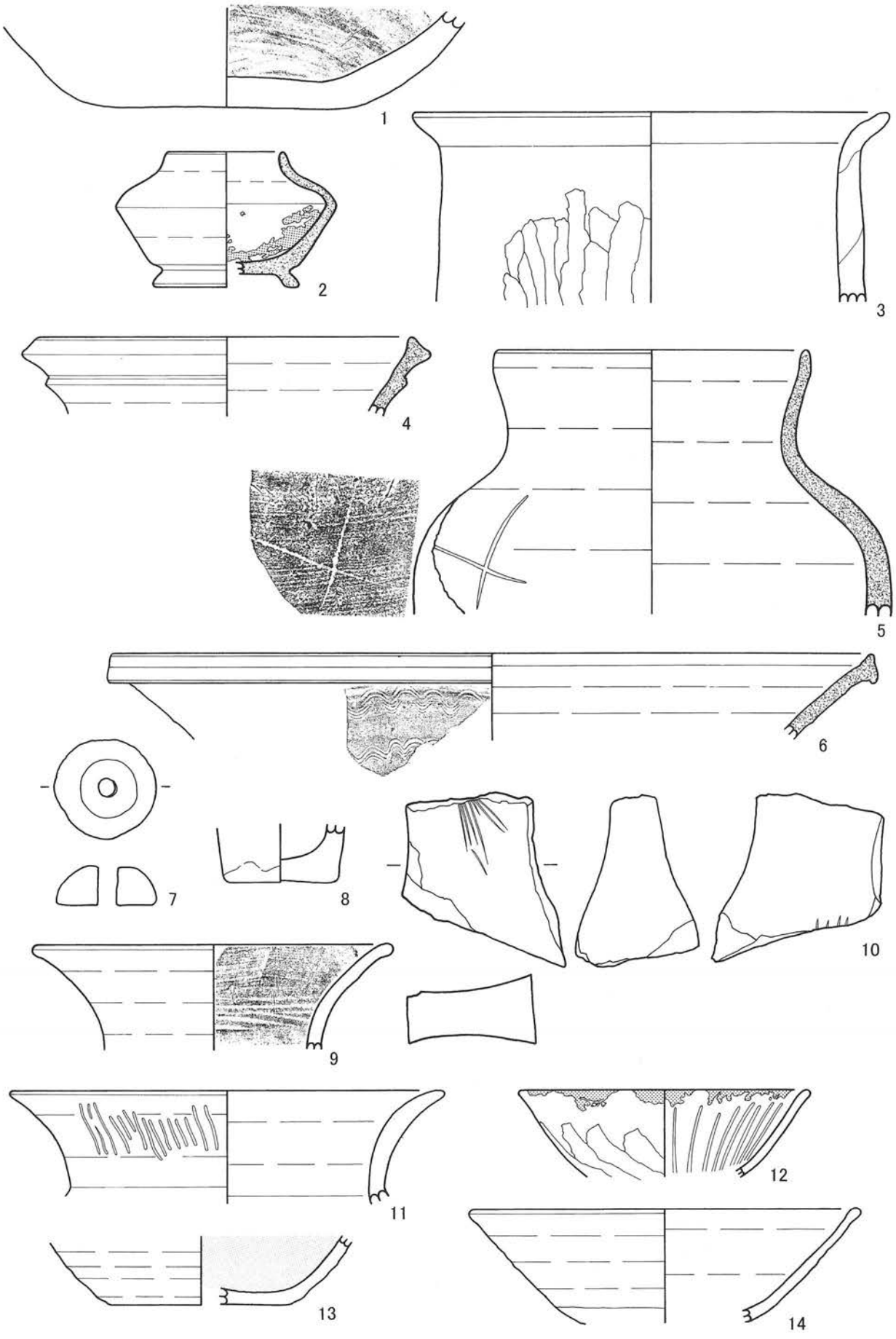
古墳時代から平安時代の出土品、金属製品が調査区域の表土と遺構外で出土している。出土位置に特別の傾向は認められなかった。鉄製斧の出土が注目される。



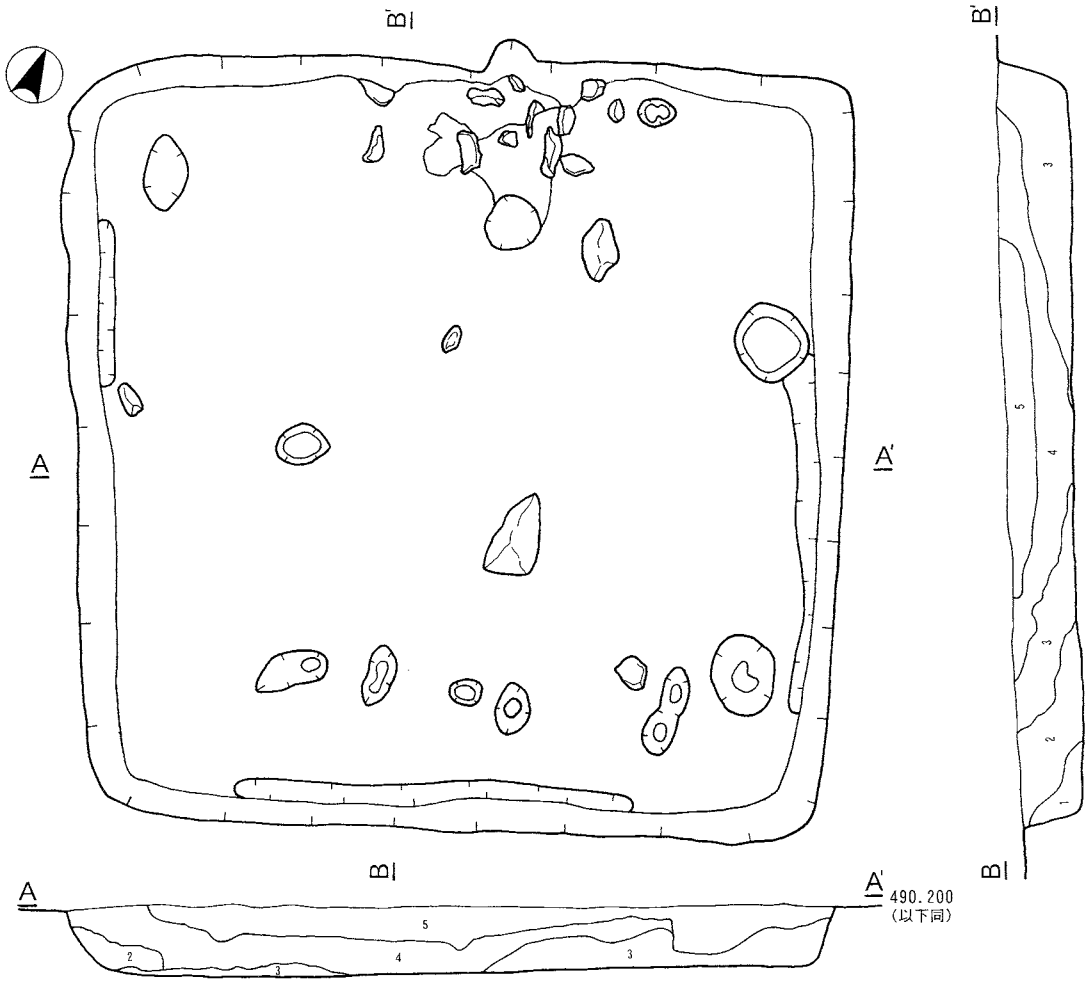
1層　黒色土。
2層　黄褐色粒子がわずかに混じる黒色土。
3層　黄褐色粒子がわずかに混じる暗褐色土。
4層　炭が混じる黒色土。
5層　暗褐ブロックが混じる黄褐色土。
6層　黄褐色ブロックが若干混じる黒色土。
7層　カクラン
8層　(溝覆土)ややしまりのある黒色土。
9層　(溝覆土)黄褐色粒子が混じる暗褐色土。



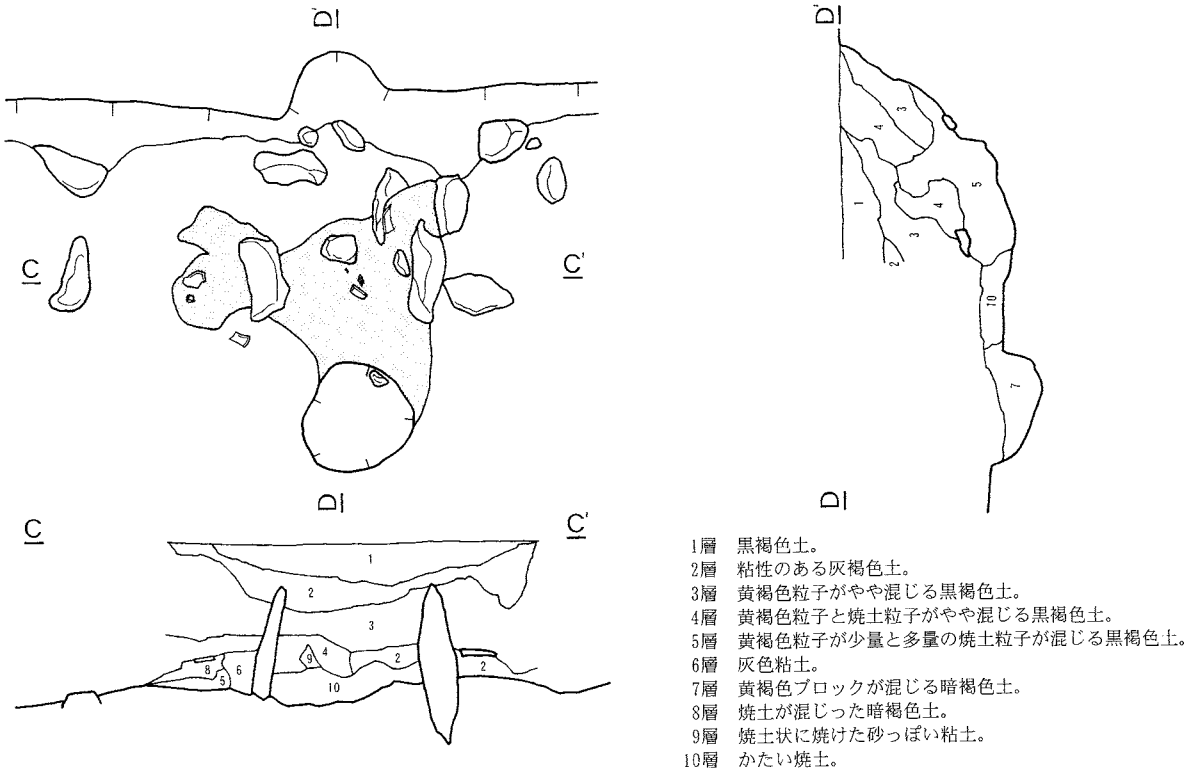
第6図　1号住居 (1/60)　1号住居出土遺物 (1/2)



第7図　1号住居出土遺物（1/2、 6 1/4）

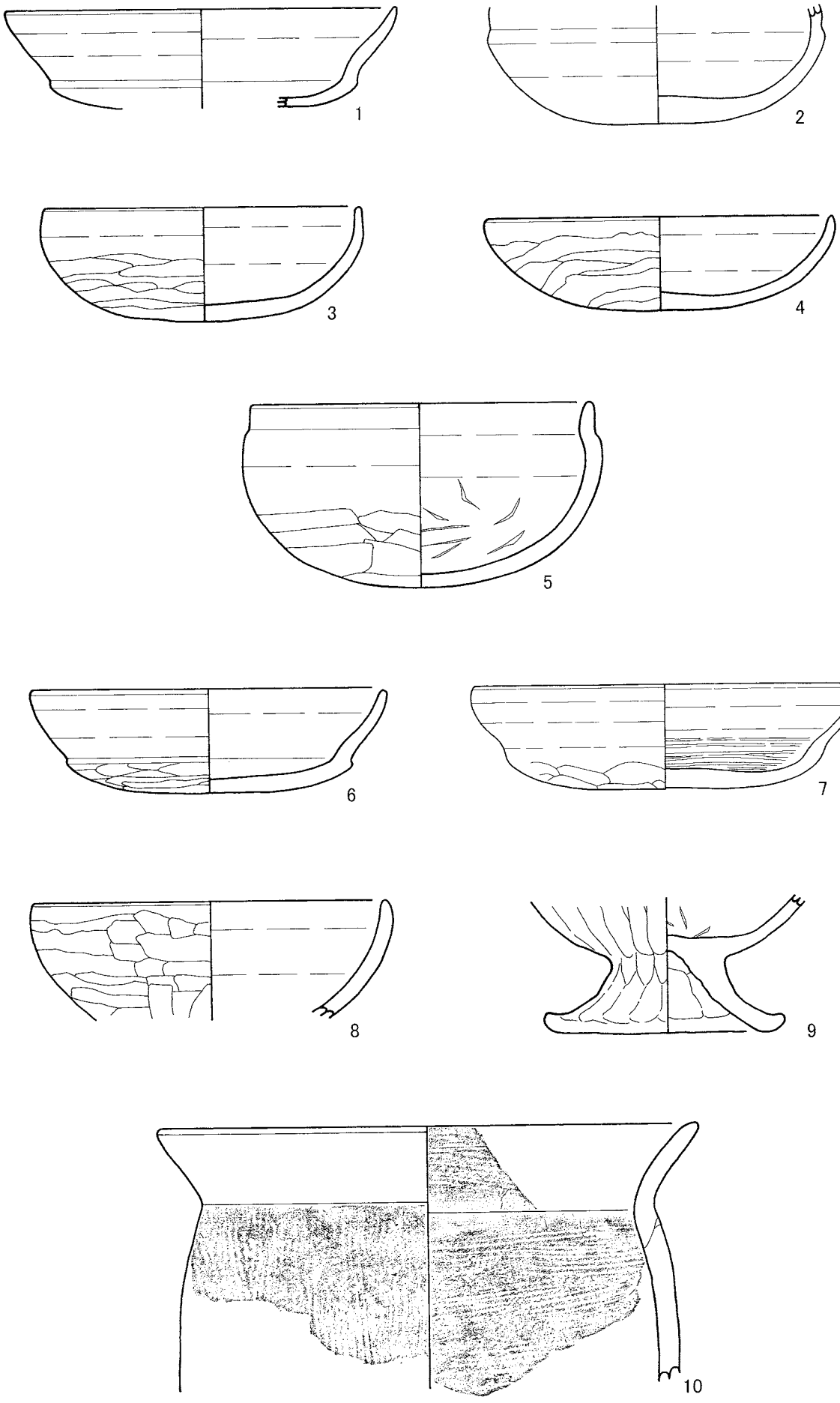


1層　しまりのない黄褐色砂。
2層　黄褐色粒子がやや混じる灰褐色土。
3層　黄褐色粒子がやや混じり、やや黒味がかった灰褐色土。
4層　しまりのない黒褐色土。
5層　黒色土。

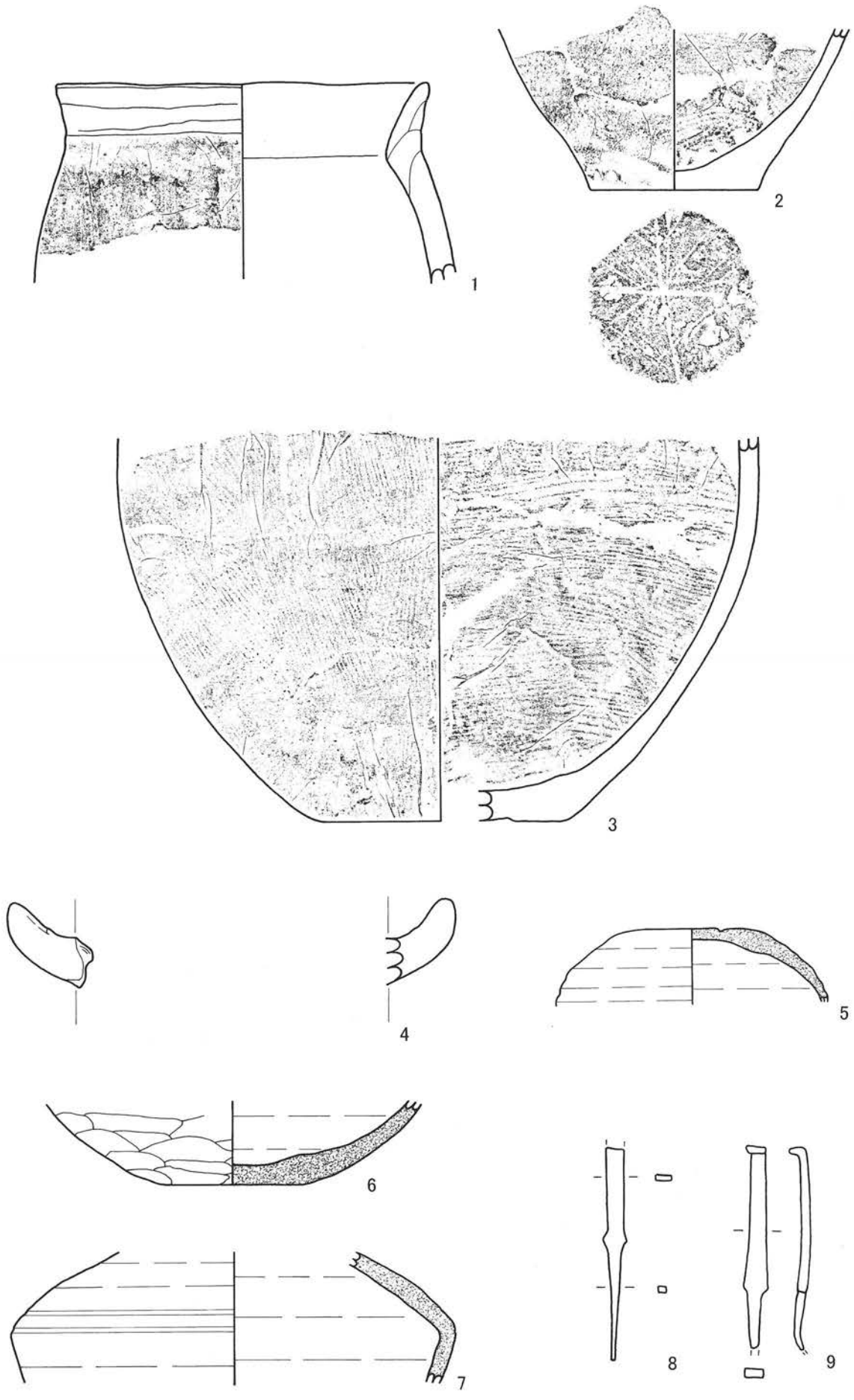


1層　黒褐色土。
2層　粘性のある灰褐色土。
3層　黄褐色粒子がやや混じる黒褐色土。
4層　黄褐色粒子と焼土粒子がやや混じる黒褐色土。
5層　黄褐色粒子が少量と多量の焼土粒子が混じる黒褐色土。
6層　灰色粘土。
7層　黄褐色ブロックが混じる暗褐色土。
8層　焼土が混じった暗褐色土。
9層　焼土状に焼けた砂っぽい粘土。
10層　かたい焼土。

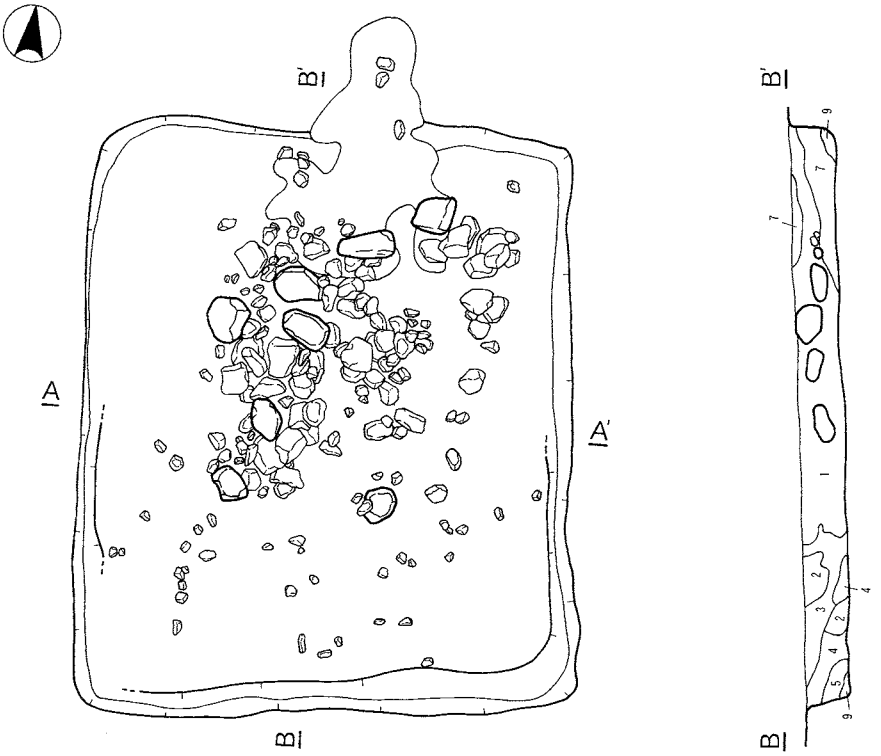
第8図　3号住居（1/40）　3号住居カマド（1/20）

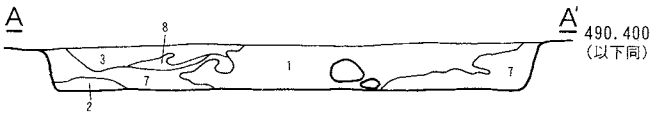


第9図　3号住居出土遺物（1/2）

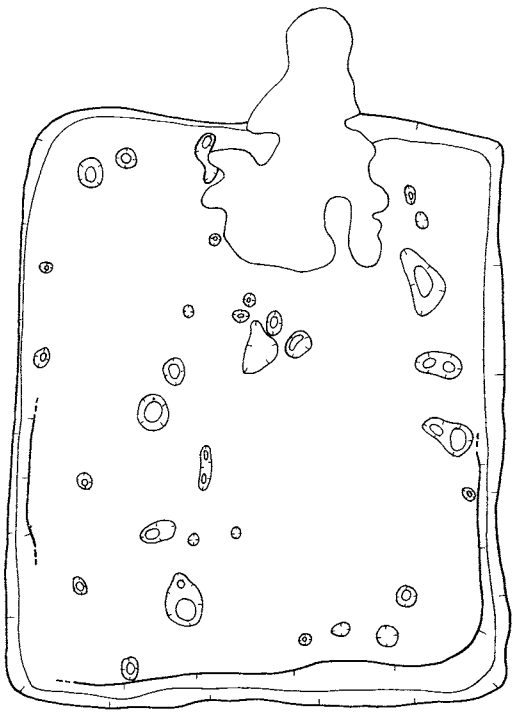


第10図　3号住居出土遺物（1/2）

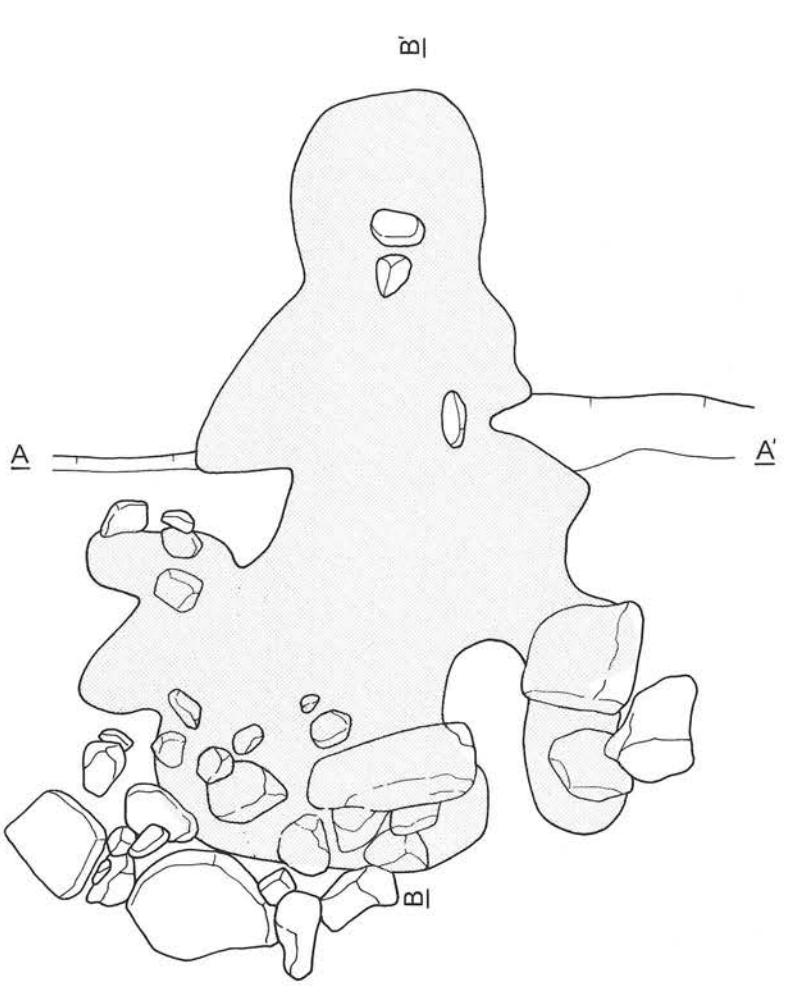


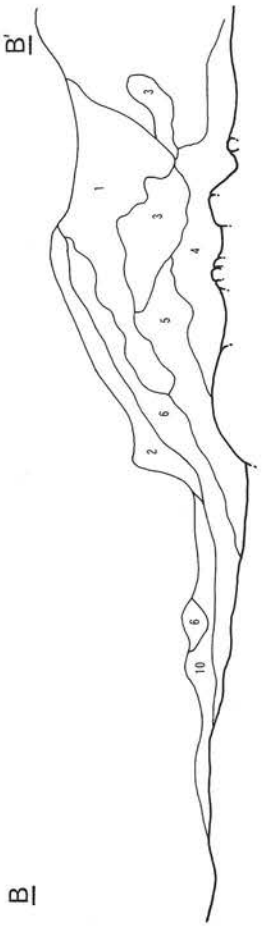


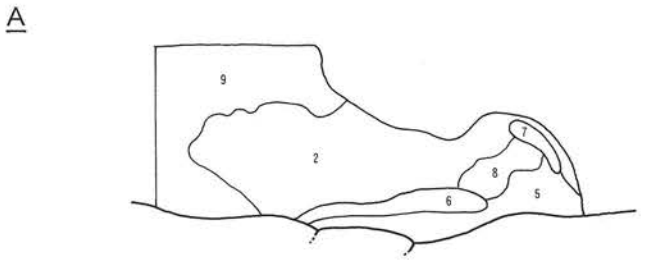
1層　黄褐色粒子が多く混じる暗褐色土。
2層　黄褐色粒子がやや混じる黒褐色土。
3層　黄褐色粒子がやや混じる暗褐色土。
4層　黄褐色粒子がやや混じる黒味がかった暗褐色土。
5層　黄褐色粒子が多く混じる黒褐色土。
6層　暗褐色粒子が混じるしまりのない黄褐色土。
7層　黒褐色土。
8層　黄褐色粒子が非常に多く混じる暗褐色土。
9層　やや砂っぽい灰褐色粒土。
10層　(地山)固くしまった黄褐色土。



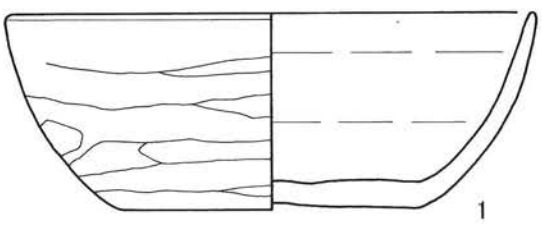
第11図　4号住居（1/60）

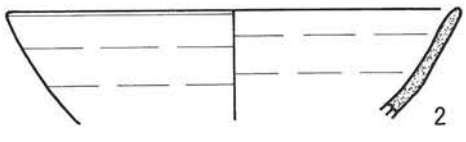




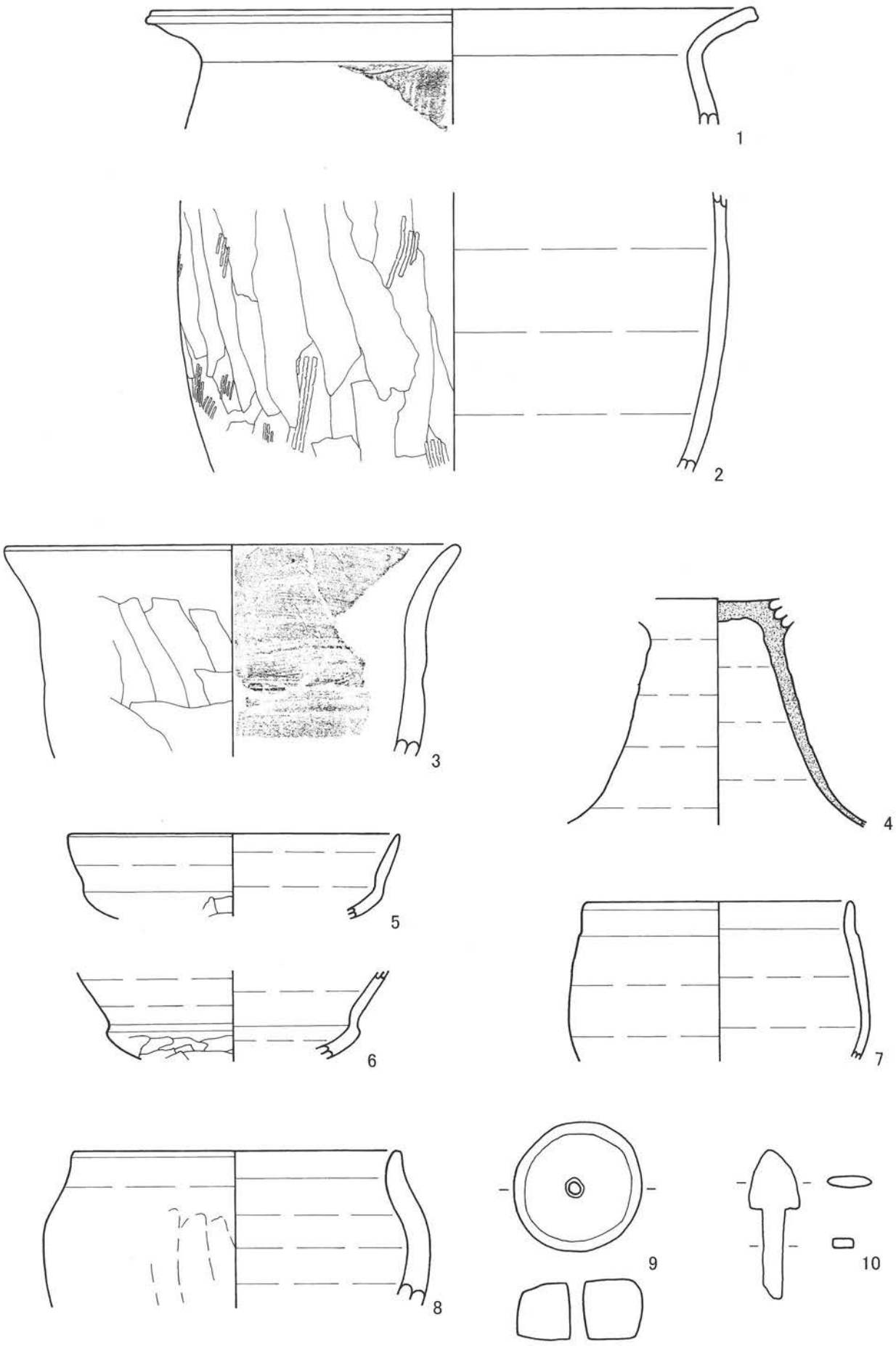


1層　ややしまる暗褐色土
2層　焼土が混じる灰白粘土。
3層　黄色粒子が混じる暗褐色土。
4層　黄色粒子がわずかに混じる暗褐色土。
5層　黄色粒子が少し混じる暗褐色土。
6層　焼土。
7層　黄褐色土。
8層　粘土。
9層　暗褐色土。
10層　黄褐色粒子と灰白粘土が混じる暗褐色土。

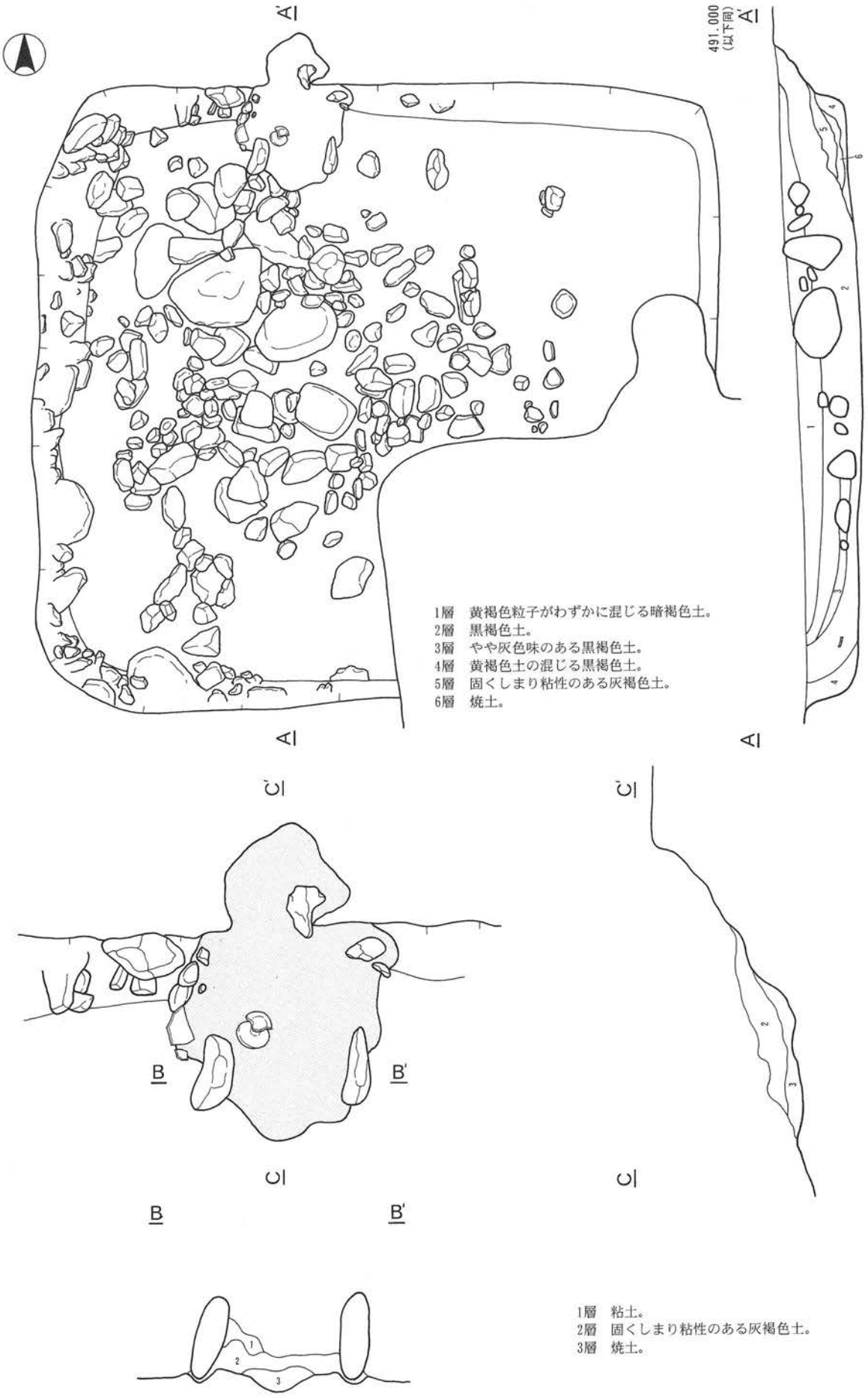




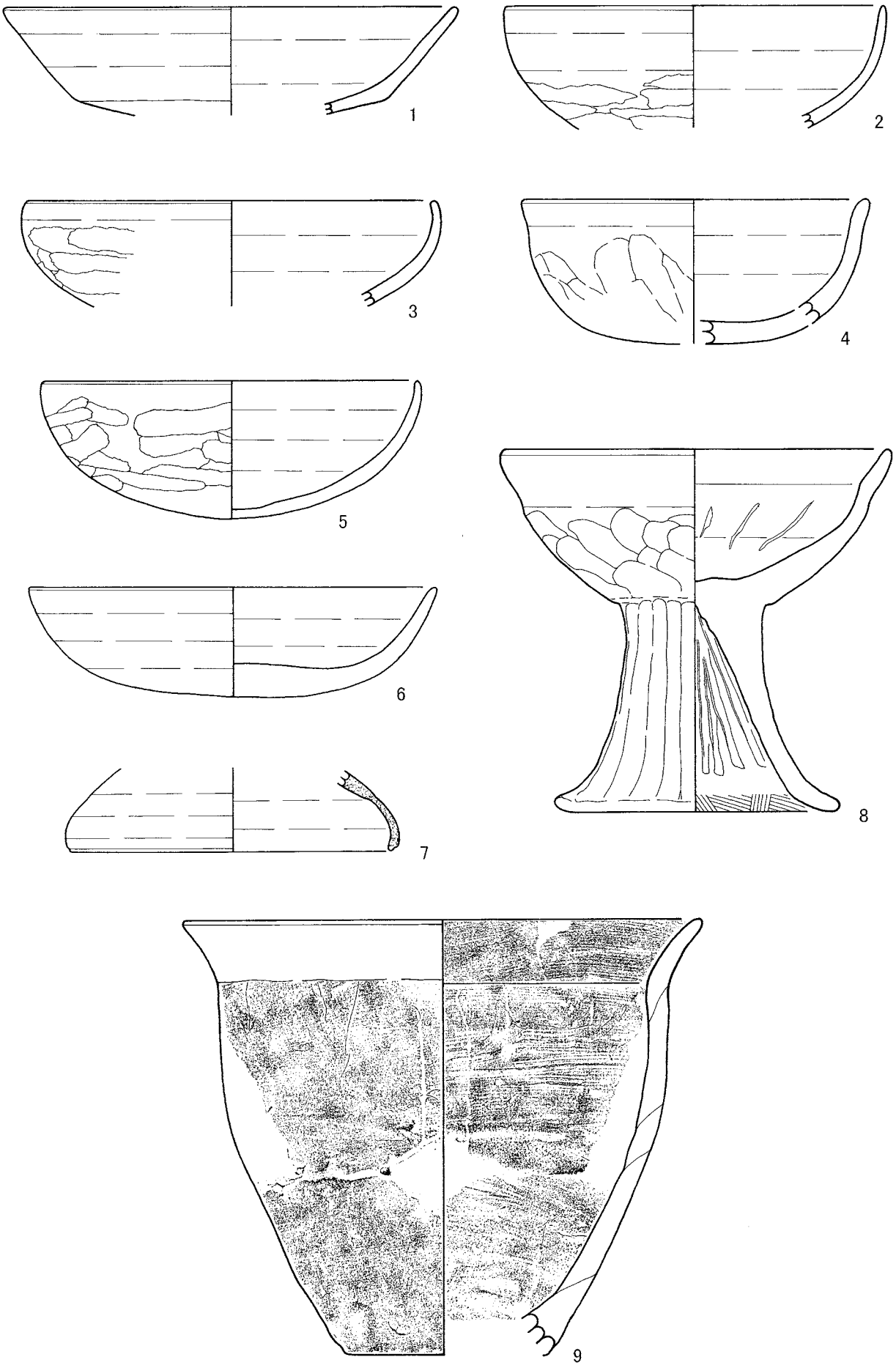
第12図　4号住居カマド（1/20）　4号住居出土遺物（1/2）



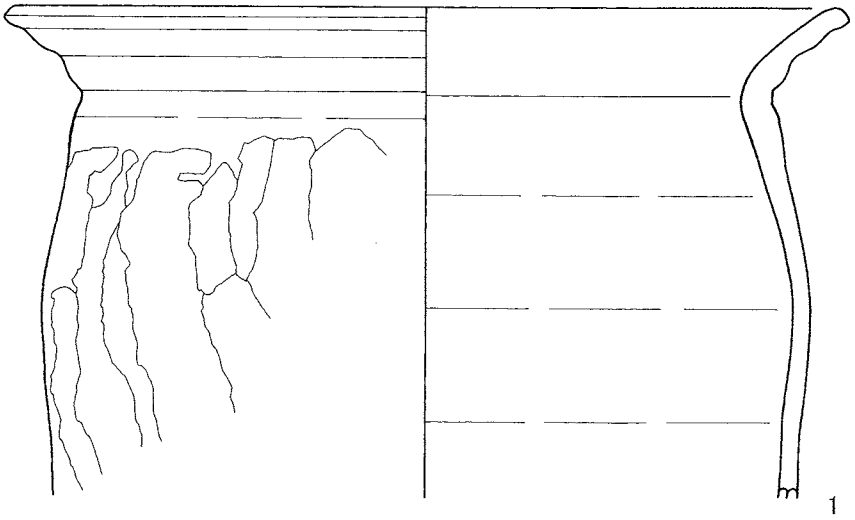
第13図　4号住居出土遺物（1/2）

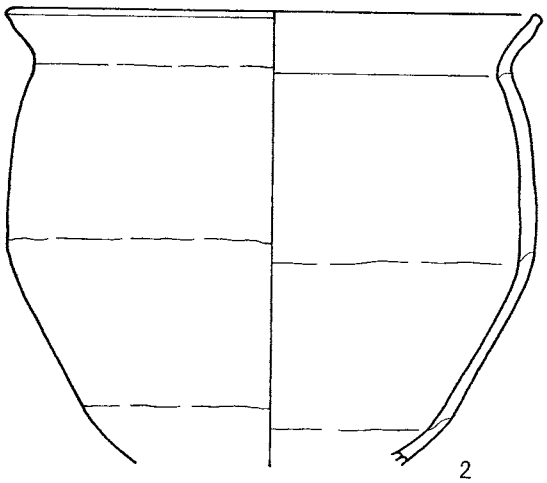


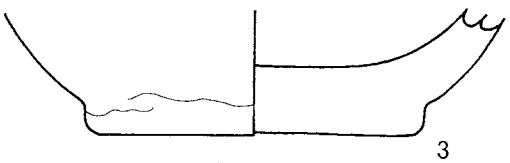
第14図　5号住居（1/40）　5号住居カマド（1/20）

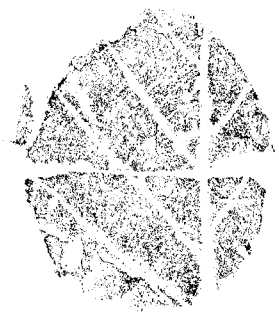


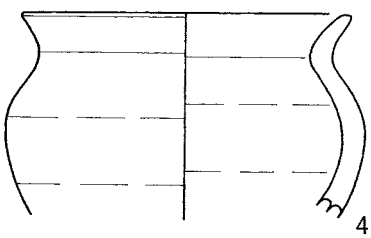
第15図　5号住居出土遺物（1/2）

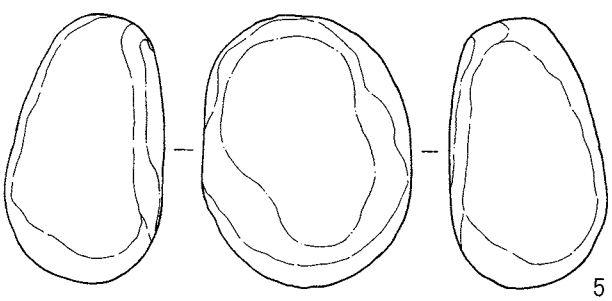


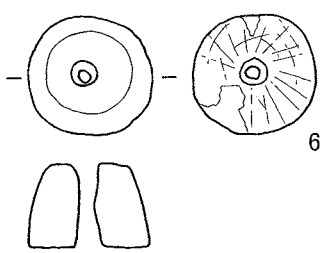


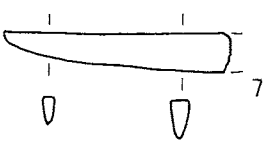


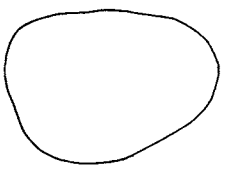




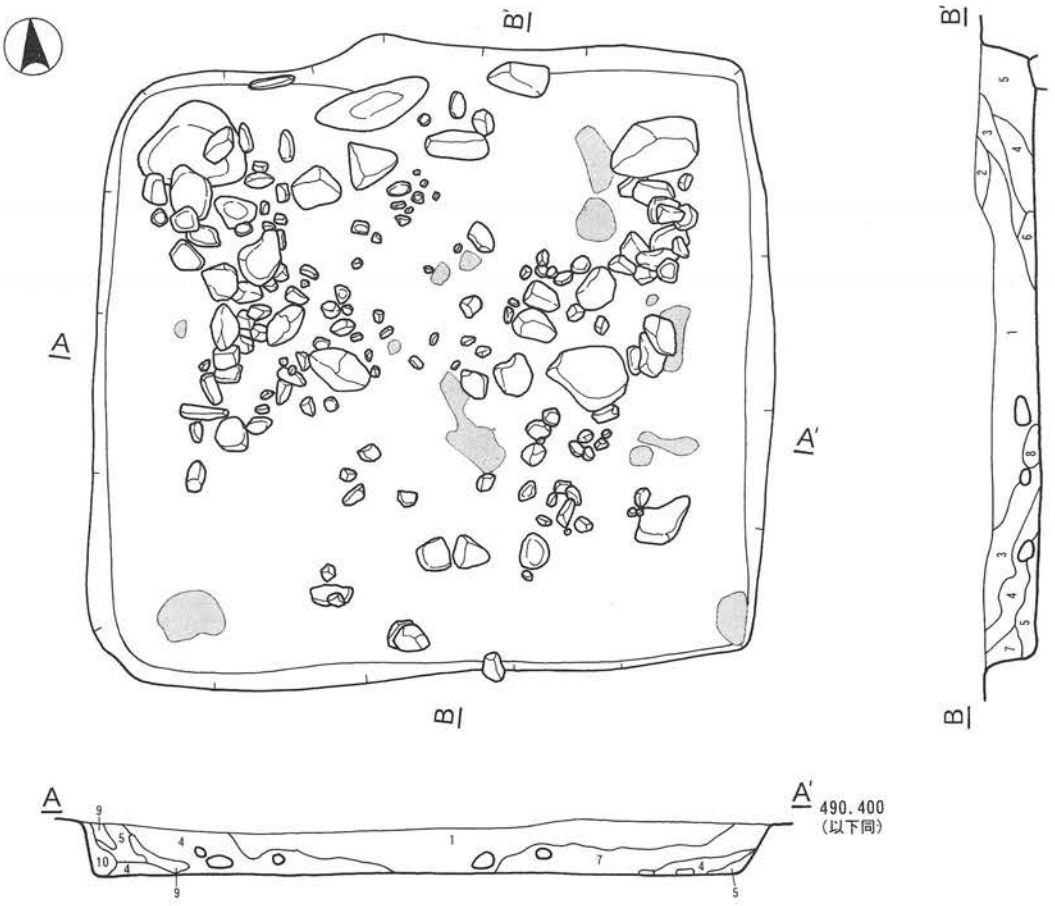




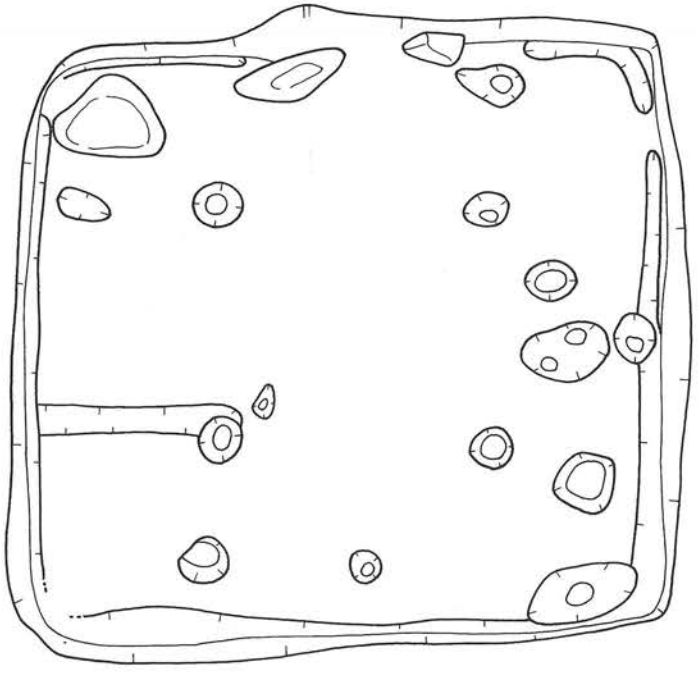




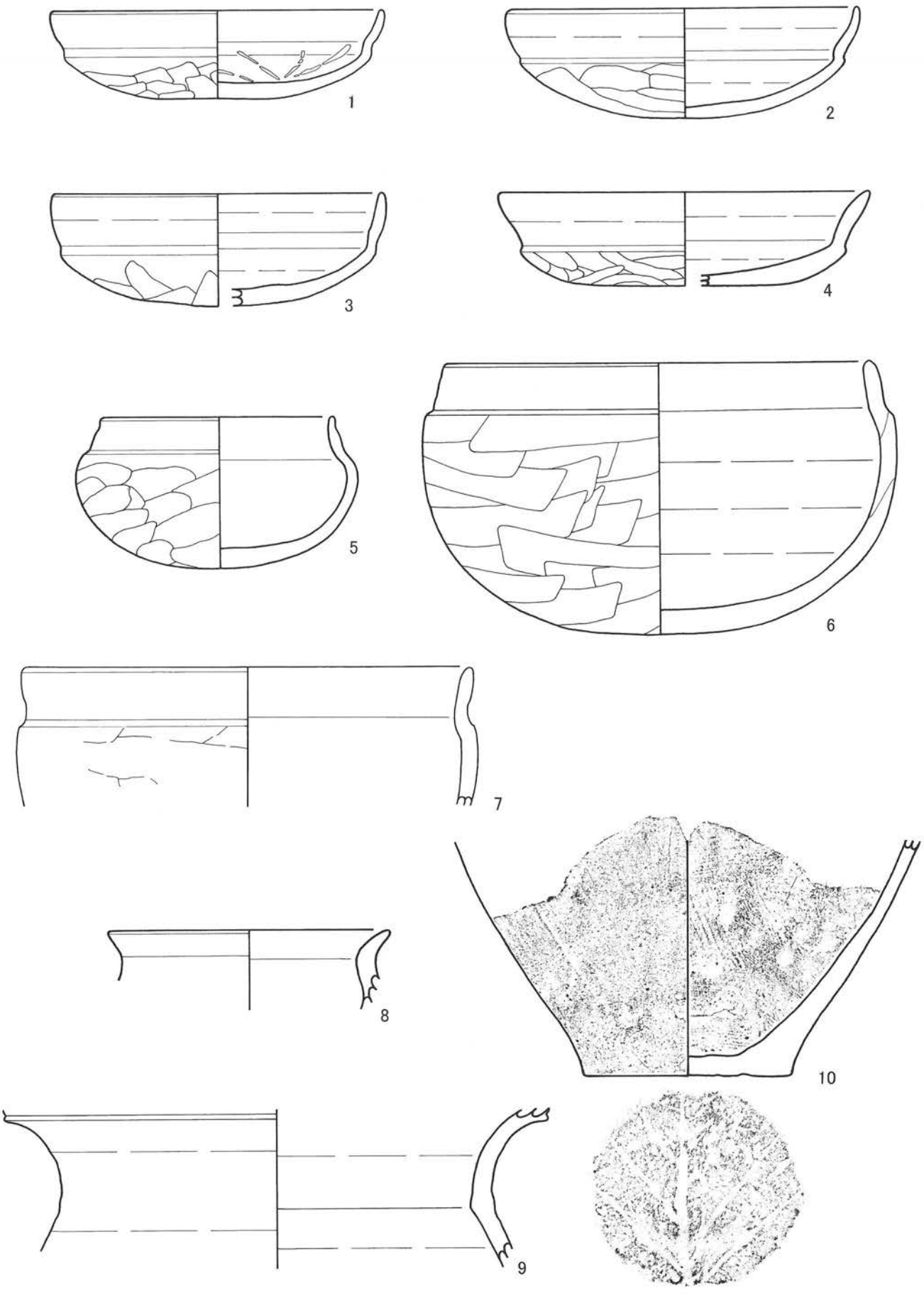
第16図　5号住居出土遺物（1/2、 2 1/4）



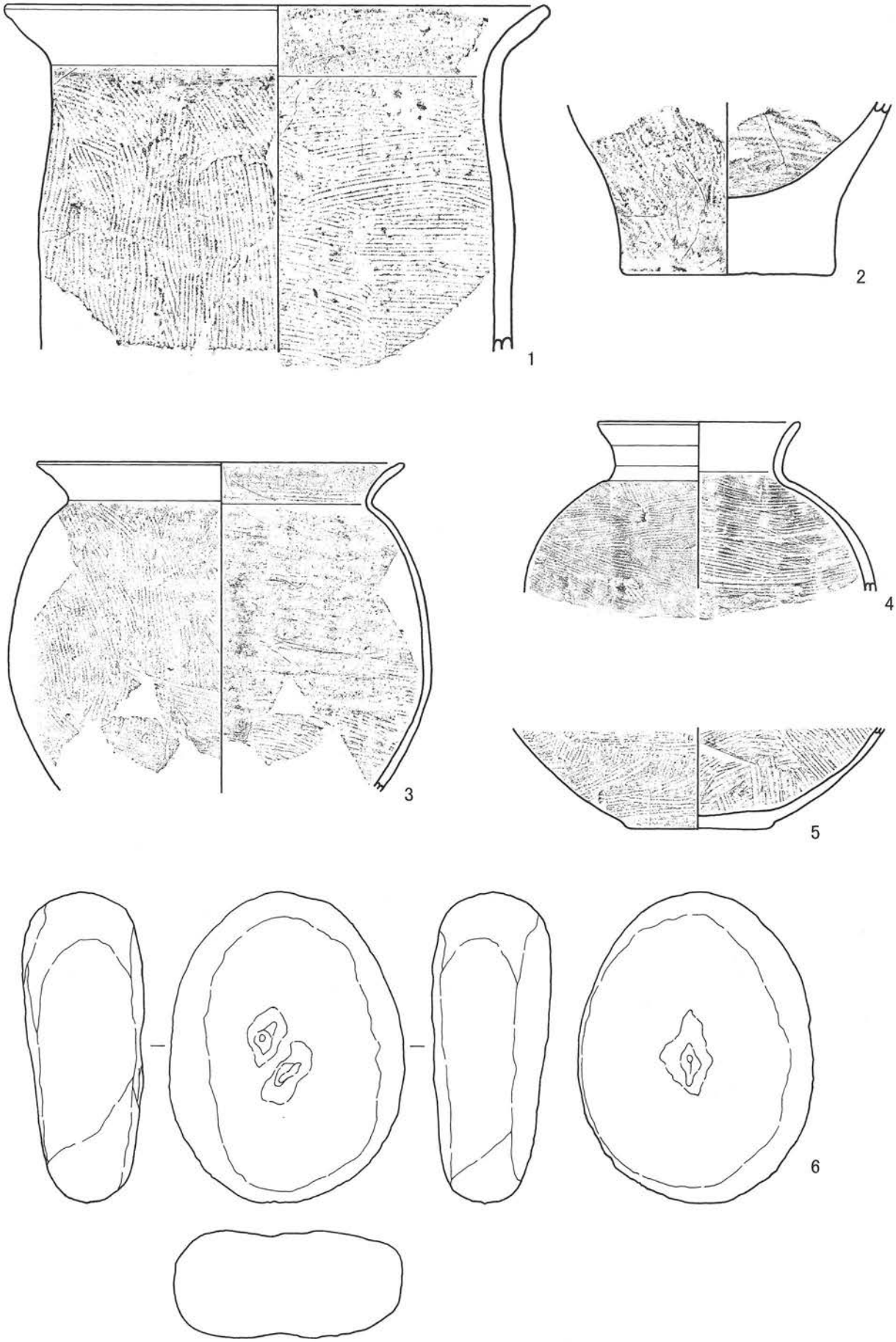
1層　焼土と炭粒子が混じるしまりのない黒色土。
2層　やや固い暗褐色土。
3層　焼土粒子が若干混じる暗褐色土。
4層　黄褐色粒子が多く混じる暗褐色土。
5層　黄褐色粒子がやや混じる暗褐色土。
6層　焼土粒子、黄褐色粒子が混じる暗褐色土。
7層　しまりのない暗褐色土。
8層　焼土。
9層　黒褐色土。
10層　くすんだ黄褐色土。



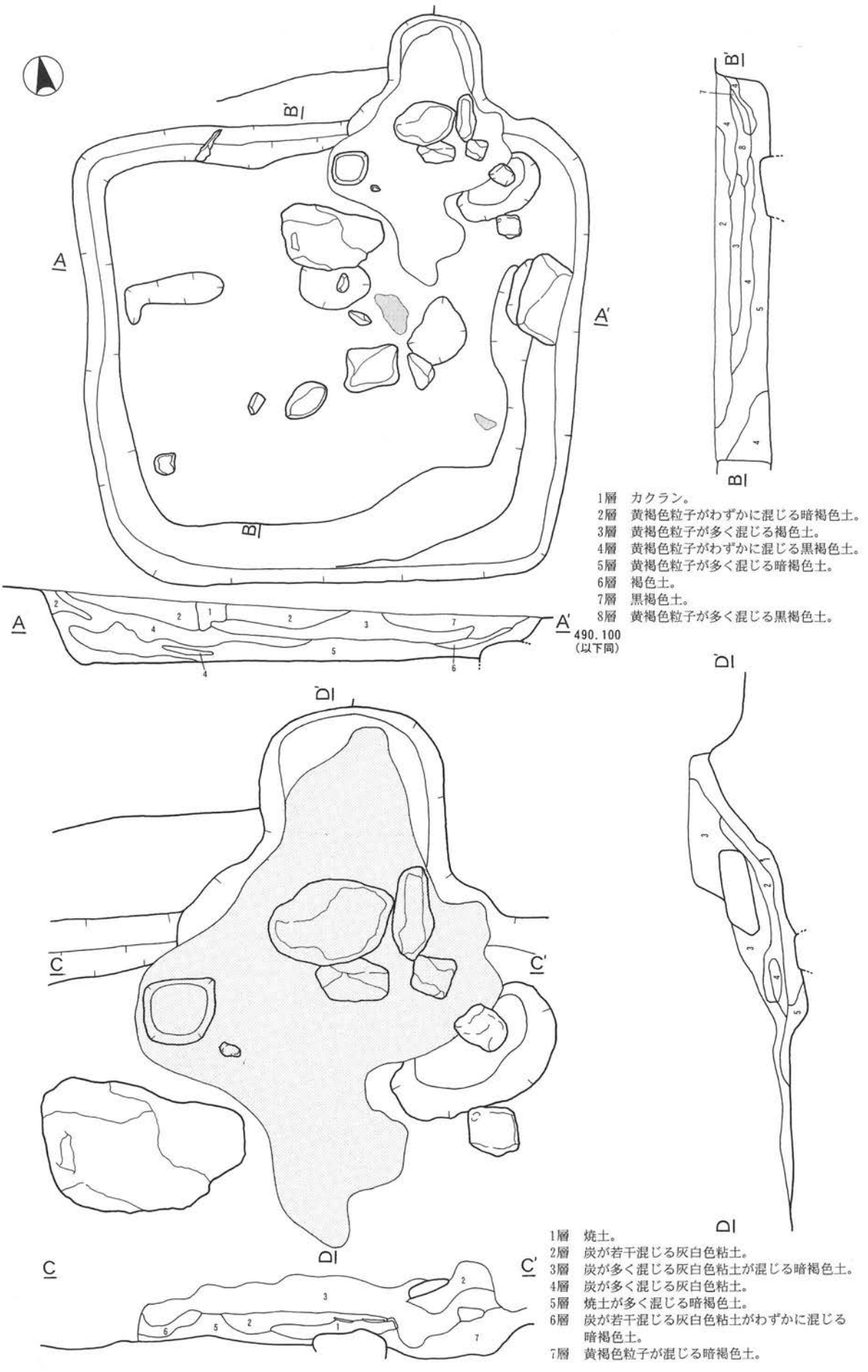
第17図　8号住居（1/60）



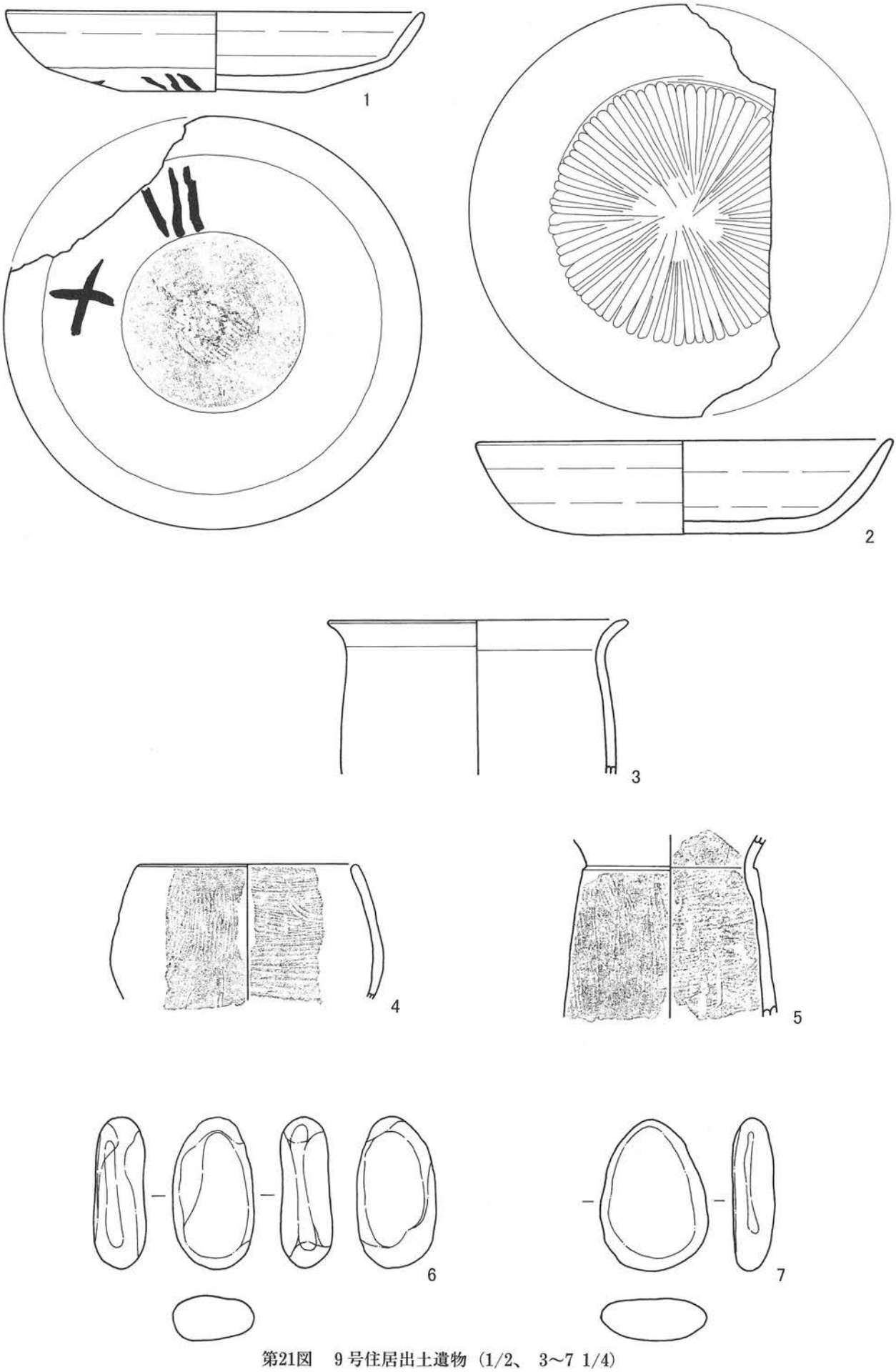
第18図　8号住居出土遺物（1/2）



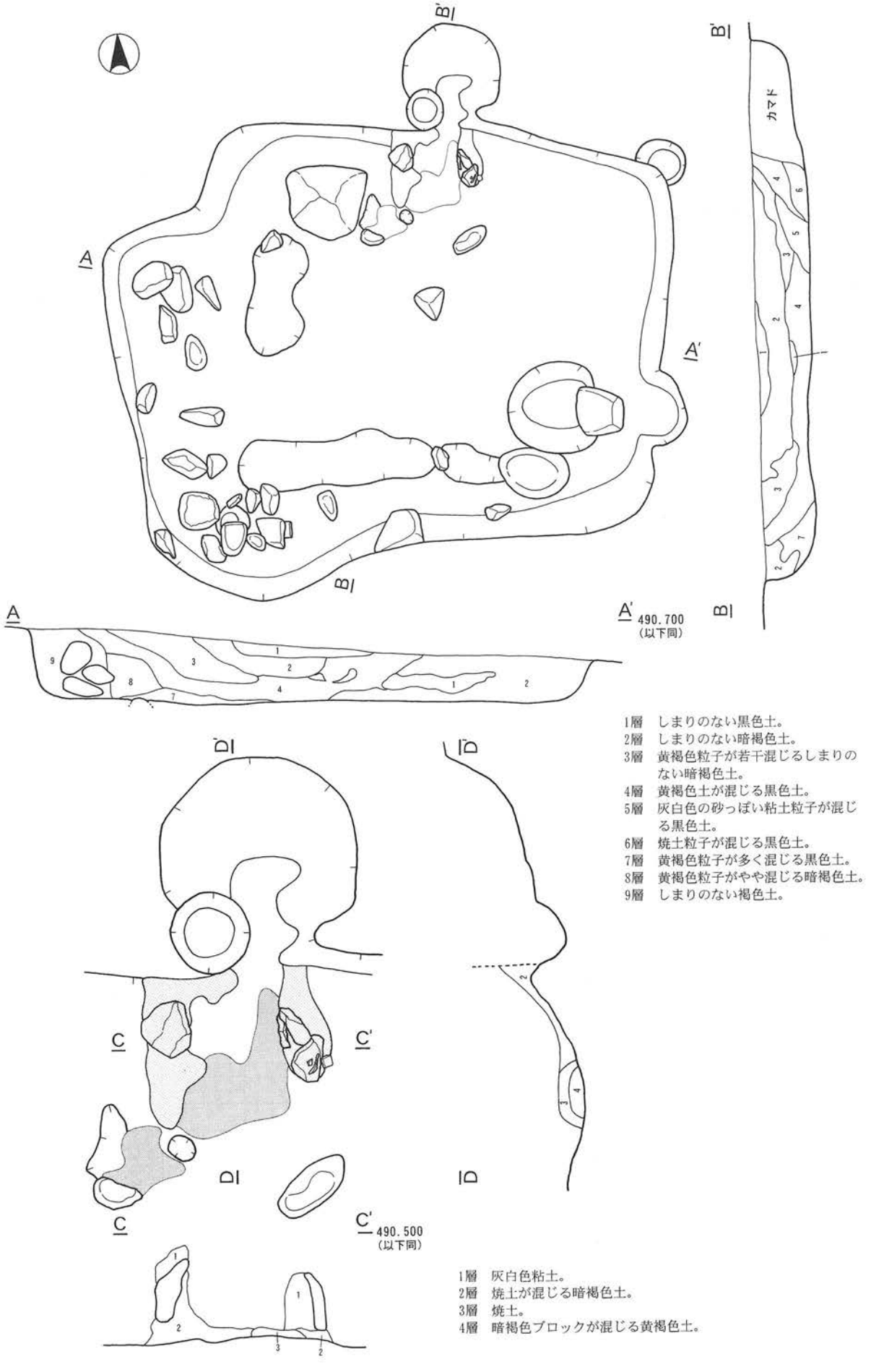
第19図　8号住居出土遺物（1/2、 3～5 1/4）



第20図　9号住居（1/40）　9号住居カマド（1/20）



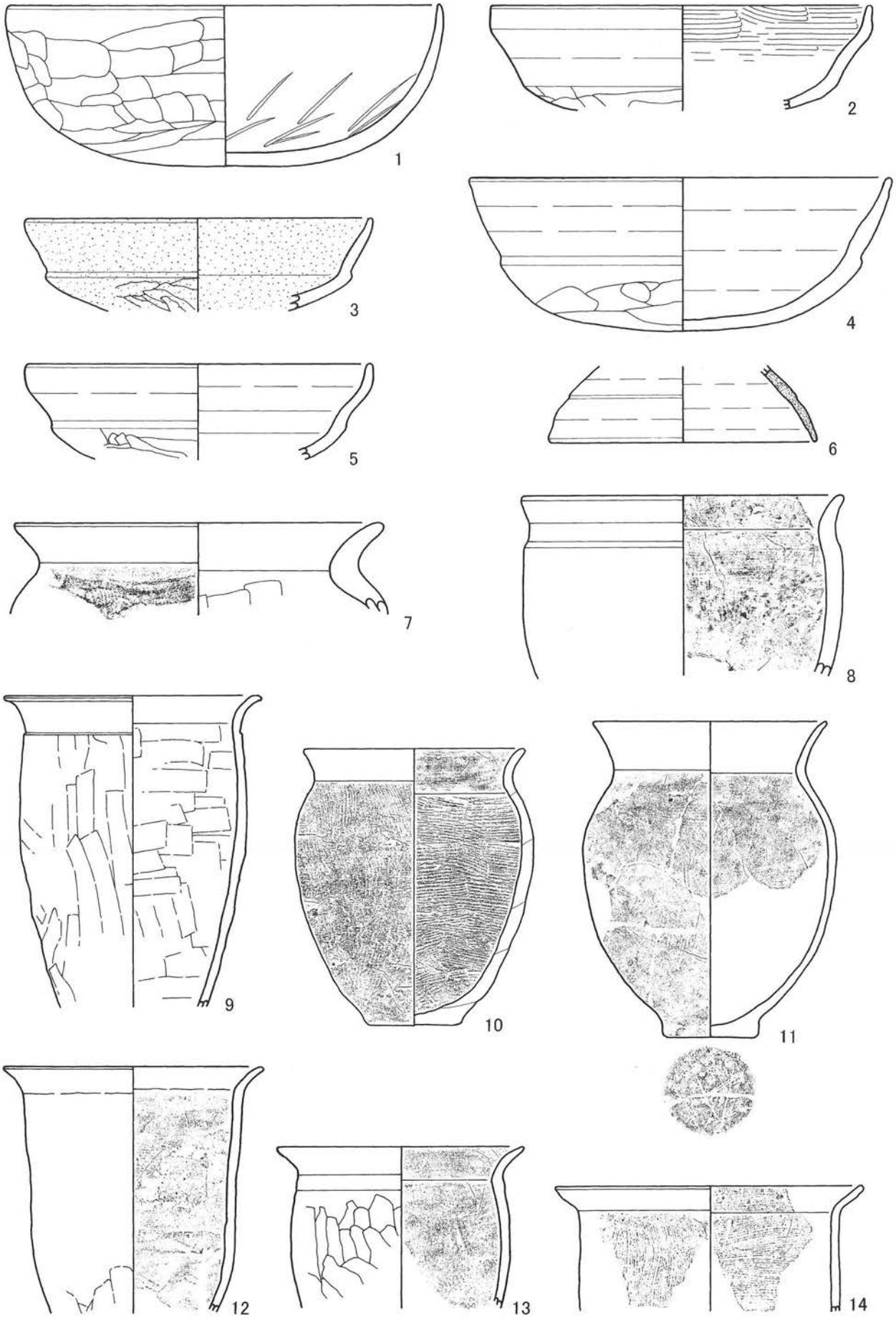
第21図　9号住居出土遺物（1/2、 3～7 1/4）



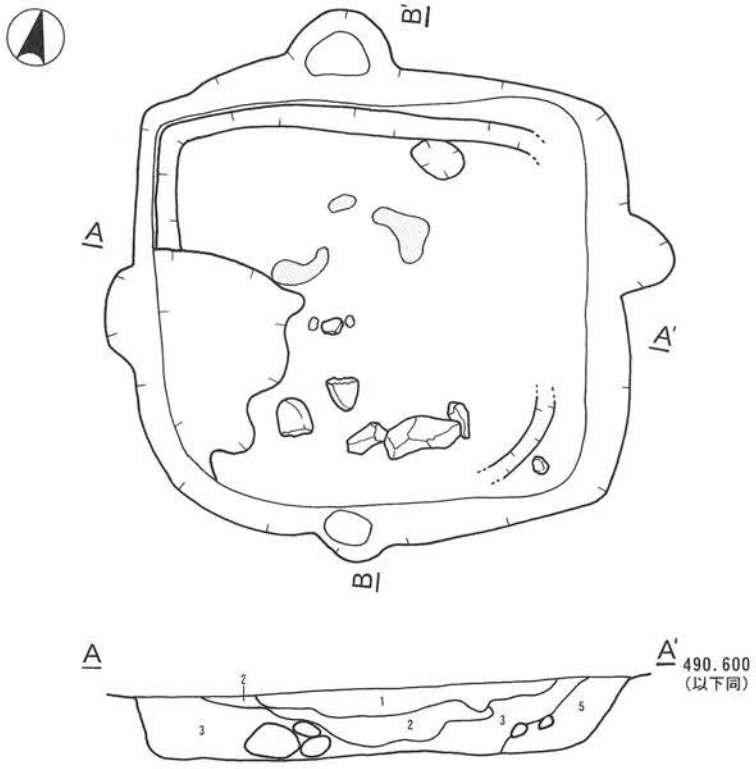
1層　しまりのない黒色土。
2層　しまりのない暗褐色土。
3層　黄褐色粒子が若干混じるしまりのない暗褐色土。
4層　黄褐色土が混じる黒色土。
5層　灰白色の砂っぽい粘土粒子が混じる黒色土。
6層　焼土粒子が混じる黒色土。
7層　黄褐色粒子が多く混じる黒色土。
8層　黄褐色粒子がやや混じる暗褐色土。
9層　しまりのない褐色土。

1層　灰白色粘土。
2層　焼土が混じる暗褐色土。
3層　焼土。
4層　暗褐色ブロックが混じる黄褐色土。

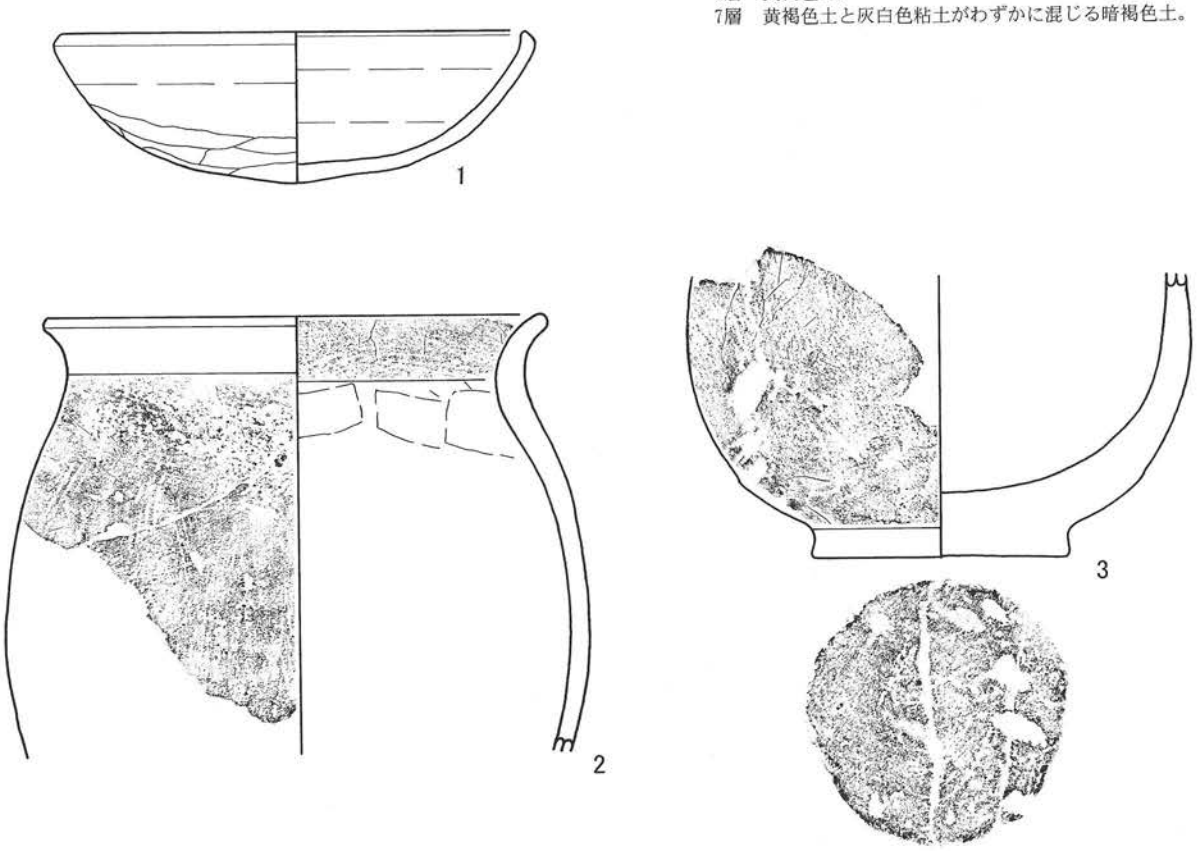
第22図　10号住居（1/40）　10号住居カマド（1/20）



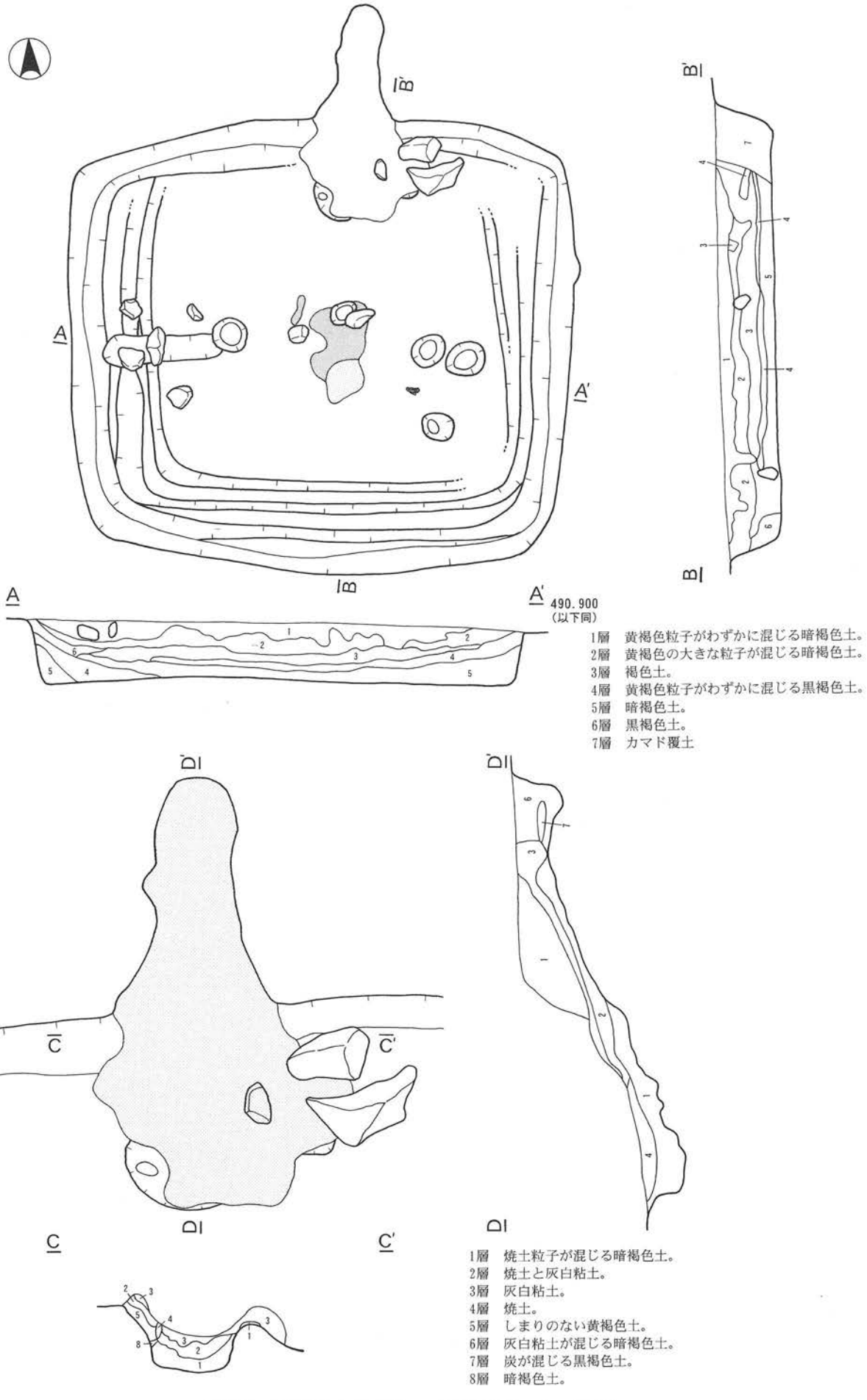
第23図　10号住居出土遺物（1/2、 9～14 1/4）



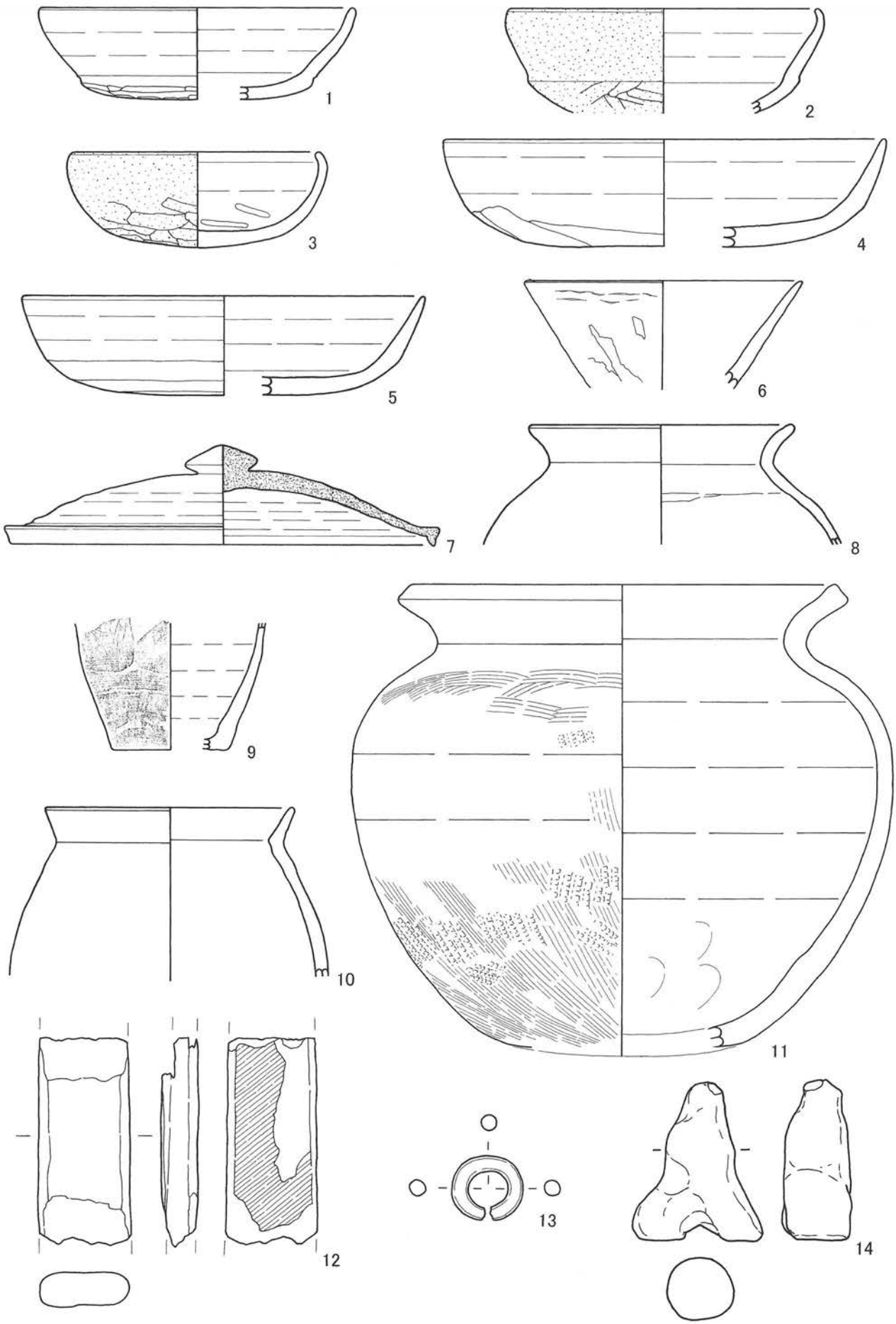
1層　黄褐色粒子がごくわずかに混じる黒褐色土。
2層　黄褐色土がわずかに混じる暗褐色土。
3層　黄褐色土が多く混じる暗褐色土。
4層　黄褐色粒子と黒褐色粒子がわずかに混じる暗褐色土。
5層　暗褐色土。
6層　黄褐色土。
7層　黄褐色土と灰白色粘土がわずかに混じる暗褐色土。



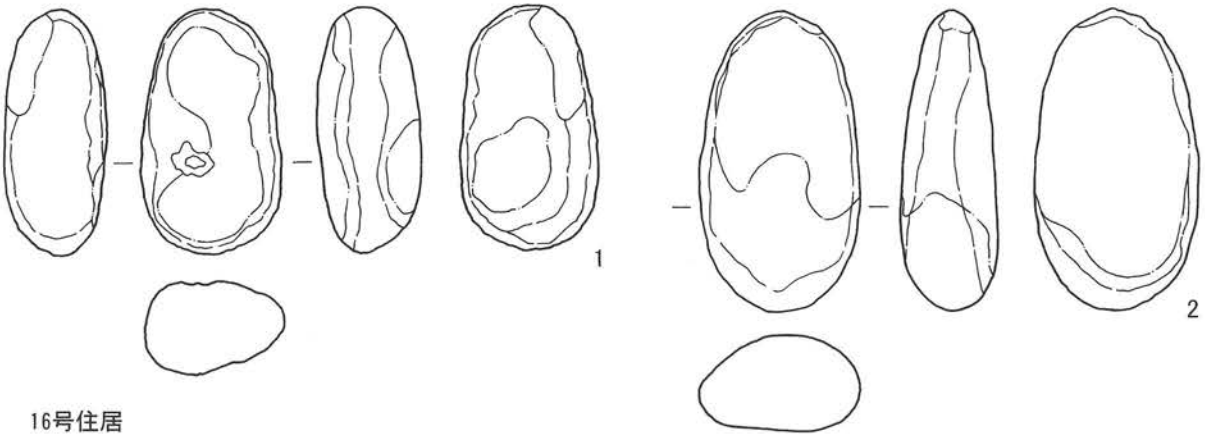
第24図　11号住居（1/40）　11号住居出土遺物（1/2）



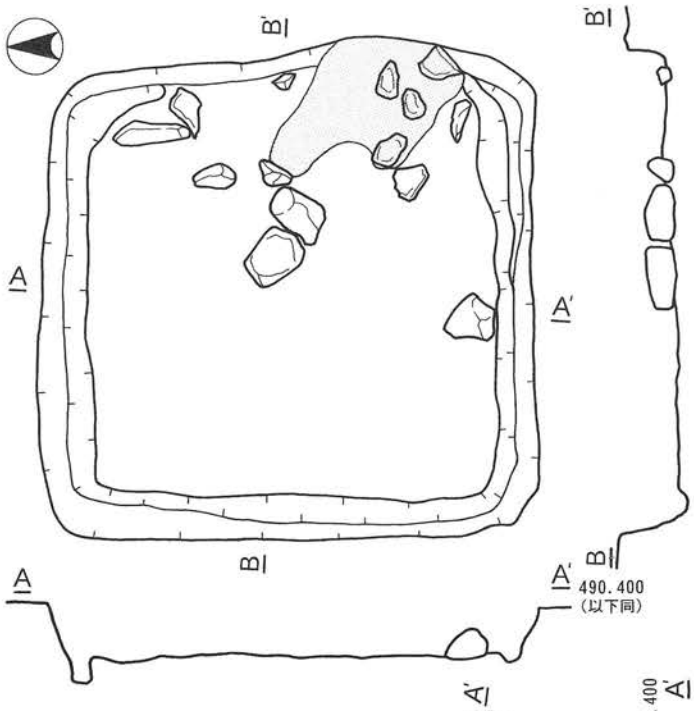
第25図　12号住居（1/60）　12号住居カマド（1/30）

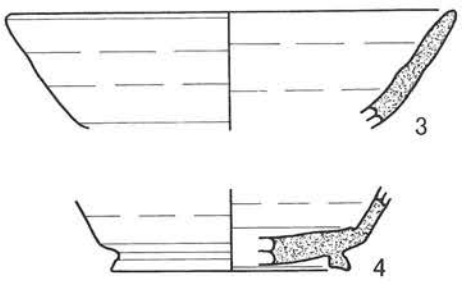


第26図　12号住居出土遺物（1/2、 6・8～10 1/4）

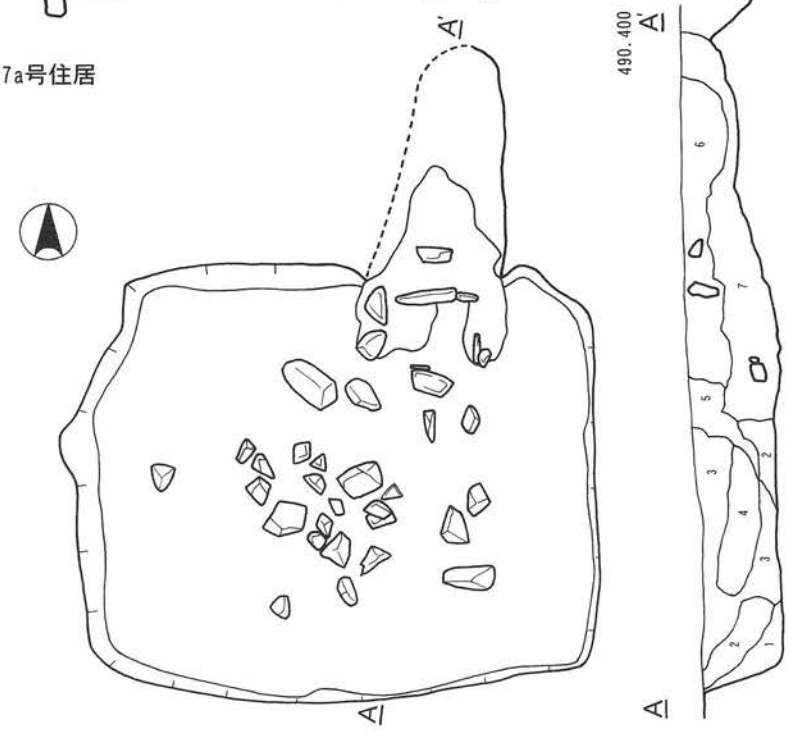


16号住居

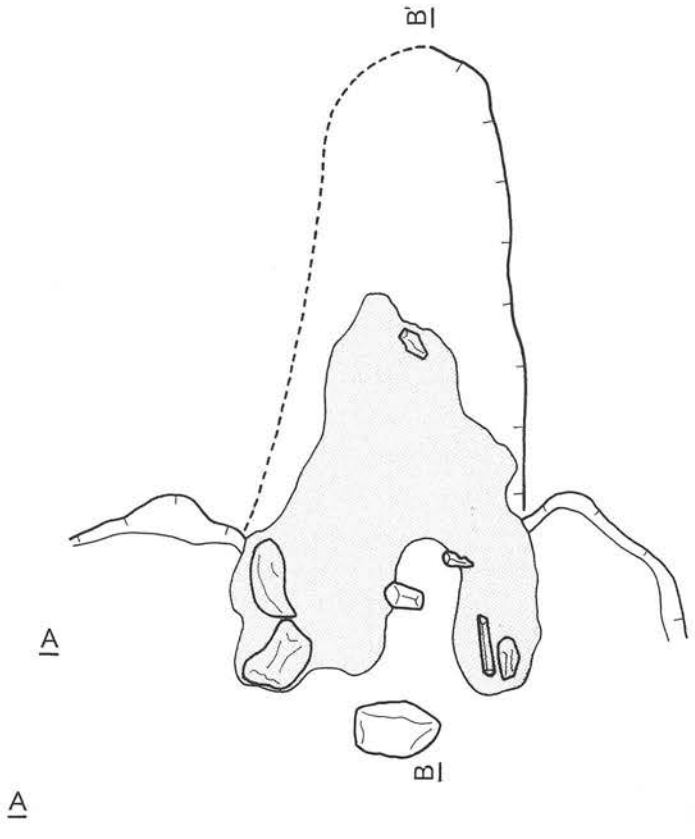




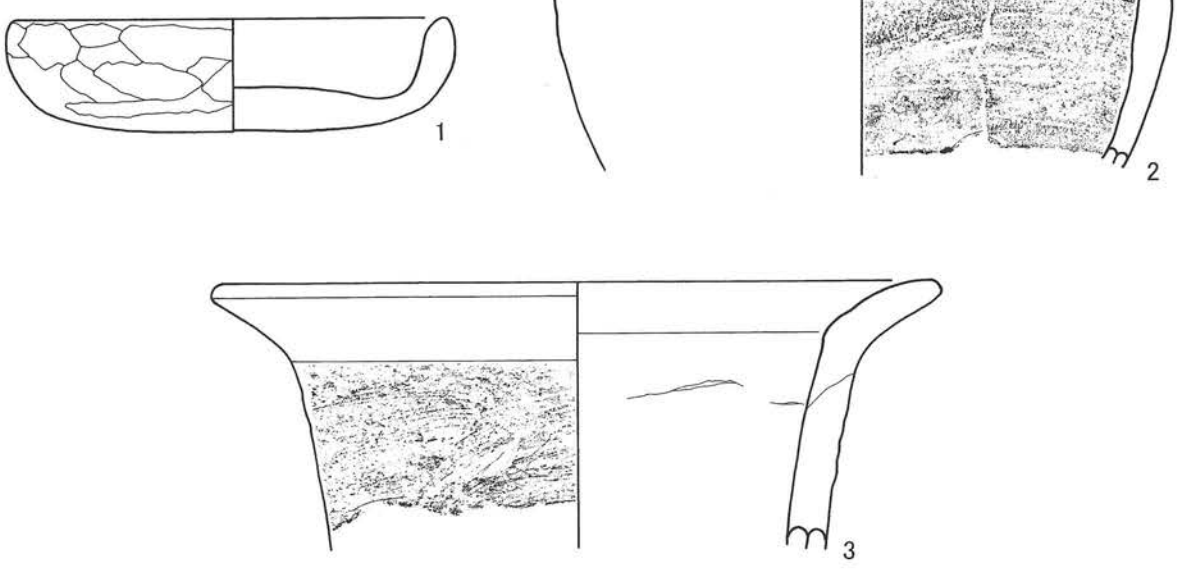
17a号住居



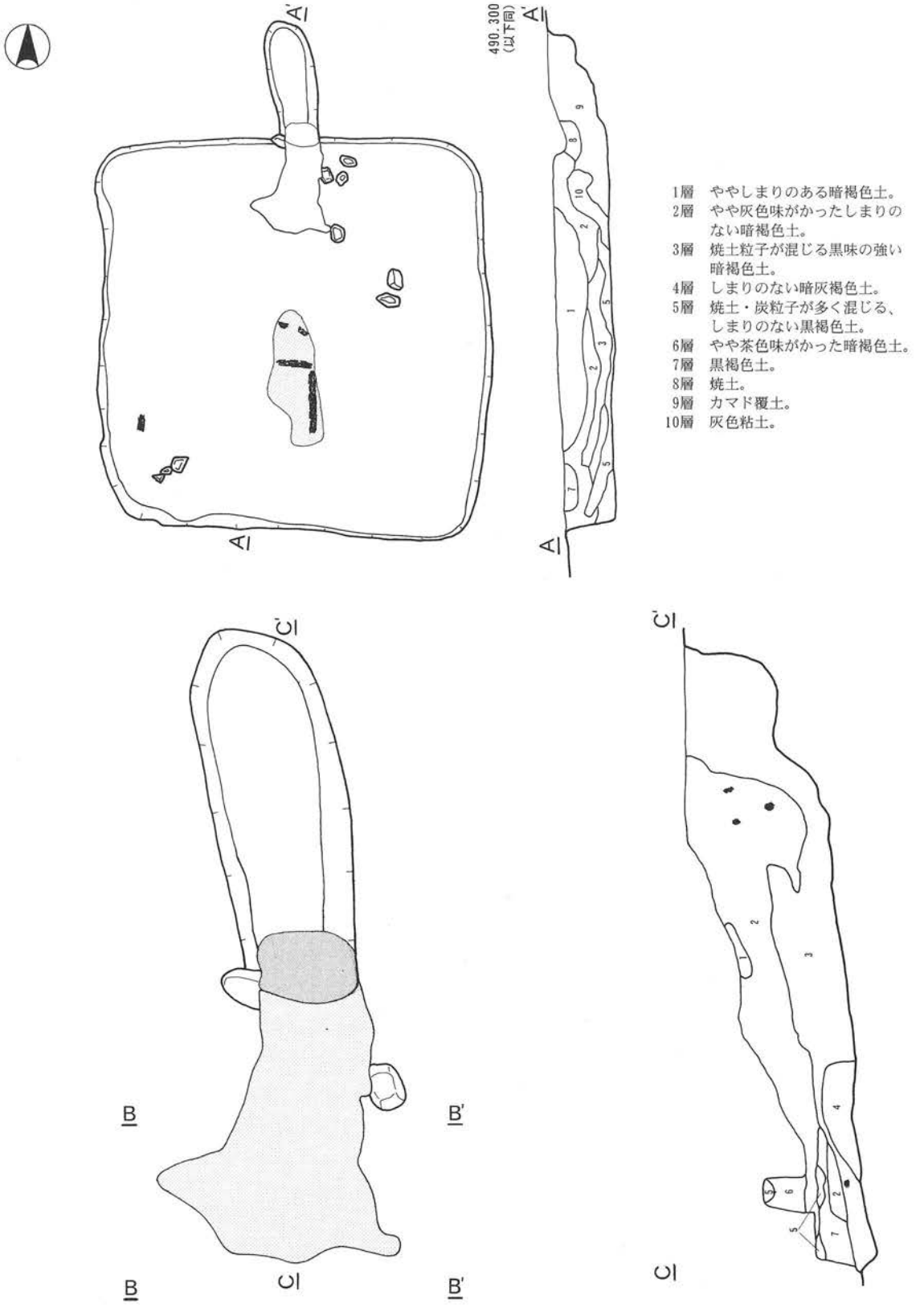
第27図　12号住居出土遺物（1/4）　16号住居（1/40）　16号住居出土遺物（1/2）　17a号住居（1/40）



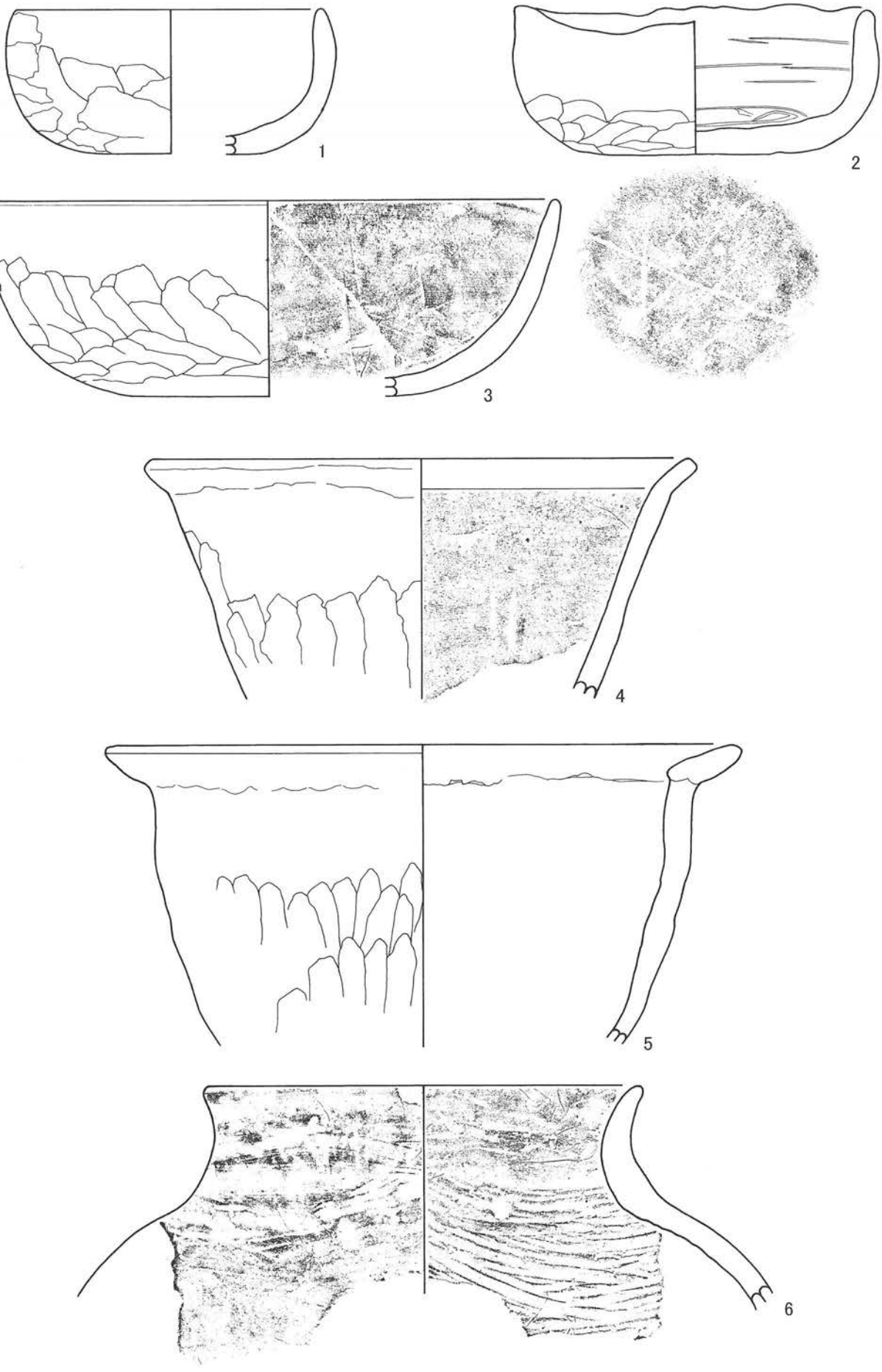
1層　灰白色粘土。
2層　焼土が混じる灰褐色粘土。
3層　焼土粒子が多く混じる暗褐色土。
4層　灰白色粘土の混じる暗褐色土。



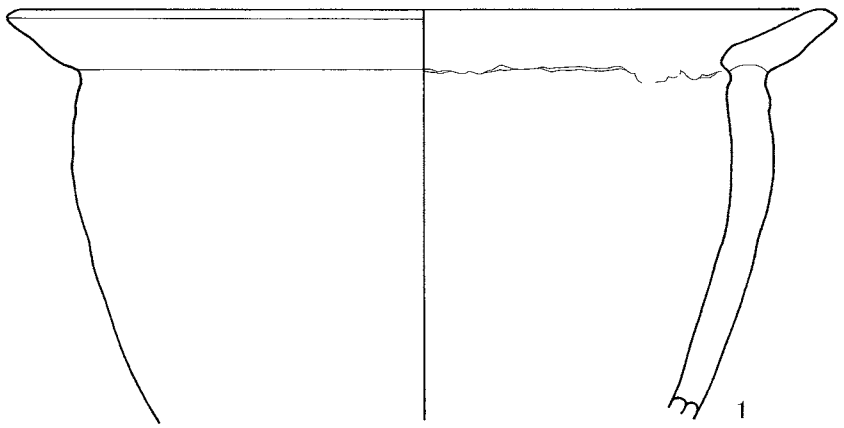
第28図　17a号住居カマド（1/20）　17a号住居出土遺物（1/2）

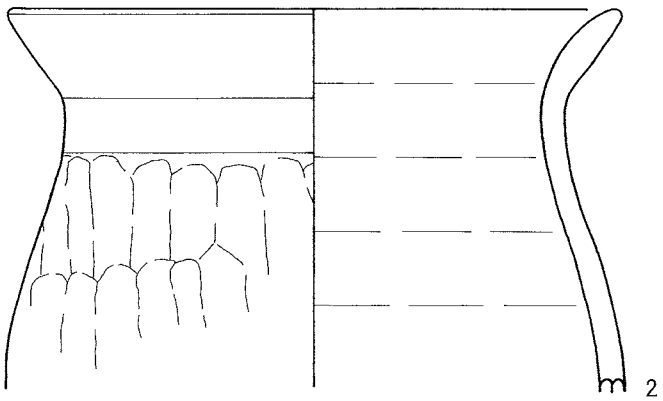


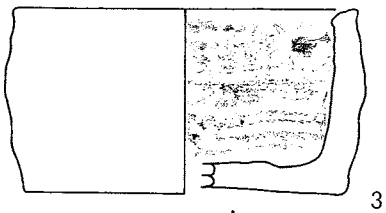
第29図　17b号住居（1/60）　17b号住居カマド（1/20）

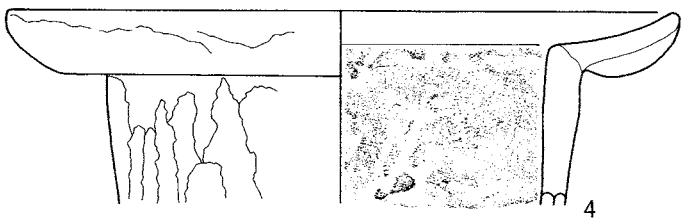


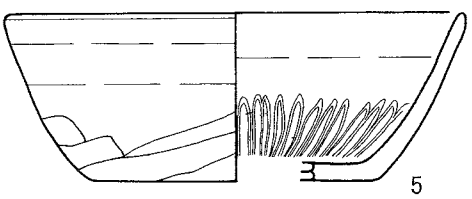
第30図　17b住居出土遺物（1/2）

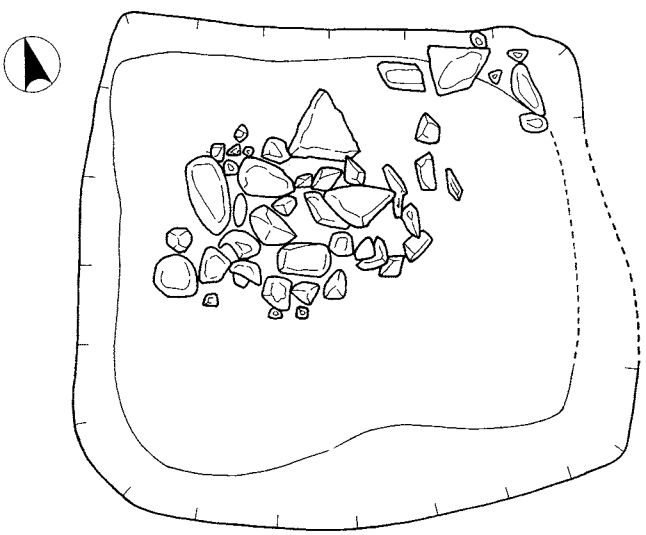


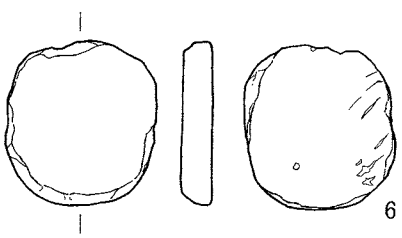


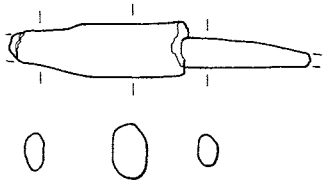




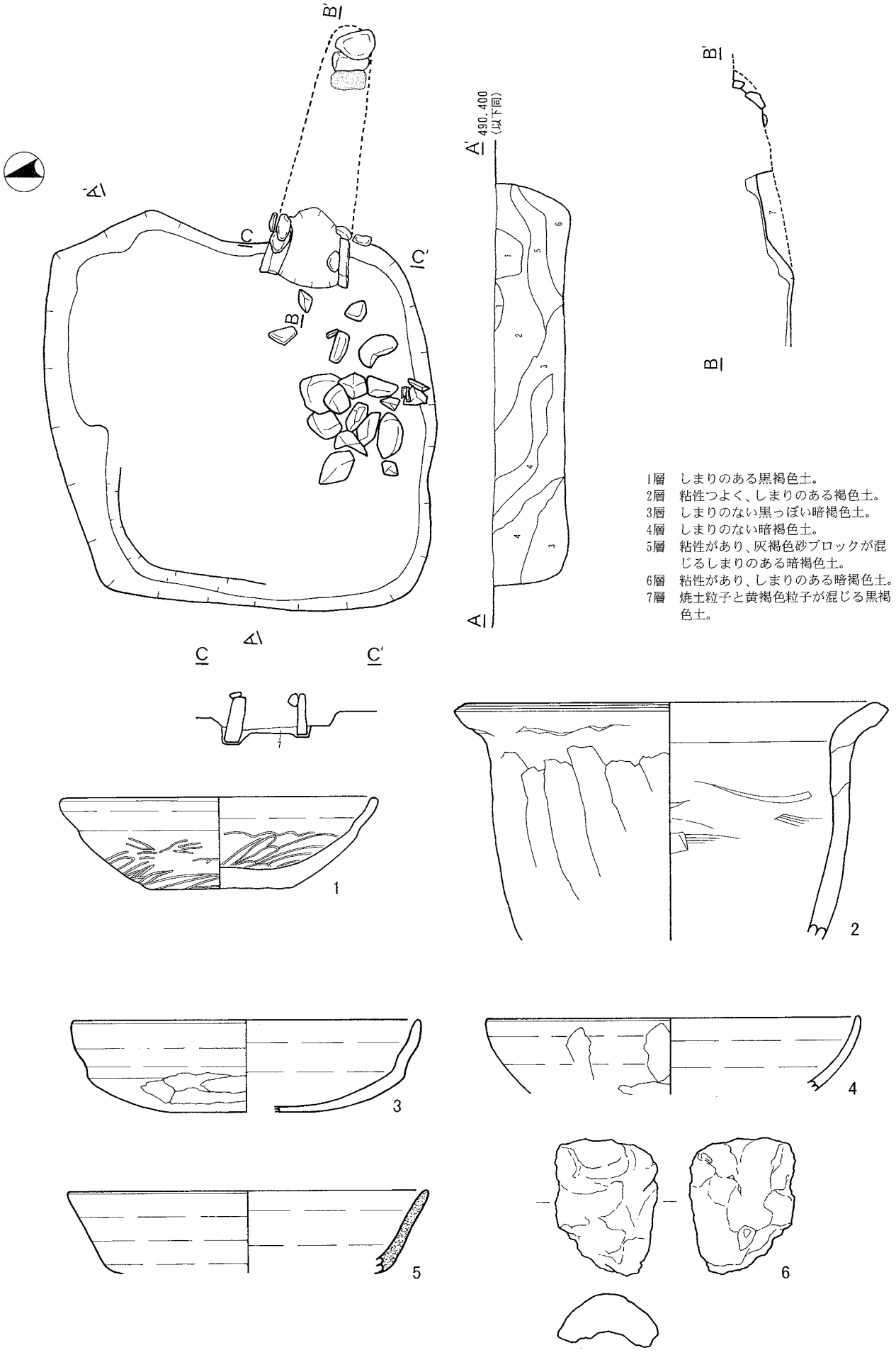




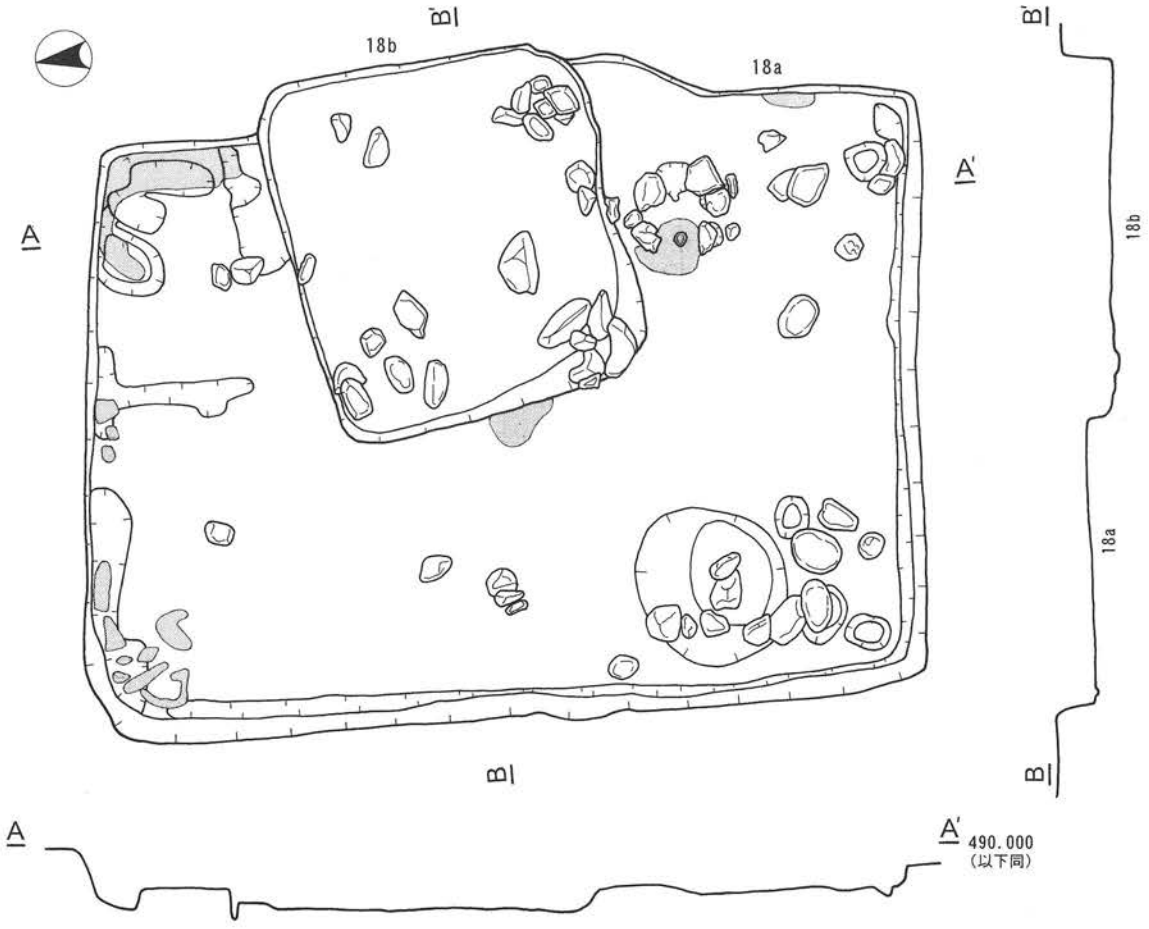


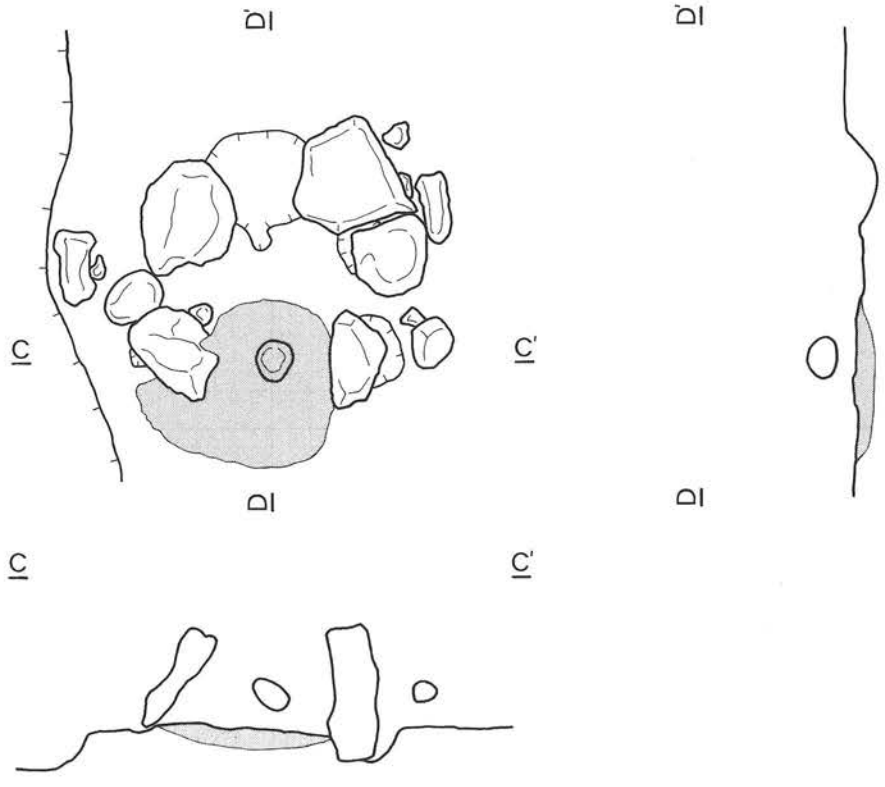


第31図　17b号住居出土遺物（1/2）　17c号住居（1/40）　17c号出土遺物（1/2）

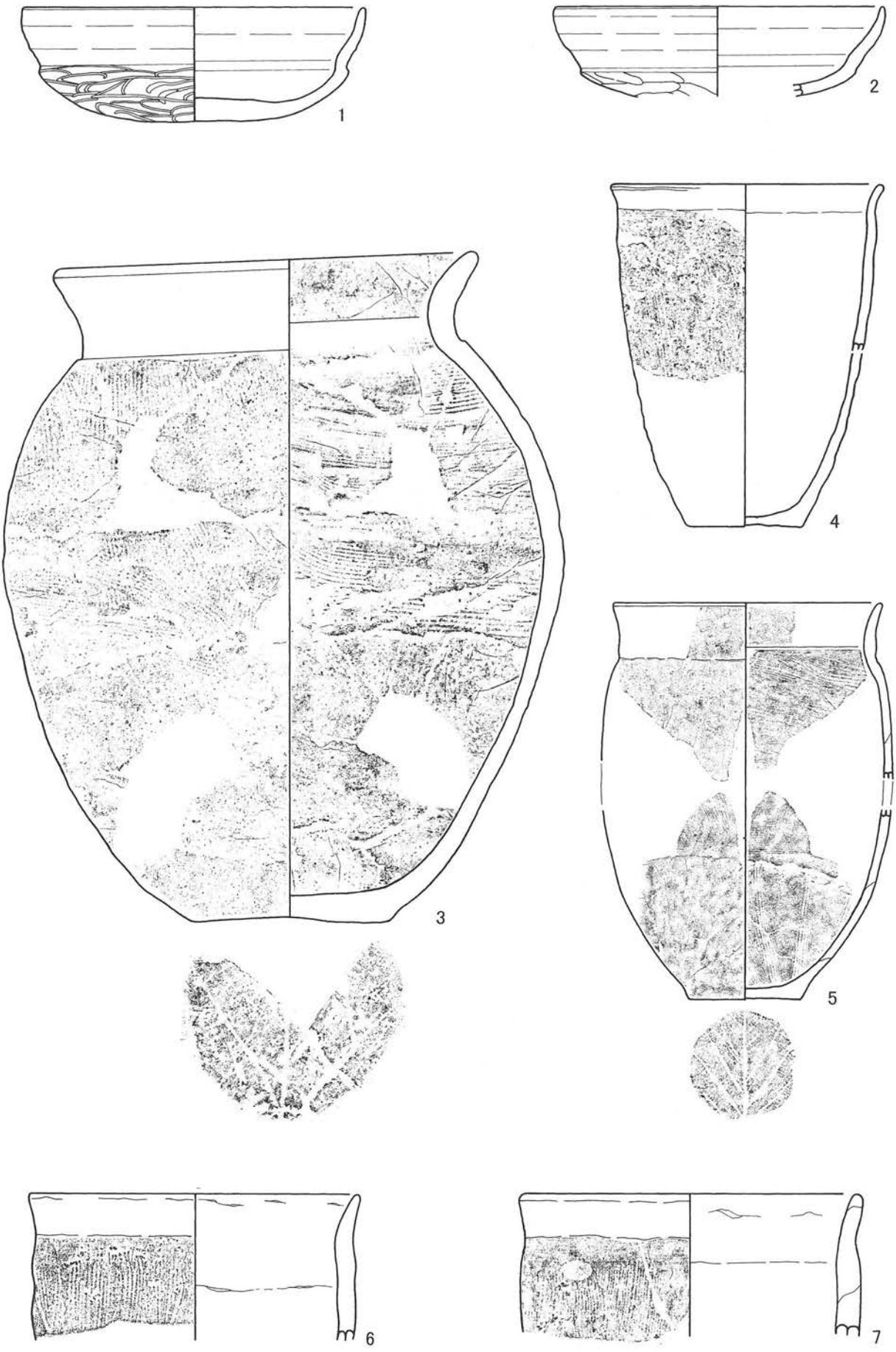


第32図　17d号住居（1/40）　17d号住居出土遺物（1/2）　17号住居出土遺物（1/2）

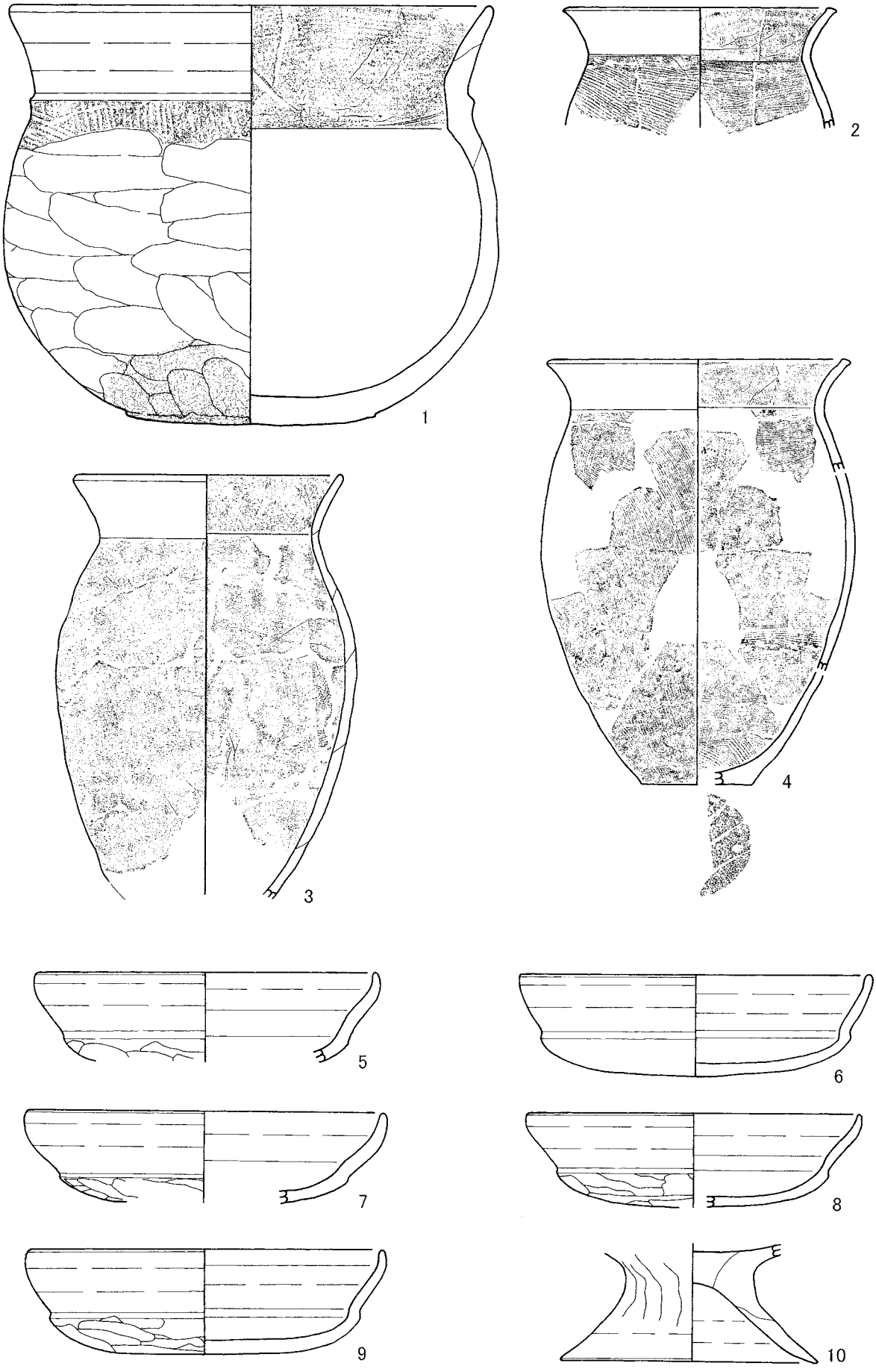




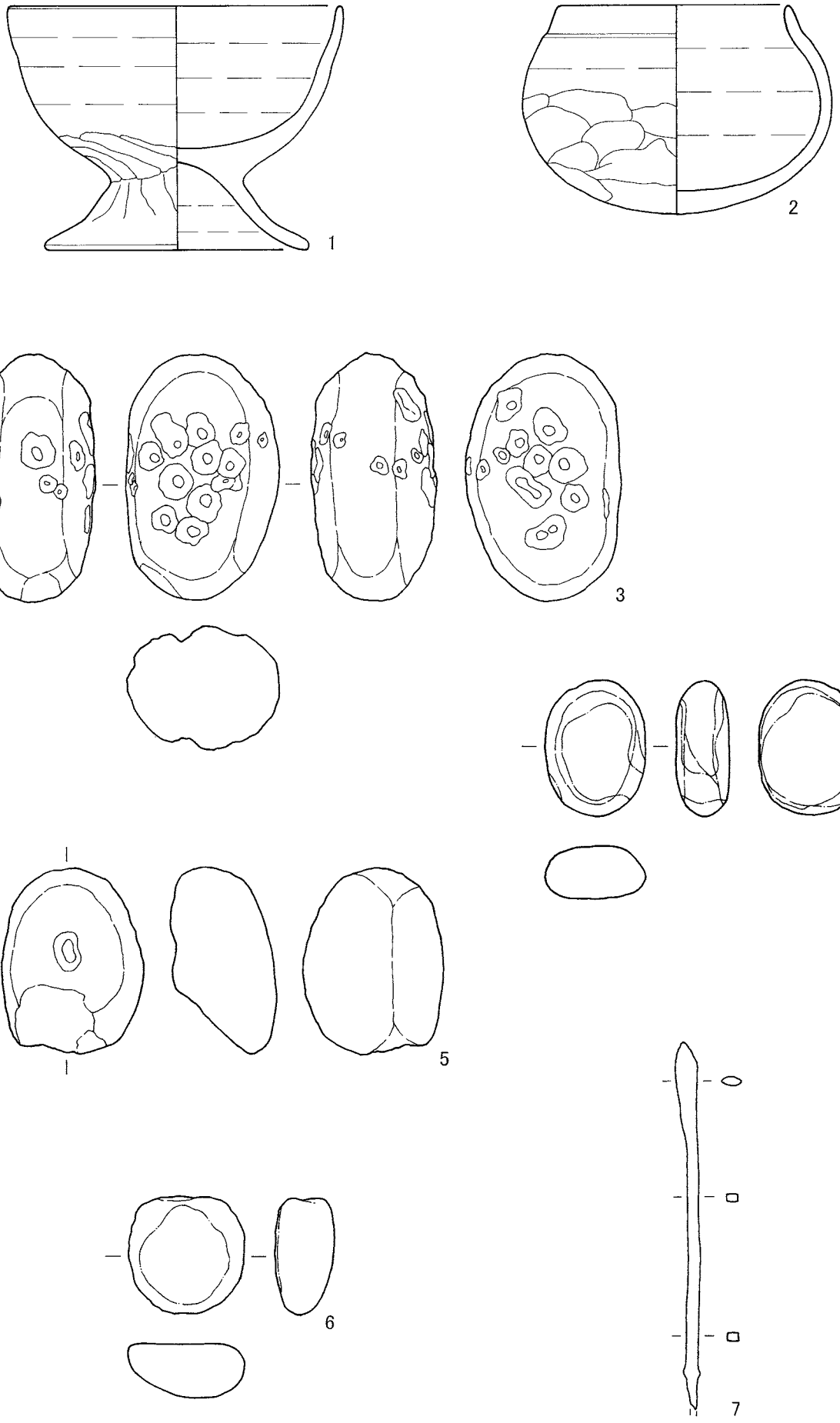
第33図　18a号・18b号住居（1/40）　18b号住居カマド（1/20）



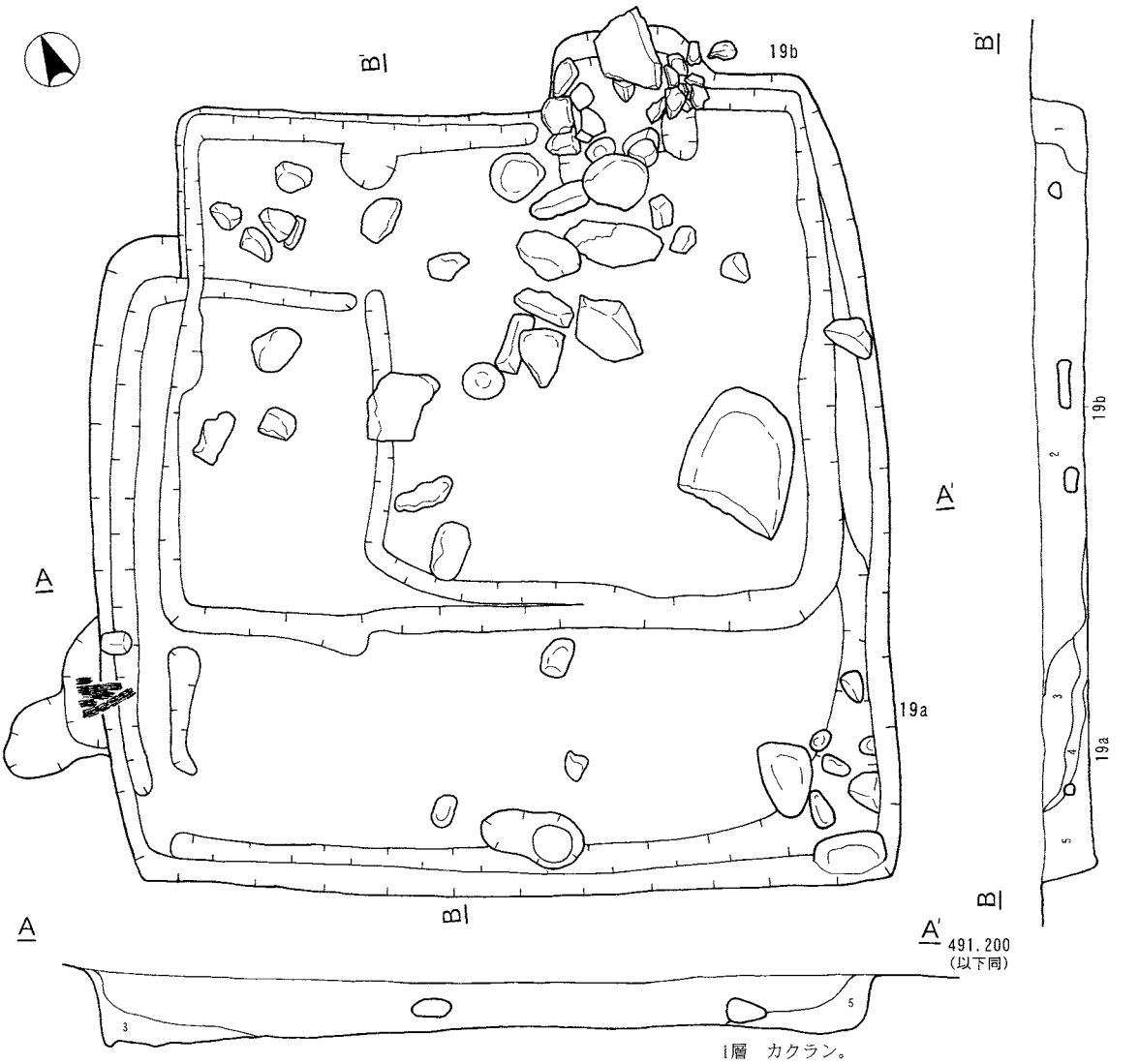
第34図　18a号住居出土遺物（1/2、 4・5 1/4）



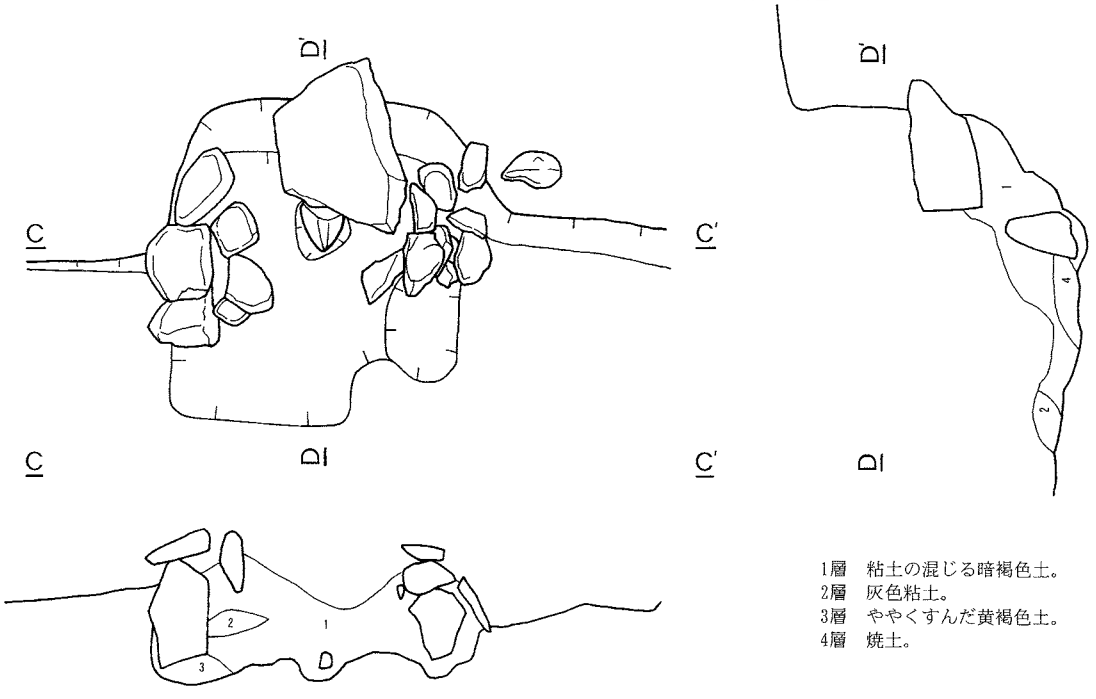
第35図　18a号住居出土遺物（1/2、 2～4 1/4）　18b号住居出土遺物（5～10 1/2）



第36図　18b号住居出土遺物（1/2、 3～6 1/4）

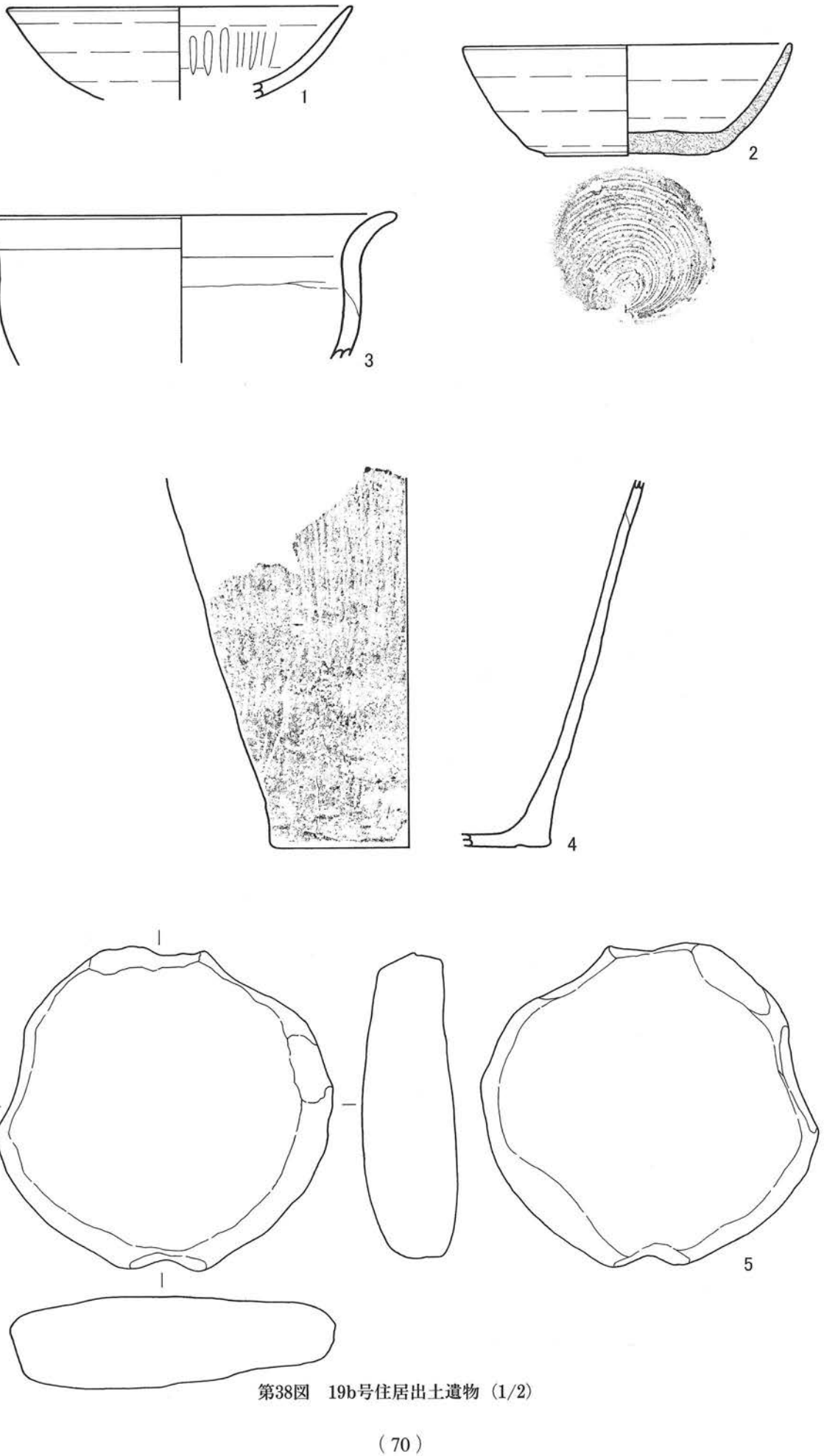


1層　カクラン。
2層　黄褐色粒子がほんのわずかに混じる暗褐色土。
3層　黄褐色粒子が混じる暗褐色土。
4層　黄褐色粒子が多く混じる暗褐色土。
5層　暗褐色土。

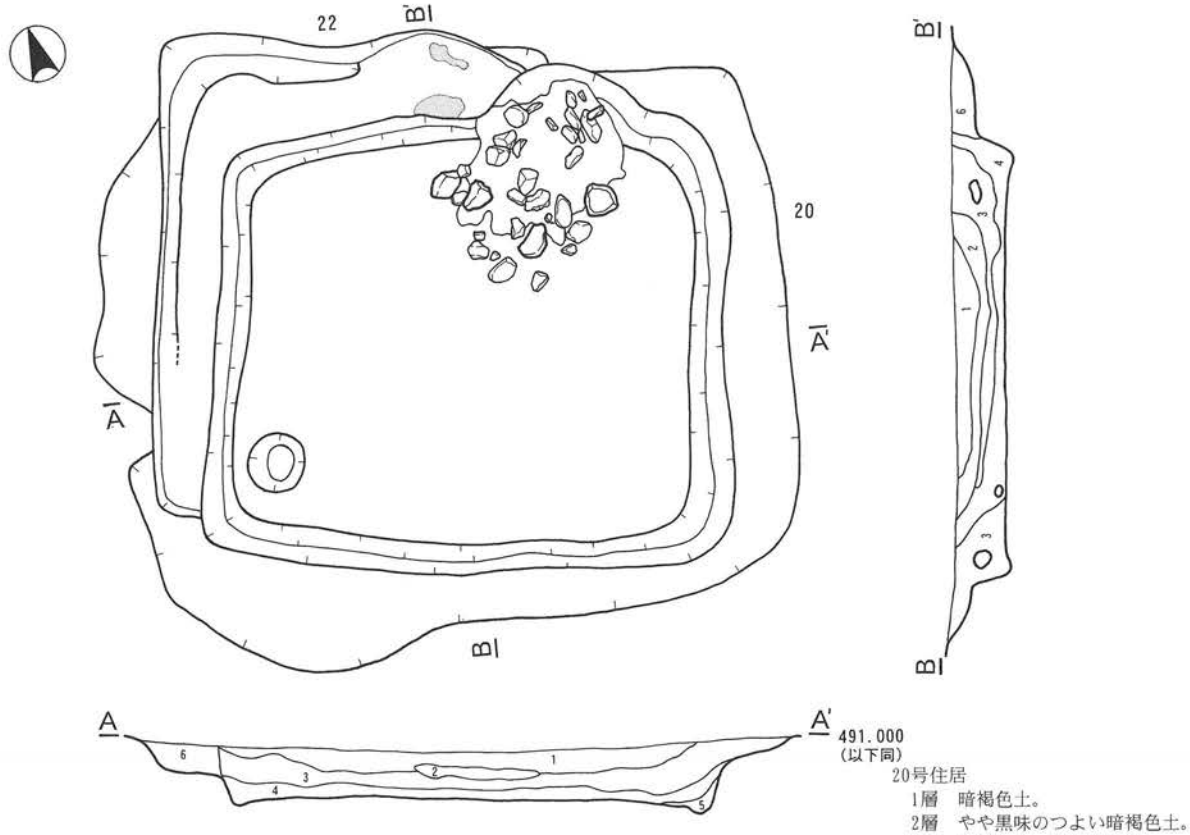


1層　粘土の混じる暗褐色土。
2層　灰色粘土。
3層　ややくすんだ黄褐色土。
4層　焼土。

第37図　19a号・19b号住居（1/40）　19b号住居カマド（1/20）

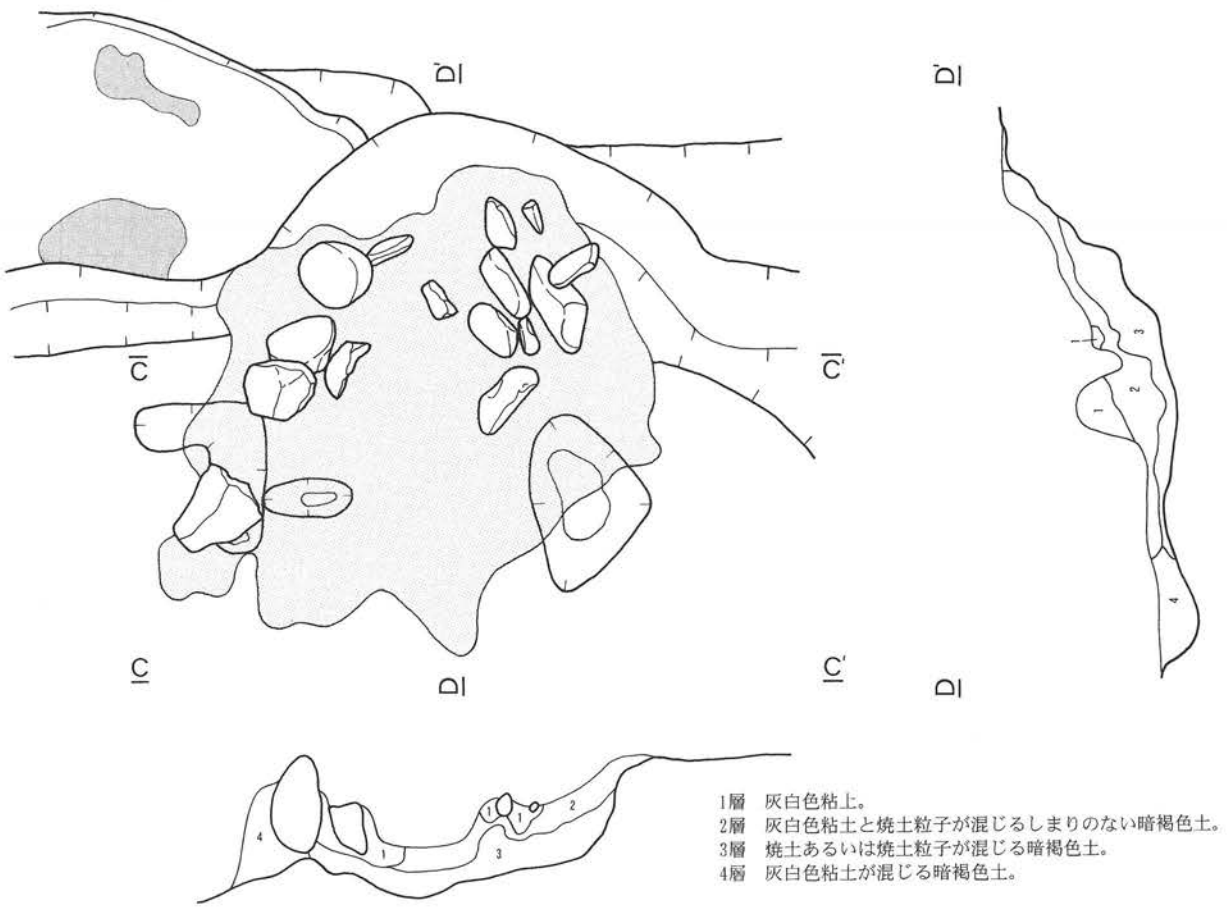


第38図　19b号住居出土遺物（1/2）



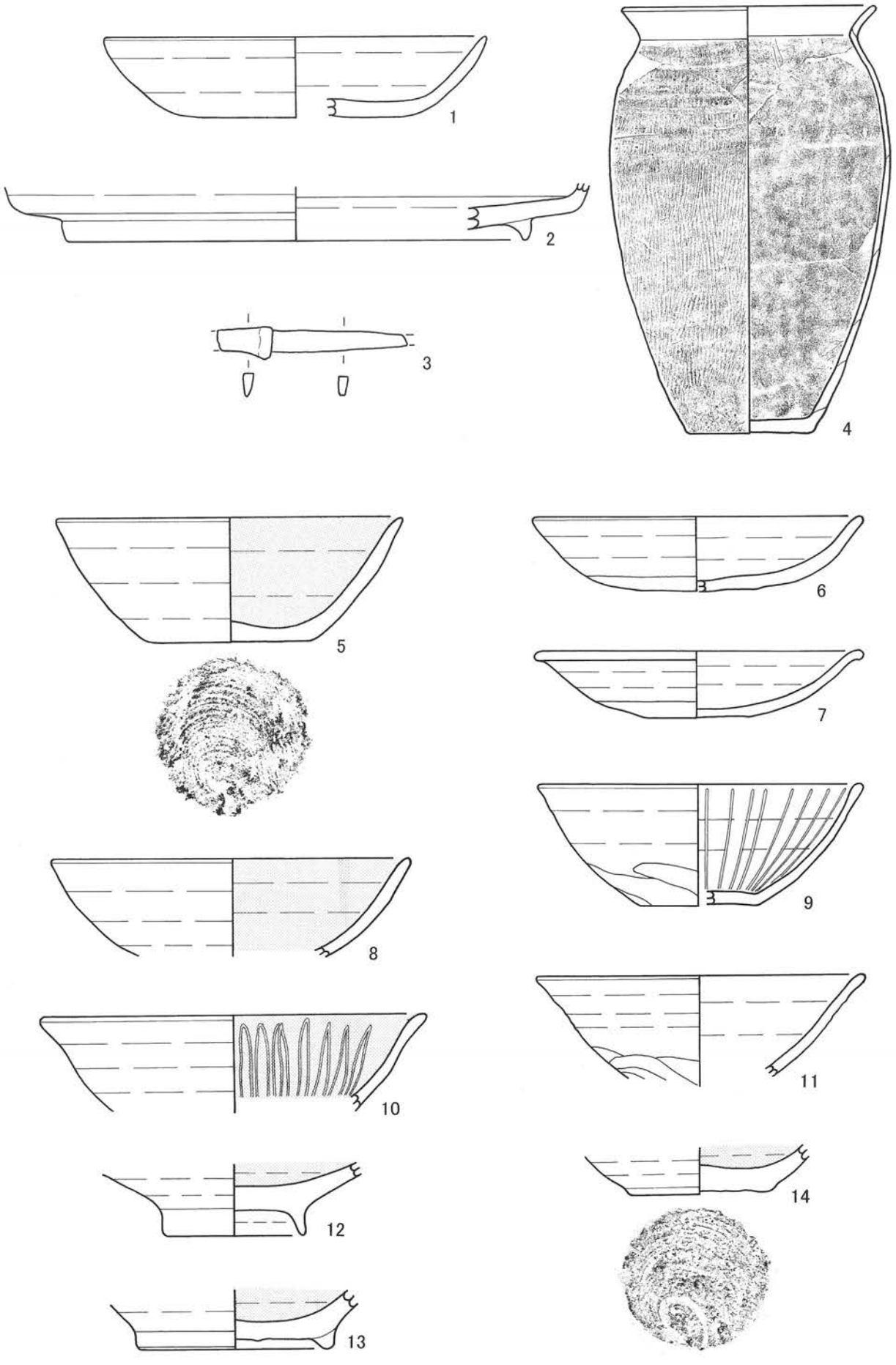
20号住居

1層　暗褐色土。
2層　やや黒味のつよい暗褐色土。
3層　灰色がかった黒褐色土。
4層　黒味のある暗褐色土。
5層　しまりのない暗褐色土。
6層　22号住居埋土。

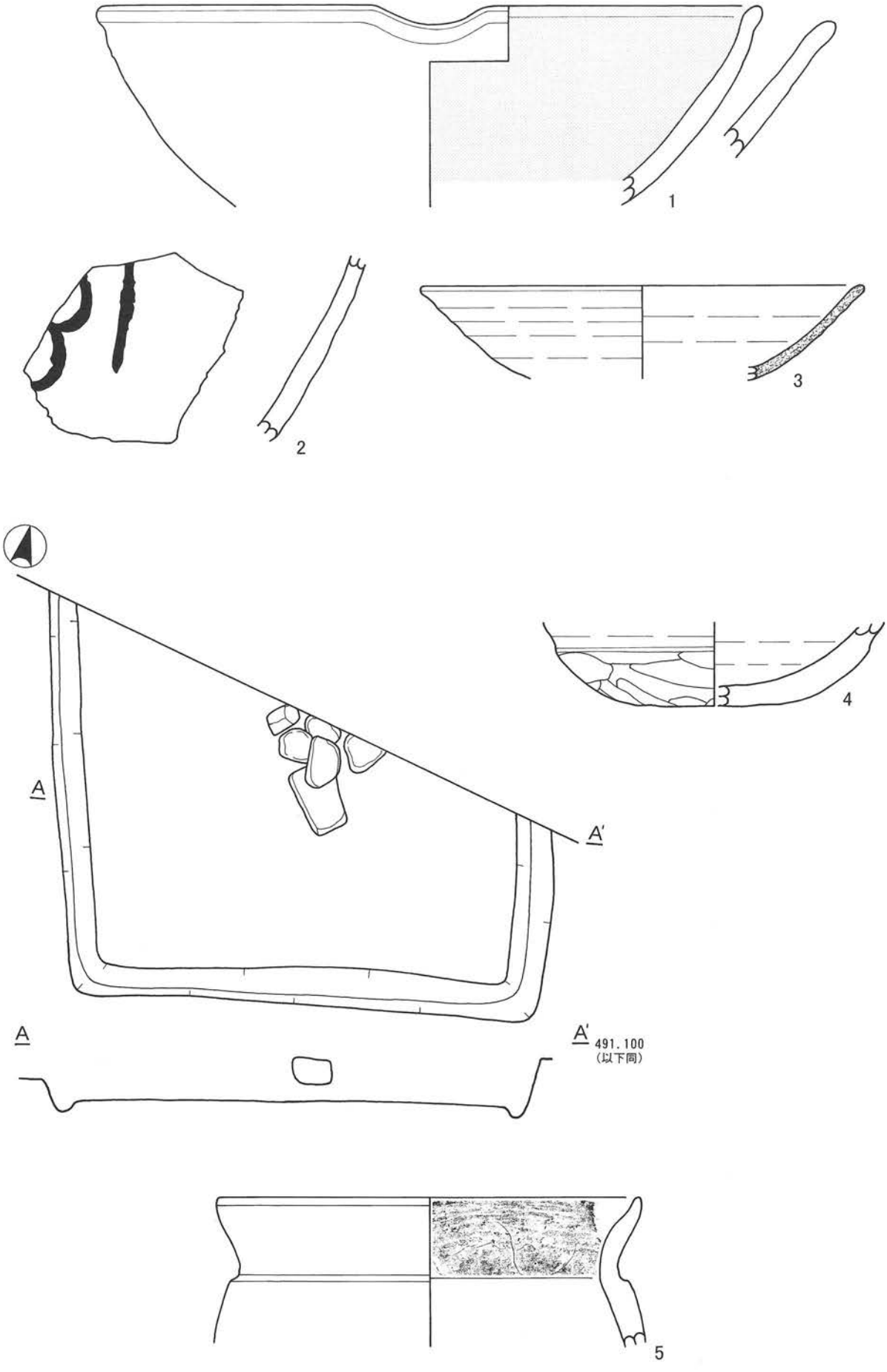


1層　灰白色粘土。
2層　灰白色粘土と焼土粒子が混じるしまりのない暗褐色土。
3層　焼土あるいは焼土粒子が混じる暗褐色土。
4層　灰白色粘土が混じる暗褐色土。

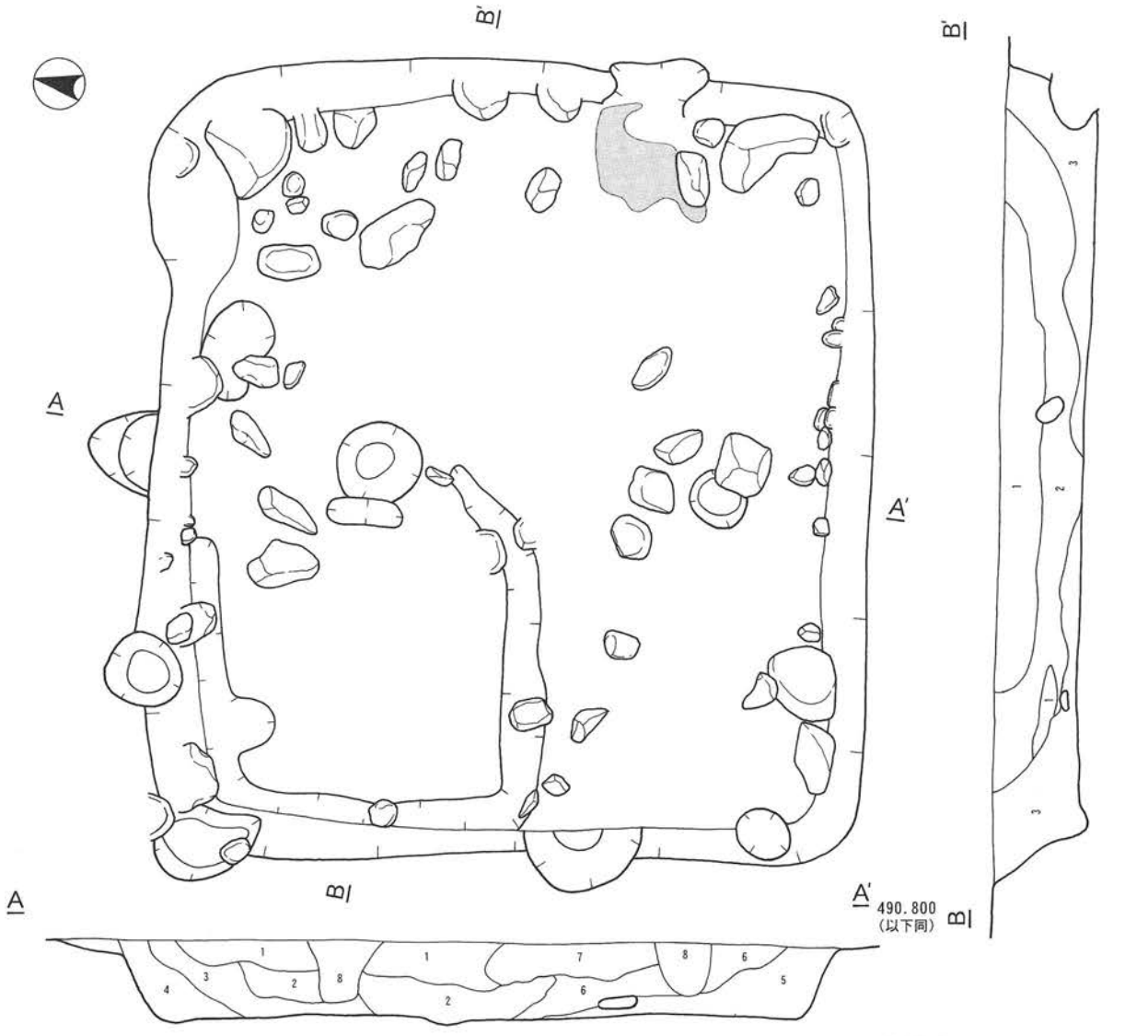
第39図　20号・22号住居（1/60）　20号住居カマド（1/20）



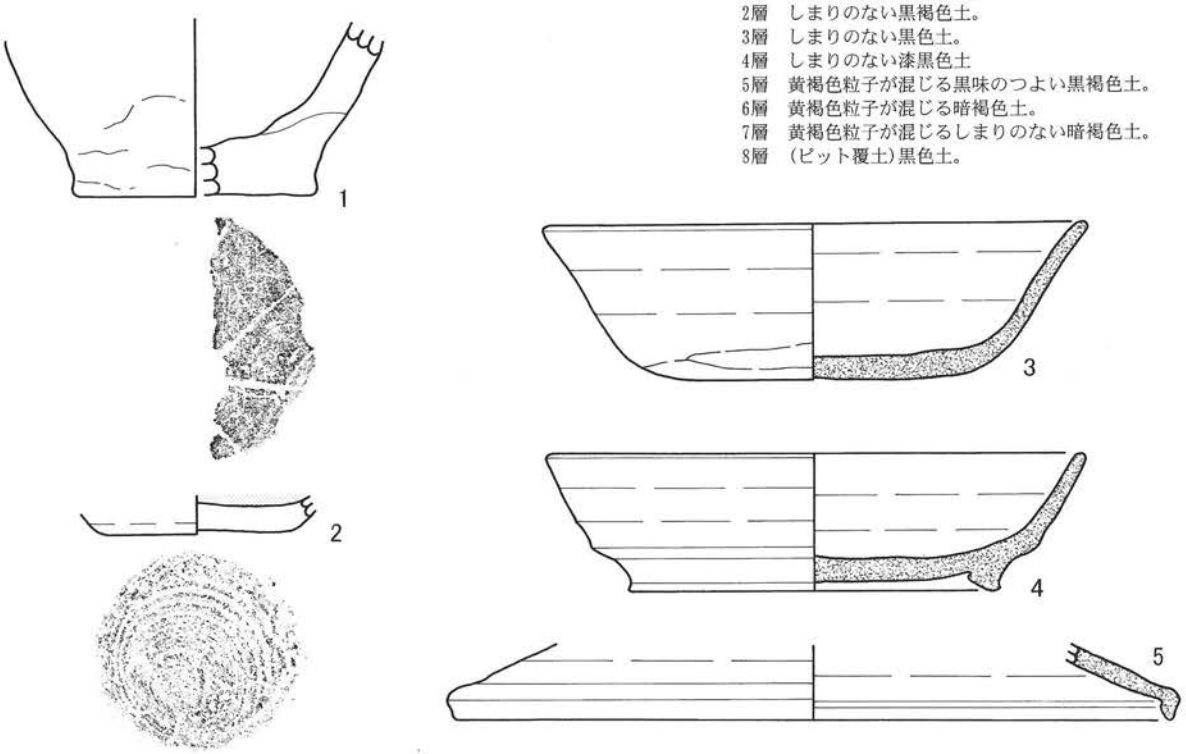
第40図　20号住居出土遺物（1～3 1/2、 4 1/4）　21号住居出土遺物（8～14 1/2）



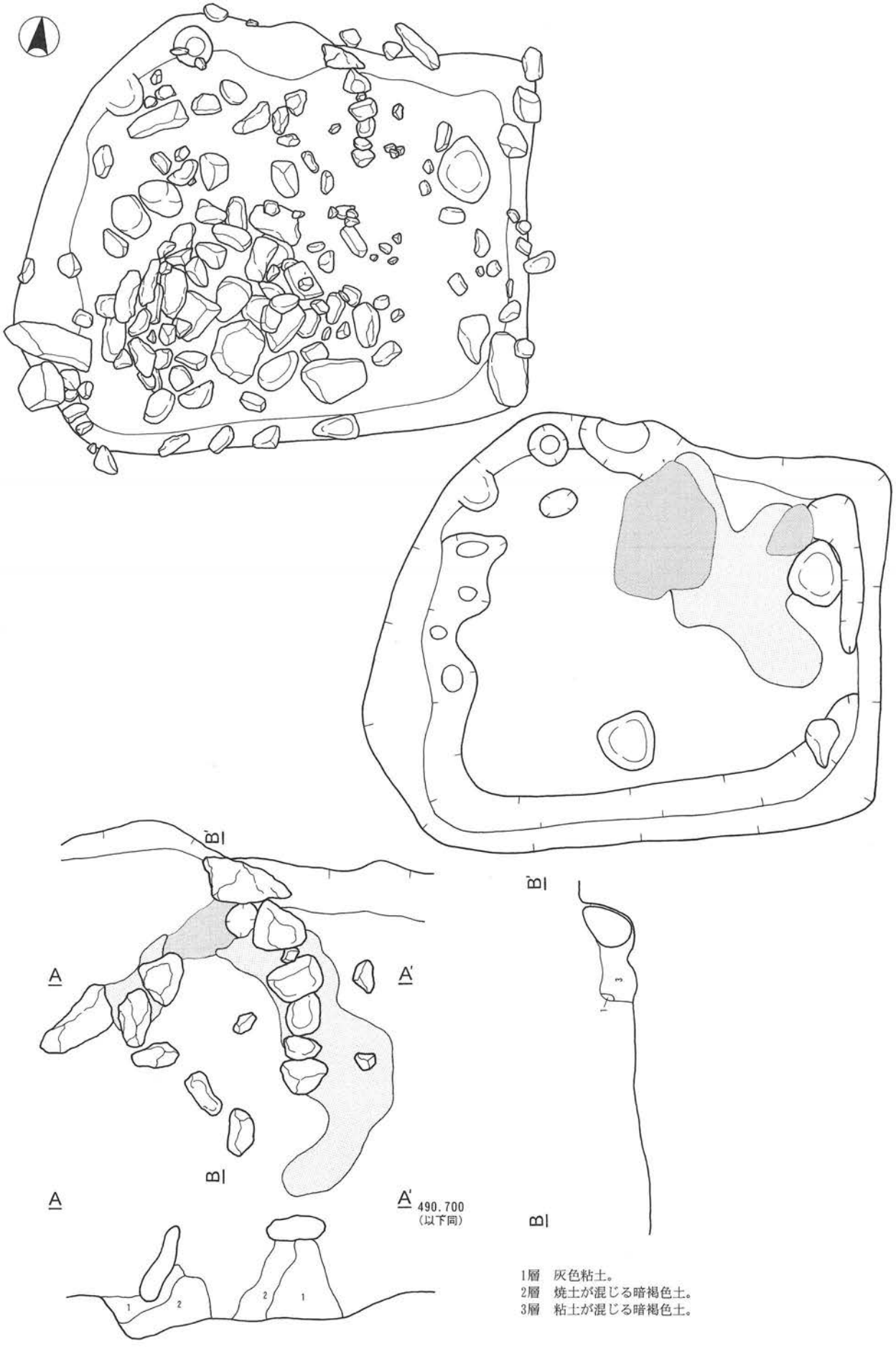
第41図　21号住居出土遺物（1/2）　24号住居（1/40）　24号住居出土遺物（1/2）



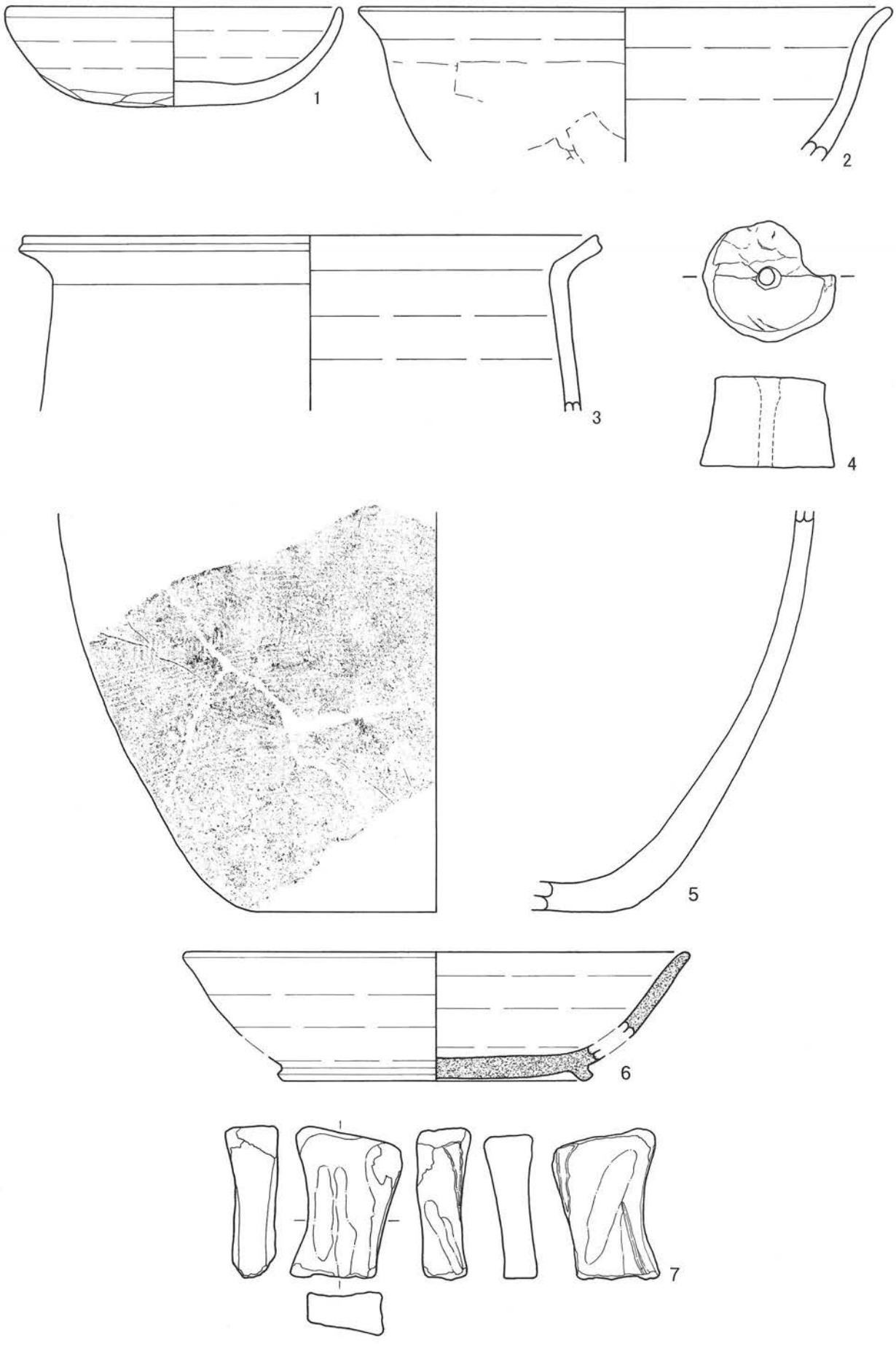
1層　しまりのない暗褐色土。
2層　しまりのない黒褐色土。
3層　しまりのない黒色土。
4層　しまりのない漆黒色土
5層　黄褐色粒子が混じる黒味のつよい黒褐色土。
6層　黄褐色粒子が混じる暗褐色土。
7層　黄褐色粒子が混じるしまりのない暗褐色土。
8層　(ピット覆土)黒色土。



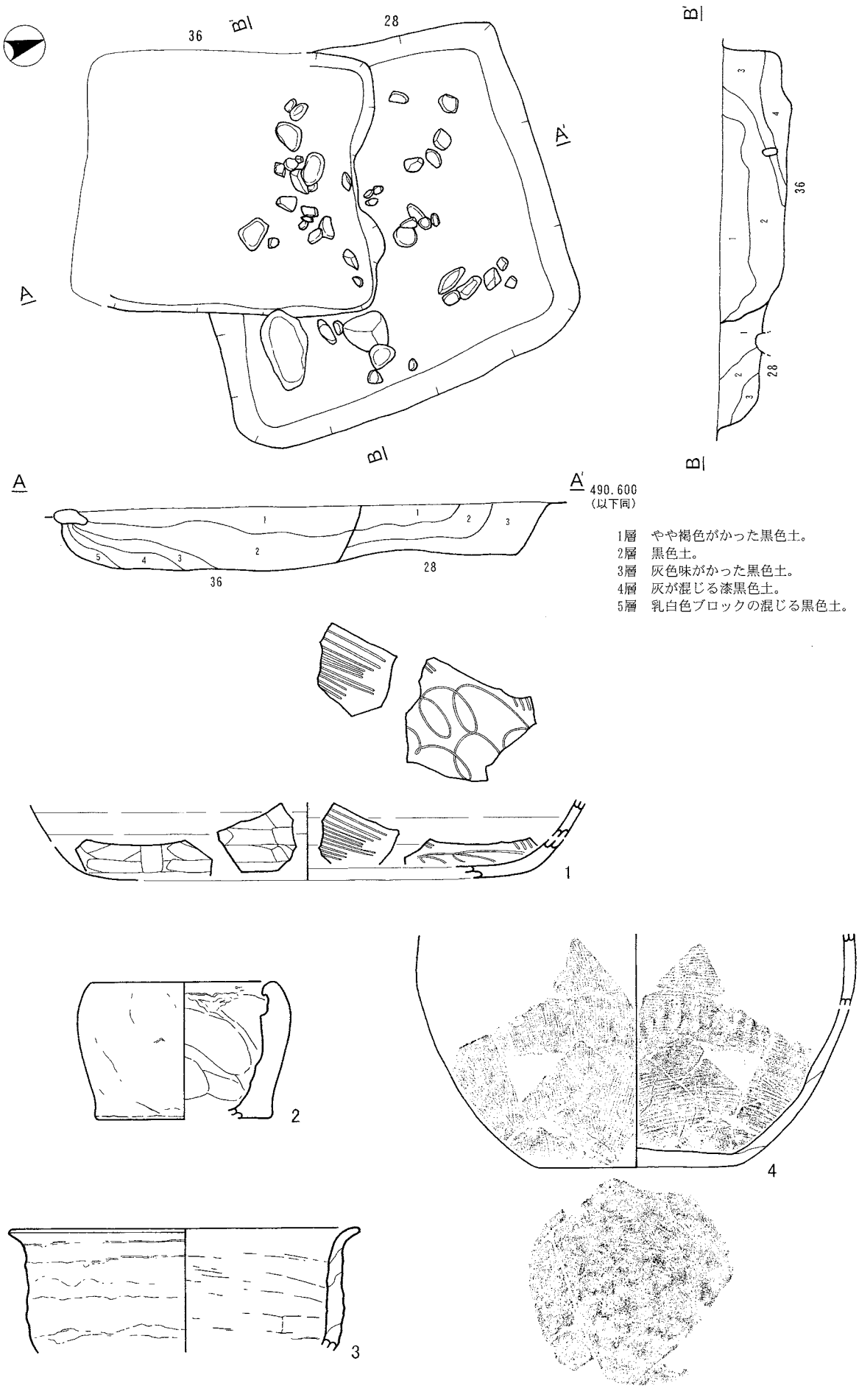
第42図　26号住居　26号住居出土遺物 (1/2)



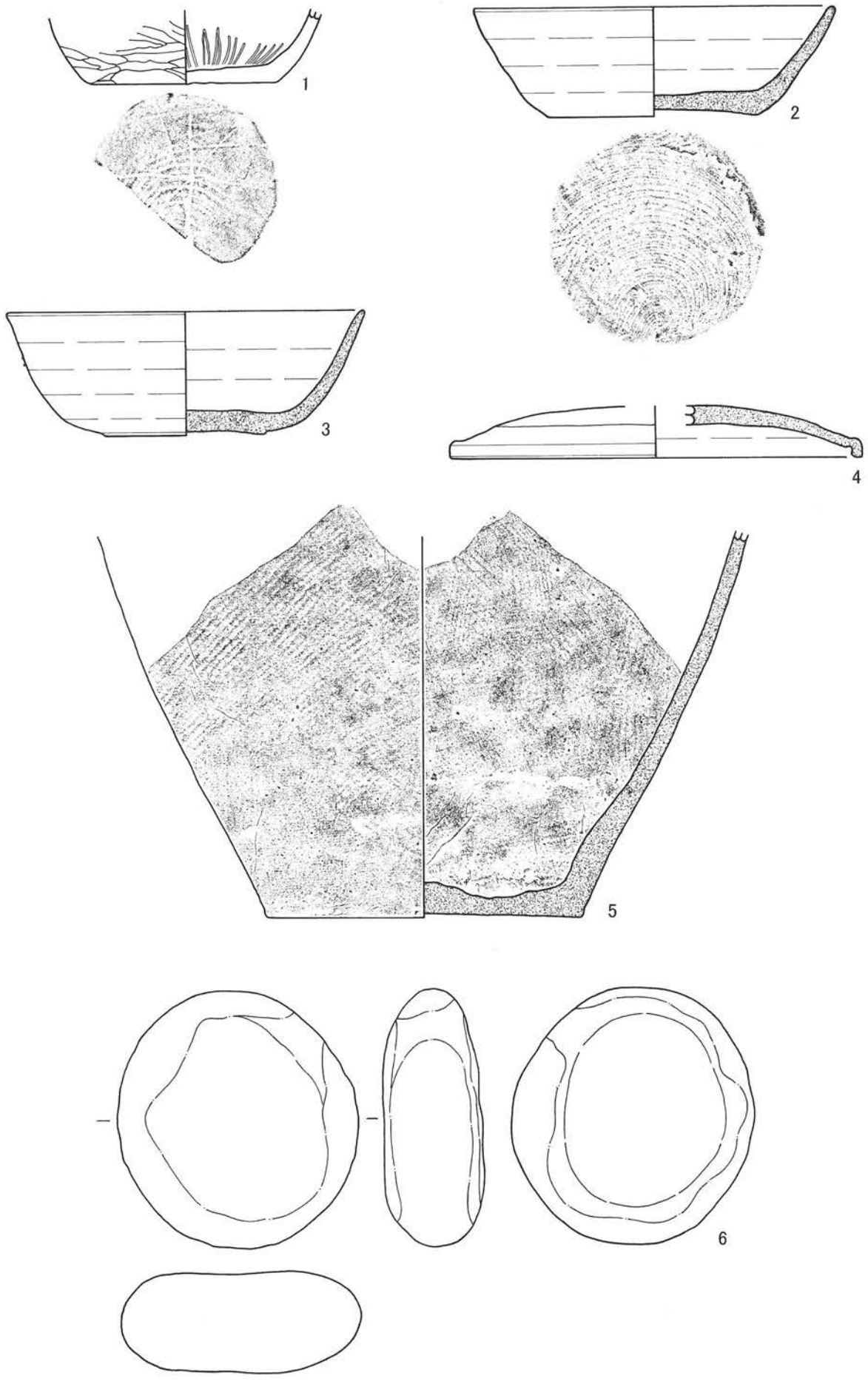
第43図　27号住居（1/40）　27号住居カマド（1/20）



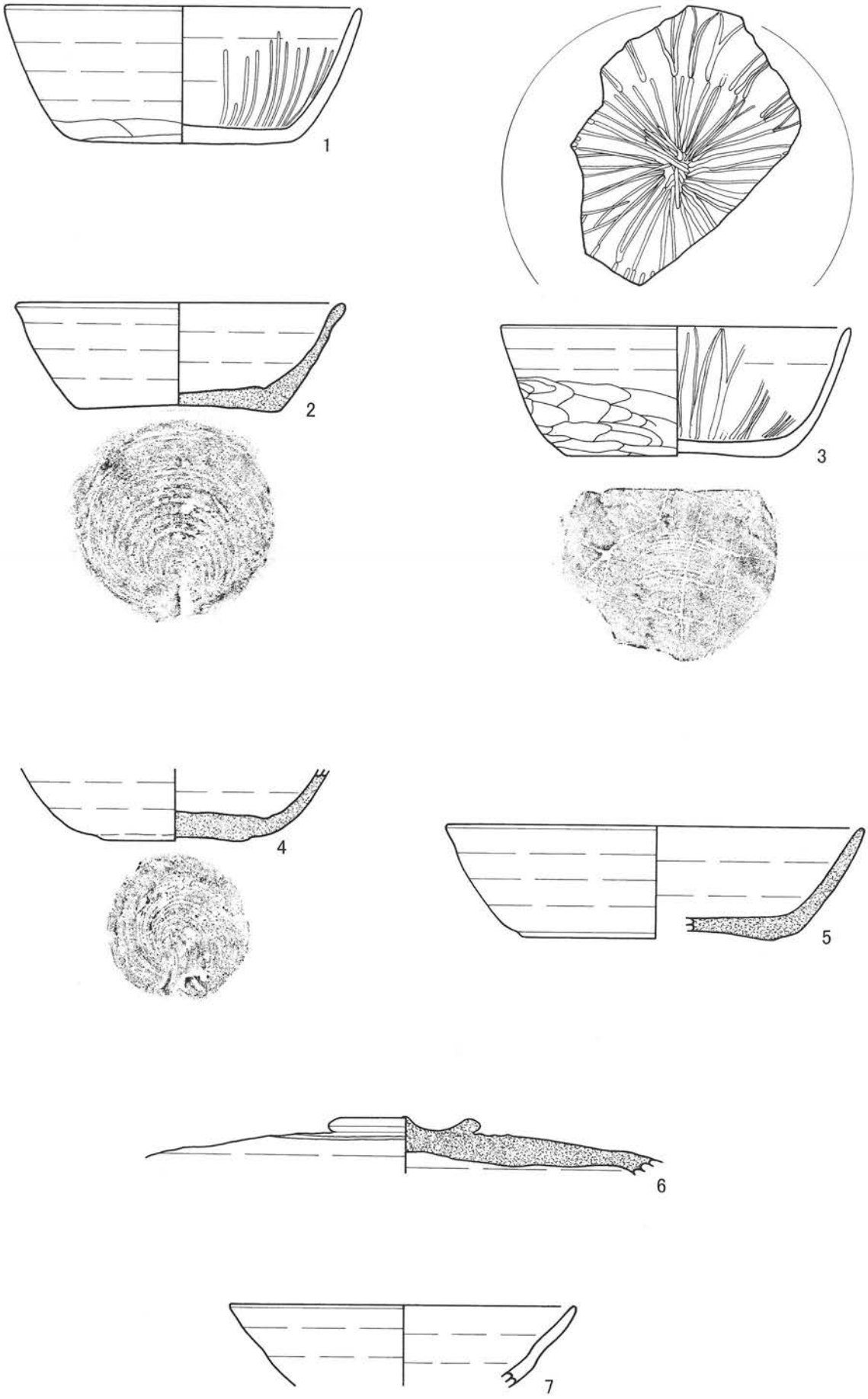
第44図　27号住居出土遺物（1/2）



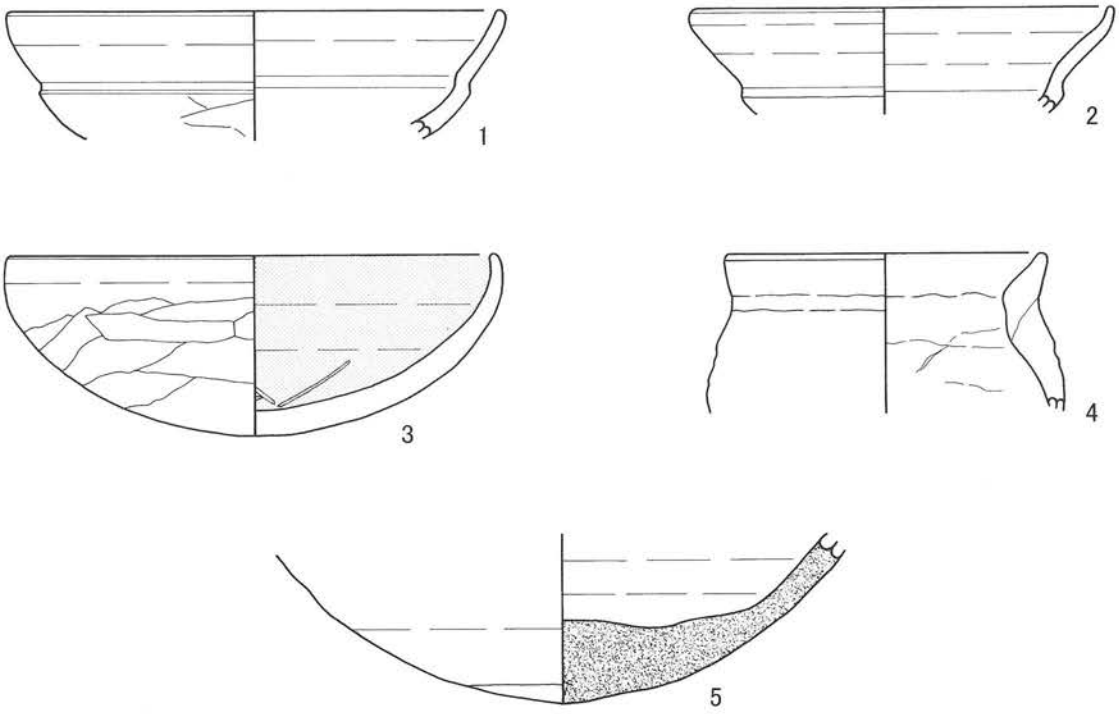
第45図　28号・36号住居（1/60）　28号住居出土遺物（1/2、 3・4 1/4）

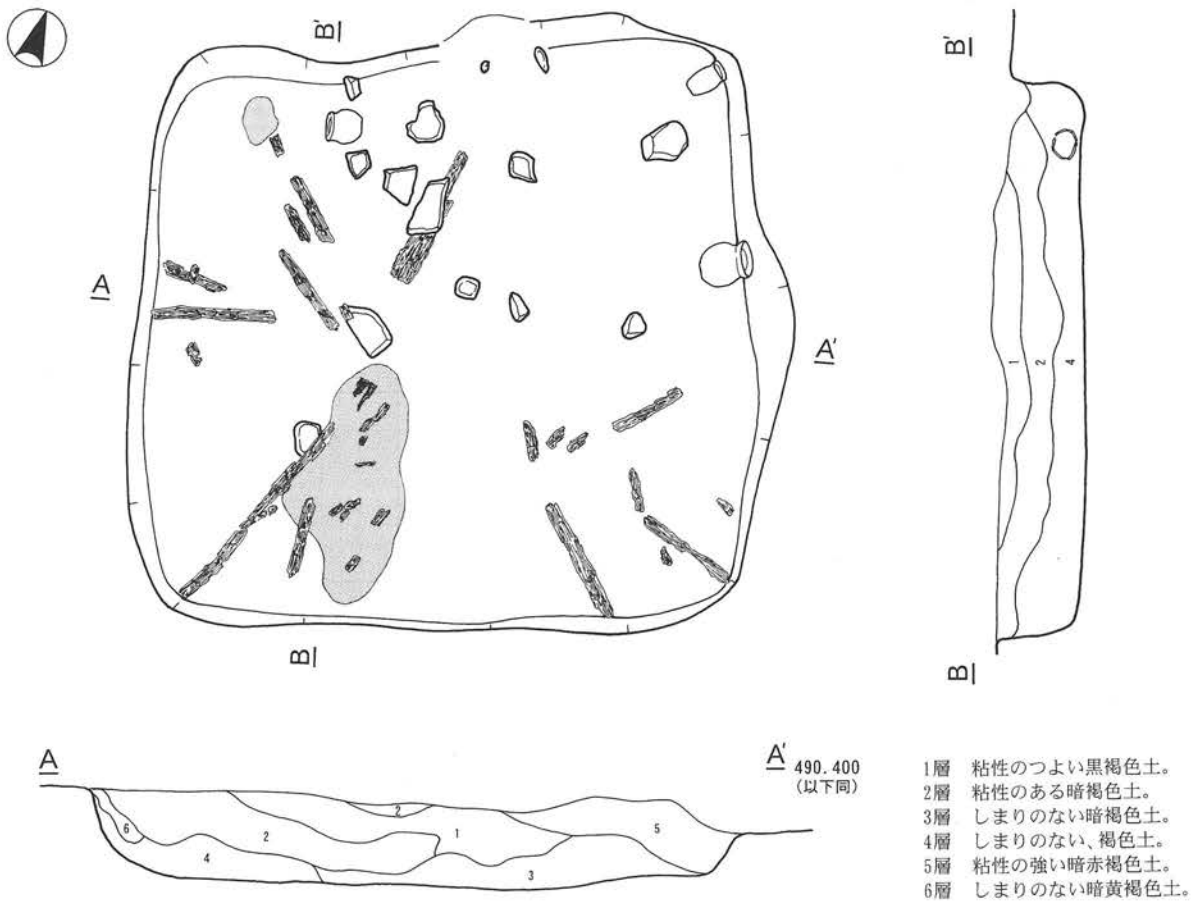


第46図　28号住居出土遺物（1/2）

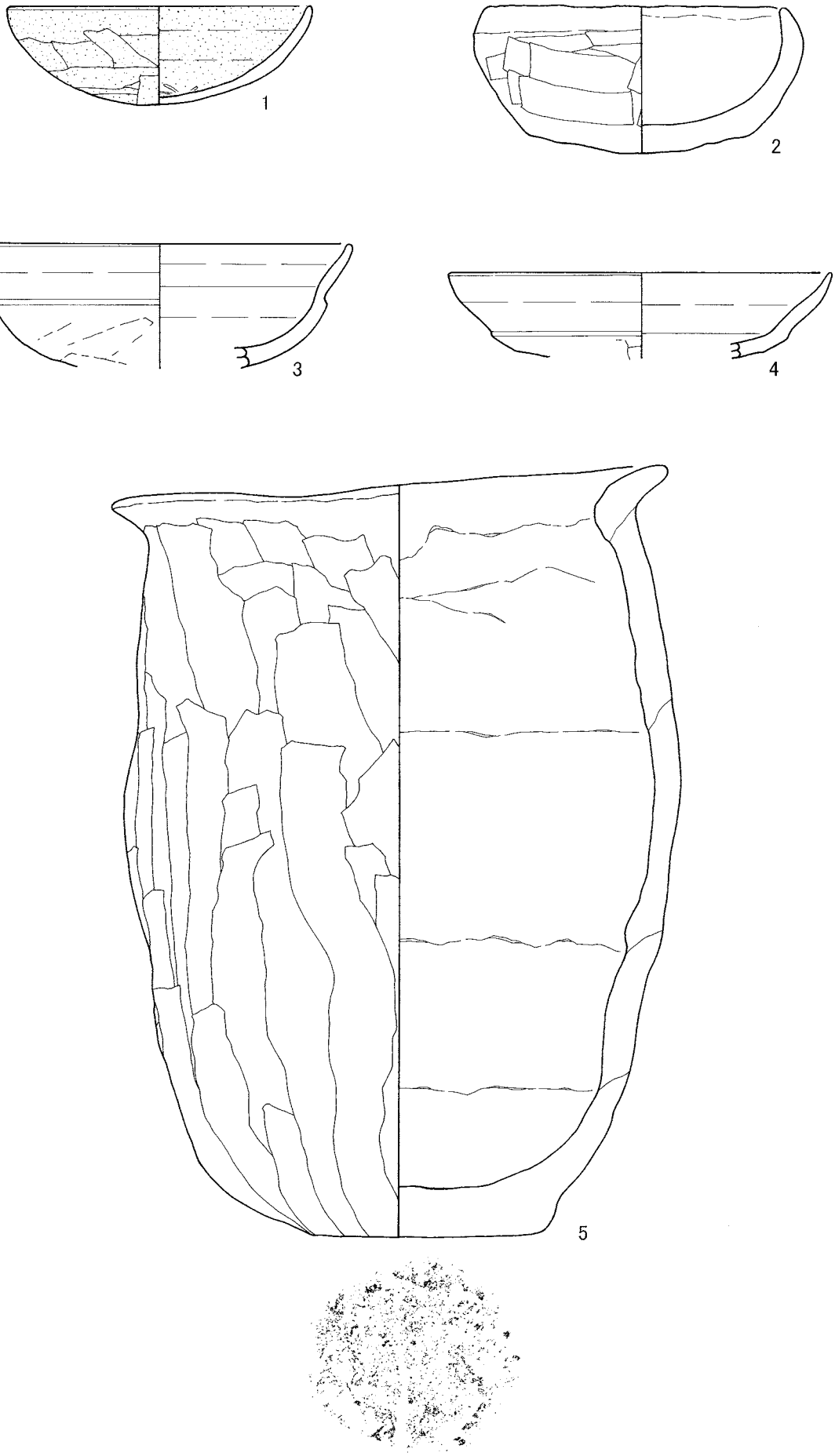


第47図　36号住居出土遺物（1/2）

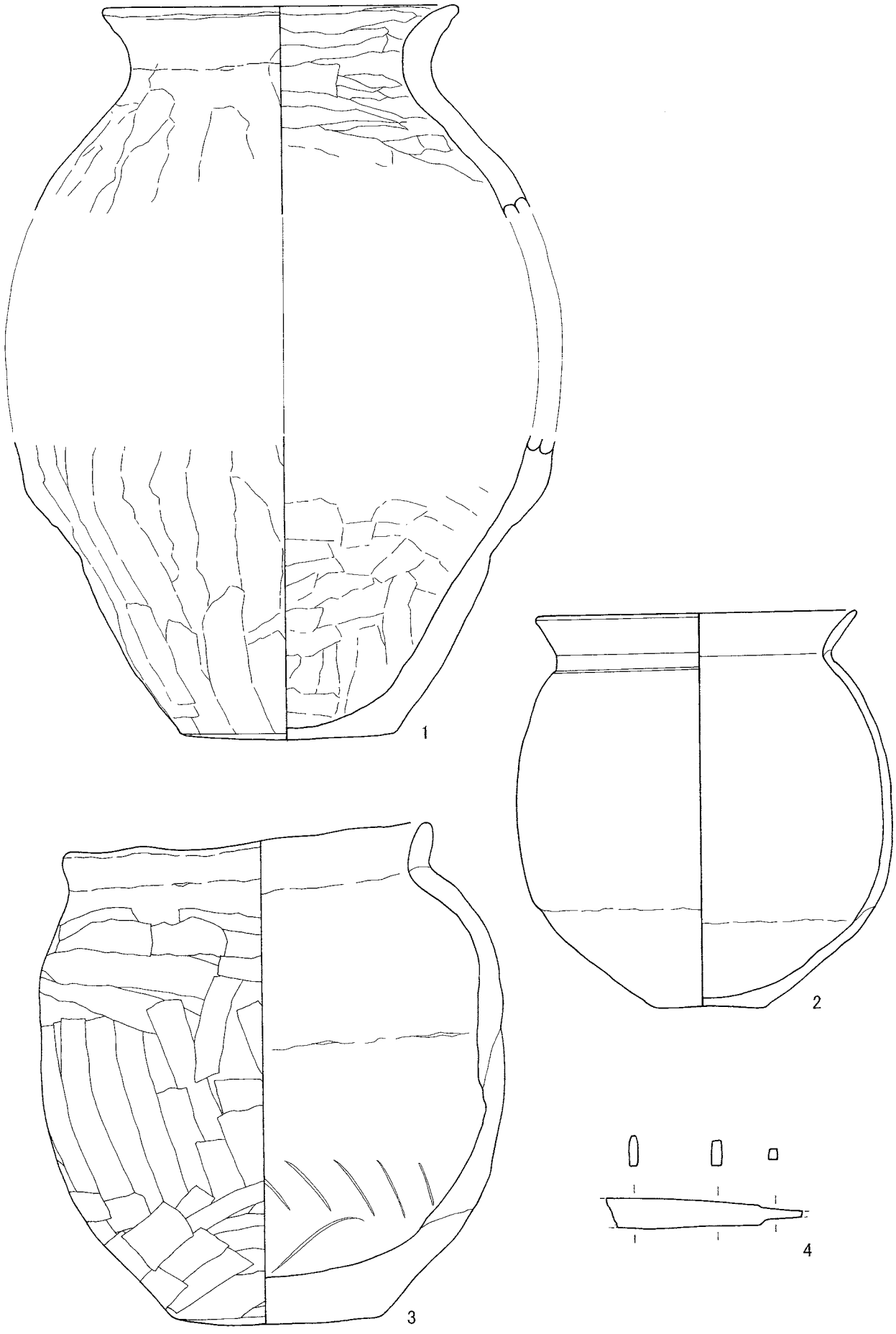




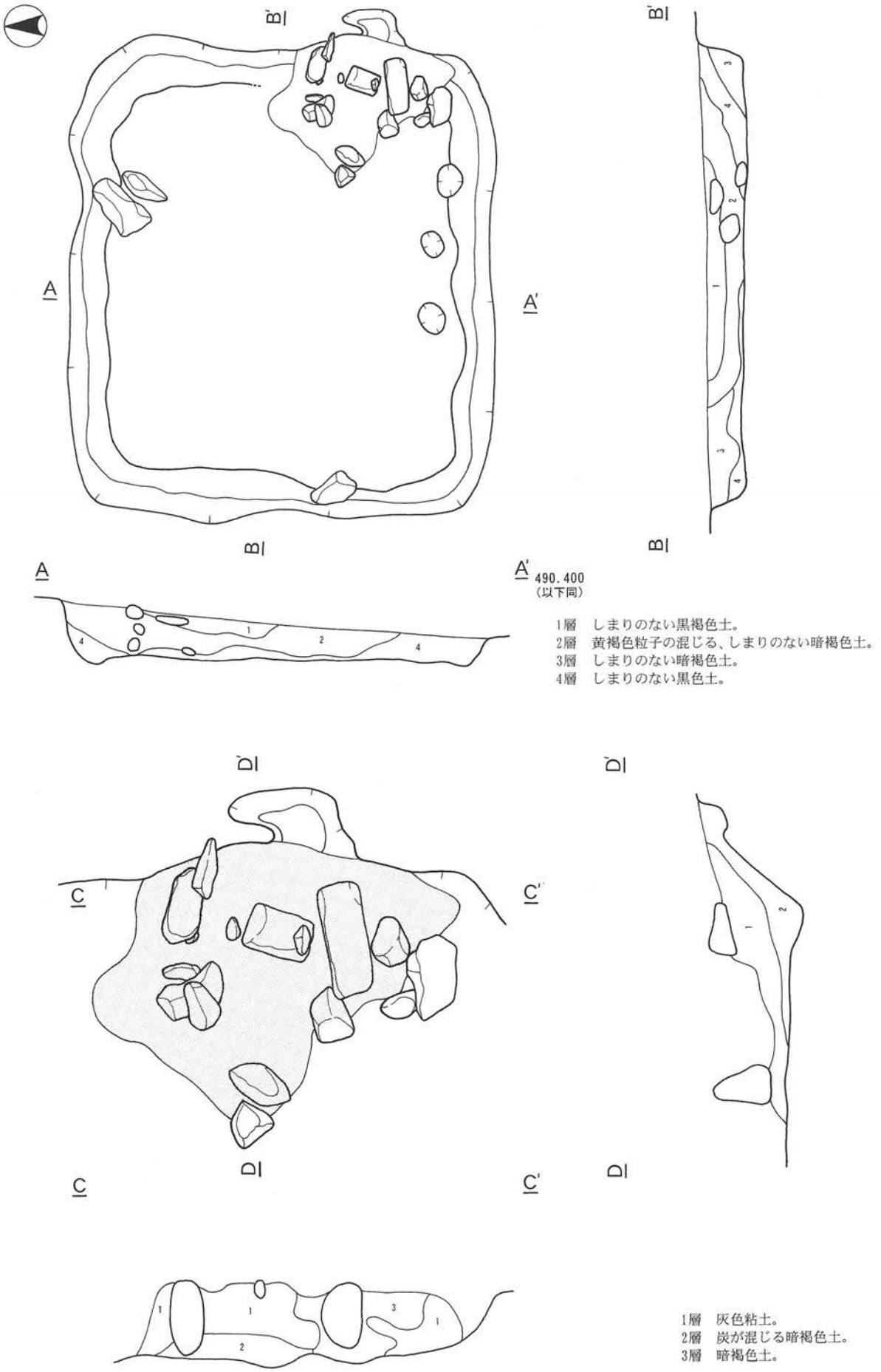
第48図　29号住居出土遺物（1/2）　30号住居（1/40）



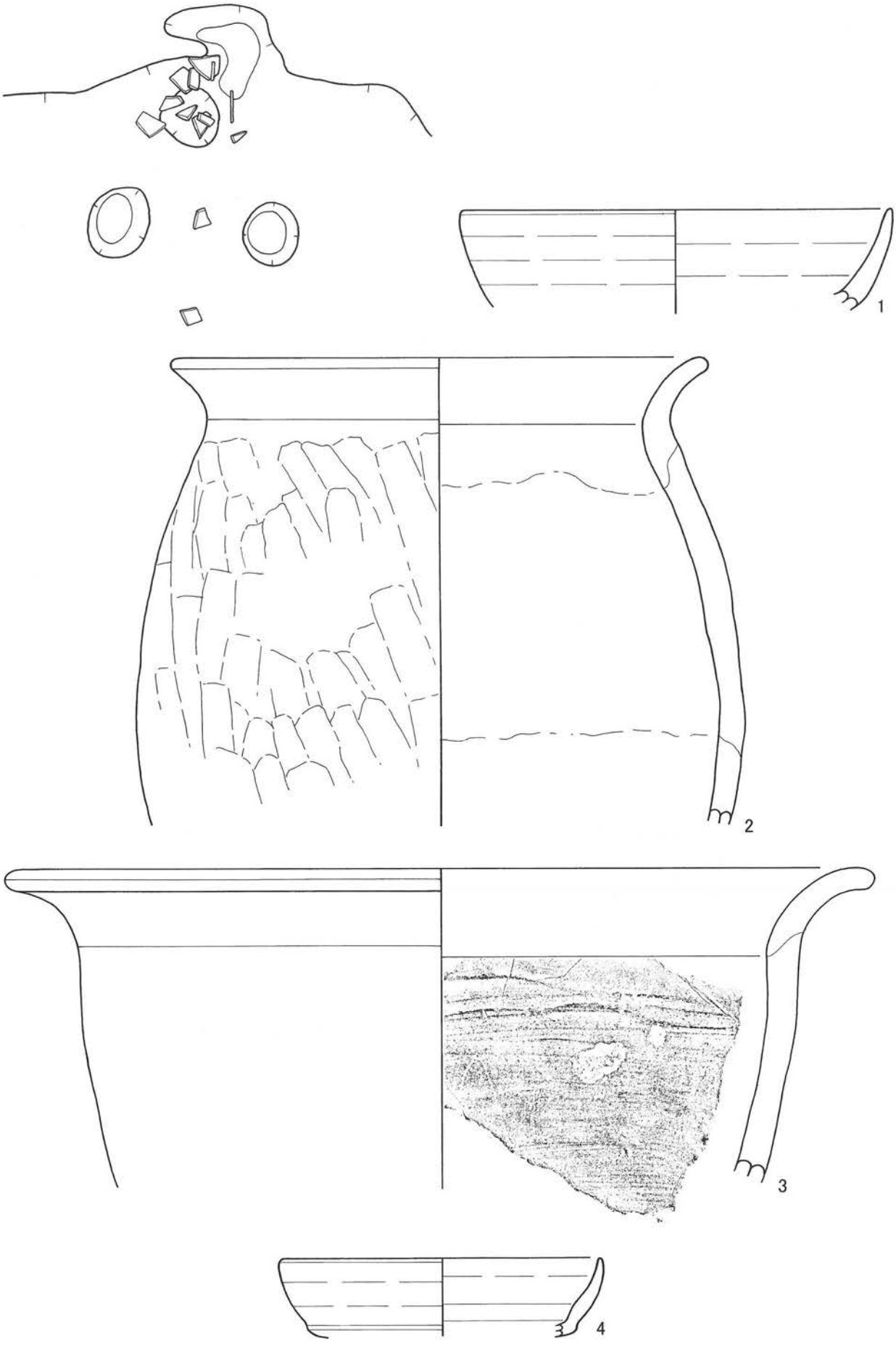
第49図　30号住居出土遺物（1/2）



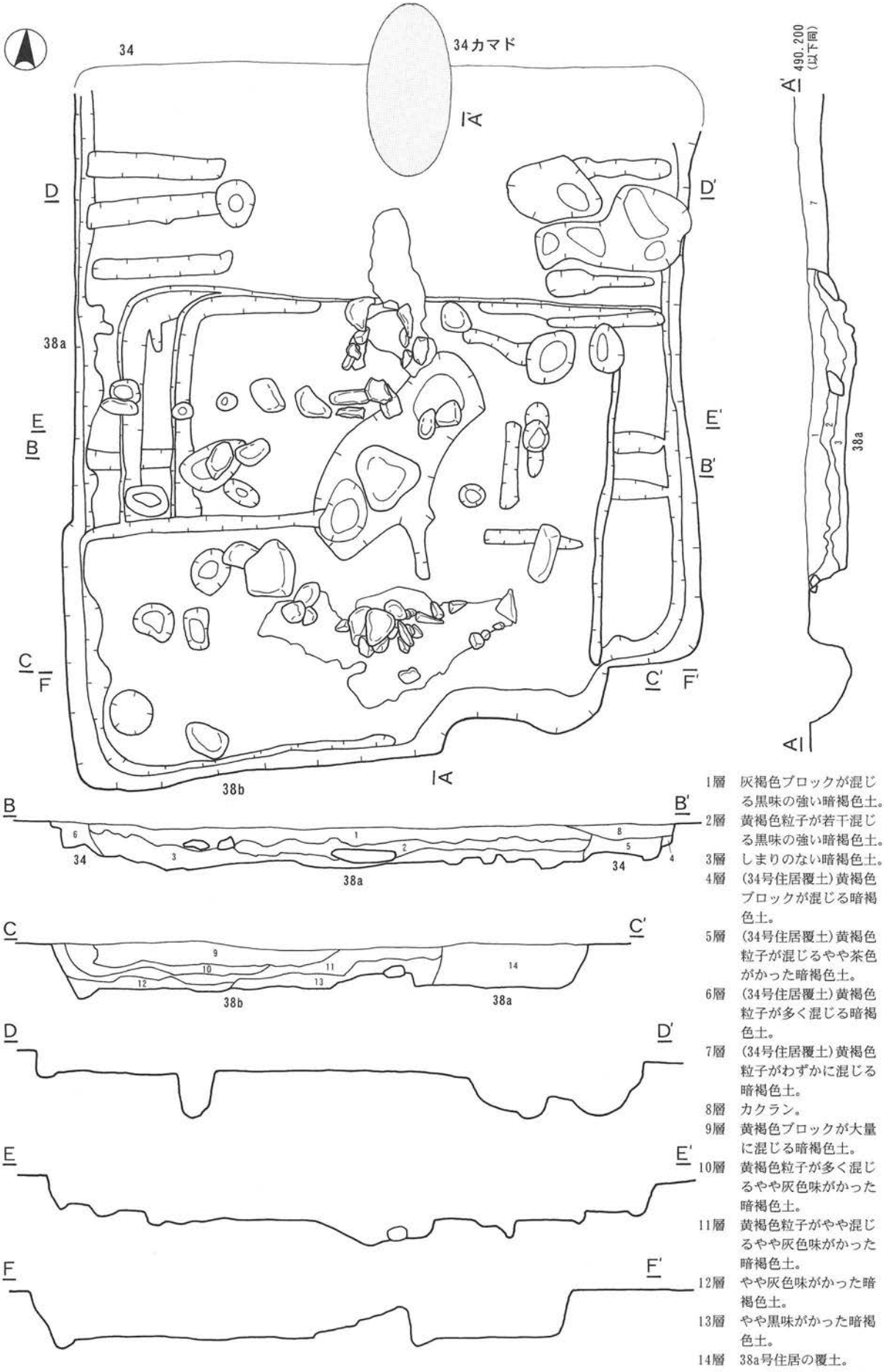
第50図　30号住居出土遺物（1/2、 2 1/4）



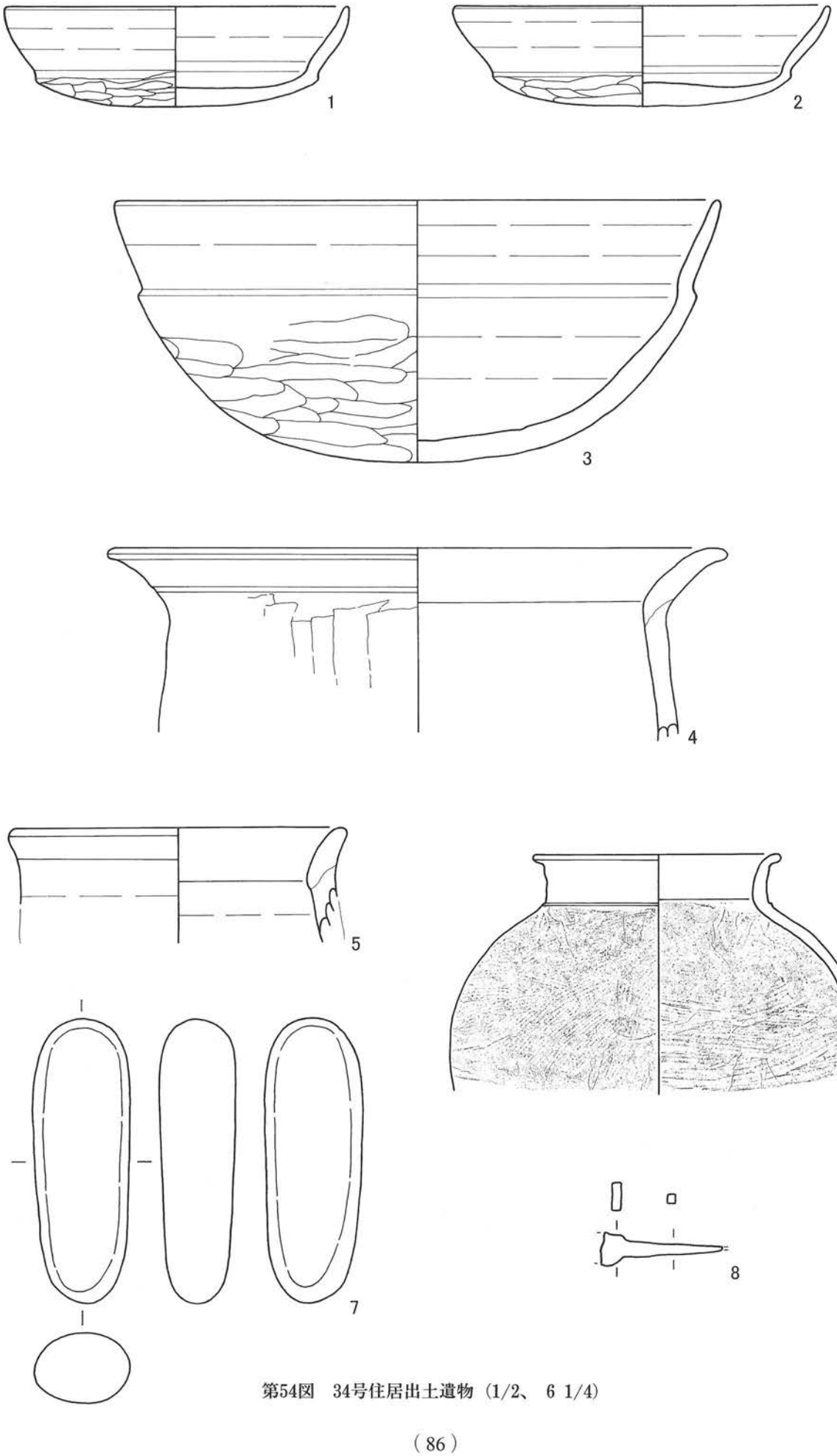
第51図　32号住居（1/40）　32号住居カマド（1/20）



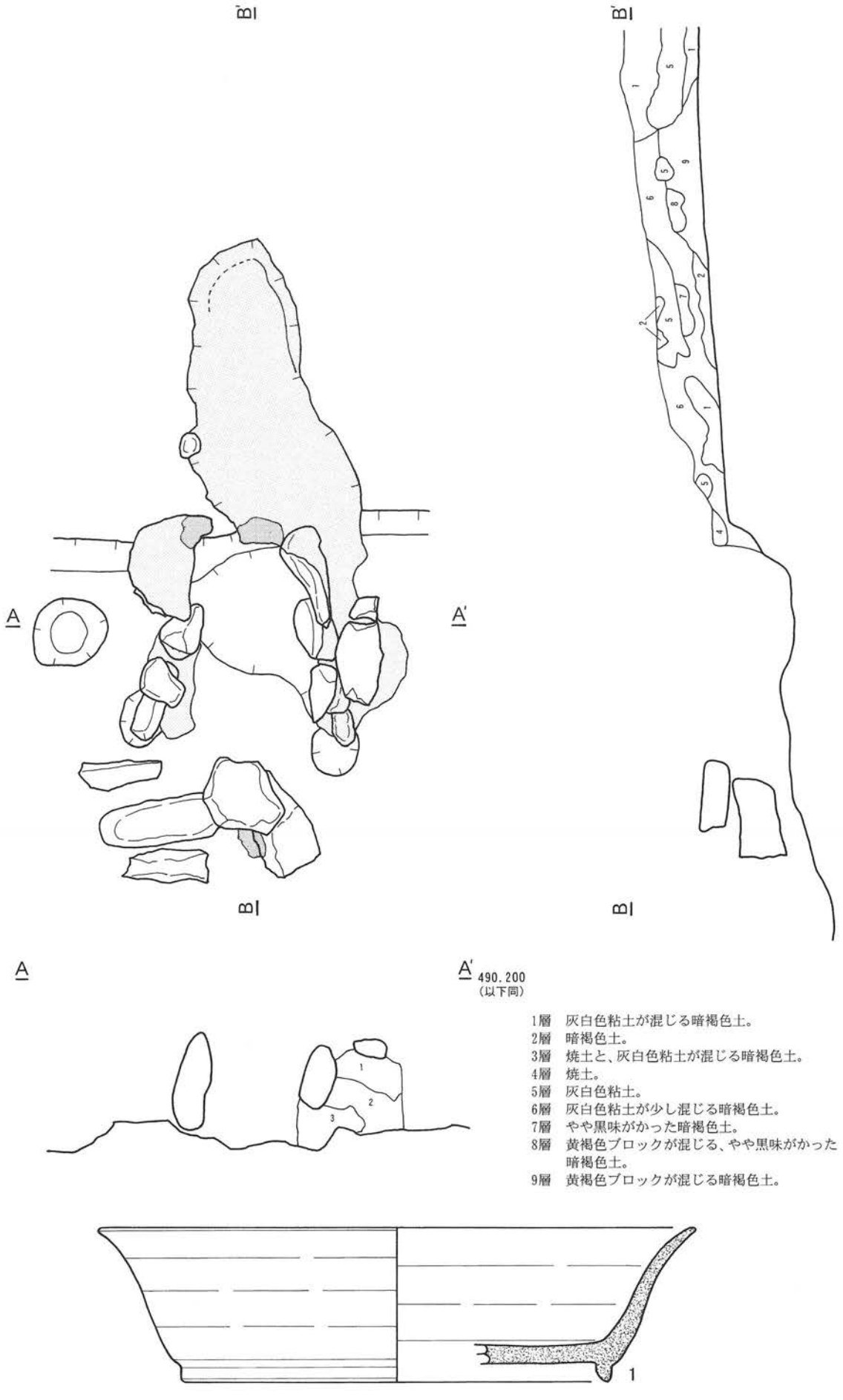
第52図　32号住居カマド（1/20）　32号住居出土遺物（1/2）



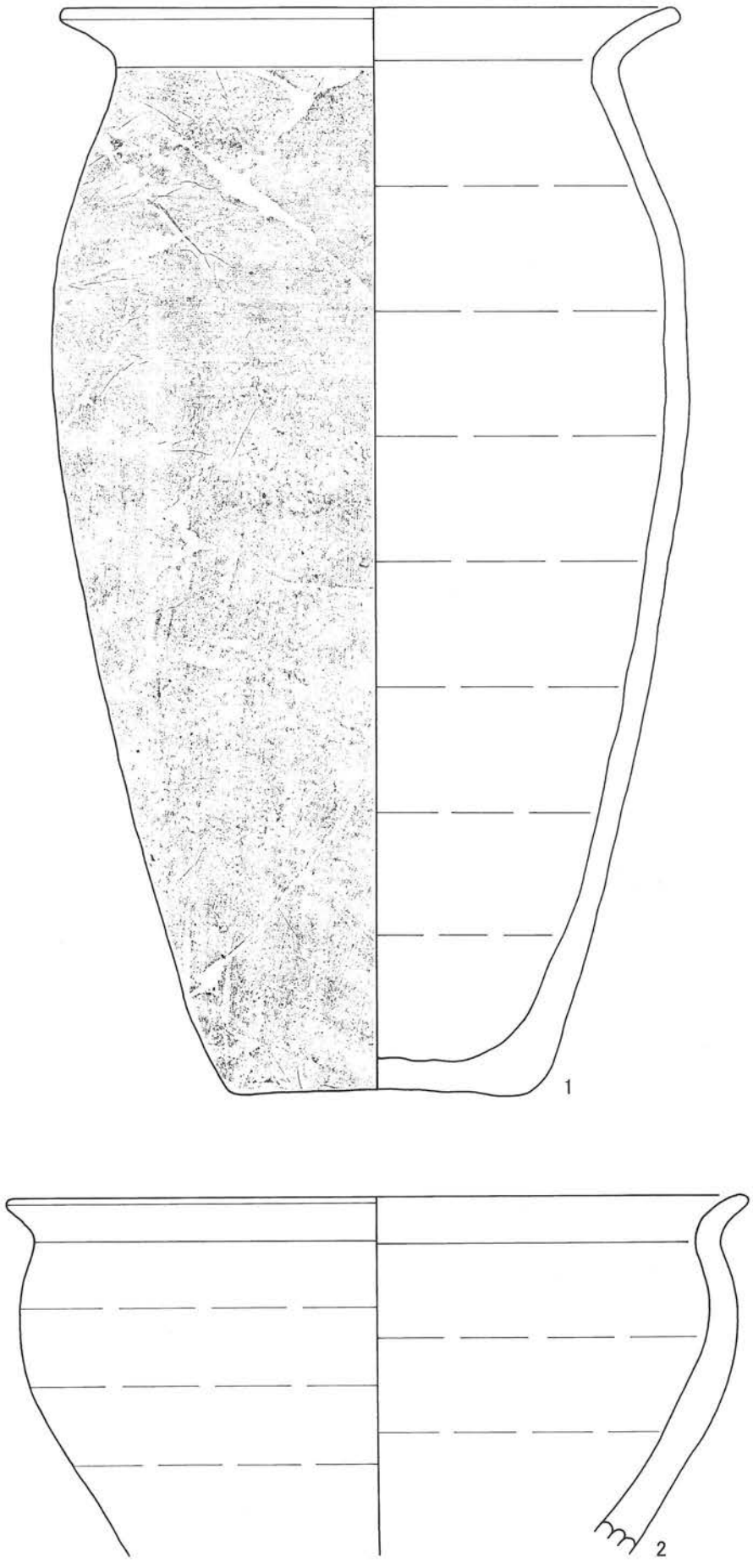
第53図　34号・38a号・38b号住居（1/60）



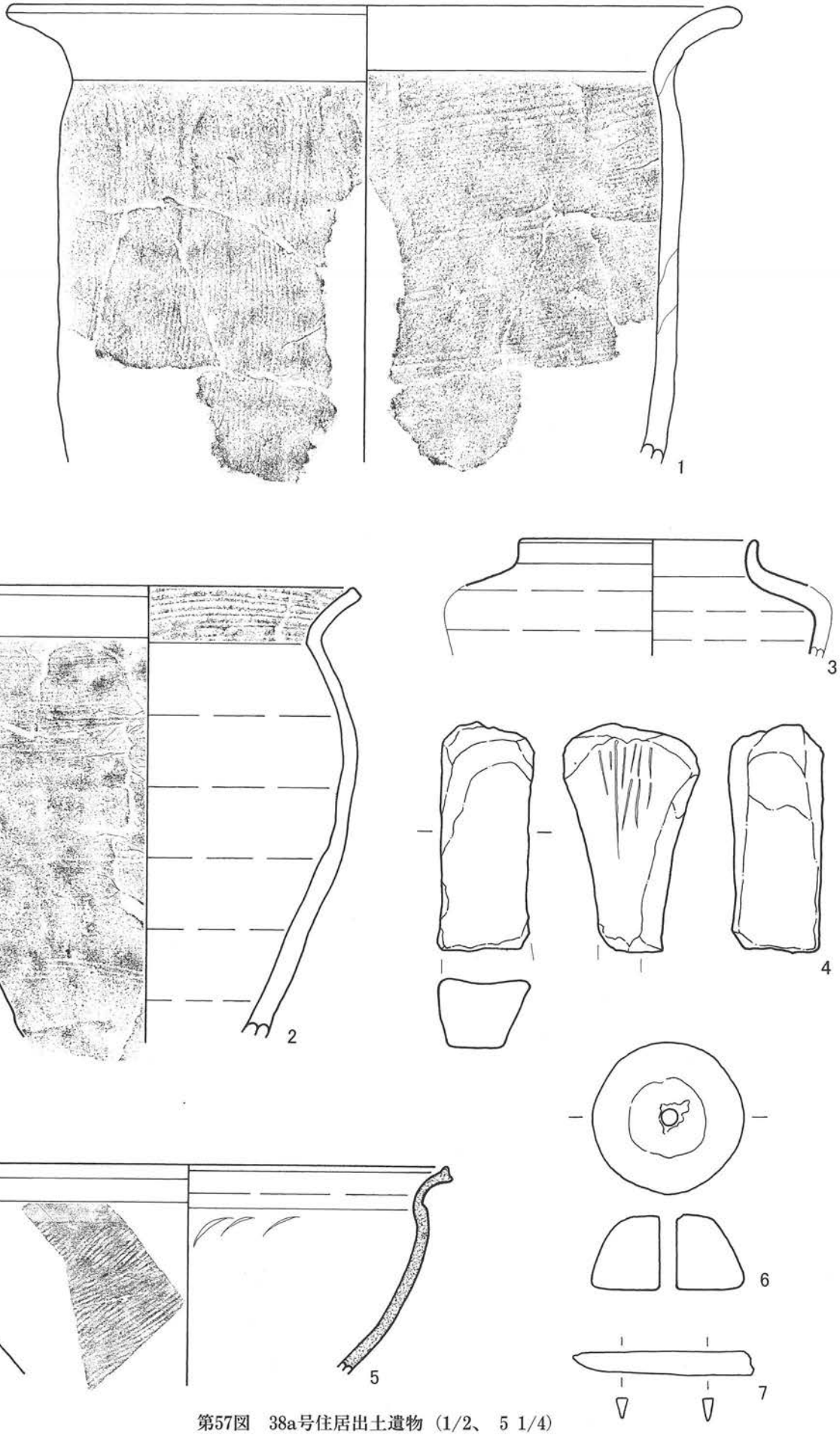
第54図　34号住居出土遺物（1/2、 6 1/4）



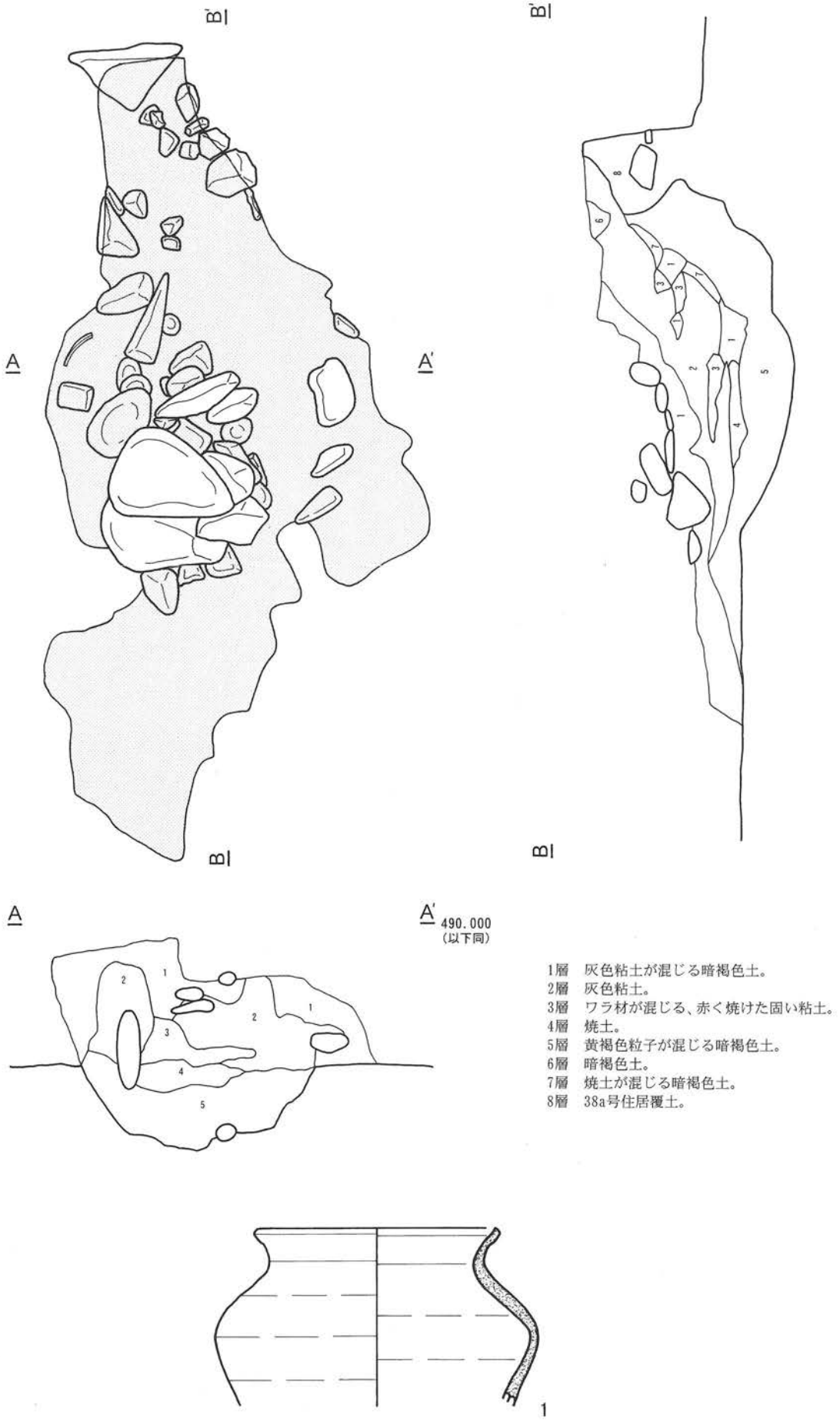
第55図　38a号住居カマド（1/20）　38a号住居出土遺物（1/2）



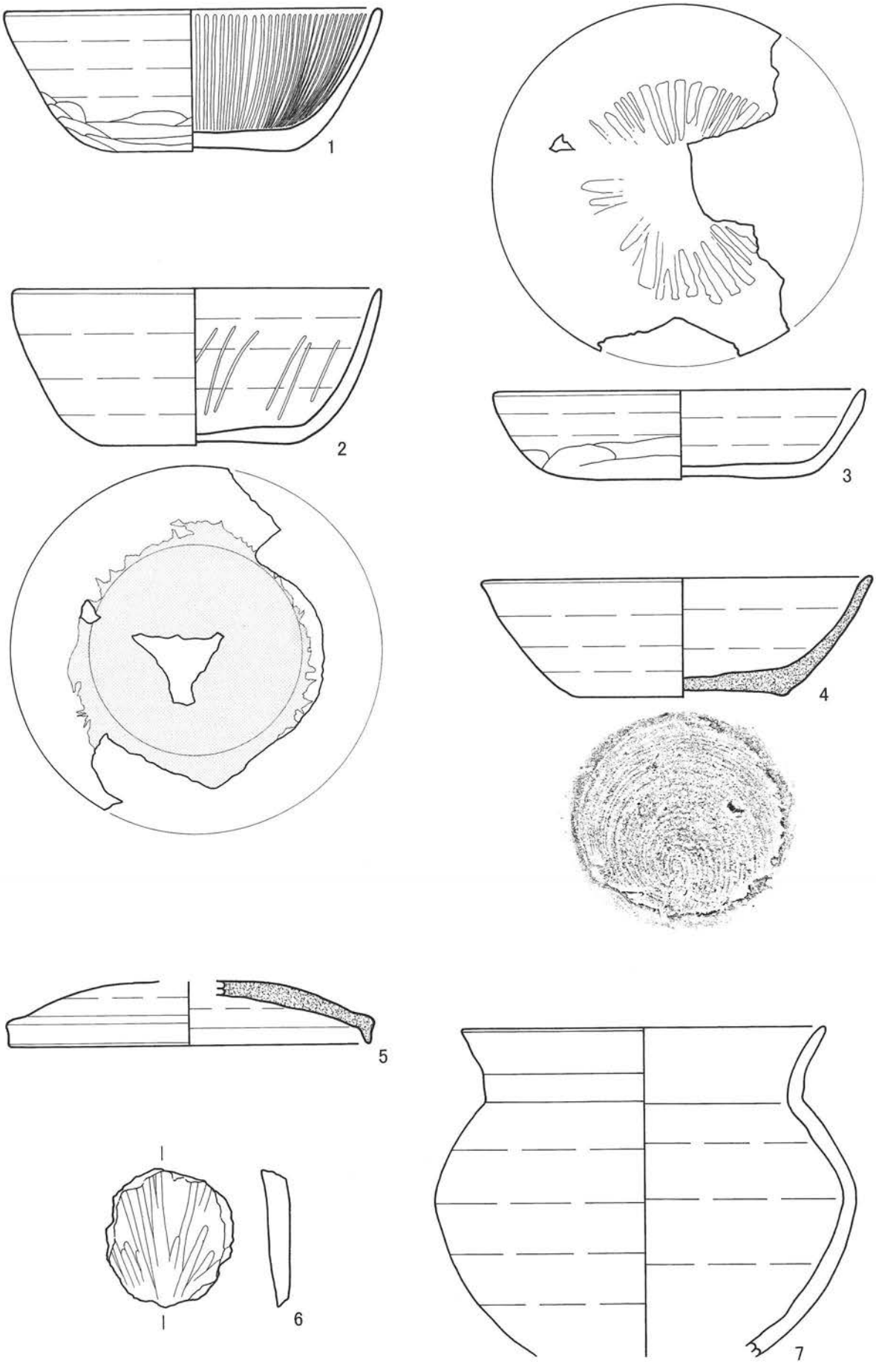
第56図　38a号住居出土遺物（1/2）



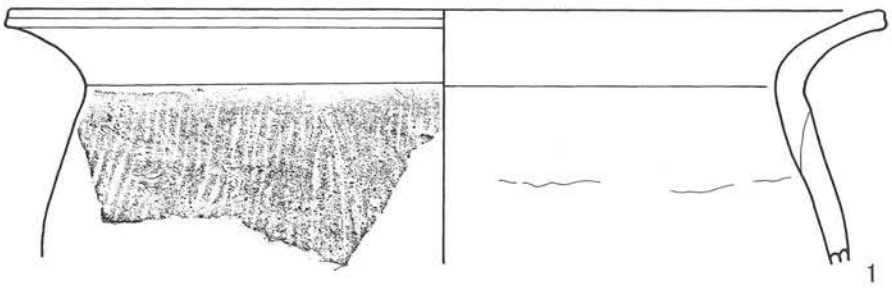
第57図　38a号住居出土遺物（1/2、 5 1/4）

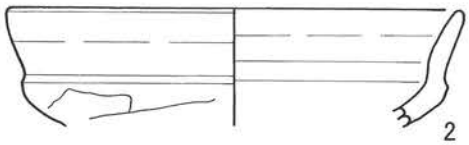


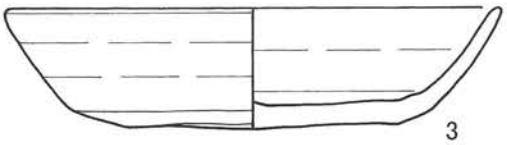
第58図　38b号住居カマド（1/20）　38b号住居出土遺物（1/2）

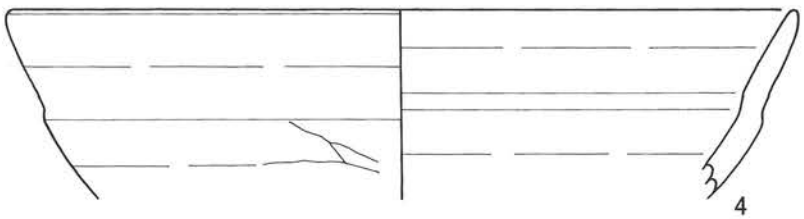


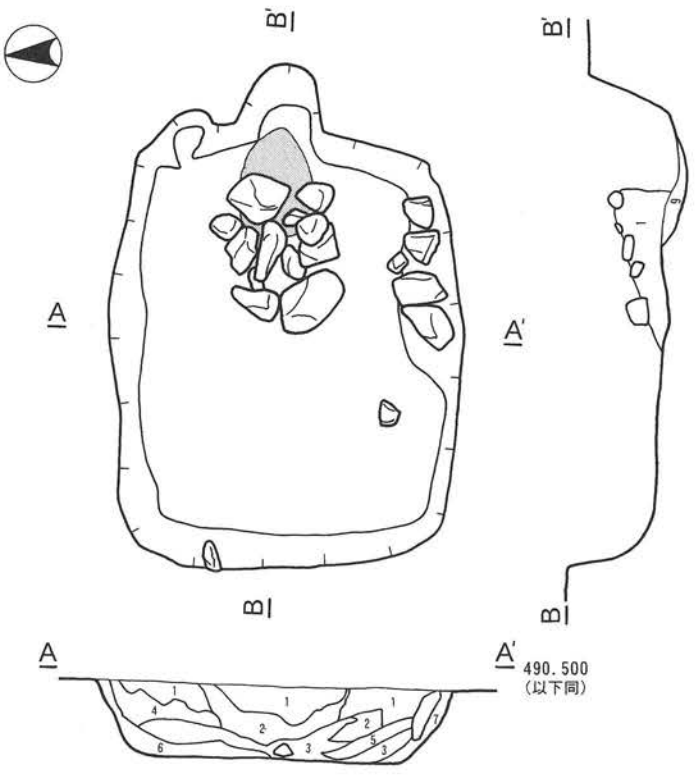
第59図　38b号住居出土遺物（1/2）





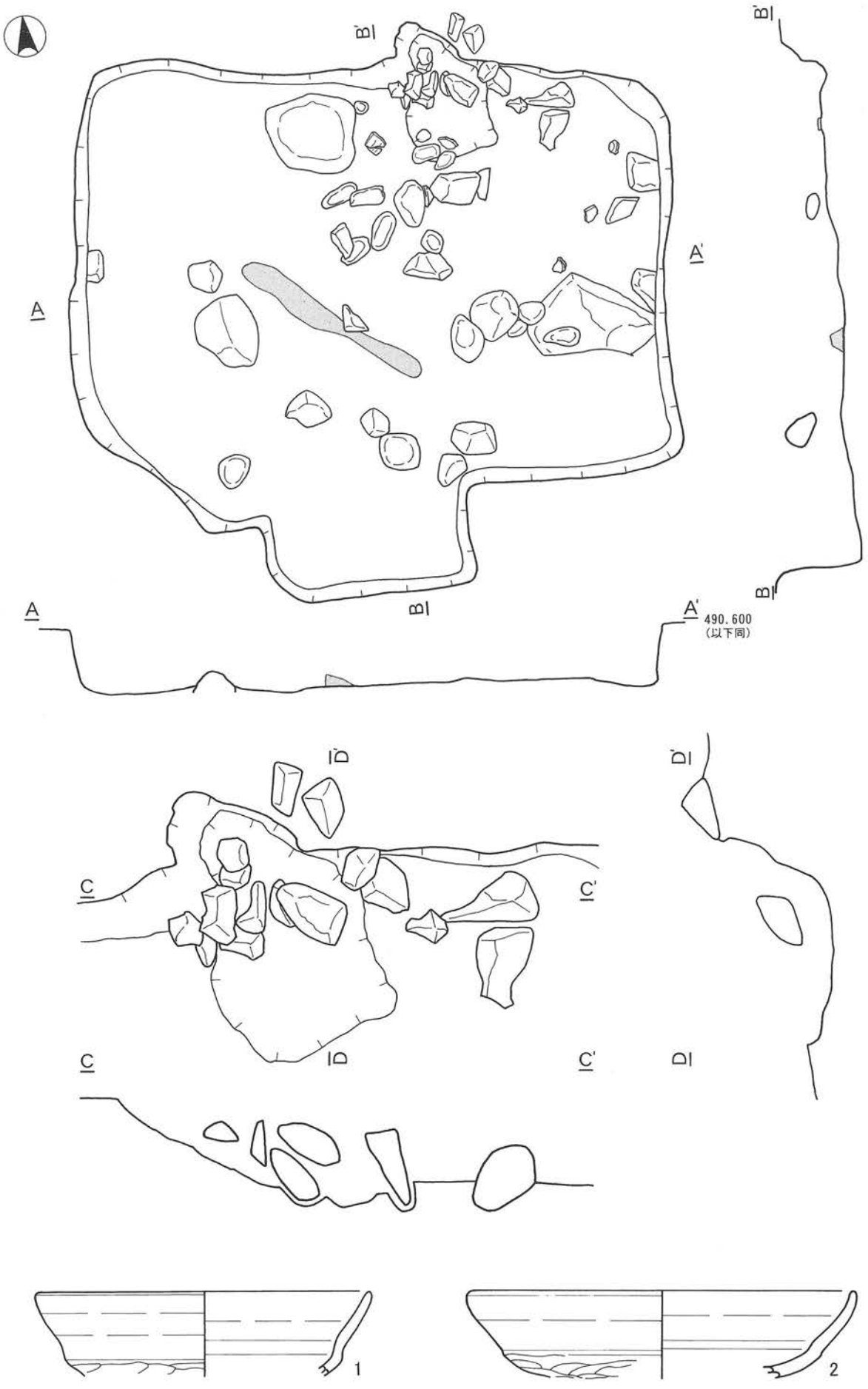




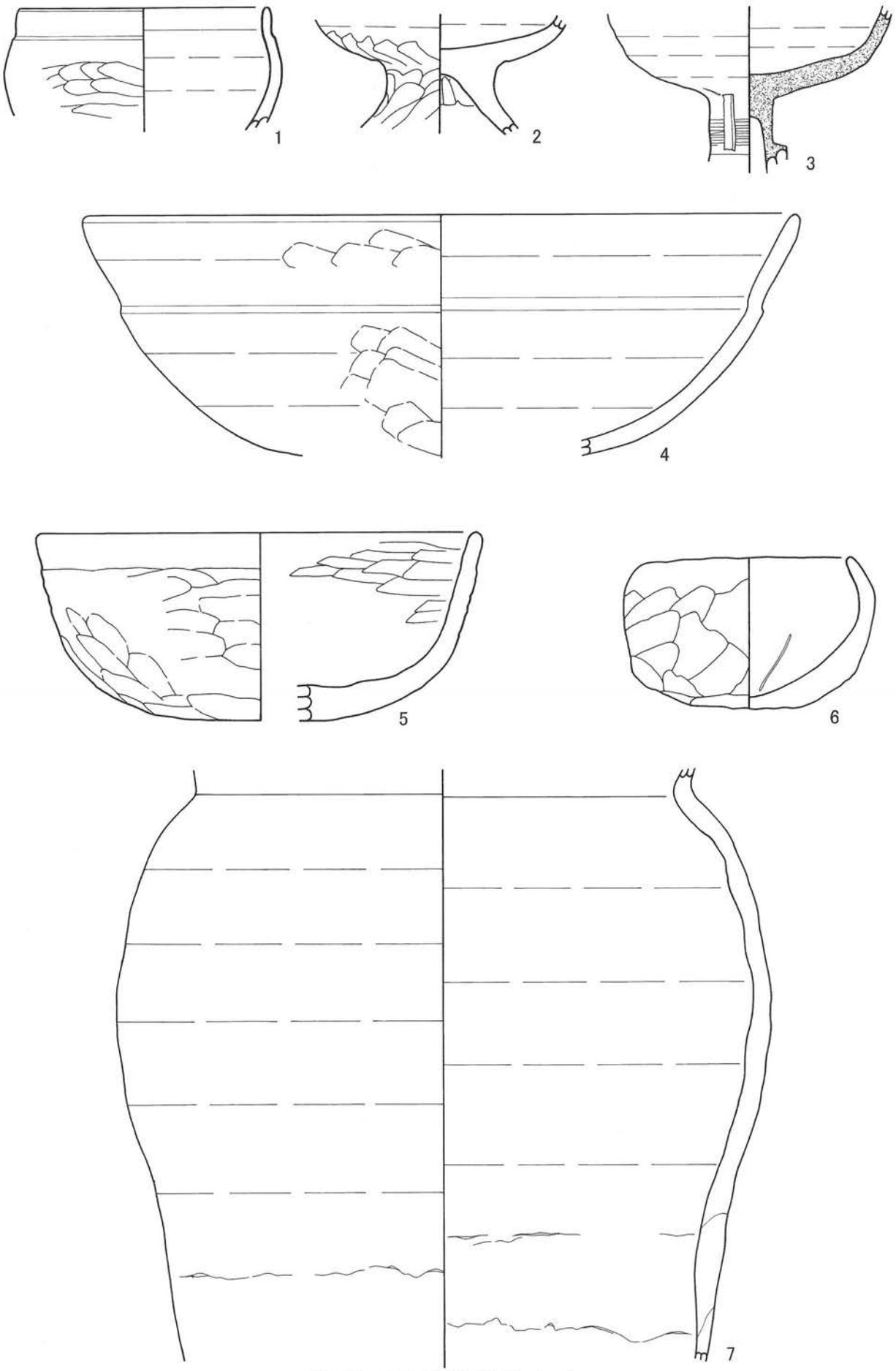


1層　暗褐色土。
2層　黄褐色粒子が混じる暗褐色土。
3層　黄褐色粒子がわずかに混じる、やや黒味がかった暗褐色土。
4層　やや黒味がかった暗褐色土。
5層　炭のよう黒色粒子が多く混じる暗褐色土。
6層　黄褐色粒子が少し混じる暗褐色土。
7層　黄褐色土。
8層　焼土粒子が多く混じる暗褐色土。

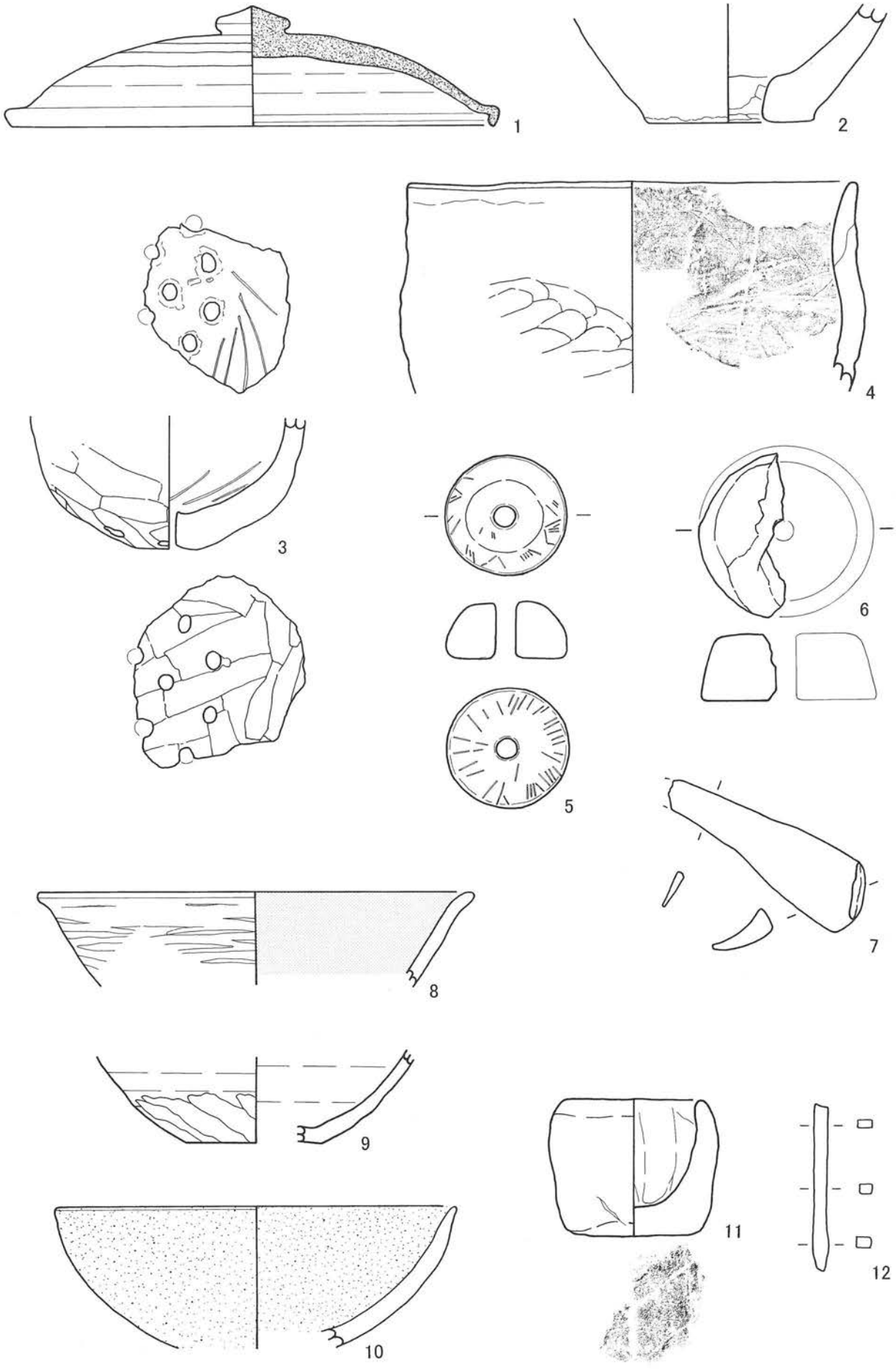
第60図　38b号住居出土遺物（1/2）　35号住居（1/40）



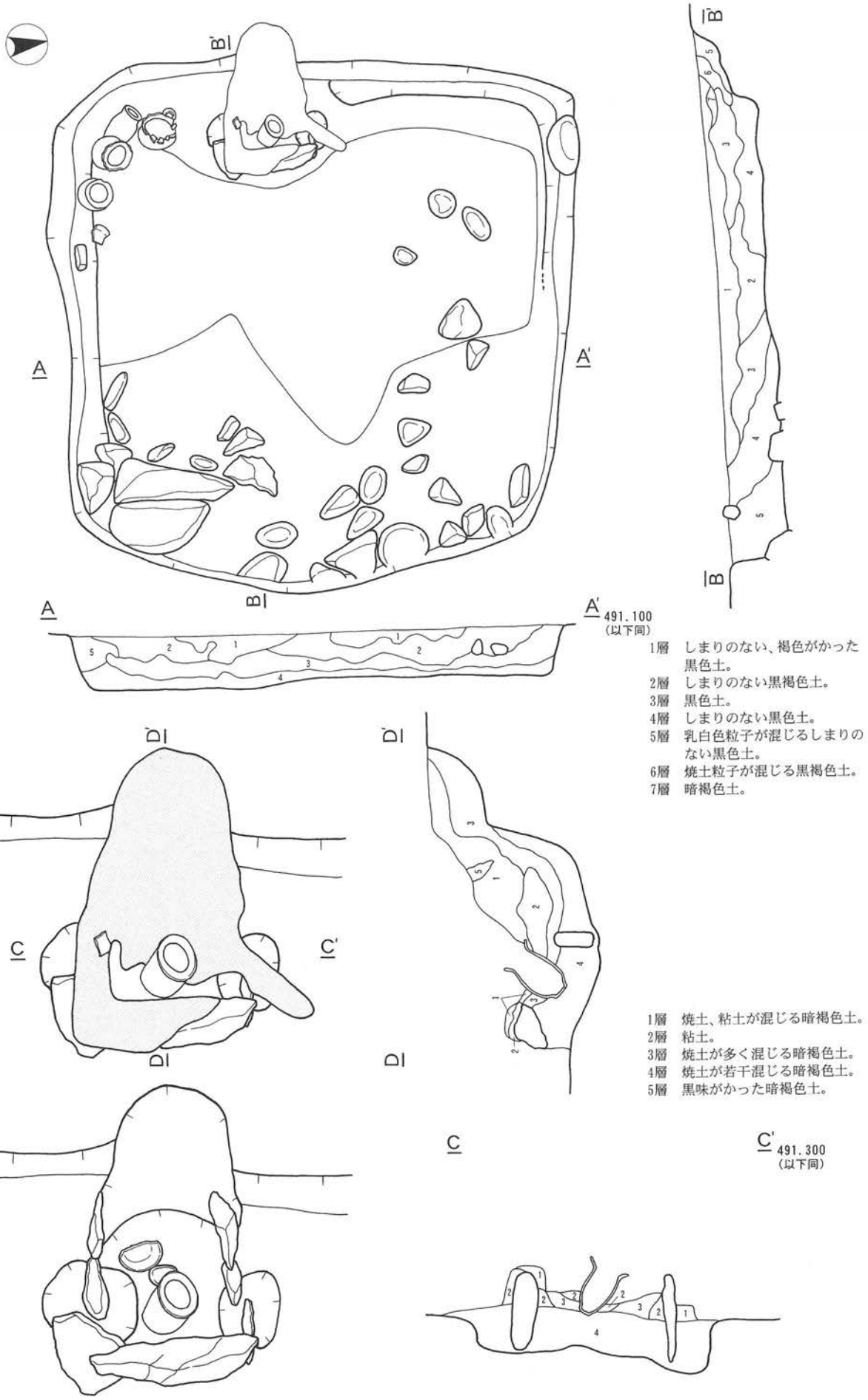
第61図　37号住居（1/40）　37号住居出土遺物（1/2）



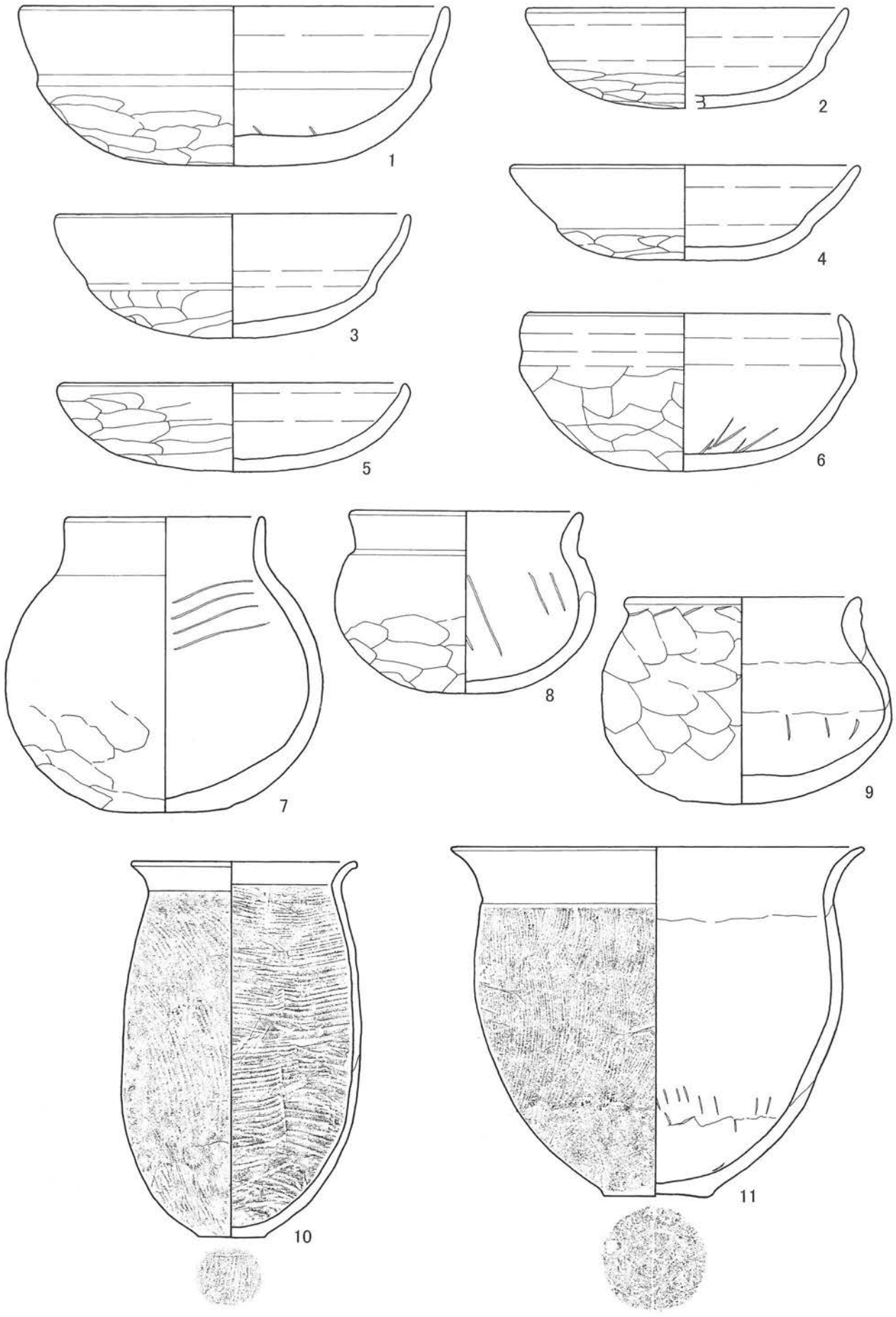
第62図　37号住居出土遺物（1/2）



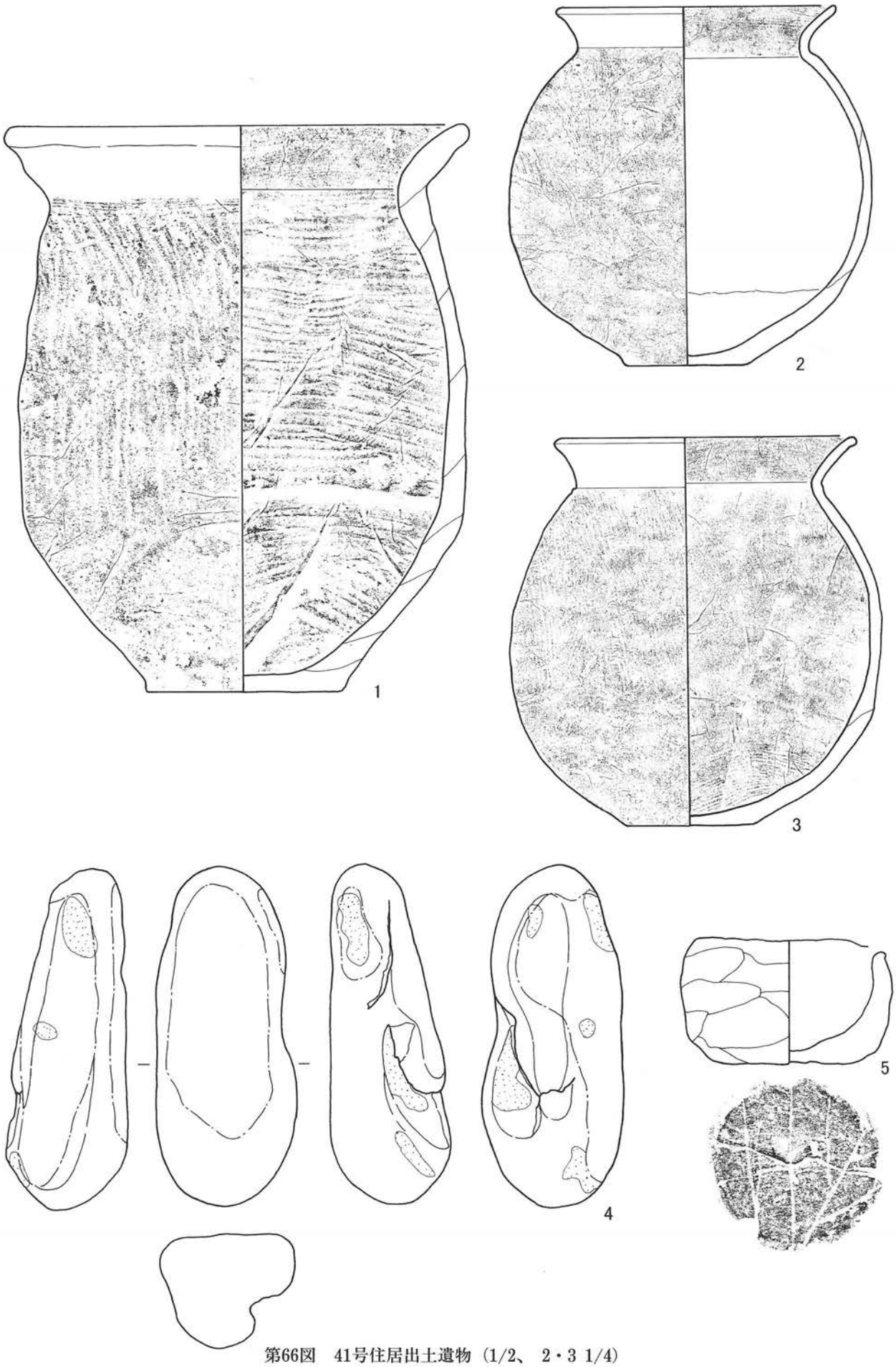
第63図　37号住居出土遺物（1～7 1/2）　39号住居出土遺物（8～12 1/2）



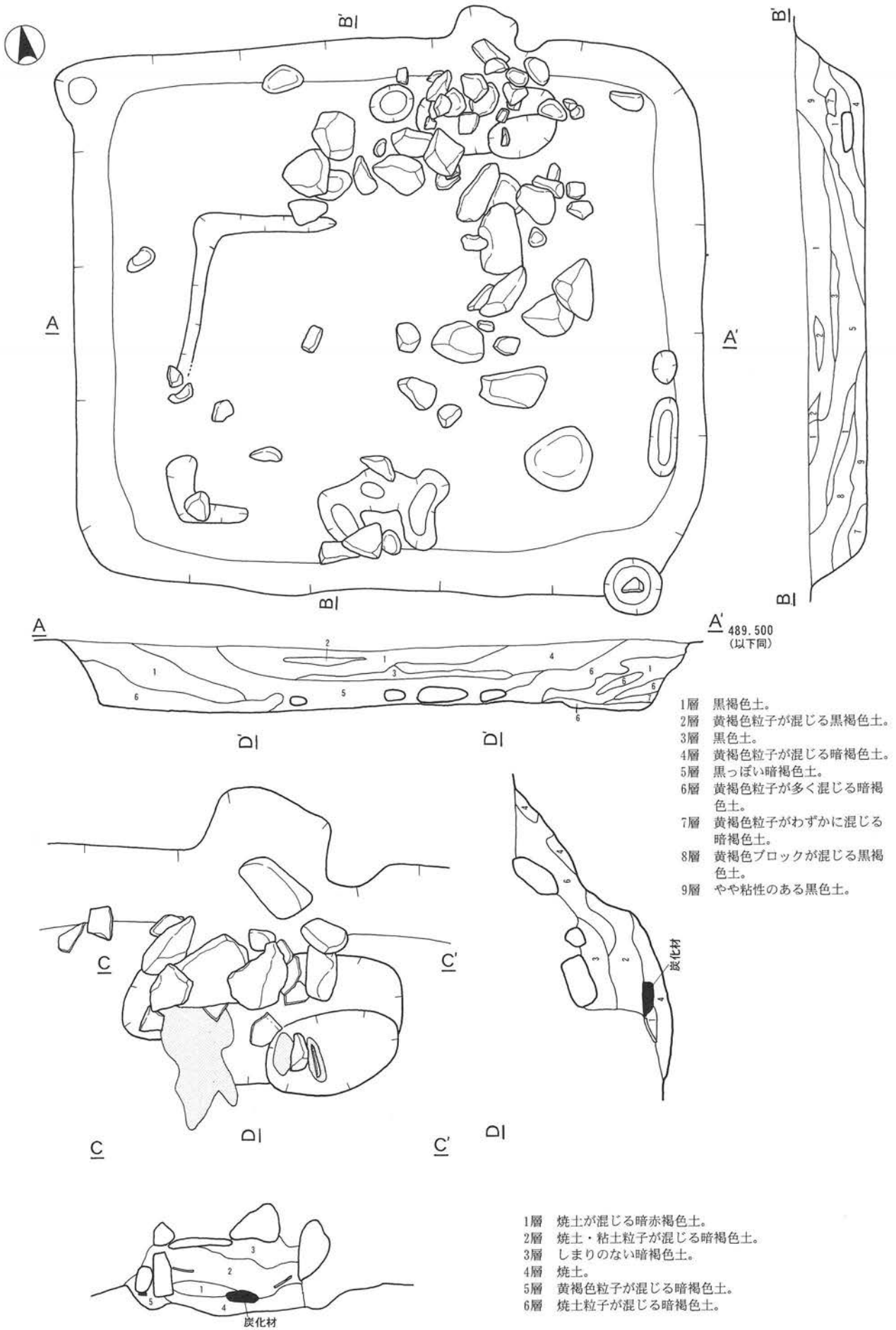
第64図　41号住居（1/40）　41号住居カマド（1/20）



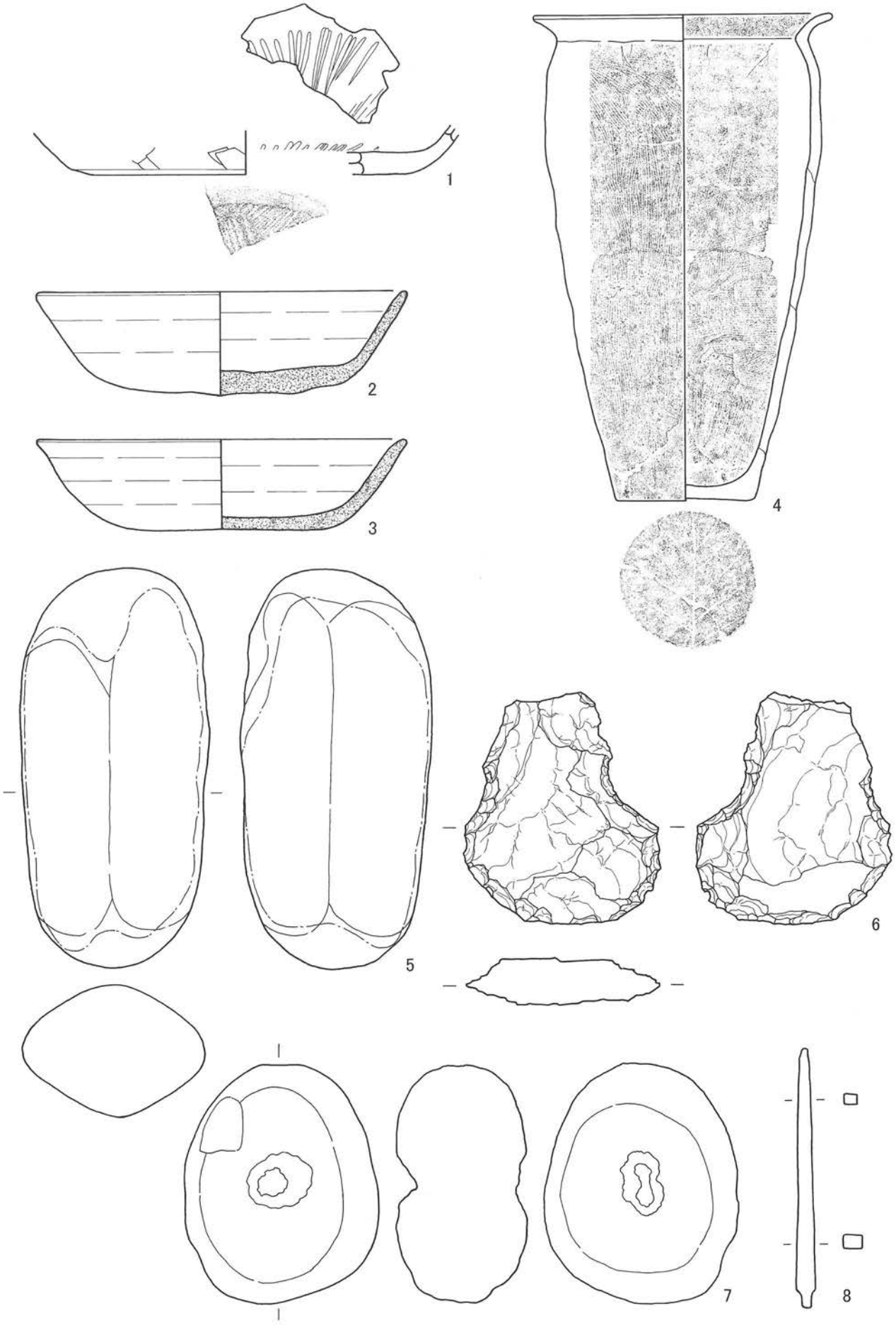
第65図　41号住居出土遺物（1/2、 10・11 1/4）



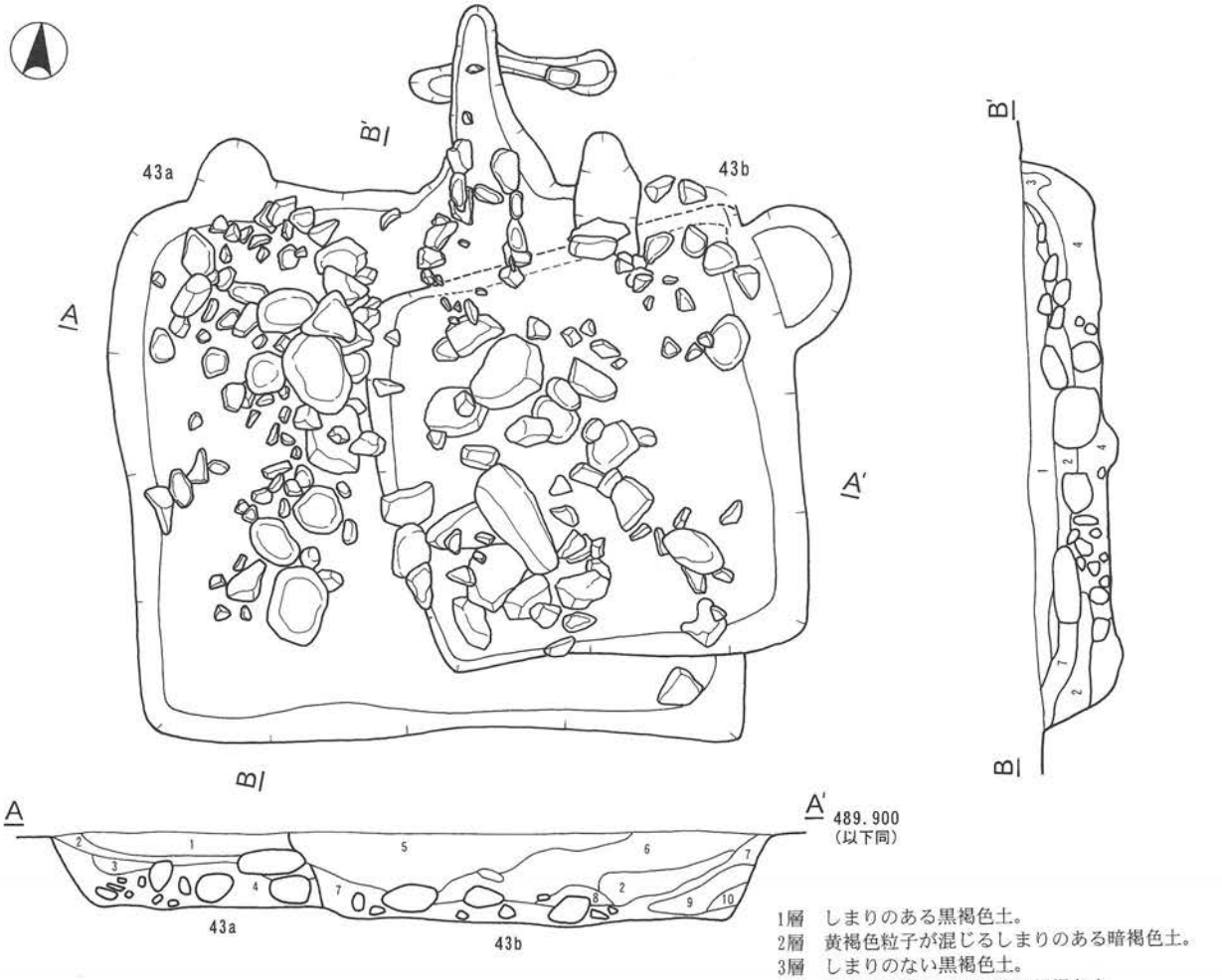
第66図　41号住居出土遺物（1/2、 2・3 1/4）



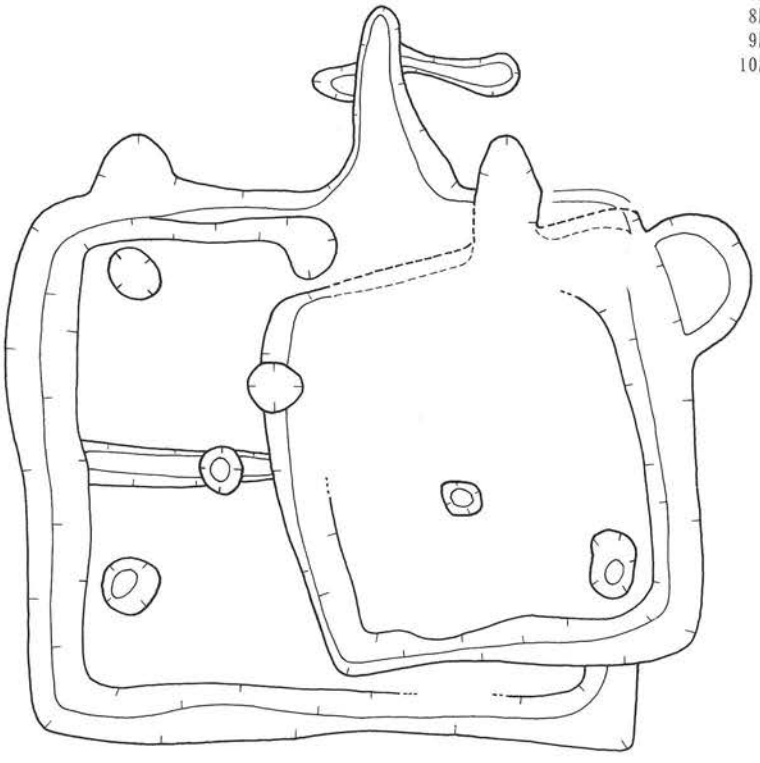
第67図　42号住居（1/40）　42号住居カマド（1/20）



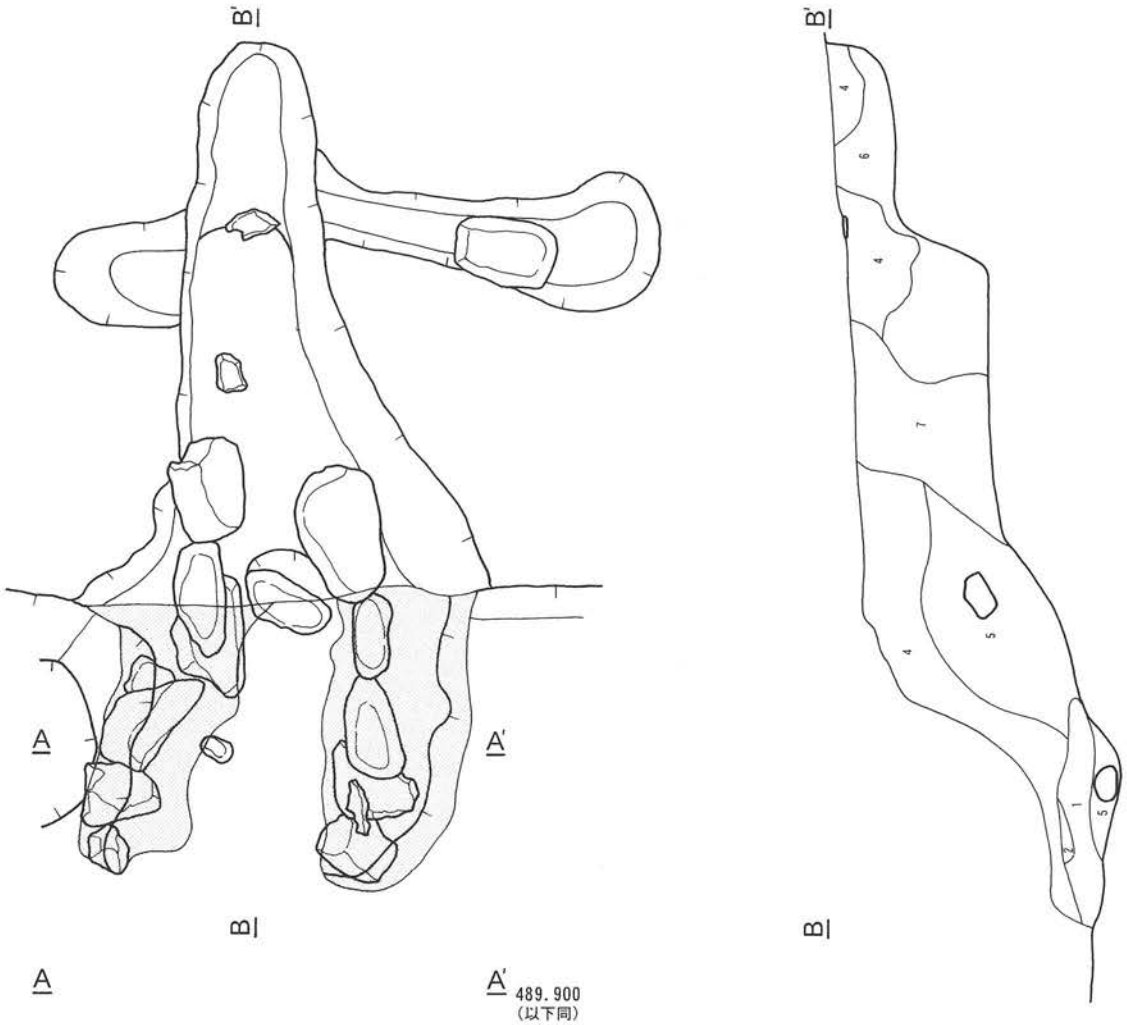
第68図　42号住居出土遺物（1/2、 4 1/4）

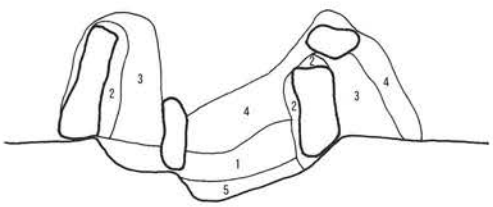


1層　しまりのある黒褐色土。
2層　黄褐色粒子が混じるしまりのある暗褐色土。
3層　しまりのない黒褐色土。
4層　しまりのない黒味の多い黒褐色土。
5層　しまりのある暗褐色土。
6層　しまりのあるやや黒味がかった暗褐色土。
7層　ややしまりのない黒褐色土。
8層　しまりのない暗褐色土。
9層　黄褐色粒子が混じるしまりの少ない黒褐色土。
10層　しまりのないくすんだ暗褐色土。

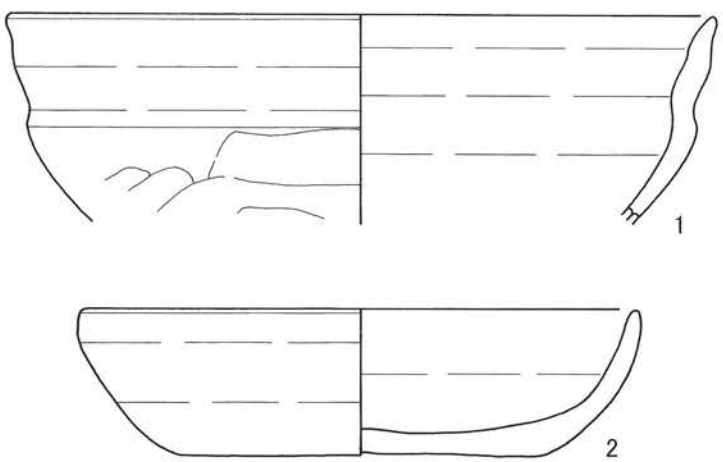


第69図　43a号・43b号住居（1/60）

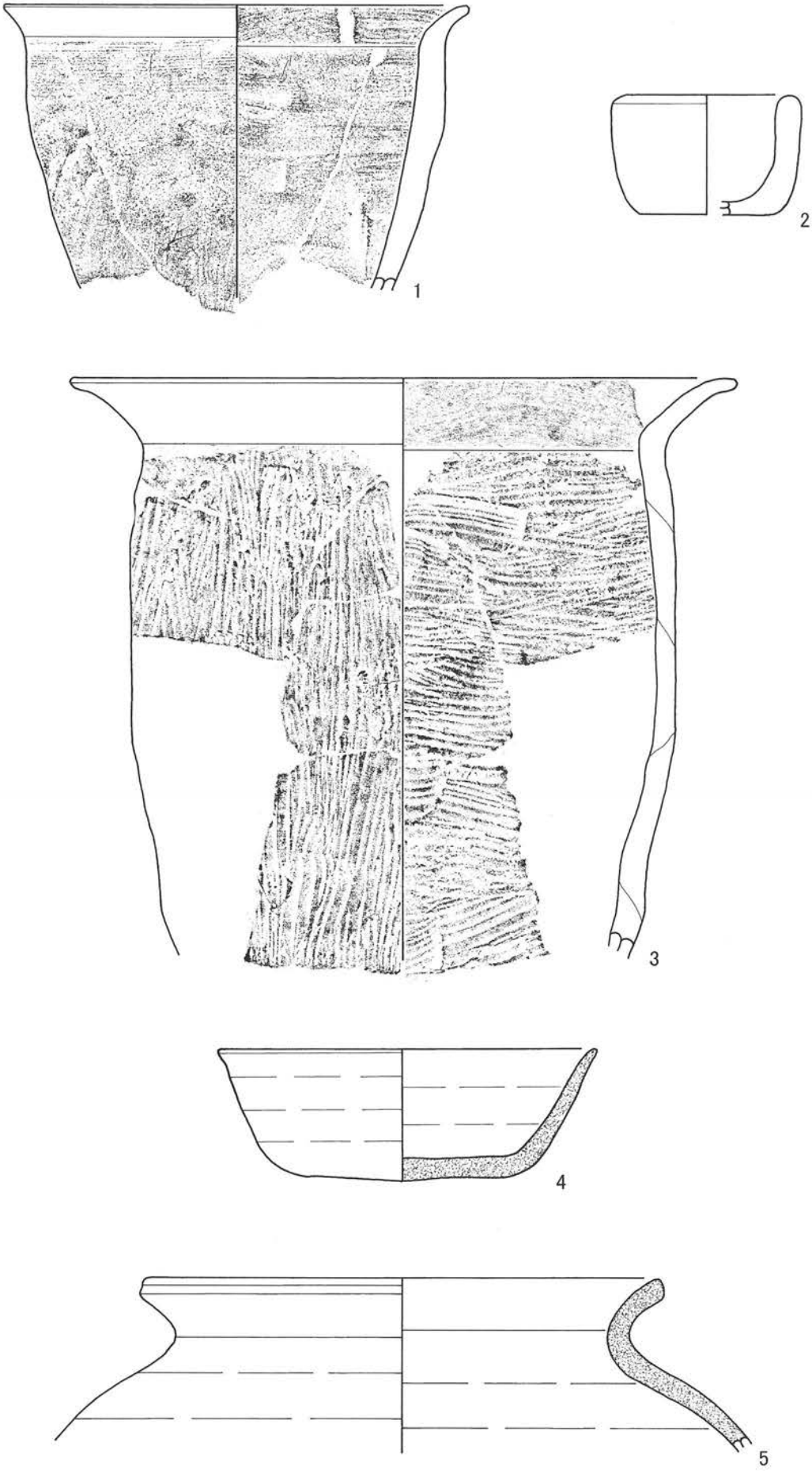




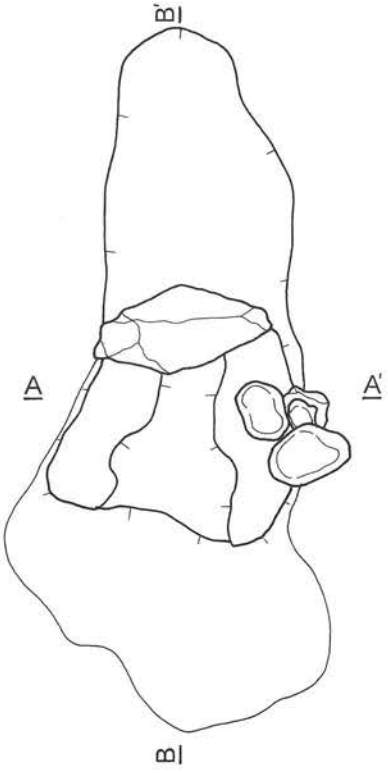
43a号住居カマド
1層　焼土。
2層　オレンジ色に焼けた粘土。
3層　灰白色粘土。
4層　灰白色粘土が混じる暗褐色土。
5層　灰白色粘土と焼土粒子が混じる暗褐色土。
6層　黄褐色粒子が混じる暗褐色土。

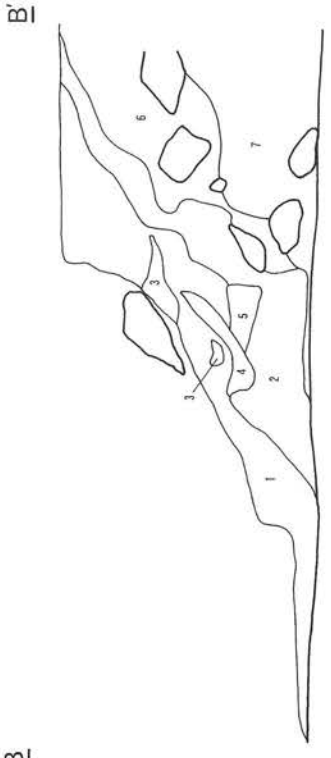


第70図　43a号住居カマド（1/20）　43a号住居出土遺物（1/2）

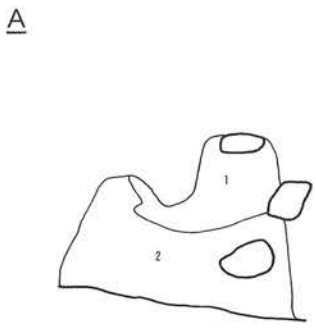


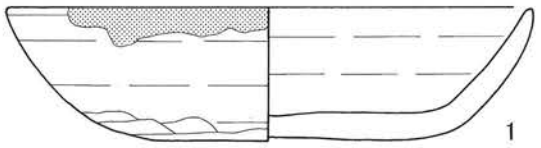
第71図　43a号住居出土遺物（1/2）

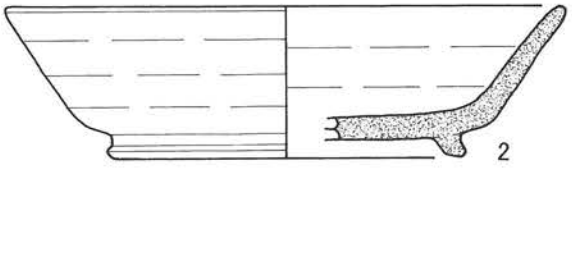


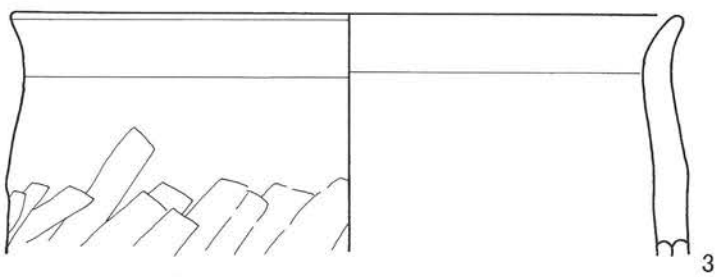


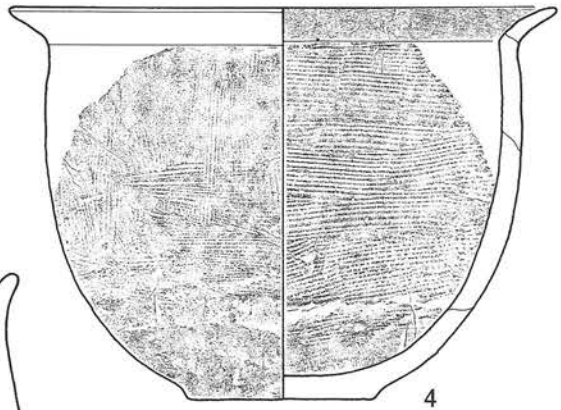
1層　灰白色粘土が混じる暗褐色土。
2層　灰白色粘土と焼土がわずかに混じる暗褐色土。
3層　粘土。
4層　焼土。
5層　灰色っぽい暗褐色土。
6層　(43a号住居覆土)黄褐色粒子が混じる暗褐色土。
7層　(43a号住居覆土)黄褐色粒子が多く混じる暗褐色土。





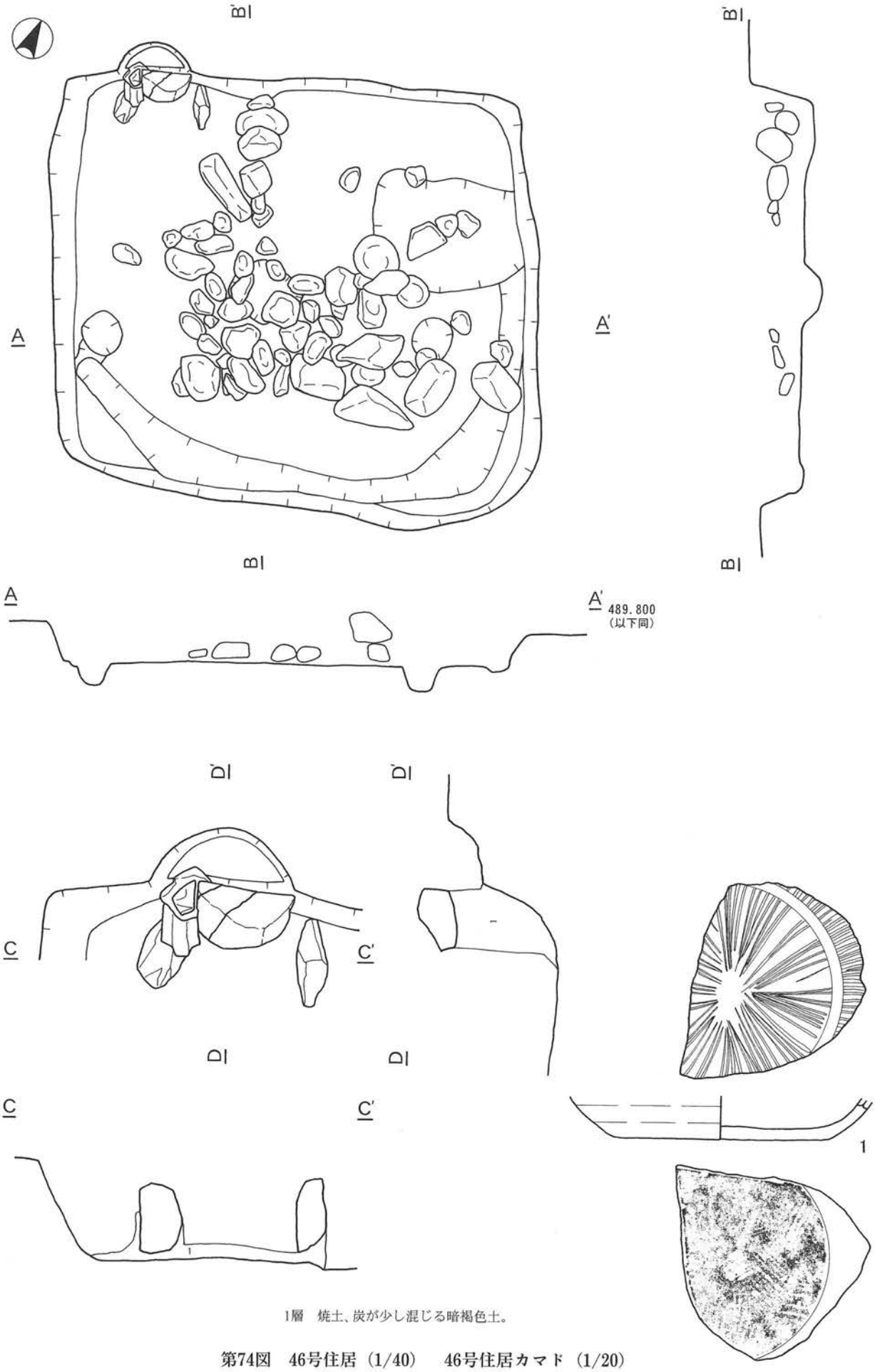






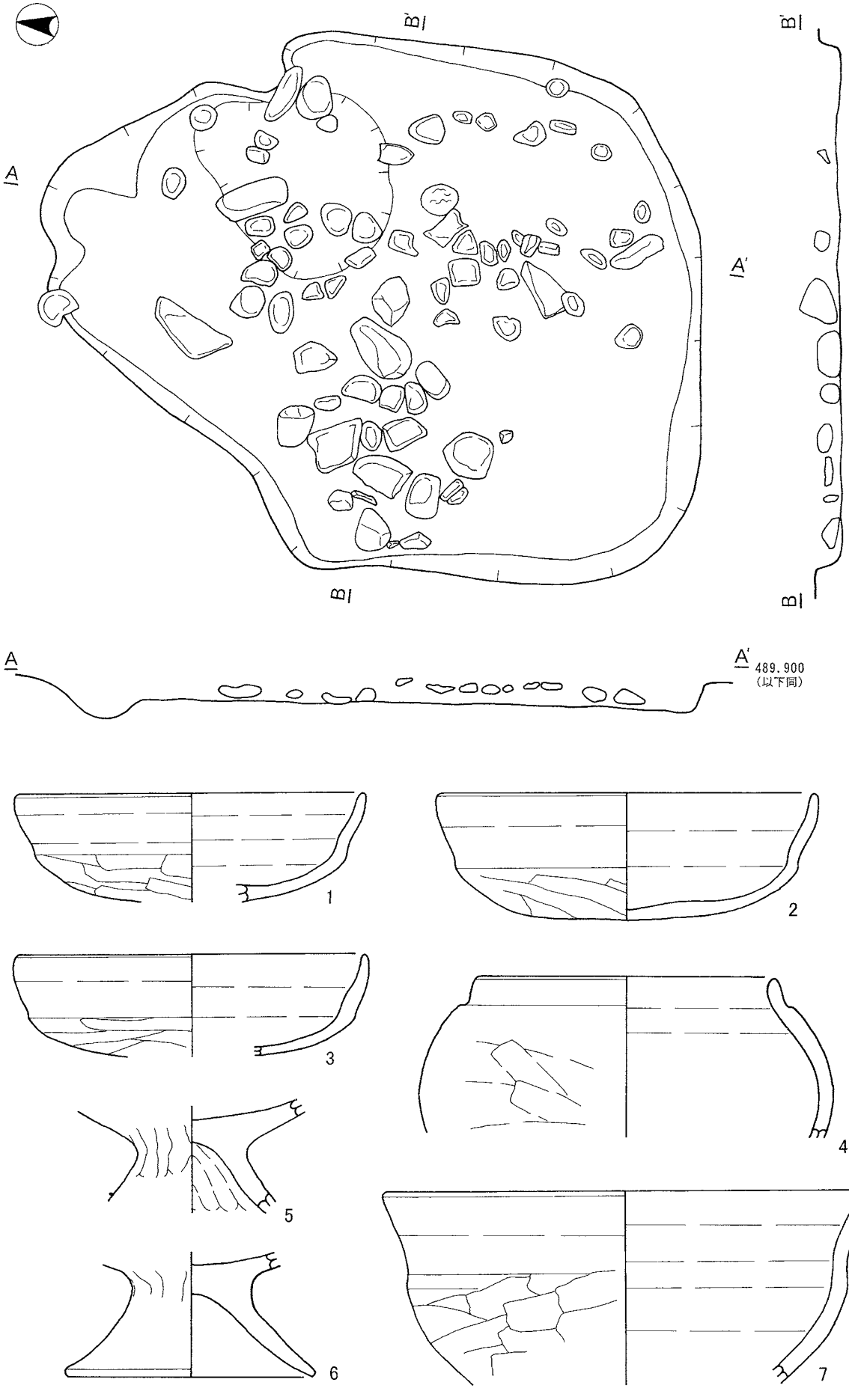
第72図　43b号住居カマド（1/20）　43b号住居出土遺物（1/2、 4 1/4）

第73図　43b号住居出土遺物（1/2、 1・6 1/4）

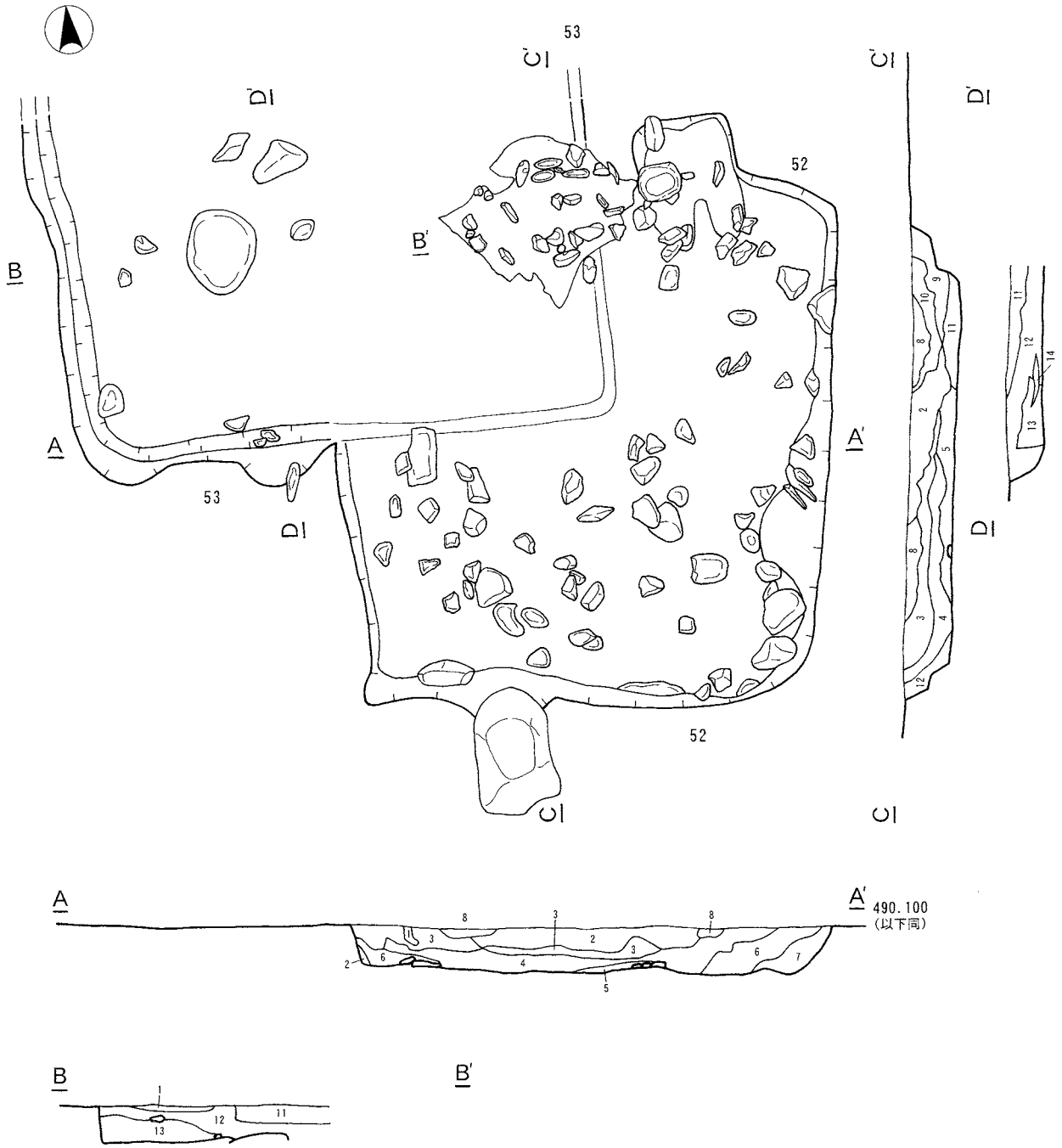


1層　焼土、炭が少し混じる暗褐色土。

第74図　46号住居（1/40）　46号住居カマド（1/20）

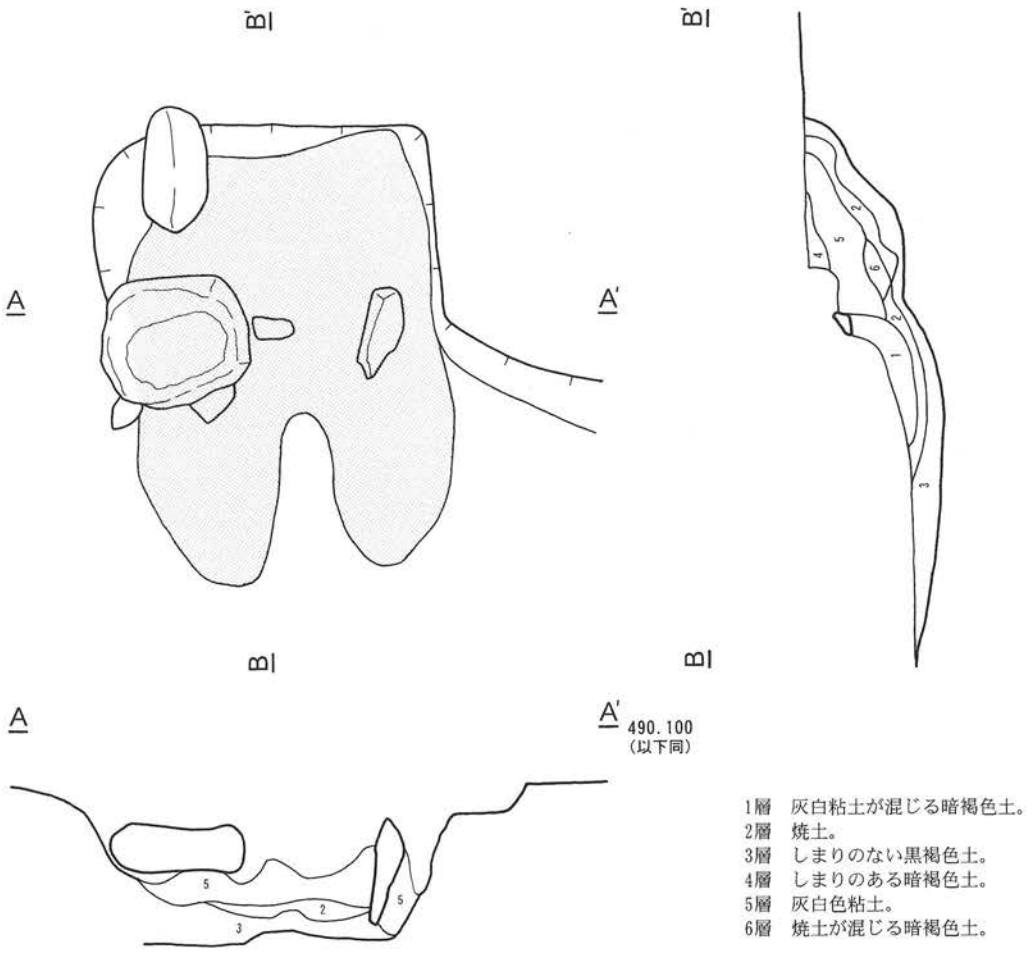


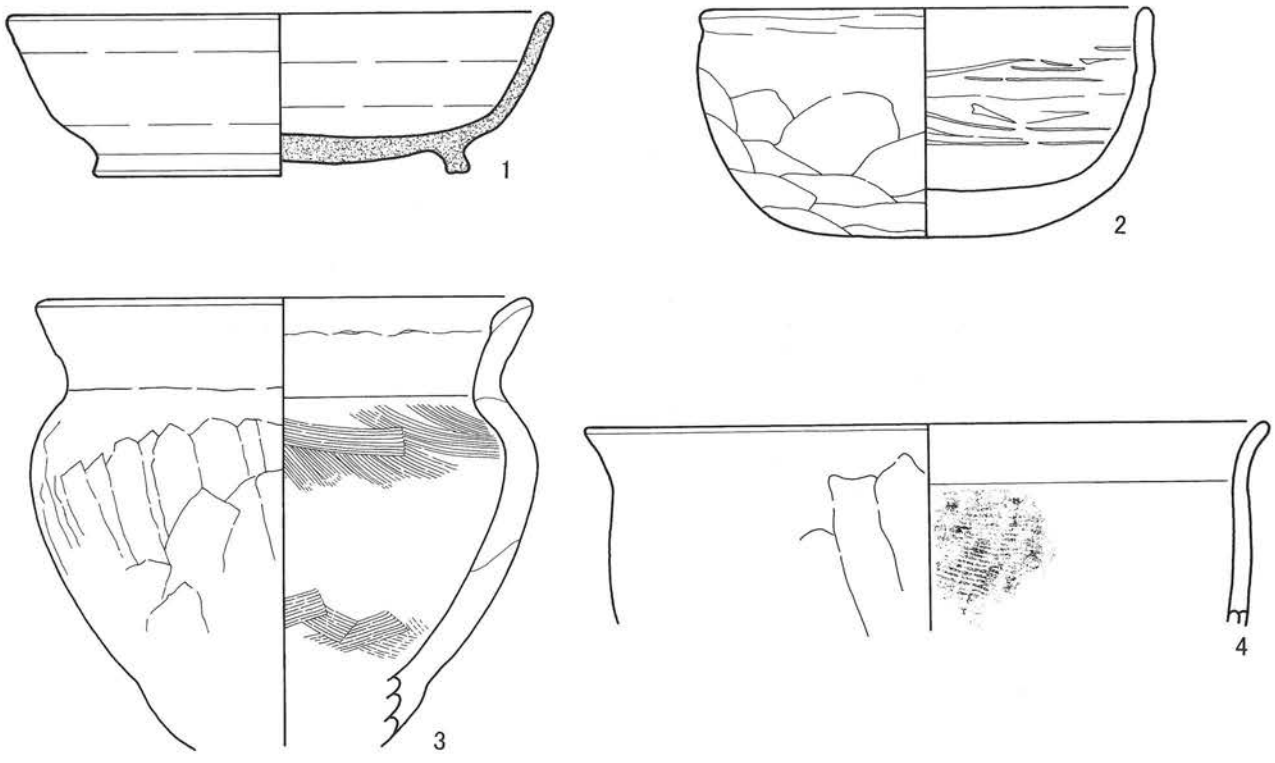
第75図　51号住居（1/40）　51号住居出土遺物（1/2）



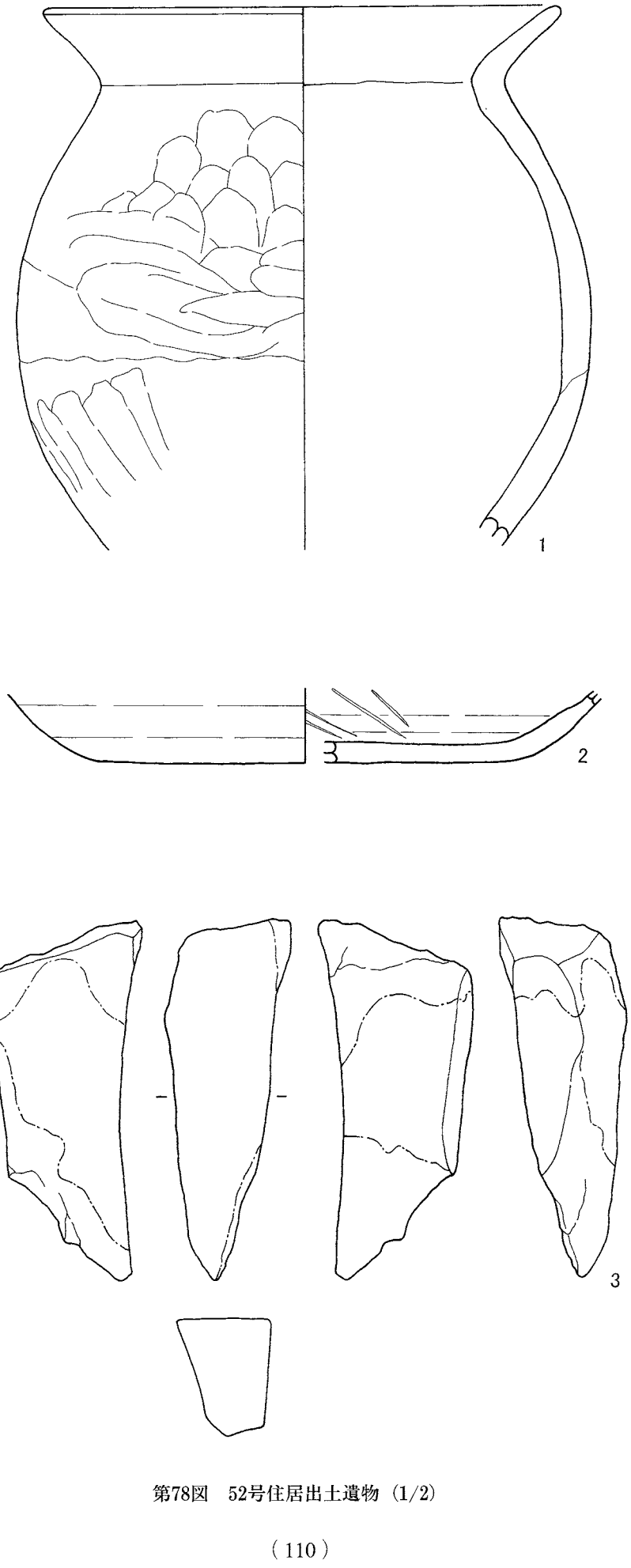
1層　カクラン。
2層　しまりのない暗褐色土。
3層　黄褐色土の混じる暗褐色土。
4層　しまりのないやや赤味のつよい暗褐色土。
5層　やや粘性のある黒っぽい暗褐色土。
6層　黄褐色土が混じるやや黒っぽい暗褐色土。
7層　黒褐色土。
8層　赤味がかった暗褐色土。
9層　やや粘性のある、黒っぽい暗褐色土。
10層　やや粘性のある、やや赤っぽい暗褐色土。
11層　固くしまった暗褐色土。
12層　やや黒っぽくややわらかい暗褐色土。
13層　しまりの少ない黒褐色土。
14層　黄褐色粒子がわずかに混じるやや黒っぽくややわらかい暗褐色土。

第76図　52号・53号住居（1/60）

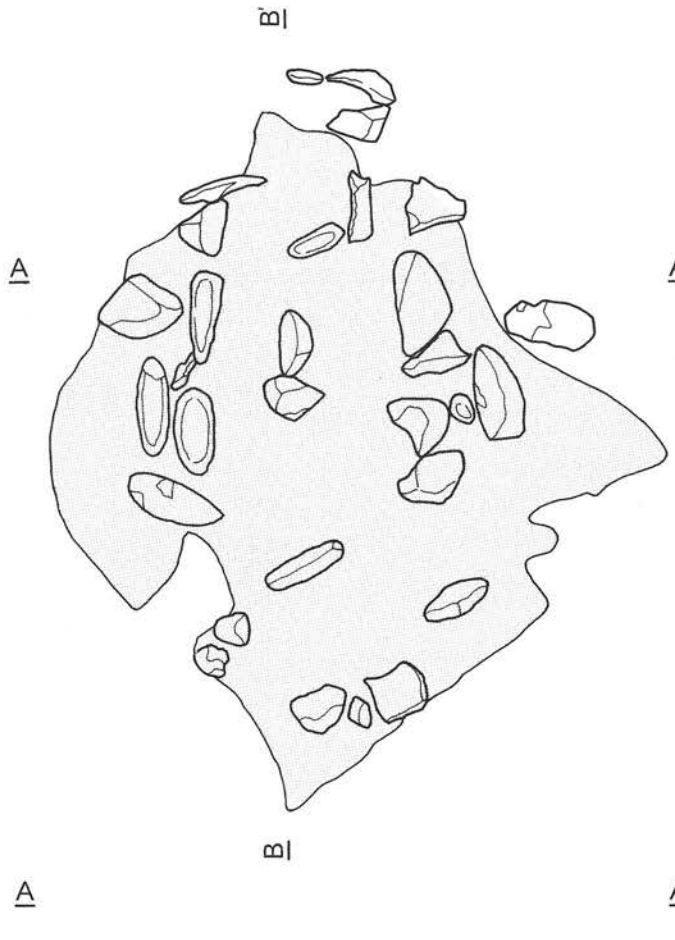




第77図　52号住居カマド（1/20）　52号住居出土遺物（1/2）

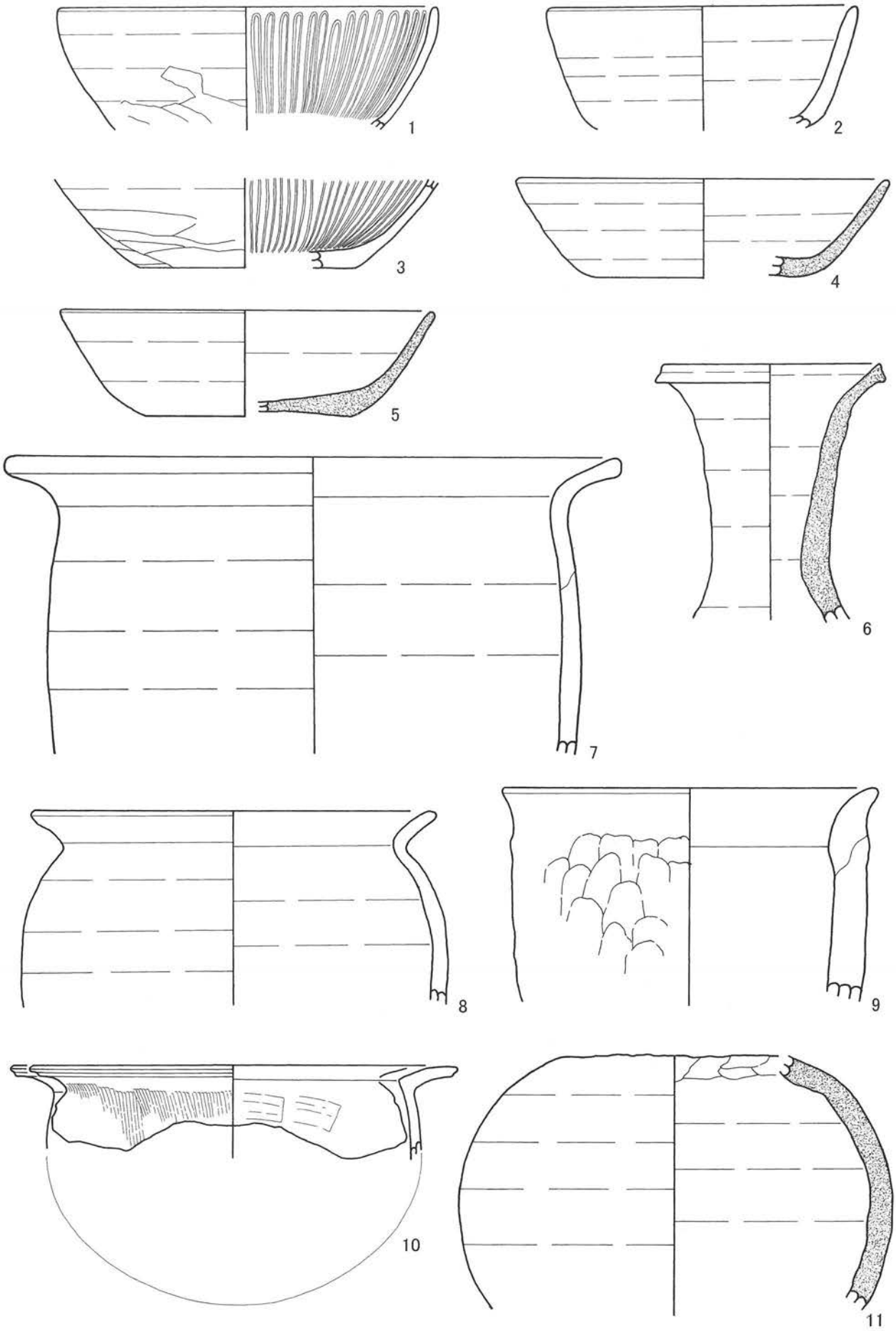


第78図　52号住居出土遺物（1/2）

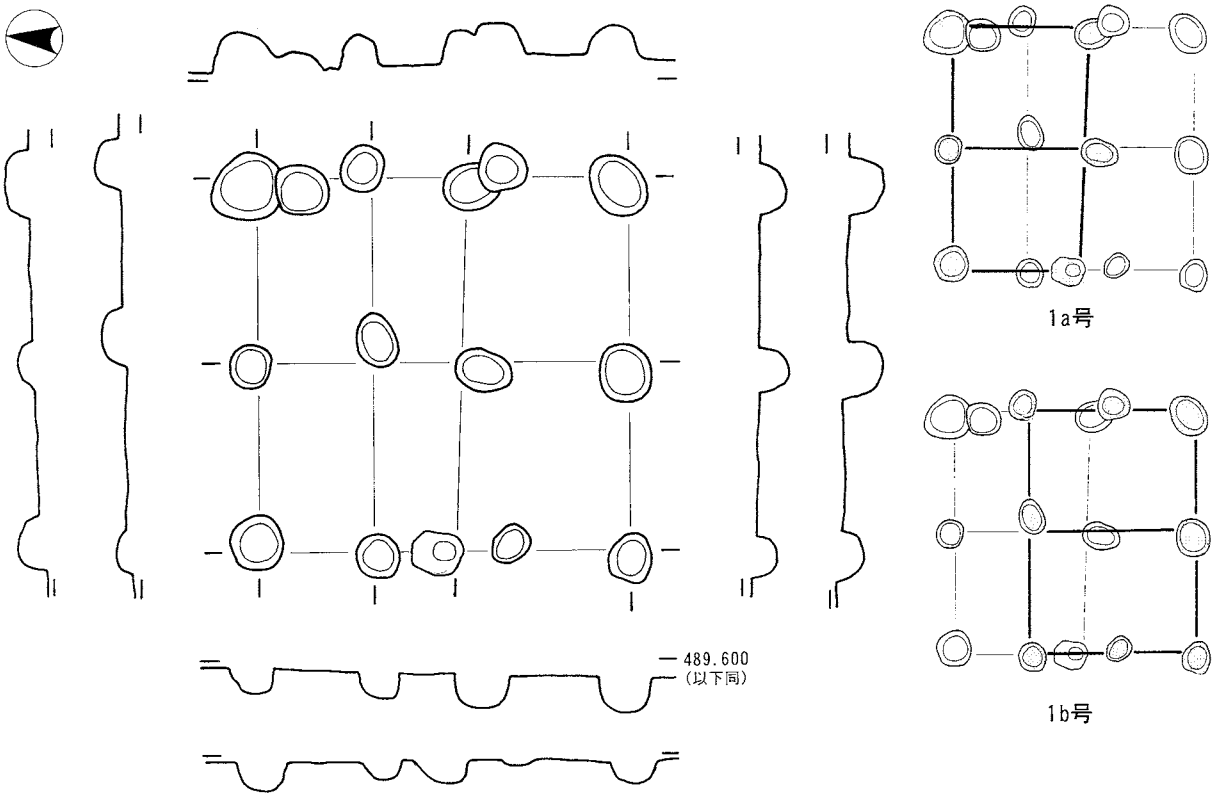


1層　灰白色粘土。
2層　灰白色粘土が一部焼土化した土層。
3層　灰白色粘土粒子が混じる暗褐色土。
4層　灰白色粘土が混じる暗褐色土。
5層　焼土粒子が混じる暗褐色土。
6層　焼土(一部は焼土化した粘土)が多く混じる暗褐色土。
7層　(52号住居覆土)焼土粒子、灰白色粘土粒子がわずかに混じる暗褐色土。
8層　焼土。
9層　しまりのある暗褐色土。

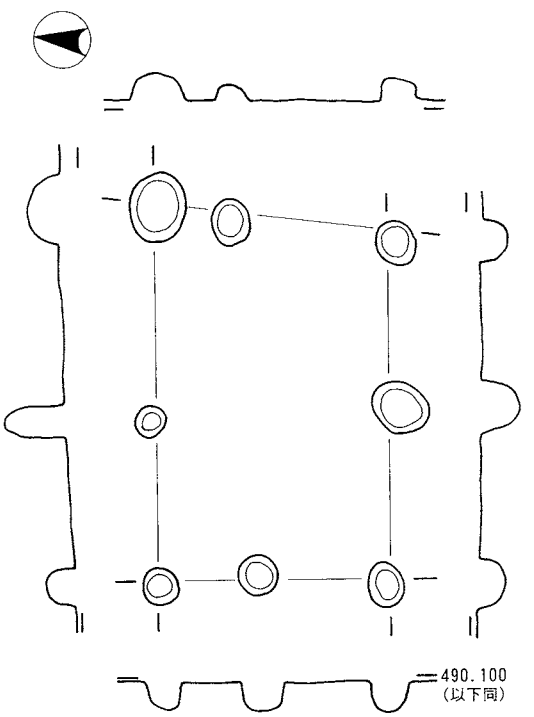
第79図　53号住居カマド (1/20)



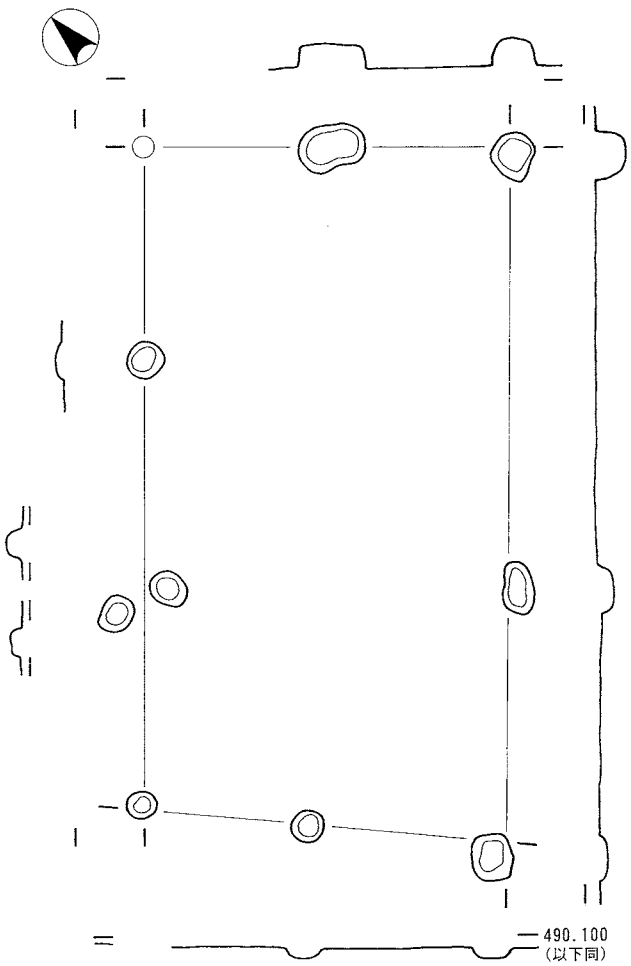
第80図　53号住居出土遺物（1/2）



1号掘立柱建物

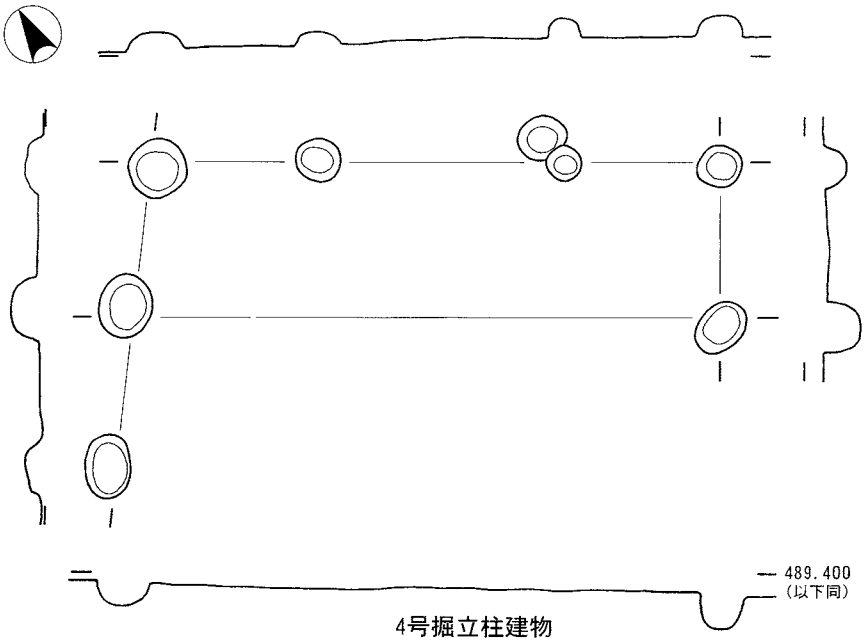


2号掘立柱建物

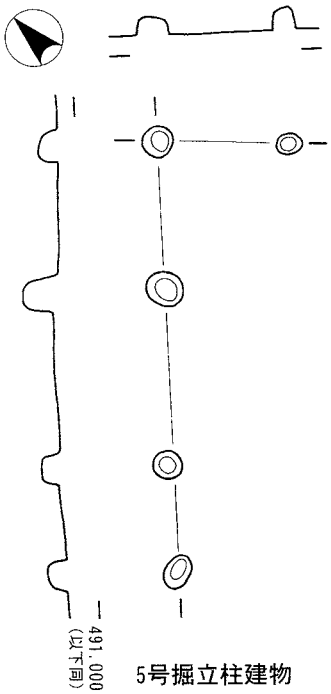


3号掘立柱建物

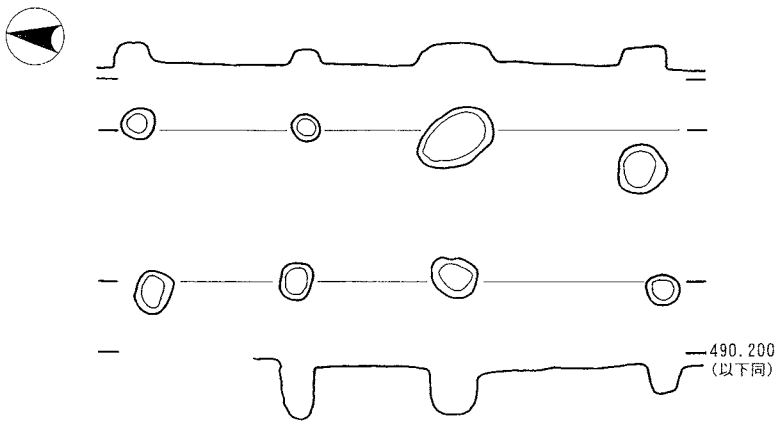
第81図　掘立柱建物（1/80）



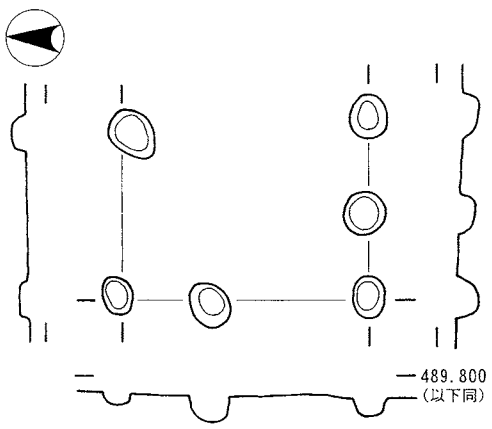
4号掘立柱建物



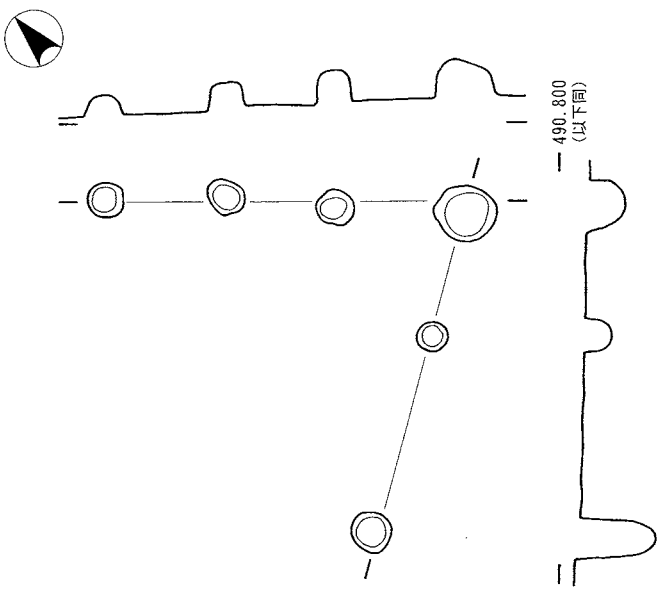
5号掘立柱建物



6号掘立柱建物

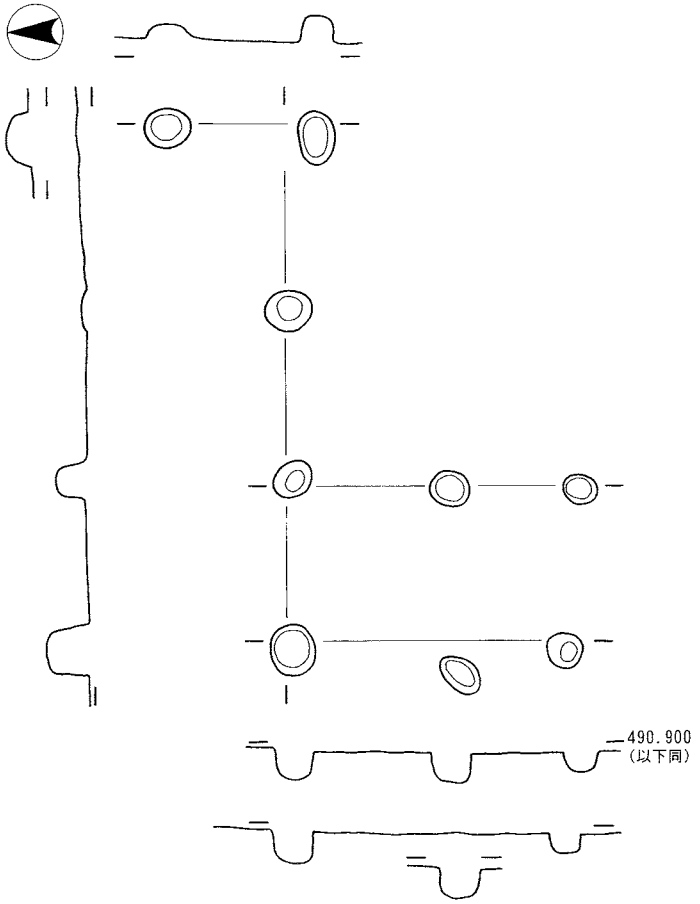


7号掘立柱建物

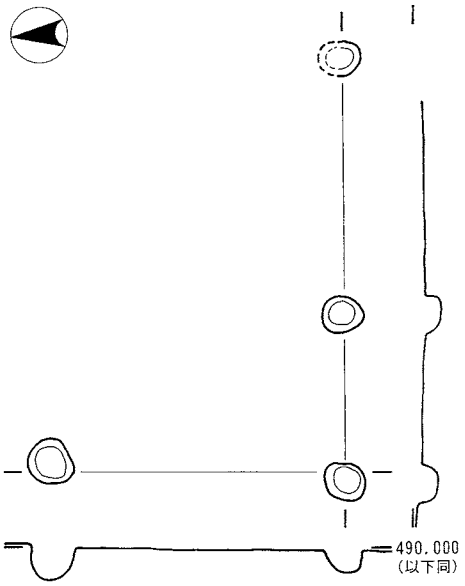


8号掘立柱建物

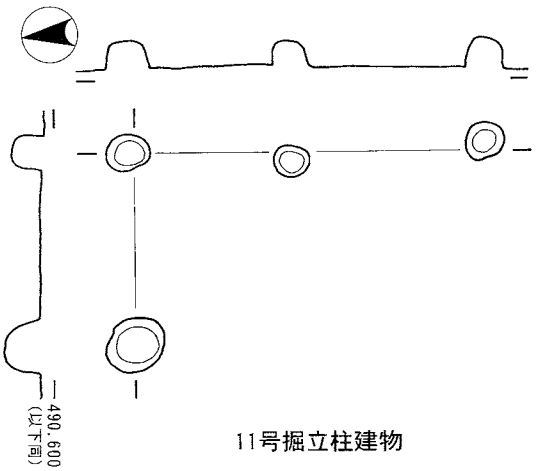
第82図　掘立柱建物（1/80）



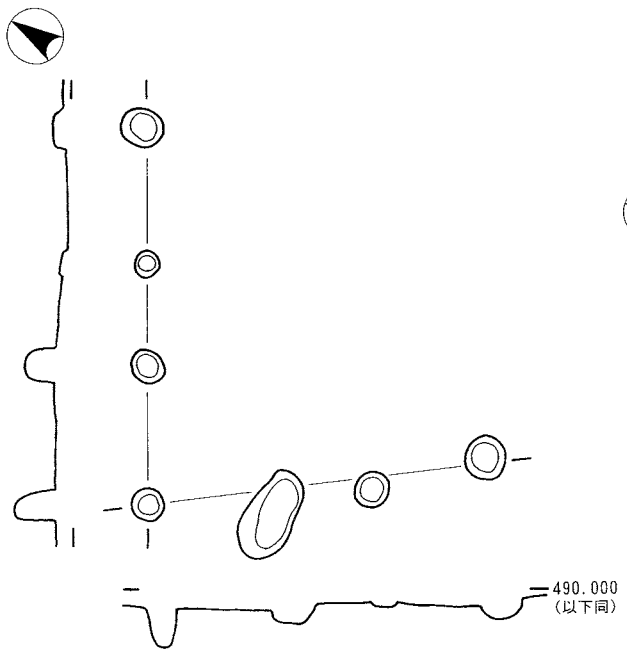
9号掘立柱建物



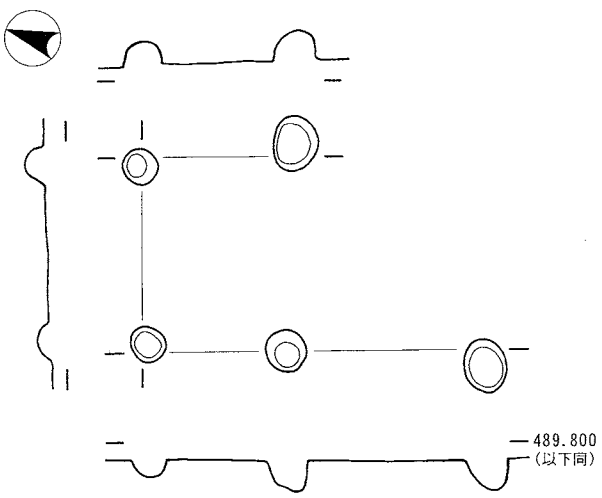
10号掘立柱建物



11号掘立柱建物

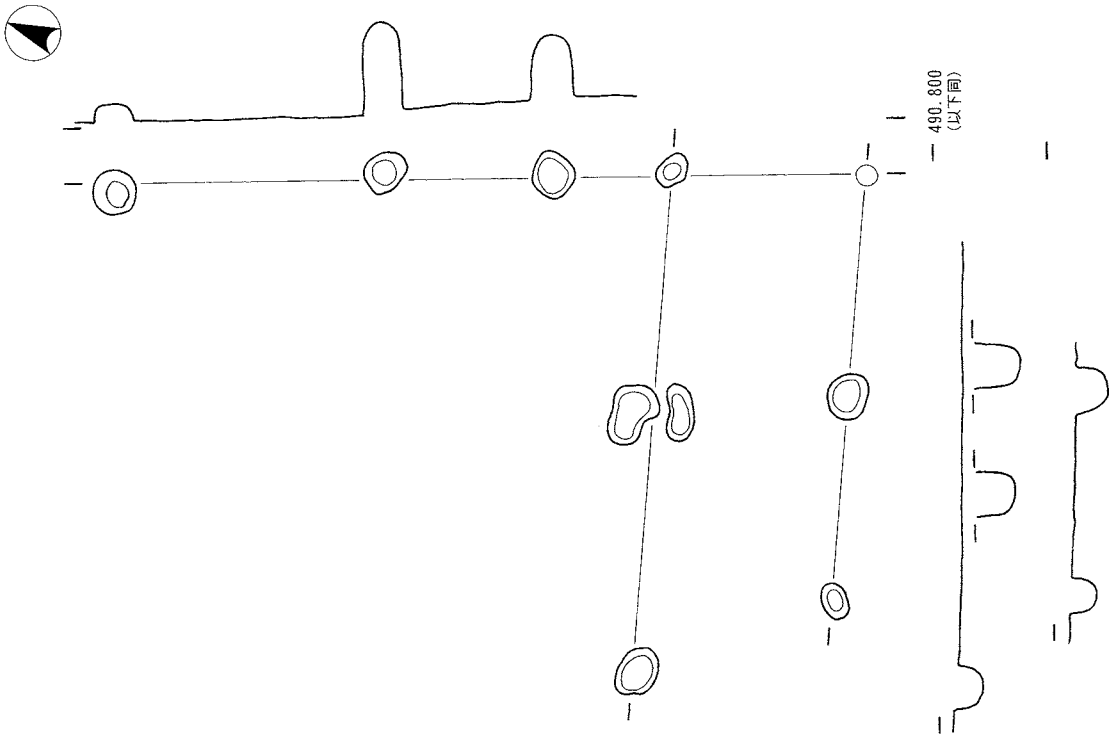


12号掘立柱建物

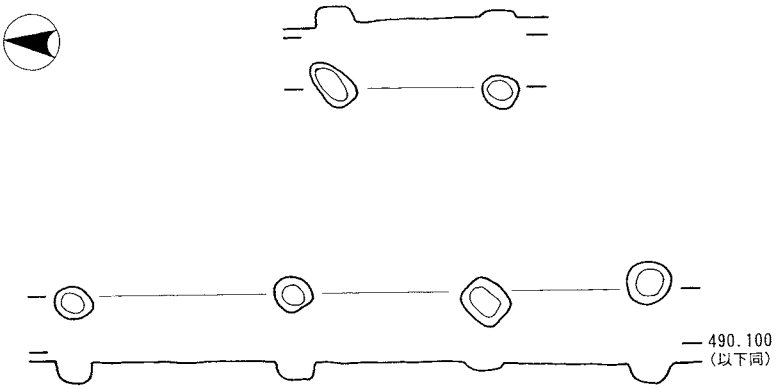


13号掘立柱建物

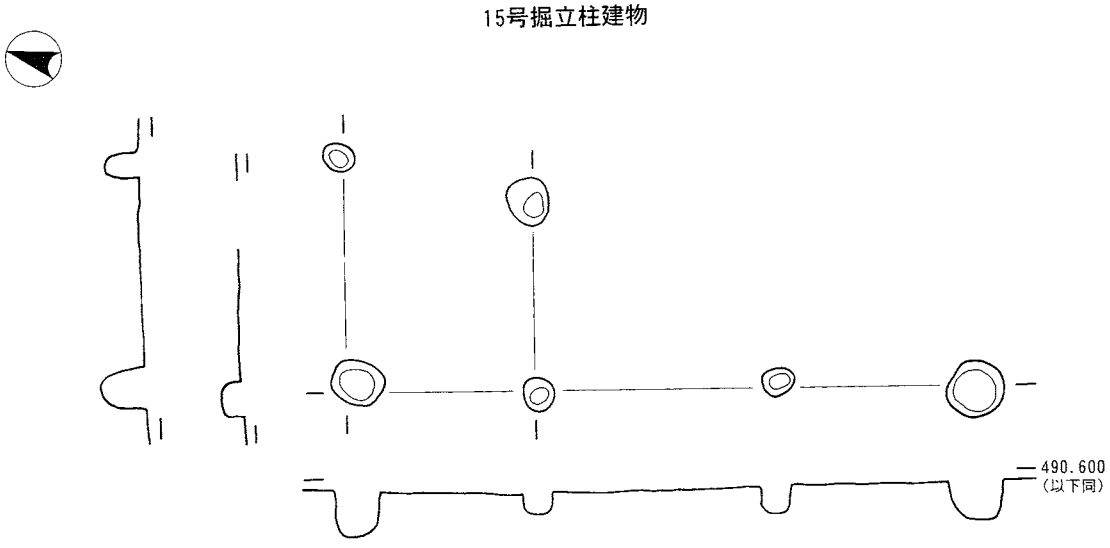
第83図　掘立柱建物（1/80）



14号掘立柱建物

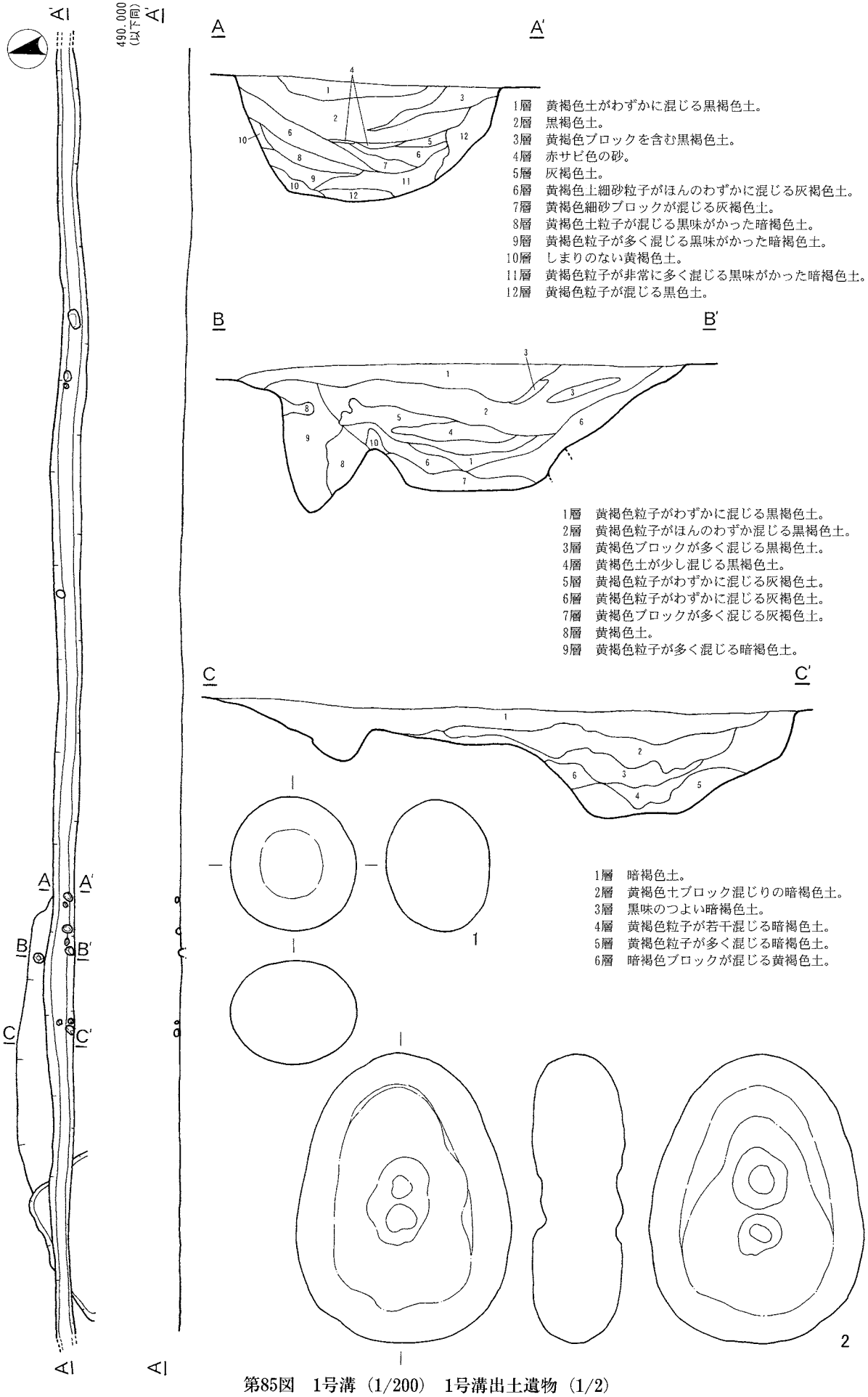


15号掘立柱建物

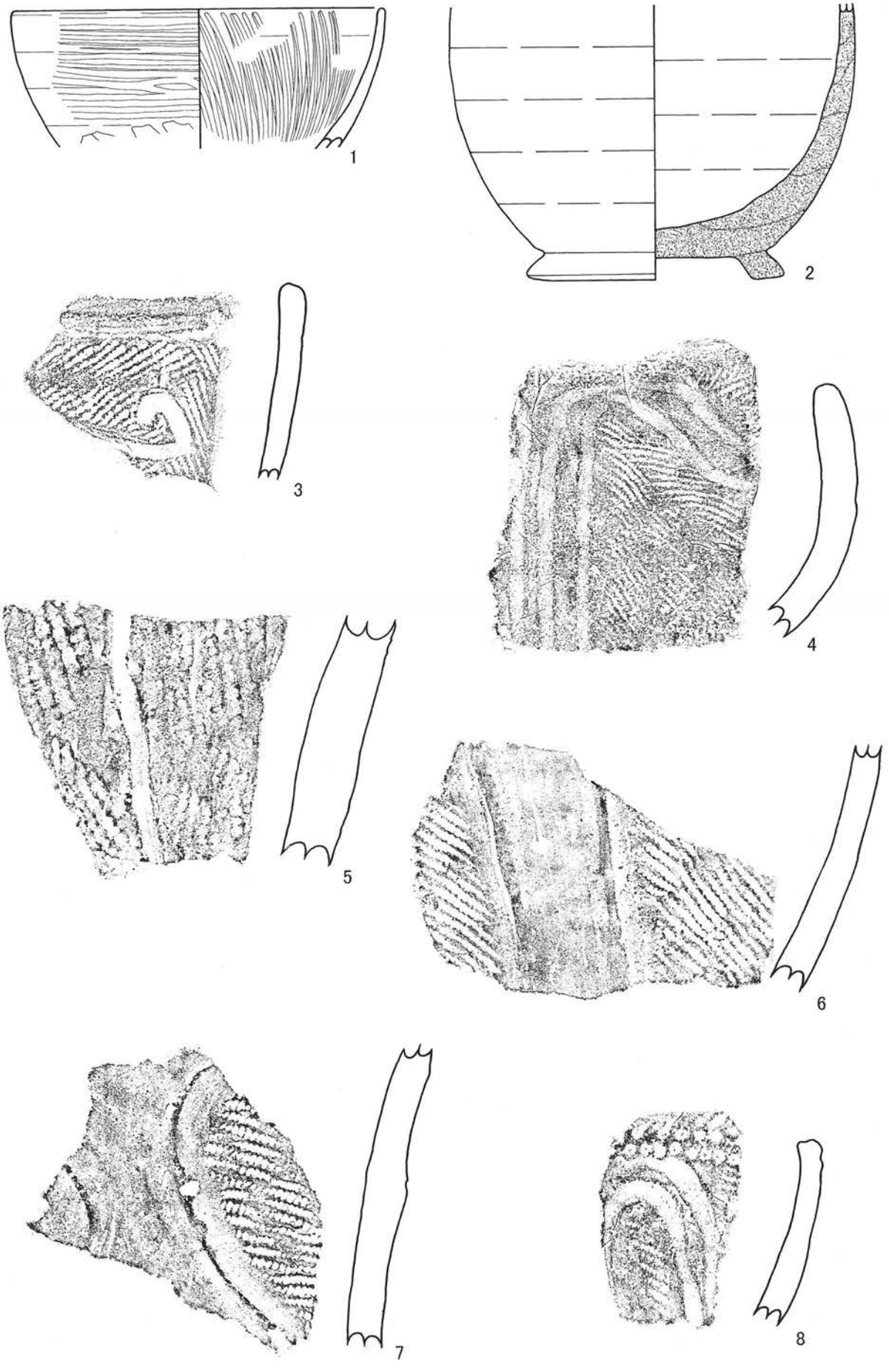


16号掘立柱建物

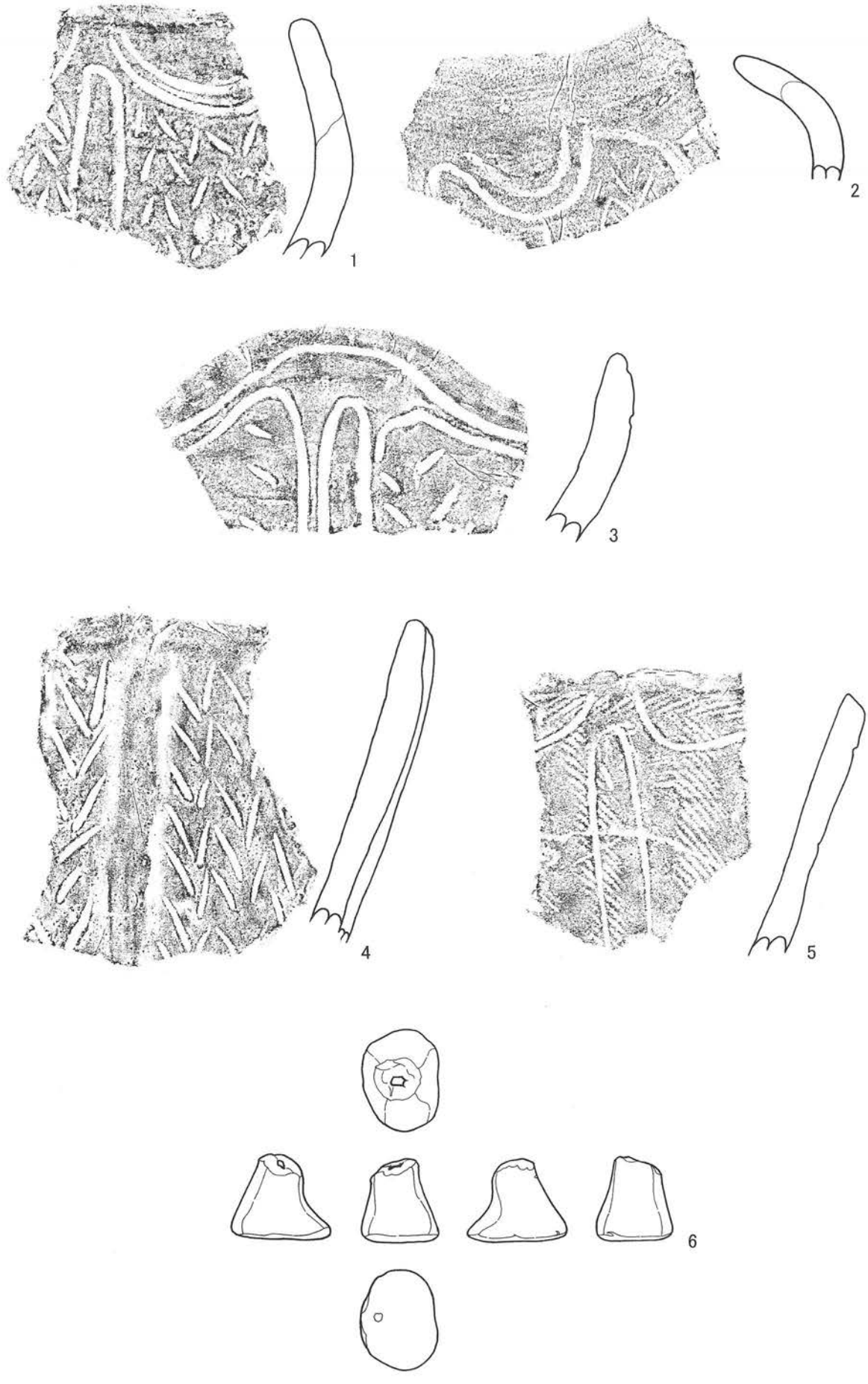
第84図　掘立柱建物（1/80）



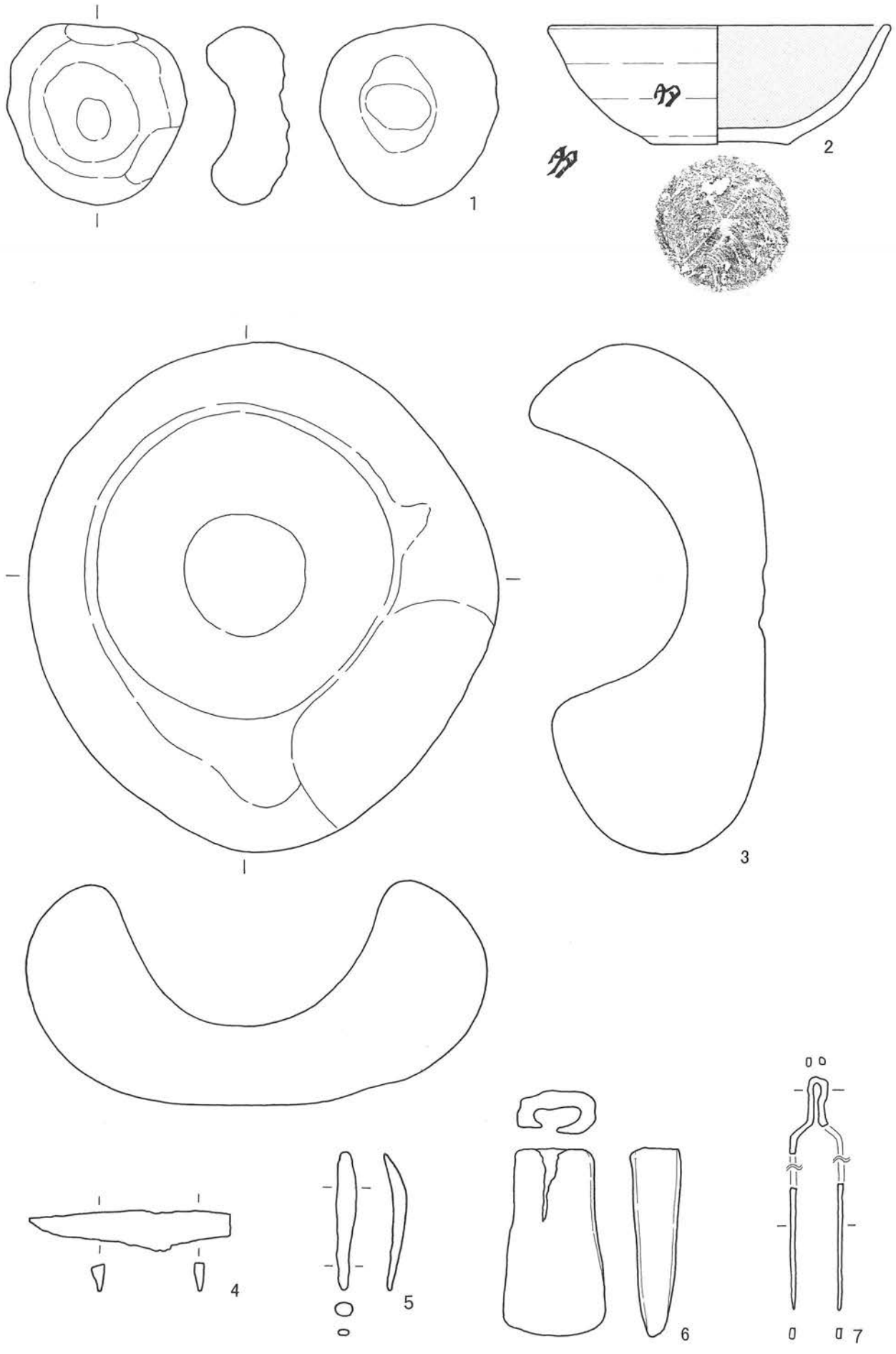
第85図　1号溝（1/200）　1号溝出土遺物（1/2）



第86図　1b号・2号掘立柱建物出土遺物（1/2）　その他の時期の遺物（1/2）



第87図　その他の時期の遺物（1/2）



第88図　遺構外出土遺物（1/2）

第２表　遺物観察表

図版番号	種　別	時期	器　種	残存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重量(g)	胎土色調	器面	特徴、胎土質、釉調、出土位置（特に記述のない場合は遺構覆土より出土している）
6-1	土師器	古墳	坏	小破片	16.0			17.0	10YR7/4	内面黒色処理、光沢なし、10YR3/1（黒褐）、内面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	口縁部破片、鉱物粒子が僅かに混じる細粒の胎土
6-2	土師器	古墳	坏	小破片	13.0			14.0	10YR7/4	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/2（黒褐）色むらあり	口縁部破片、赤色粒子・鉱物粒子が混じる細粒の胎土
6-3	土師器	古墳	坏	小破片	11.0			17.0	7.5YR5/3	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/2（黒褐）色むらあり、全面ヘラケズリ	口縁部破片、最大幅11.4、鉱物粒子が僅かに混じる細粒の胎土
6-4	土師器	古墳	坏	小破片	12.2			20.0	7.5YR6/4	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR4/2（灰褐）、底部下半ヘラケズリ	口縁部破片、鉱物粒子と微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土
6-5	須恵器	古墳	坏	小破片	9.8			4.0	10YR5/1		口縁部破片、最大幅10.0、緻密の胎土
6-6	須恵器	古墳	坏	完形	8.8	3.4		114.0	N6/0	体部下半回転ヘラケズリ	最大幅10.7、鉱物粒子が僅かに混じる緻密の胎土
7-1	土師器	古墳	甕	小破片			9.0	402.0	10YR7/4		底部破片、鉱物粒子・赤色粒子が混じるやや細粒な胎土
7-2	須恵器	古墳	小型短頸壷	ほぼ完形	5.4		5.4	59.0	N6/0	内側に付着物あり、ウルシか？	鉱物粒子が混じる緻密な胎土
7-3	土師器	古墳	甕	小破片	18.0			136.0	10YR5/3		口縁部破片、鉱物粒子・赤色粒子と僅かな雲母粒子が混じる粗粒の胎土
7-4	須恵器	古墳	長頸壷	小破片	15.2			14.0	2.5Y7/2		口縁部破片、鉱物粒子僅かに混じる緻密の胎土
7-5	須恵器	古墳	甕	小破片	12.0			152.0	N4/0	外面に線刻	鉱物粒子が混じる緻密な胎土
7-6	須恵器	古墳	甕	小破片	57.0			166.0	2.5Y5/1		口縁部破片、鉱物粒子が混じる緻密の胎土。1号試掘坑出土。1号住居に属する。
7-7	石製品		紡錘車	ほぼ完形	2.2	1.5	3.9	30.0		青灰色のホルンフェルス化した頁岩と思われる石材製	周縁部が欠けている
7-8	土師器	古墳	ミニチュア土器	小破片			4.4	13.0	7.5YR6/6	内面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1（黒褐）	ミニチュア土器底部、赤色粒子と僅かな鉱物粒子が混じる粗粒の胎土
7-9	土師器	弥生	壷	小破片	13.6			35.0	10YR7/4		口縁部破片、赤色粒子と僅かな鉱物粒子が混じる細粒の胎土。弥生時代後期と思われる。
7-10	石製品		砥石	小破片				130.0		アプライト（花崗岩に似た白色の石材）製	四面が砥ぎ減りし、線状の砥ぎ痕がみられる
7-11	土師器	弥生	甕	小破片	16.4			38.0	10YR7/3	口縁部ヘラミガキ	口縁部破片、赤色粒子が混じる細粒の胎土。弥生時代後期と思われる。
7-12	甲斐型	平安	坏	1/4	11.0			23.0	5YR7/4	放射状暗文、手持ちヘラケズリ	口縁部破片、灯明皿として使用した煤痕あり、赤色粒子が混じる細粒の胎土。1号溝に属すると思われる。
7-13	土師器	平安	坏	1/3			6.8	33.0	5YR6/4	内面黒色処理	鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土。いわゆる「信州系」土師器坏。
7-14	甲斐型	平安	坏	小破片	14.8	4.3		14.0	10YR6/4	体部下半回転ヘラケズリ	口縁部破片、赤色粒子と僅かの鉱物粒子が混じる細粒の胎土
9-1	土師器	古墳	坏	小破片	13.8	3.5		22.0	5YR6/4	内外面横方向ミガキ	口縁部破片、僅かな赤色粒子・雲母粒子が混じる細粒の胎土
9-2	土師器	古墳	坏	小破片				68.0	7.5YR7/3		底部破片、赤色粒子が混じるやや細粒の胎土
9-3	土師器	古墳	坏	ほぼ完形	11.3	4.0		122.0	7.5YR6/3	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	赤色粒子と微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土
9-4	土師器	古墳	坏	ほぼ完形	12.4	3.3		92.0	7.5YR7/3	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、全面ヘラケズリ	僅かに鉱物粒子・赤色粒子が混じる細粒の胎土
9-5	土師器	古墳	椀	ほぼ完形	12.2	6.6		250.0	5YR6/4	内外黒色処理、光沢なし、7.5YR2/1（黒）、内外横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	鉱物粒子と微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土
9-6	土師器	古墳	坏	2/3	12.7	3.6		98.0	7.5YR6/4	内外面黒色処理、やや光沢あり、10YR3/1（黒褐）、体部下半ヘラケズリ	カマド、住居覆土より出土。微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土
9-7	土師器	古墳	坏	1/4	13.3	3.7	6.4	56.0	10YR7/4	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/1（黒褐）、内面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	赤色粒子と微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土
9-8	土師器	古墳	坏	2/3	12.4			33.0	7.5YR7/4	外面黒色処理、光沢なし、10YR3/2（黒褐）、色むらあり、内外面横方向ミガキ、全面ヘラケズリ	赤色粒子が僅かに混じる細粒の胎土
9-9	土師器	古墳	高坏	1/2			8.4	112.0	7.5YR7/2	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1（黒褐）内外面横方向ミガキ、頸部ヘラケズリ	微小の雲母粒子が混じる緻密な胎土
9-10	土師器	古墳	甕	小破片	19.0			66.0	10YR6/3		鉱物粒子・雲母粒子と僅かに赤色粒子が混じるやや細粒の胎土
10-1	土師器	古墳	甕	小破片	13.4			86.0	2.5YR5/6		口縁部破片、鉱物粒子が混じる粗粒の胎土
10-2	土師器	古墳	甕	小破片			6.0	148.0	10YR6/2	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1（黒褐）	底部破片、鉱物粒子が混じる細粒の胎土
10-3	土師器	古墳	甕	小破片			10.0	376.0	2.5YR5/6		カマド、住居覆土より出土。鉱物粒子と雲母粒子が混じる粗粒の胎土
10-4	土師器	古墳	角坏	小破片				10.0	7.5YR6/4		やや細粒の胎土
10-5	須恵器	古墳	坏蓋	1/3				39.0	2.5Y6/1		黒色粒子と僅かな鉱物粒子が混じる緻密な胎土。上面にヘラ痕か線刻あり。
10-6	須恵器	古墳	甕	小破片			5.0	70.0	2.5Y6/1	回転ヘラケズリ	僅かに鉱物粒子が混じる細粒の胎土
10-7	須恵器	古墳	坏蓋	小破片				29.0	2.5Y6/1		鉱物粒子が混じる緻密な胎土
10-8	鉄製品		鏃？								
10-9	鉄製品		鏃？								
12-1	土師器	奈良	坏	2/3	13.9	5.2	8.0	174.0	5YR6/6	外部全面ヘラケズリ・ミガキ。内面放射状の細かなミガキ。底部に墨痕あり。	カマド、住居覆土より出土。赤色粒子が混じる細粒の胎土
12-2	須恵器	奈良	坏	小破片	12.0			8.0	10YR6/2		カマド出土。口縁部破片、鉱物粒子が混じる細粒の胎土
13-1	土師器	奈良	甕	小破片	22.0			46.0	7.5YR7/6	外面ハケメ調整、内面ロクロナデ	口縁部破片、鉱物粒子が混じるやや粗粒な胎土
13-2	土師器	奈良	甕	小破片				154.0	10YR7/3	タタキ後に縦方向のヘラケズリ	鉱物粒子が混じるやや緻密な胎土。器壁は薄く固い。武蔵型甕と思われる。
13-3	土師器	奈良	甕	小破片	16.4			52.0	5YR4/1		口縁部破片、僅かに鉱物粒子が混じるやや細粒の胎土
13-4	須恵器	奈良	高坏	1/3				194.0	2.5Y6/2		鉱物粒子が混じる緻密な胎土
13-5	土師器	古墳	坏	小破片	12.0			7.0	5YR8/3	内外黒色処理、やや光沢あり、7.5YR3/1（黒褐）、体部下半ヘラケズリ	口縁部破片、赤色粒子と僅かな鉱物粒子が混じる細粒の胎土
13-6	土師器	古墳	坏	小破片				11.0	7.5YR7/4	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1〈黒褐〉、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	微小の雲母粒子が僅かに混じる細粒の胎土

図版番号	種　別	時期	器　種	残存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重量(g)	胎土色調	器面	特徴、胎土質、釉調、出土位置（特に記述のない場合は遺構覆土より出土している）
13-7	土師器	古墳	椀	小破片	9.4			19.0	10YR6/3	内外面黒色処理、10YR3/1（黒褐）、外面横方向ミガキ、	口縁部破片、赤色粒子と僅かに鉱物粒子が混じる　細粒の胎土
13-8	土師器	古墳	甕	小破片	12.0			29.0	10YR7/3		口縁部破片、赤色粒子と僅かな鉱物粒子が混じる粗粒の胎土
13-9	土製品		紡錘車	完形品	3.9	2.2	4.7	55.0			
13-10	鉄製品		鏃								軸部は折損
15-1	土師器	古墳	高坏	小破片	16.2			28.0	7.5YR6/3	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/1〈黒褐〉、内外面横方向ミガキ、	鉱物粒子と微小の雲母粒子が僅かに混じる細粒の胎土
15-2	土師器	古墳	坏	1/3	13.6			36.0	10YR6/2	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/1〈黒褐〉、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	鉱物粒子が僅かに混じる細粒の胎土
15-3	土師器	古墳	坏	小破片	14.6			19.0	5YR5/3	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/1〈黒褐〉、内外面横方向ミガキ，外部下半ヘラケズリ	口縁部破片、最大径15.0、赤色粒子と鉱物粒子が混じる細粒の胎土
15-4	土師器	古墳	坏	1/4	12.4			83.0	7.5YR8/4	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/1（黒褐）、体部下半ヘラケズリ	口縁部破片、赤色粒子が僅かに混じるやや細粒の胎土
15-5	土師器	古墳	坏	1/3	13.6	5.0		61.0	7.5YR4/3	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部全面ヘラケズリ	鉱物粒子・赤色粒子・雲母粒子が僅かに混じる細粒の胎土
15-6	土師器	古墳	坏	2/3	14.6	4.0		146.0	10YR7/4		鉱物粒子が僅かに混じる細粒の胎土
15-7	須恵器	古墳	坏蓋	小破片	11.6			12.0	N6/0		口縁部破片、最大径11.9、微小の鉱物粒子が混じる細粒の胎土
15-8	土師器	古墳	高坏	完形	13.8	13.2	10.2	505.0	7.5YR6/6	外面ヘラケズリ	カマド出土。赤色粒子と僅かな鉱物粒子が混じる細粒の胎土
15-9	土師器	古墳	甕	1/3	18.6	16.7	7.4	370.0	5YR7/4	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/1、（黒褐）	微小の鉱物粒子が混じる細粒の胎土
16-1	土師器	古墳	甕	小破片	22.0			142.0	10YR7/6	内外面ナデ整形、外面は縦方向のケズリ調整	口縁部破片、鉱石粒子と僅かな赤色粒子が混じる細粒の胎土。器壁は薄く固い。やや緻密な胎土。武蔵型甕に類似する。
16-2	土師器	古墳	甕	1/3	28.0			1250.0	10YR8/4	内外面ナデ調整、口縁内面ハケメ調整	口縁部破片,鉱物粒子と僅かな赤色粒子・雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土
16-3	土師器	古墳	甕	小破片			9.0	114.0	10YR7/4	底部木葉痕	底部破片、鉱物粒子が混じる粗粒の胎土
16-4	土師器	古墳	甕	小破片	8.6			41.0	10YR5/4		口縁部破片、鉱物粒子と僅かな雲母粒子が混じる粗粒の胎土
16-5	石器		磨石					180.0			デイサイト製
16-6	石製品		紡錘車	ほぼ完形	2.1	2.2	3.3	25.0		下面に放射状の線刻あり	石材質不明。多孔質のやわらかい石
16-7	鉄製品		刀子	破片							刃部で折損
18-1	土師器	古墳	坏	1/3	12.6	3.4		56.0	5YR6/4	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR2/2〈黒褐〉、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	赤色粒子が混じる細粒の胎土
18-2	土師器	古墳	坏	ほぼ完形	13.4	4.2		138.0	5YR4/4	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR2/1（黒）内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	赤色粒子が混じる細粒の胎土
18-3	土師器	古墳	坏		12.6	4.3		78.0	5YR7/6	内外面横方向ミガキ、底部ヘラケズリ	赤色粒子が混じる細粒の胎土
18-4	土師器	古墳	坏	1/4	14.0	3.6		60.0	5YR5/2	内外面黒色処理、光沢なし、5YR4/3（にぶい赤褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	鉱物粒子と赤色粒子が混じる細粒の胎土
18-5	土師器	古墳	椀	ほぼ完形	8.3	5.8		134.0	7.5YR7/4	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、全面ヘラケズリ	鉱物粒子・赤色粒子が僅かに混じる細粒の胎土
18-6	土師器	古墳	椀	ほぼ完形	17.8	10.3		640.0	5YR6/6	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR2/1〈黒褐〉、内外面横方向ミガキ、全面ヘラケズリ	赤色粒子と僅かな鉱物粒子・雲母粒子が混じる細粒の胎土
18-7	土師器	古墳	椀	小破片	17.0			34.0	7.5YR5/3	内外面黒色処理、光沢なし、10YR2/1（黒）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	口縁部破片、僅かに雲母粒子が混じる細粒の胎土
18-8	土師器	古墳	甕	小破片	10.6			25.0	7.5YR7/4		鉱物粒子と僅かに雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土
18-9	土師器	古墳	甕	小破片				65.0	7.5YR7/4		口縁部破片、鉱物粒子と赤色粒子が混じる細粒の胎土
18-10	土師器	古墳	甕	1/5			7.9	412.0	5YR5/4	外面ナデ調整、内面ハケメ調整、底部木葉痕	鉱物粒子と僅か赤色粒子が混じるやや細粒の胎土
19-1	土師器	古墳	甕	小破片	19.4			154.0	5YR5/4	ロクロナデ整形、内外面ハケメ調整	鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土
19-2	土師器	古墳	甕	小破片			6.6	140.0	7.5YR6/4	内外面ハケメ調整、底部木葉痕	底部破片、鉱物粒子・赤色粒子が混じるやや細粒の胎土
19-3	土師器	古墳	甕	1/4	26.0			610.0	5YR6/6	内外面ハケメ調整	赤色粒子・鉱物粒子が混じる粗粒の胎土
19-4	土師器	古墳	甕	1/3	14.4			925.0	10YR7/3	内外面ハケメ調整、内面が黒色に変色、7.5YR3/1（黒褐）	赤色粒子が混じるやや細粒の胎土
19-5	土師器	古墳	甕	小破片			11.0	436.0	7.5YR5/3	内外面ハケメ調整	鉱物粒子・赤色粒子が混じるやや粗粒の胎土
19-6	石器		敲石	完形品				410.0		表面は風化している	デイサイト製
21-1	土師器	奈良	皿	ほぼ完形	15.5	3.0	6.7	184.0	7.5YR6/4	外面墨書、回転ヘラケズリ	カマド出土。赤色粒子と僅かな鉱物粒子が混じる細粒の胎土
21-2	土師器	奈良	皿	ほぼ完形	15.2	3.5	8.0	190.0	5YR6/4	みこみ部放射状暗文、内外面横方向ミガキ、	黒色粒子が混じる細粒の胎土
21-3	土師器	奈良	甕	小破片	22.0			120.0	5YR7/6	内外面ロクロナデ整形、ナデ調整	鉱物粒子•赤色粒子が混じるやや粗粒の胎土
21-4	土師器	奈良	甕	小破片	18.0			67.0	7.5YR6/3	内外面ハケメ調整	鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土
21-5	土師器	奈良	甕	小破片				234.0	7.5YR6/4	内外面ハケメ調整	鉱物粒子が混じる粗粒の胎土
21-6	石器		磨石	完形品				355.0		非常に平滑に磨かれている。端部には敲き痕あり	デイサイト製
21-7	石器		磨石	完形品				385.0			硬砂岩製
23-1	土師器	古墳	坏	1/4	16.3	6.1		208.0	10YR6/3	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1〈黒褐〉、内外面横方向ミガキ、頸部縦方向ヘラケズリ	赤色粒子と鉱物粒子が混じる細粒の胎土
23-2	土師器	古墳	坏	1/3	14.2			49.0	10YR7/4	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1〈黒褐〉、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	鉱物粒子が僅かに混じる細粒の胎土
23-3	土師器	古墳	坏	小破片	13.0			15.0	7.5YR7/4	内外面赤彩、光沢なし、10YR4/6（赤）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	赤色粒子が混じる細粒の胎土
23-4	土師器	古墳	坏	1/2	15.7	5.8		222.0	10YR7/4	体部下半ヘラケズリ	赤色粒子・鉱物粒子が混じる細粒の胎土

図版番号	種　別	時期	器　種	残存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重量(g)	胎土色調	器面	特徴、胎土質、釉調、出土位置（特に記述のない場合は遺構覆土より出土している）
23-5	土師器	古墳	坏	小破片	13.0			16.0	7/5YR7/4	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	赤色粒子が僅かに混じる細粒の胎土
23-6	須恵器	古墳	坏蓋	小破片	8.6			6.0	2.5Y6/2		僅かな鉱物粒子が混じる緻密の胎土
23-7	土師器	古墳	甕	小破片	13.8			34.0	7.5YR7/6	外面ハケメ調整	口縁部破片、鉱物粒子・雲母粒子が僅かに混じる細粒の胎土
23-8	土師器	古墳	甕	1/3	12.0			134.0	2.5YR4/4	内外面ハケメ調整、外面胴部は風化のため調整技法不明	赤色粒子と僅かな鉱物粒子と微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土
23-9	土師器	古墳	甕	1/4	19.4			720.0	10YR7/3	ロクロナデ整形、外面縦方向のヘラケズリ調整、内面横方向のヘラケズリ調整	鉱物粒子・赤色粒子と僅かな雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土
23-10	土師器	古墳	甕	ほぼ完形	17.0	19.8	6.8	1170.0	5YR5/4	内外面ともハケメ調整	鉱物粒子・赤色粒子と僅かな雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土
23-11	土師器	古墳	甕	2/3	17.4	23.8	7.2	675.0	5YR5/4	内外面ハケメ調整、底部に木葉痕状の圧痕あり	鉱物粒子と僅かな赤色粒子・雲母粒子が混じる粗粒の胎土
23-12	土師器	古墳	甕	1/4	19.6			312.0	7.5YR7/6		鉱物粒子と微小な雲母粒子が混じるやや細粒の胎土
23-13	土師器	古墳	甕	小破片	18.6			294.0	10YR4/2	外面ヘラケズリ調整	鉱物粒子と雲母粒子が混じる細粒の胎土
23-14	土師器	古墳	甕	小破片	23.0			84.0	5YR5/3	内外面ハケメ調整	鉱物粒子が混じる粗粒の胎土
24-1	土師器	古墳	坏	2/3	12.6	4.0		76.0	7.5YR6/3	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	鉱物粒子・赤色粒子が混じる細粒の胎土
24-2	土師器	古墳	甕	1/4	13.2			420.0	5YR6/4	外面ハケメ調整	鉱物粒子・赤色粒子が混じるやや細粒の胎土
24-3	土師器	古墳	壷	1/3			6.8	328.0	5YR6/4	外面ハケメ調整	鉱物粒子・赤色粒子と微小の雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土
26-1	土師器	古墳	坏	小破片	12.0	3.5		35.0	10YR7/4	内外面黒色処理、やや光沢あり、10YR3/1（黒褐）内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	口縁部破片、僅かな赤色粒子が混じる細粒の胎土
26-2	土師器	古墳	坏	小破片	12.0			14.0	5YR6/4	内面黒色処理、光沢なし、10YR2/1（黒）、外面赤彩、2.5YR4/6（赤褐）、内外面横方向ミガキ、底部下半ヘラケズリ	細粒の胎土
26-3	土師器	奈良	坏	小破片	9.8	3.7		29.0	7.5YR7/3	外面赤彩、光沢なし、2.5YR4/8（赤褐）、外面横方向ミガキ、底部下半ヘラケズリ	口縁部破片、赤色粒子・黒色粒子が混じる細粒の胎土
26-4	土師器	奈良	皿	1/2	16.6	4.1		156.0	7.5YR7/4	内外面黒色処理、光沢なし、5YR2/1（黒褐）、底部ヘラケズリ	鉱物粒子・赤色粒子が混じるやや細粒の胎土
26-5	土師器	奈良	坏	1/3	15.2	3.8		71.0	5YR6/6	回転ヘラケズリ	僅かに赤色粒子が混じる細粒の胎土
26-6	土師器	奈良	鉢	小破片	21.0			82.0	7.5YR7/4	ヘラケズリ	口縁部破片、赤色粒子・鉱物粒子が混じる粗粒の胎土
26-7	須恵器	奈良	蓋	ほぼ完形	16.0	3.8		148.0	2.5Y7/1	内面2.5Y5/1	微小の鉱物粒子が混じる緻密の胎土
26-8	土師器	奈良	甕	小破片	20.0			220.0	5YR6/6	器面が風化し調整技法は不明	口縁部破片、鉱物粒子と僅かな赤色粒子が混じる粗粒の胎土
26-9	土師器	奈良	甕	小破片			8.4	124.0	5YR6/4	内外面ロクロナデ調整	底部破片、鉱物粒子・赤色粒子が混じるやや粗粒の胎土
26-10	土師器	奈良	甕	小破片	18.7			226.0	7.5YR7/4	外面は風化し調整技法不明、内面ハケメ調整	鉱物粒子・赤色粒子が混じる粗粒の胎土
26-11	土師器	奈良	甕	1/2	16.8			1040.0	10R4/8	外面タタキ、ハケメ調整、内面ナデ調整	鉱物粒子が混じる細粒の胎土。赤褐色に焼き上げている。関西地方の甕の模倣品か。
26-12	石製品		？	破片				70.0		非常に平滑に磨いて整形している。片面は節理に沿って平坦に割れている。	頁岩製
26-13	金属製品		銅環	完形品	2.7	5.6		10.0		青灰色に腐蝕している。	
26-14	土製品		人形？	完形品	6.1			40.0	7.5YR8/6	手捏ね整形	鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土。土師器甕の胎土に似ている。
27-1	石器		敲石	完形品				660.0		表面は風化している。敲き痕あり。	安山岩製。南壁沿いの床面で出土。
27-2	石器		磨石？	完形品						やや平滑	安山岩製。南壁沿いの床面で出土。
27-3	須恵器	奈良	坏	小破片	12.0			14.0	5YR6/1		口縁部破片・鉱物粒子が混じる細粒の胎土
27-4	須恵器	奈良	坏	小破片	6.4			22.0	2.5YR6/1		底部破片、鉱物粒子・黒色粒子が混じる緻密な胎土
28-1	土師器	奈良	坏	小破片	11.4	3.0		78.0	10YR6/1	体部全面ヘラケズリ	最大径11.8、鉱物粒子と微小な雲母粒子が混じる粗粒の胎土。17a住出土。
28-2	土師器	奈良	甕	小破片	16.0			99.0	5YR6/6	ナデ調整、指頭圧痕が目立つ	鉱物粒子と赤色粒子と微小の雲母粒子が混じる粗粒の胎土
28-3	土師器	奈良	甕	小破片	19.2			134.0	5YR6/6	内外面ハケメ調整	鉱物粒子・赤色粒子・微小の雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土
30-1	土師器	古墳	坏	1/4	11.0	5.3	5.4	62.0	7.5YR7/6	体部全面ヘラケズリ	鉱物粒子・赤色粒子と微小の雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。17b住出土。
30-2	土師器	古墳	坏	ほぼ完形	12.4	5.5		312.0	7.5YR8/4	外面下半ヘラケズリ	住居床直出土。鉱物粒子が混じる粗粒の胎土
30-3	土師器	古墳	椀	1/3	21.2	7.1		384.0	5YR6/4	外面下半ヘラケズリ	鉱物粒子・赤色粒子が混じるやや細粒の胎土
30-4	土師器	古墳	鉢	小破片	20.0			136.0	5YR6/6	外面縦方向のヘラケズリ調整、内面横方向のハケメ調整	口縁部破片、鉱物粒子・雲赤色粒子が混じるやや粗粒の胎土。17b住出土。
30-5	土師器	古墳	甕	小破片	23.0			296.0	7.5YR6/4	外面縦方向のヘラケズリ調整、内面ハケメ調整	鉱物粒子・赤色粒子が混じる粗粒の胎土
30-6	土師器	古墳	甕	小破片	16.0			148.0	7.5YR7/4		鉱物粒子・赤色粒子と微小の雲母粒子が混じるやや細粒の胎土
31-1	土師器	古墳	甕	小破片	22.0			244.0	5YR7/4		鉱物粒子・赤色粒子と微小の雲母粒子が混じる粗粒の胎土
31-2	土師器	古墳	甕	小破片	16.4			124.0	7.5YR6/4	外面口縁部横方向のハケメ調整、胴部縦方向のヘラケズリ調整、内面横方向のハケメ調整	鉱物粒子・赤色粒子と微小の雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。17b住出土。
31-3	土師器	古墳	小型手捏土器	1/3	9.2	5.0	8.6	78.0	10YR7/4	手捏整形、内面ハケメ調整	鉱物粒子・赤色粒子が混じる粗粒の胎土。17b住出土。
31-4	土師器	古墳	甕	小破片	18.0			93.0	5YR6/6	外面縦方向のヘラケズリ調整、内面ハケメ調整	口縁部破片、鉱物粒子・赤色粒子が混じる粗粒の胎土。17b住カマド出土。
31-5	甲斐型	奈良	坏	小破片	12.2	4.5	7.6	25.0	7.5YR8/6	放射状暗文、手持ちヘラケズリ	赤色粒子が混じる細粒の胎土
31-6	土師器	奈良	土製円盤	小破片				20.0	7.5YR7/4	内面黒色処理、	赤色粒子が混じる細粒の胎土
31-7	鉄製品		刀子	破片						鞘と思われる木質が刃部周辺に残る。	刃部と軸部で折損
32-1	土師器	古墳	坏	小破片	12.0	3.5	5.0	35.0	7.5YR8/4	内外面黒色処理、光沢なし、5YR3/1（黒褐）、内面ミガキ、	赤色粒子が混じるやや細粒の胎土
32-2	土師器	古墳	甕	小破片	16.4			65.0	5YR7/6	外面縦方向のヘラケズリ調整、内面ナデ調整	鉱物粒子・赤色粒子と僅かに雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土
32-3	土師器	古墳	坏	1/2	13.2	3.5	5.4	24.0	10YR4/2	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	赤色粒子と微小な雲母粒子が混じるやや細粒の胎土

図版番号	種　別	時期	器　種	残存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重量(g)	胎土色調	器面	特徴、胎土質、釉調、出土位置（特に記述のない場合は遺構覆土より出土している）
32-4	土師器	古墳	坏	小破片	14.2			13.0	7.5YR6/4	内外面黒色処理、光沢なし、5YR2/1（黒褐）、ヘラケズリ	口縁部破片、赤色粒子と微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土
32-5	須恵器	奈良	坏	小破片	13.6			14.0	5Y5/1		鉱物粒子が混じる細粒の胎土
32-6			焼成粘土塊					29.0	5YR7/4		鉱物粒子が混じる細粒の粘土
34-1	土師器	古墳	坏	ほぼ完形	12.4	4.1	4.0	156.0	7.5YR7/4	内外面黒色処理、光沢なし、10YR2/1（黒）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	赤色粒子と微小の金雲母が混じる細粒の胎土。18a住カマド出土。
34-2	土師器	古墳	坏	1/3	12.0			25.0	7.5YR7/4	内外面黒色処理、光沢なし、10YR2/1（黒）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	細粒の胎土。18a住出土。
34-3	土師器	古墳	甕	ほぼ完形	15.4	24.5	7.2	1470.0	5YR5/6	内外面ハケメ調整	鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土。18a住カマド周辺出土。
34-4	土師器	古墳	甕	1/4	19.0	25.0	10.4	618.0	5YR6/6	内外面縦方向のハケメ調整	鉱物粒子・赤色粒子が混じる粗粒の胎土。18a住カマド周辺出土。
34-5	土師器	古墳	甕	2/3	19.3	29.0	8.0	668.0	5YR5/6	内外面ハケメ調整	鉱物粒子が混じる粗粒の胎土。18a住南東角出土。
34-6	土師器	古墳	小型甕	小破片	12.0			95.0	5YR6/4	内外面ハケメ調整	やや細粒の胎土。18a住カマド周辺出土。
34-7	土師器	古墳	小型甕	小破片	12.4			39.0	5YR7/6	内外面ハケメ調整	細粒の胎土。18a住カマド周辺出土。
35-1	土師器	古墳	甕	2/3	17.4	15.2	7.0	860.0	7.5YR7/4	外面ハケメ調整後ヘラケズリ調整、内面ハケメ調整	黒色粒子が混じるやや粗粒の胎土。18a住カマド周辺出土。
35-2	土師器	古墳	甕	小破片	19.4			300.0	5YR6/6	内外面ハケメ調整	僅かに鉱物粒子が混じるやや細粒の胎土。18a住カマド周辺出土。
35-3	土師器	古墳	甕	2/3	19.0			1500.0	5YR6/6	内外面ハケメ調整	鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土。18a住カマド周辺出土。
35-4	土師器	古墳	甕	1/3	21.6	30.7	7.8	823.0	5YR4/6	内外面ハケメ調整	鉱物粒子が混じるやや細粒の胎土。18a住南東角と北西角で出土。
35-5	土師器	古墳	坏	1/4	12.2			25.0	7.5YR8/3	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	口縁部破片、赤色粒子が混じる細粒の胎土。18b住出土。
35-6	土師器	古墳	坏	ほぼ完形	12.6	3.7		146.0	7.5YR7/4	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR2/1（黒）、内面横方向ミガキ	金雲母が混じる細粒の胎土。18b住出土。
35-7	土師器	古墳	坏	小破片	13.0			30.0	7.5YR7/6	内外面横方向黒色処理、光沢なし、10YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	赤色粒子が混じる細粒の胎土。18b住出土。
35-8	土師器	古墳	坏	1/4	12.0			29.0	7.5YR7/6	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR2/2（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	微小の雲母粒子がが僅かに混じる細粒の胎土。18b住出土。
35-9	土師器	古墳	坏	3/4	13.0	3.8	6.0	95.0	7.5YR6/2	内外面黒色処理、光沢なし、10YR2/1（黒）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	鉱物粒子・赤色粒子が僅かに混じる細粒の胎土。18b住出土。
35-10	土師器	古墳	高坏	小破片			9.4	42.0	7.5YR7/4	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1（黒褐）、頸部ヘラケズリ	脚部破片、僅かな赤色粒子が混じるやや細粒の胎土。18b住出土。
36-1	土師器	古墳	高坏	ほぼ完形	11.4	8.3	9.0	216.0	10YR7/4	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、頸部ヘラケズリ	多量の赤色粒子が混じる細粒の胎土。18b住北壁沿いと南壁沿いから出土。
36-2	土師器	古墳	椀	2/3	8.6	7.2		164.0	7.5YR7/4	内外面黒色処理、光沢なし、10YR2/1（黒）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	鉱物粒子・赤色粒子が僅かに混じる細粒の胎土。18b住出土。
36-3	石器		多孔石	完形品				1700.0		表面は風化している。	縄文時代の多孔石（ハチノス石）
36-4	石器		磨石	完形品				370.0		平滑に磨かれている。	デイサイト製
36-5	石器		敲石	完形品				1000.0		表面は風化している。	デイサイト製
36-6	石器		磨石	完形品				310.0		磨り面は平坦で平滑に磨かれている。	デイサイト製
36-7	鉄製品		鏃	破片							軸部で折損
38-1	土師器	平安	坏	小破片	12.6			16.0	2.5YR6/6	放射状暗文	鉱物粒子が僅かに混じる細粒の胎土。19b住南西角出土。
38-2	須恵器	平安	坏	ほぼ完形	11.8	4.0	5.5	136.0	5Y6/1		鉱物粒子が混じる緻密の胎土。19b住北東角出土。
38-3	土師器	平安	小型甕	小破片	15.6			35.0	2.5YR6/6	内面黒色処理、光沢なし、10YR3/1（黒褐）	鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土。19b住カマド出土。
38-4	土師器	平安	甕	小破片			10.0	230.0	7.5YR7/3	内外面ハケメ調整	黒色粒子・金雲母が混じるやや粗粒の胎土。19b住カマド周辺出土。
38-5	石器		？	完形品				670.0		表面は非常に平滑に磨かれている。	周縁の3ヶ所が欠かれて抉りがつくられ、礫本来の凹みとあわせて4ヶ所が抉れている。片面に黒色の変色部あり。
40-1	土師器	奈良	坏	1/4	14.0	2.9		26.0	7.5YR7/6		赤色粒子が混じる細粒の胎土
40-2	土師器	奈良	皿	小破片			16.6	22.0	7.5YR7/4		鉱物粒子・赤色粒子が混じるやや細粒の胎土
40-3	鉄製品		刀子	破片							刃部と軸部で折損
40-4	土師器	平安	甕	3/4	18.4	31.4	9.0	1380.0	5YR7/6	内外面ハケメ調整	鉱物粒子・赤色粒子が混じる粗粒の胎土
40-5	土師器	平安	坏	1/2	12.8	4.6	5.7	94.0	7.5YR7/3	内面黒色処理	鉱物粒子と微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土。北側住居の北東角で出土。
40-6	甲斐型	平安	坏	1/3	12.0			41.0	5YR6/6	回転ヘラケズリ	赤色粒子が混じる細粒の胎土
40-7	甲斐型	平安	坏	1/3	12.0	2.5	4.6	39.0	5YR6/6	回転ヘラケズリ	赤色粒子・鉱物粒子が混じる細粒の胎土。南側住居南西角で出土。
40-8	土師器	平安	坏	小破片	13.0			22.0	7.5YR7/4	内面黒色処理	鉱物粒子・赤色粒子が混じる細粒の胎土。南側住居の南壁沿いで出土。
40-9	甲斐型	平安	坏	1/3	11.8	4.5	4.0	36.0	2.5YR5/6	手持ちヘラケズリ	赤色粒子が混じる細粒の胎土。南側住居出土。
40-10	甲斐型	平安	坏	小破片	14.0			16.0	7.5YR8/4	内面黒色処理、放射状暗文	赤色粒子と僅かな鉱物粒子が混じる細粒の胎土。北側住居の西壁沿いで出土。
40-11	甲斐型	平安	坏	小破片	12.0			14.0	5YR6/6	手持ちヘラケズリ	口縁部破片、赤色粒子が混じる細粒の胎土。北側住居西壁沿いで出土。
40-12	土師器	平安	高台付き坏	1/4			5.4	73.0	5YR7/4	内面黒色処理、	鉱物粒子・黒色粒子が混じる粗粒の胎土。南側住居出土。
40-13	土師器	平安	高台付き坏	1/4			7.3	69.0	7.5YR8/2		赤色粒子・黒色粒子と微小の雲母粒子が混じる粗粒の胎土。南側住居出土。
40-14	土師器	平安	坏	1/4			5.2	56.0	10YR8/4	内面黒色処理	鉱物粒子が混じる粗粒の胎土。南側住居出土。
41-1	土師器	平安	片口鉢	小破片	23.0			55.0	10YR8/3	内面黒色処理	鉱物粒子・赤色粒子が混じる粗粒の胎土。南側住居出土。
41-2	土師器	平安	鉢？	小破片				48.0	7.5YR8/3	内面黒色処理、墨書あり	鉱物粒子・赤色粒子が混じるやや細粒の胎土。南側住居出土。
41-3	須恵器	平安	坏	小破片	15.6			10.0	2.5YR5/2		口縁部破片、鉱物粒子が混じる緻密な胎土。南側住居出土。
41-4	土師器	古墳	坏	小破片				55.0	7.5YR8/4	横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	赤色粒子が混じるやや細粒の胎土

図版番号	種　別	時期	器　種	残存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重量(g)	胎土色調	器面	特徴、胎土質、釉調、出土位置（特に記述のない場合は遺構覆土より出土している）
41-5	土師器	古墳	甕	小破片	15.0			54.0	7.5YR7/4		口縁部破片、鉱物粒子、赤色粒子が混じるやや細粒の胎土
42-1	土師器	奈良	甕	小破片			6.6	100.0	7.5YR7/6		底部破片、鉱物粒子が混じる粗粒の胎土。
42-2	土師器	平安	坏	小破片			5.3	41.0	7.5YR8/4	内面黒色処理	底部破片、微小の鉱物粒子・雲母粒子が混じる細粒の胎土
42-3	須恵器	奈良	坏	2/3	14.5	4.2		144.0	5YR6/6	底部ヘラケズリ	鉱物粒子と微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土
42-4	須恵器	奈良	坏	2/3	14.4	3.7	10.0	140.0	7.5YR6/2		鉱物粒子が混じる緻密な胎土。
42-5	須恵器	奈良	蓋	小破片	19.0			9.0	2.5YR5/2		鉱物粒子が混じる緻密な胎土
44-1	土師器	奈良	坏	1/3	12.0	3.7		79.0	5YR6/6	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	鉱物粒子と赤色粒子が混じる細粒の胎土
44-2	土師器	奈良	椀	小破片	19.6			88.0	5YR6/6	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR4/2（灰褐）	口縁部破片、赤色粒子・金雲母が混じる細粒の胎土
44-3	土師器	奈良	甕	小破片	21.0			41.0	2.5YR6/6		鉱物粒子が混じるやや細粒の胎土
44-4	土製品	奈良	紡錘車	1/2	3.3	4.0	4.9	45.0	7.5YR8/2		鉱物粒子が僅かに混じる細粒の胎土。東壁に貼りつくように出土。
44-5	土師器	古墳	甕	小破片			14.0	615.0	10YR7/4		鉱物粒子と微小の雲母粒子が混じる粗粒の胎土
44-6	須恵器	古墳	坏	1/4	18.6	4.7	11.0	71.0	2.5Y7/2		鉱物粒子が混じる緻密な胎土。東壁沿いで出土。
44-7	石製品		砥石	破片				410.0		四面が研ぎ減りしている。線状の研ぎ痕あり。	アプライト製
45-1	土師器	奈良	坏	小破片				6.0	5YR7/6	内面にヘラミガキ	細粒の胎土。畿内系土師器坏。36住から同一個体破片出土あり。
45-2	土師器	奈良	小型手捏土器	1/4	6.8	5.0	6.4	50.0	5YR6/6		鉱物粒子と僅かな赤色粒子・雲母粒子が混じる粗粒の胎土
45-3	土師器	奈良	甕	小破片	25.6			266.0	7.5YR8/4		口縁部破片、鉱物粒子が混じる粗粒の胎土
45-4	土師器	奈良	甕	1/4			14.5	1047.0	5YR7/4	内外面ハケメ調整	底部破片、鉱物粒子と赤色粒子が混じる粗粒の胎土
46-1	甲斐型	奈良	坏	1/4			6.8	45.0	2.5YR6/6	放射状暗文、外面横方向ミガキ	赤色粒子が混じる細粒の胎土
46-2	須恵器	奈良	坏	ほぼ完形	13.2	4.0	7.7	202.0	10YR6/1		口縁部破片、鉱物粒子が混じるやや細粒の胎土
46-3	須恵器	奈良	坏	2/3	13.0	4.5	6.0	120.0	2.5Y8/2		鉱物粒子が混じる細粒の胎土
46-4	須恵器	奈良	蓋	小破片	15.0			42.0	2.5Y8/3		鉱物粒子が混じる緻密な胎土
46-5	須恵器	奈良	甕	小破片			11.6	648.0	10YR6/1		53住居床直出土遺物と接合、底部破片、鉱物粒子が混じる緻密な胎土
46-6	石器		磨石	完形品				482.0		平滑に磨かれている。	
47-1	甲斐型	奈良	坏	1/3	12.0	4.8	8.0	104.0	7.5YR7/4	放射状暗文、底部ヘラケズリ	赤色粒子が混じる細粒の胎土。36住カマド出土。
47-2	須恵器	奈良	坏	ほぼ完形	11.2	3.7	6.8	120.0	10YR8/2		鉱物粒子・雲母粒子が混じる細粒の胎土
47-3	甲斐型	奈良	坏	1/4	12.0	4.6	7.3	54.0	7.5YR7/4	放射状暗文、体部下半ヘラケズリ、底部線刻	赤色粒子が混じる細粒の胎土。36住カマド出土。
47-4	須恵器	奈良	坏	1/4			5.0	62.0	2.5Y8/3		鉱物粒子が混じる緻密な胎土
47-5	須恵器	奈良	坏	1/3	14.2	3.8	9.0	74.0	2.5Y8/1		鉱物粒子が混じる細粒の胎土
47-6	須恵器	奈良	蓋	2/3				244.0	10YR7/1		鉱物粒子が混じる緻密な胎土
47-7	土師器	古墳	坏	小破片	12.0			6.0	5YR6/4	内外面横方向ミガキ	口縁部破片、鉱物粒子と微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土
48-1	土師器	古墳	坏	小破片	13.0			11.0	7.5YR7/4	内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	口縁部破片、赤色粒子と微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土
48-2	土師器	古墳	坏	小破片	10.2			10.0	7.5YR7/4	内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	口縁部破片、鉱物粒子・赤色粒子と微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土
48-3	土師器	古墳	甕	完形	12.8	4.8		202.0	10YR7/6	内面黒色処理、光沢なし、10YR2/2（黒）、内外面横方向ミガキ、体部全面ヘラケズリ、	鉱石粒子と赤色粒子が混じる細粒の胎土
48-4	土師器	古墳	小型甕	小破片	8.4			18.0	7.5YR7/4		口縁部破片、鉱物粒子と赤色粒子が混じる粗粒の胎土
48-5	須恵器	古墳	甕	小破片				136.0	10YR7/2	回転ヘラケズリ	底部破片、鉱物粒子が混じる緻密な胎土
49-1	土師器	古墳	坏	完形	10.1	3.3		70.0	7.5YR6/6	内外面赤彩、光沢なし、10YR5/8（赤）、内外面横方向ミガキ、体部全面ヘラケズリ	カマド出土。微小の鉱物粒子・雲母粒子が混じる細粒の胎土。30住カマド出土。
49-2	土師器	古墳	坏	完形	10.2	5.0		216.0	7.5YR7/4		鉱物流子と赤色粒子が混じる粗粒の胎土
49-3	土師器	古墳	坏	小破片	12.8			17.0	7.5YR7/4	外面黒色処理、光沢なし、10YR3/2（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	鉱物粒子・赤色粒子・雲母粒子が混じる細粒の胎土
49-4	土師器	古墳	坏	小破片	12.8			11.0	10YR8/4	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/2（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半へらけずり	赤色粒子が混じる細粒の胎土
49-5	土師器	古墳	甕	完形	19.0	25.0	7.0	1860.0	5YR5/4		赤色粒子と鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土。カマド手前の床面で出土。
50-1	土師器	古墳	甕	1/4	13.0	30.0		775.0	5YR6/6	内面黒色処理、光沢なし、10YR3/1（黒褐）	鉱物粒子・赤色粒子と微小の雲母粒子が混じる粗粒の胎土
50-2	土師器	古墳	甕	ほぼ完形	23.3	29.0	8.8	2697.0	5YR6/4	内外面ナデ調整	鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土。東壁沿い床面で出土。
50-3	土師器	古墳	甕	完形	13.5	18.0	7.2	1342.0	7.5YR8/4	外面ヘラケズリ調整	赤色粒子と微小の鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土。住居北西角近くで出土。
50-4	鉄製品		刀子	破片							刃部と軸部で折損
52-1	土師器	奈良	坏	小破片	16.0			19.0	2.5YR7/8	内面横方向ミガキ	口縁部破片、細粒の胎土
52-2	土師器	奈良	甕	1/4	19.8			466.0	7.5YR6/3	外面縦方向のヘラケズリ調整	カマド・住居覆土出土。口縁部破片、鉱物粒子と微小の雲母粒子が混じる粗粒の胎土
52-3	土師器	奈良	甕	小破片	32.0			262.0	7.5YR6/4	外面縦方向のナデ調整、内面ハケメ調整	カマド出土。口縁部破片、鉱物粒子と微小の雲母粒子が混じる粗粒の胎土
52-4	土師器	古墳	坏	小破片	12.0			7.0	5YR6/6	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR4/2（灰褐）、内外面横方向ミガキ	口縁部破片、細粒の胎土
54-1	土師器	古墳	坏	ほぼ完形	12.2	3.6		116.0	7.5YR7/3	内外面黒色処理、光沢なし、5YR2/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	赤色粒子が混じる細粒の胎土。南東角部で出土。
54-2	土師器	古墳	坏	ほぼ完形	13.4	3.6		116.0	7.5YR6/3	内外面黒色処理、光沢なし、5YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	赤色粒子と微小の鉱物粒子が混じる細粒の胎土。カマド南側で出土。

図版番号	種　別	時期	器　種	残存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重量(g)	胎土色調	器面	特徴、胎土質、釉調、出土位置（特に記述のない場合は遺構覆土より出土している）
54-3	土師器	古墳	坏	3/4	21.5	9.2		585.0	7.5YR7/3	内外面黒色処理、光沢なし、5YR2/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	僅かに雲母粒子が混じる細粒の胎土。東壁沿いと住居中央の埋土中から破片で出土。
54-4	土師器	古墳	甕	小破片	22.0			75.0	7.5YR6/3	外面縦方向ヘラケズリ調整、内面は器面の風化のため不明。横方向のハケメ調整か。	口縁部破片、鉱物粒子が混じる粗粒の胎土
54-5	土師器	古墳	小型甕	小破片	12.0			42.0	7.5YR7/4	外面は風化し調整技法不明、内面ナデ調整か。	口縁部破片、鉱物粒子が混じる粗粒の胎土
54-6	土師器	古墳	甕	1/2	17.5			1680.0	10YR8/4	内外面ハケメ調整	鉱物粒子と僅かな雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。カマド南東側の柱穴付近の床面上で出土。
54-7	石器		?							両端部に敲き痕あり。磨り作業に使用した磨り痕はない。	
54-8	鉄製品		刀子	破片							刃部で折損
55-1	須恵器	古墳	坏	1/4	21.5	5.6	15.5	163.0	2.5Y6/1		付け高台、鉱物粒子が混じる緻密の胎土
56-1	土師器	古墳	甕	ほぼ完形	19.5	34.8	9.2	2642.0	5YR7/6	外面ハケメ調整、内面ロクロナデ	鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土。北東角の床面上１０cmで出土。
56-2	土師器	古墳	甕	小破片	23.0			443.0	7.5YR6/4	内外面ロクロナデ	鉱物粒子・赤色粒子が混じるやや細粒の胎土
57-1	土師器	古墳	甕	小破片	25.0			265.0	5YR6/6	内外面ハケメ調整	鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土
57-2	土師器	古墳	甕	2/3	14.9			422.0	5YR7/6	外面ハケメ調整、内面ロクロナデ	鉱物粒子・赤色粒子・雲母粒子が混じるやや細粒の胎土。住居西壁沿いと東壁沿いの埋土中から破片で出土。
57-3	土師器	古墳	短頸壺	小破片	8.5			44.0	10YR7/4	内外面ナデ調整	鉱物粒子と僅かな赤色粒子が混じる細粒の胎土
57-4	石製品		砥石	破片				105.0		三面を砥ぎ作業に使用。一面に線状痕あり。	アプライト製
57-5	須恵器	古墳	甕	小破片	36.0			493.0	10YR7/1		鉱物粒子が混じる緻密の胎土。埋土中の出土。32住、36住、53住埋土出土破片と接合。
57-6	土製品		紡錘車	完形	2.9	2.6	5.1	80.0	7.5YR6/6		鉱物粒子が混じるやや細粒な胎土。カマド南側埋土中で出土。
57-7	鉄製品		刀子	破片							刃部で折損
58-1	須恵器	古墳	壷	1/3	8.1			104.0	5YR6/2		最大径11･0、鉱物粒子が混じる緻密な胎土
59-1	甲斐型	奈良	坏	1/2	13.2	5.1	7.2	150.0	5YR6/6	放射状暗文、外部下半ヘラケズリ	カマド出土。赤色粒子が混じる細粒の胎土
59-2	甲斐型	奈良	坏	2/3	13.0	5.7	7.5	160.0	5YR6/6	まばらな放射状暗文、底部のみが黒色に変色している。部分的な黒色処理か。	カマド出土。赤色粒子が混じる細粒の胎土
59-3	甲斐型	奈良	坏	2/3	13.0	3.2	7.0	114.0	5YR6/6	みこみ部放射状暗文、内外面横方向ミガキ、底部ヘラケズリ	カマド出土。細粒の胎土
59-4	須恵器	奈良	坏	2/3	13.8	4.3	7.1	128.0	2.5Y5/1		鉱物粒子が混じる緻密な胎土。カマド南側で出土。
59-5	須恵器	奈良	蓋	1/3	12.8			63.0	N5/0		カマド出土。鉱物粒子が混じる細粒の胎土
59-6	土製品	奈良	土製円盤	小破片				22.0	5YR5/6	内面ミガキ	細粒の胎土。土師器坏底部を円形に打ち欠いている。破片縁は打ち欠いたまま。
59-7	土師器	奈良	甕	1/4	12.8			122.0	10YR4/1	内外面ロクロナデ	鉱物粒子が混じるやや細粒の胎土
60-1	甲斐型	奈良	甕	小破片	23.0			212.0	10YR6/4	内外面ハケメ調整	口縁部破片、鉱物粒子と微小の雲母粒子が混じるやや細粒の胎土
60-2	土師器	古墳	坏	小破片	12.0			10.0	10YR6/3	内面黒色処理、光沢なし、10YR2/1（黒）、内外面横方向ミガキ、、体部下半ヘラケズリ	口縁部破片、赤色粒子・黒色粒子が混じる細粒の胎土
60-3	土師器	奈良	坏	ほぼ完形	13.0	3.2	7.0	112.0	5YR7/6	底部ヘラケズリ	細粒の胎土。38a住と38b住の埋土から出土・接合。
60-4	土師器	古墳	椀	小破片	20.7			17.0	5YR5/4	底部下半ヘラケズリ	赤色粒子が混じる細粒の胎土
61-1	土師器	古墳	坏	小破片	12.2			11.0	5YR5/4	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土
61-2	土師器	古墳	坏	小破片	14.0			19.0	5YR6/4	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR4/3（褐）、内面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土
62-1	土師器	古墳	坏	小破片	9.0			12.0	5YR6/4	内外面黒色処理、光沢なし、10YR4/2（灰黄褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	口縁部破片、微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土
62-2	土師器	古墳	高坏	小破片				45.0	7.5YR6/4	頚部ヘラケズリ	微小の雲母粒子が混じる緻密な胎土
62-3	須恵器	古墳	高坏	1/4				81.0	2.5Y5/1		僅かな鉱物粒子が混じる緻密の胎土
62-4	土師器	古墳	椀	1/2	25.6			86.0	7.5YR7/4	内面黒色処理、光沢なし、10YR2/1（黒）	赤色粒子と微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土
62-5	土師器	古墳	坏	1/2	16.0	6.7		136.0	5YR7/4	内外面横方向ヘラケズリ	鉱物粒子・赤色粒子が混じる粗粒の胎土
62-6	土師器	古墳	小型手捏土器	完形	7.8	5.6		78.0	7.5YR6/4	外面ヘラケズリ	鉱物粒子・赤色粒子と微小の雲母粒子が混じる粗粒の胎土。住居南東角で出土。
62-7	土師器	古墳	甕	1/4				372.0	7.5YR7/4	内外面ロクロナデ	鉱物粒子・赤色粒子が混じる粗粒の胎土
63-1	須恵器	古墳	蓋	1/3	17.0	4.2		100.0	7.5YR5/2		カマド出土。鉱物粒子が混じる緻密の胎土
63-2	土師器	奈良	甑	小破片			6.0	61.0	7.5YR6/3		鉱物粒子・赤色粒子と微小の雲母粒子が混じるやや細粒の胎土。6号試掘溝出土。37号住居に属する。
63-3	土師器	古墳	甑	小破片				72.0	7.5Y7/4	底部ヘラケズリ調整のうえ穿孔	鉱物粒子と赤色粒子が混じる粗粒の胎土
63-4	土師器	古墳	甕	小破片	16.0			51.0	7.5YR8/4	外面縦方向のヘラケズリ、内面ハケメ調整	鉱物粒子、赤色粒子が混じる粗粒の胎土
63-5	石製品		紡錘車	完形品				50.0		側面と下面に放射状の線刻と思われる線状痕あり。	滑石製
63-6	土製品	古墳	紡錘車	1/2	5.0	2.4	6.0	37.0	7.5YR8/3		赤色粒子が混じる粗粒の胎土
63-7	鉄製品		鎌？	破片							
63-8	土師器	平安	坏	小破片	15.6			21.0	10YR6/3	内面黒色処理、外面横方向ミガキ	鉱物粒子と赤色粒子が混じる細粒の胎土
63-9	甲斐型	平安	坏	小破片			4.8	20.0	7.5YR7/6	手持ちヘラケズリ	赤色粒子と僅かな鉱物粒子が混じる細粒の胎土

図版番号	種　別	時期	器　種	残存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重量(g)	胎土色調	器面	特徴、胎土質、釉調、出土位置（特に記述のない場合は遺構覆土より出土している）
63-10	土師器	古墳	高坏？	小破片	14.3			28.0	7.5YR6/4	内外面赤彩、光沢なし、10YR4/6（赤）、内外面横方向ミガキ？	口縁部破片、赤色粒子が混じる細粒の胎土
63-11	土師器	古墳	小型手捏土器	1/2	5.0	5.0	4.6	59.0	7.5YR8/4		口縁部破片、鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土
63-12	鉄製品		鏃か釘	破片							鏃の軸部破片か釘と思われる
65-1	土師器	古墳	坏	ほぼ完形	16.2	6.1		374.0	7.5YR7/2	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	カマド出土。赤色粒子と僅かに鉱物粒子・雲母粒子が混じる細粒の胎土
65-2	土師器	古墳	坏	1/4	12.0			33.0	7.5YR7/4	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	細粒の胎土
65-3	土師器	古墳	坏	1/4	13.1	4.7		40.0	7.5YR4/2	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/2（黒褐）、内面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	赤色粒子が混じる細粒の胎土
65-4	土師器	古墳	坏	1/3	13.0			55.0	7.5YR6/3	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/2（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	赤色粒子が僅かに混じる細粒の胎土
65-5	土師器	古墳	坏	1/2	13.0	3.4		53.0	7.5YR6/3	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/2（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部全面ヘラケズリ	細粒の胎土
65-6	土師器	古墳	椀	ほぼ完形	11.5	6.1		180.0	7.5YR7/6	内面黒色処理、光沢なし、10YR3/1（黒褐）、外面ミガキ、体部下半ヘラケズリ	多量の赤色粒子が混じるやや細粒の胎土。南壁沿いで出土。
65-7	土師器	古墳	壷	2/3	7.6			320.0	5YR5/4	内面黒色処理、光沢なし、7/5YR2/1（黒）、体部下半ヘラケズリ	鉱物粒子・赤色粒子が混じる粗粒の胎土。住居埋土から破片で出土。
65-8	土師器	古墳	壷	ほぼ完形	8.7	6.8		180.0	7.5YR7/4	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR2/1（黒）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	赤色粒子が混じる細粒の胎土。東壁沿いで床面からやや浮いて出土。
65-9	土師器	古墳	壷	ほぼ完形	8.8	8.0		294.0	7.5YR7/3	外面ヘラケズリ	鉱物粒子・赤色粒子と微小の雲母粒子が混じるやや細粒の胎土。南西角で出土。
65-10	土師器	古墳	甕	完形	17.0	28.5	5.0	1960.0	5YR6/6	内外面ハケメ調整	鉱物粒子と微小の雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。南西角出土。
65-11	土師器	古墳	甕	2/3	31.0	26.3	8.0	1770.0	2.5YR6/6	内外面ハケメ調整	鉱物粒子・赤色粒子が混じるやや粗粒の胎土。南西角出土。
66-1	土師器	古墳	甕	完形	17.0	21.0	7.2	1460.0	2.5YR5/6	内外面ハケメ調整	鉱物粒子・赤色粒子と微小の雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。カマド出土。
66-2	土師器	古墳	甕	完形	20.2	26.4	9.0	2800.0	7.5YR6/4	内外面ハケメ調整	鉱物粒子と僅か微小の雲母粒子がやや混じる粗粒の胎土。南西角で出土。
66-3	土師器	古墳	甕	完形	21.5	28.7	9.3	3250.0	7.5YR7/4	内外面ハケメ調整	鉱物粒子が混じるやや細粒な胎土。南西角で出土。
66-4	石器		磨石	完形品						平坦な二面が非常に平滑に磨かれている。ただし完全な平坦面ではなく磨り作業に使用したか疑問。	安山岩製。
66-5	土師器	古墳	小型手捏土器	3/4	7.0	4.5	4.6	122.0	5YR7/6	体部全面ヘラケズリ	赤色粒子が混じるやや細粒の胎土。カマド出土。
68-1	甲斐型	奈良	坏	小破片			11.0	23.0	7.5YR7/4	みこみ部放射状暗文、外面縦方向ミガキ、回転ヘラケズリ	細粒の胎土
68-2	須恵器	奈良	坏	2/3	14.0	4.0		142.0	2.5Y7/1		鉱物粒子が混じる細粒の胎土。カマド出土。
68-3	須恵器	奈良	坏	2/3	14.0	3.5		120.0	2.5Y6/1		カマド出土。鉱物粒子が混じる緻密な胎土
68-4	土師器	奈良	甕	ほぼ完形	22.6	37.1	10.3	2560.0	7.5YR6/4		鉱物粒子が混じる粗粒の胎土。カマド出土。
68-5	石器		磨石	完形品				830.0		四面が平滑に磨かれている。両端に敲き痕あり。	安山岩製。
68-6	石器		打製石斧	破片				130.0		分銅型の打製石斧。背面に礫面が残る。	頁岩製
68-7	石器		凹み石	完形品				370.0		二面に凹みあり。表面は風化している。	デイサイト製
68-8	鉄製品		鏃	破片							軸部で折損
70-1	土師器	古墳	坏	小破片	18.6			91.0	10YR5/3	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	赤色粒子が混じる細粒の胎土。43a住、43b住埋土から破片で出土・接合
70-2	土師器	古墳	坏	2/3	14.8	3.9	10.0	174.0	7.5YR7/3	内外面黒色処理、光沢なし、10YR4/2（灰黄褐）	赤色粒子が混じる細粒の胎土。カマド煙道出土。
71-1	土師器	古墳	甕	小破片	15.4			143.0	7.5YR8/6	内外面ハケメ調整	口縁部破片、鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土。カマド出土。
71-2	土師器	古墳	小型手捏土器	1/3	6.3	4.0	5.0	30.0	10YR7/4		僅かに鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土。カマド出土。
71-3	土師器	古墳	甕	1/4	22.0			763.0	7.5YR7/4	内外面ハケメ調整	鉱物粒子・赤色粒子と微小の雲母粒子が混じる粗粒の胎土。43a住、43b住埋土から破片で出土・接合。
71-4	須恵器	奈良	坏	2/3	12.8	4.4		167.0	10YR6/1	内面黒色処理、光沢なし、2.5Y3/1（黒褐）	黒色粒子・鉱物粒子が混じる細粒の胎土。43a住南壁沿い埋土から出土。
71-5	須恵器	古墳	甕	小破片	16.8			70.0	2.5YR6/6		鉱物粒子と赤色粒子の混じる細粒の胎土。焼成不充分。
72-1	土師器	奈良	坏	ほぼ完形	14.0	3.6	7.5	190.0	5YR6/6	内外面横方向ミガキ、底部ヘラケズリ	細粒の胎土。43b住南西角から破片で出土・接合。口縁部に油煤付着。
72-2	須恵器	奈良	坏	1/4	15.0	4.1	9.3	49.0	2.5Y6/2		付け高台、鉱物粒子が僅かに混じる緻密な胎土。43a住と43b住の境界埋土から出土。
72-3	土師器	奈良	甕	小破片	18.0			112.0	5YR6/6	外面ヘラケズリ、内面ナデ調整	鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土。43b住埋土出土。
72-4	土師器	奈良	甕	1/2	29.0	21.2	10.0	1500.0	10YR6/6	内外面ハケメ調整	鉱物粒子と微小の雲母粒子が混じる粗粒の胎土。43b住埋土出土。
73-1	土師器	奈良	甕	小破片	32.0			288.0	5YR7/6	内外面ハケメ調整	口縁部破片、鉱物粒子が混じる粗粒の胎土。43b住カマドと埋土から破片で出土・接合。
73-2	須恵器	古墳	甕	小破片				203.0	5YR6/2		鉱物粒子の混じる細粒の胎土。43a住と1住の埋土から破片で出土・接合
73-3	石器		磨石	完形品				600.0		二面が平滑に磨かれている。	安山岩製。
73-4	石器		磨石	完形品				260.0		全体に平滑に磨かれている。	安山岩製。
73-5	石器		凹み石	完形品				190.0		両面に凹みあり	デイサイト製
73-6	石器		台石？	完形品						全体に平滑に整形され、一面は特に平滑に磨かれている。	安山岩製
73-7	鉄製品		刀子	破片							軸部で折損。刃部は研ぎ減りしている。
74-1	甲斐型	奈良	坏	1/4			8.0	34.0	5YR5/6	放射状暗文、外面横方向ミガキ	細粒の胎土
75-1	土師器	古墳	坏	1/4	12.6			44.0	5YR5/6	体部下半ヘラケズリ	二次焼成により表面剥落、細粒の胎土

図版番号	種　別	時期	器　種	残存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重量(g)	胎土色調	器面	特徴、胎土質、釉調、出土位置（特に記述のない場合は遺構覆土より出土している）
75-2	土師器	古墳	坏	ほぼ完形	13.6			78.0	5YR6/6	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1、内外面横方向ミガキ、外部下半ヘラケズリ	鉱物粒子が混じる細粒の胎土。埋土から破片で出土・接合
75-3	土師器	古墳	坏	小破片	12.4			30.0	10YR3/1	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/1（黒褐）、内外面横方向ミガキ、体部下半ヘラケズリ	口縁部破片、僅かに鉱物粒子が混じる細粒の胎土
75-4	土師器	古墳	椀	小破片	10.5			27.0	5YR5/3	内外面黒色処理、光沢なし、7.5YR3/1（黒褐）、外面ミガキ	口縁部破片、僅かに雲母粒子が混じる細粒の胎土
75-5	土師器	古墳	高坏	1/3				81.0	10YR3/2	内外面黒色処理、光沢なし、10YR3/2（黒褐）内面ミガキ、頸部へらけずり、脚部指頭痕	赤色粒子が混じる細粒の胎土
75-6	土師器	古墳	高坏	小破片			9.0	56.0	2.5YR5/6	内面ミガキ、頸部ヘラケズリ	細粒の胎土
75-7	土師器	古墳	椀	小破片	17.4			55.0	5YR4/6	内面横方向、外面不規則なミガキ、外部下半ヘラケズリ	鉱物粒子と微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土
77-1	須恵器	奈良	坏	2/3	14.6	4.4	10.0	136.0	10YR8/2		多量の鉱物粒子が混じる細粒の胎土。
77-2	土師器	奈良	椀	ほぼ完形	12.0	5.6		254.0	5YR6/4	外部全面ヘラケズリ	カマド出土。僅かな鉱物粒子が混じる粗粒の胎土
77-3	土師器	奈良	甕	1/2	13.0			194.0	2.5YR5/3	外面ハケによるケズリ調整、内面ハケメ調整	鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土。52住、53住埋土から破片で出土・接合
77-4	土師器	奈良	甕	小破片	18.0			11.0	7.5YR7/4	外面ヘラケズリ、内面ハケメ調整	鉱物粒子が混じるやや細粒の胎土。52住カマド出土。
78-1	土師器	奈良	甕	1/2	17.4			406.0	7.5YR6/4	外面ヘラケズリ、内面ナデ調整	鉱物粒子と微小の雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土
78-2	土師器	奈良	甕	小破片			14.0	89.0	5YR6/6	器面風化が著しく調整技法は不明。	鉱物粒子・赤色粒子が混じる粗粒の胎土。52住、53住埋土から破片で出土・接合
78-3	石製品		砥石	破片				212.0		四面が研ぎ面として使用されている。	アプライト製
80-1	甲斐型	奈良	坏	小破片	14.2			29.0	10YR7/4	放射状暗文、手持ちヘラケズリ	カマド出土。赤色粒子が混じる細粒の胎土
80-2	甲斐型	奈良	坏	小破片	11.4			20.0	5YR7/4		細粒の胎土
80-3	甲斐型	奈良	坏	1/3			8.0	29.0	7.5YR7/4	放射状暗文、手持ちヘラケズリ	カマド出土。細粒の胎土
80-4	須恵器	奈良	坏	1/4	14.0	3.7	8.6	43.0	10YR7/1		カマド出土。鉱物粒子が混じるやや細粒の胎土。焼成不充分。
80-5	須恵器	奈良	坏	1/2	14.0	4.0	8.0	88.0	2.5Y6/1		鉱物粒子が混じる緻密な胎土。53住カマド横で出土。38b住出土破片と接合。
80-6	須恵器	奈良	盤	1/4	8.2			200.0	7.5YR6/1		鉱物粒子が混じる緻密な胎土。
80-7	土師器	奈良	甕	小破片	23.0			150.0	7.5YR8/4	内外面ロクロナデ調整	カマド出土。口縁部破片、赤色粒子と多量の鉱物粒子が混じる粗粒の胎土
80-8	土師器	奈良	甕	小破片	13.0			57.0	7.5YR7/4	内外面ロクロナデ調整	カマド出土。口縁部破片、多量の鉱物粒子と僅かな赤色粒子が混じる粗粒の胎土
80-9	土師器	奈良	甕	小破片	14.0			80.0	7.5YR7/4	外面は雑なヘラケズリ、内面縦方向のナデ調整	口縁部破片、鉱物粒子・赤色粒子と微小の雲母粒子が混じる粗粒の胎土
80-10	土師器	奈良	甕	小破片	17.0			22.0	10YR7/2	外面ハケメ調整、内面ナデ調整。	カマド出土。口縁部破片、鉱物粒子と微小の雲母粒子が混じる細粒の胎土。色調白く近畿地方からの搬入品と思われる。
80-11	須恵器	奈良	壷	1/3				342.0	10YR5/1		鉱物粒子が混じる細粒の胎土。53住カマド出土
85-1	石器		?	完形品				140.0		全体が平滑に磨かれている。	安山岩製
85-2	石器		凹み石	完形品				395.0		両面に凹みあり	安山岩製
86-1	土師器	奈良	坏	1/4	13.0			28.0	2.5YR6/8	外面は横方向のミガキ、内面はナデ調整と放射状暗文	赤色粒子がわずかに混じる細粒の胎土。1号掘立柱建物柱穴から出土。
86-2	須恵器	奈良	壷	破片			9.0	346.0	7.5Y6/1	内外面ともロクロナデ調整	白色の鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土。2号掘立柱建物柱穴から出土。
86-3	縄文土器	曽利	深鉢	破片							
86-4	縄文土器	曽利	深鉢	破片							
86-5	縄文土器	加曽利E	深鉢	破片							
86-6	縄文土器	加曽利E	深鉢	破片							
86-7	縄文土器	加曽利E	深鉢	破片							
86-8	縄文土器	加曽利E	深鉢	破片							
87-1	縄文土器	曽利	深鉢	破片							
87-2	縄文土器	曽利	鉢	破片							
87-3	縄文土器	曽利	深鉢	破片							
87-4	縄文土器	曽利	深鉢	破片							
87-5	縄文土器	曽利	深鉢	破片							
87-6	土製品		土偶脚部	破片							
88-1	石器		凹み石	完形品				137.0		両面に凹みあり	デイサイト製
88-2	土師器	平安	坏	2/3	12.5	4.4	5.0	91.0	7.5YR7/2	内面黒色処理、墨書「多」	鉱物粒子・赤色粒子が混じる細粒の胎土。表土剥作業中に1号住居付近で出土。1号溝跡の遺物か。
88-3	石器		すり鉢?	完形品				2830.0		凹み部内面はきれいに整形されているが、平滑なほどには摩滅していない	
88-4	鉄製品		刀子	破片							軸部で折損。刃部は研ぎ減りしている。
88-5	鉄製品		?								
88-6	鉄製品		斧	完形品							
88-7	鉄製品		鉗子	破片							

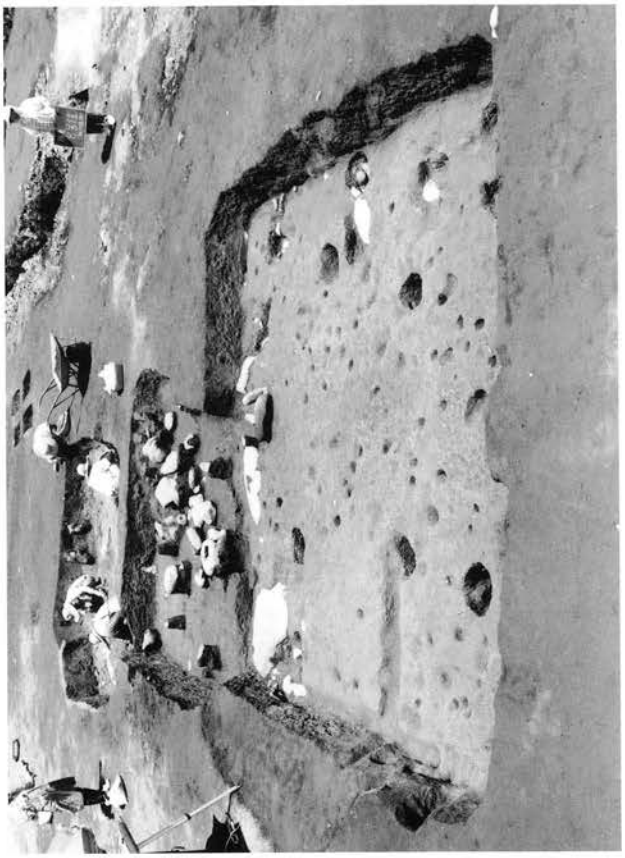
腰巻遺跡遠景（中央の森の右側が調査地）

１号住居

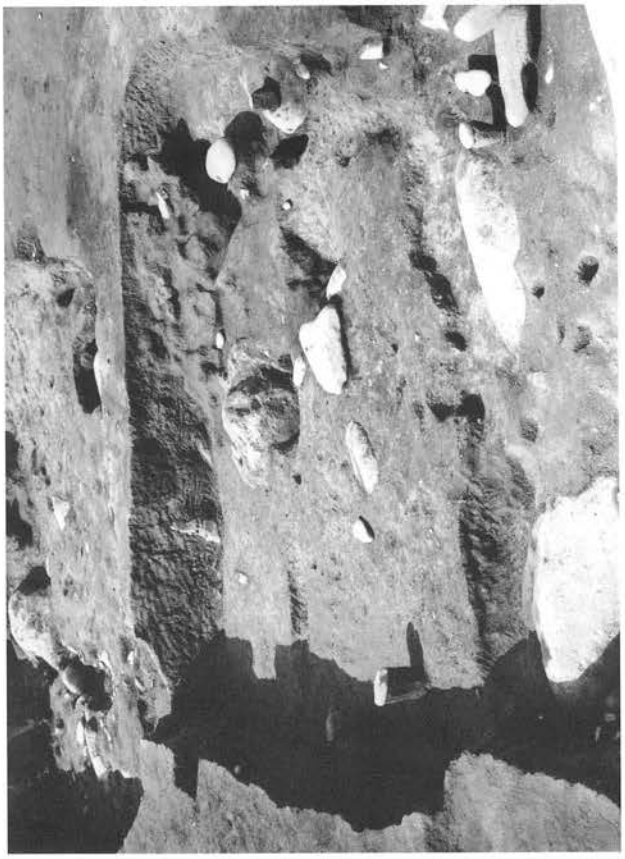
３号住居

４号住居

5 号住居



8 号住居



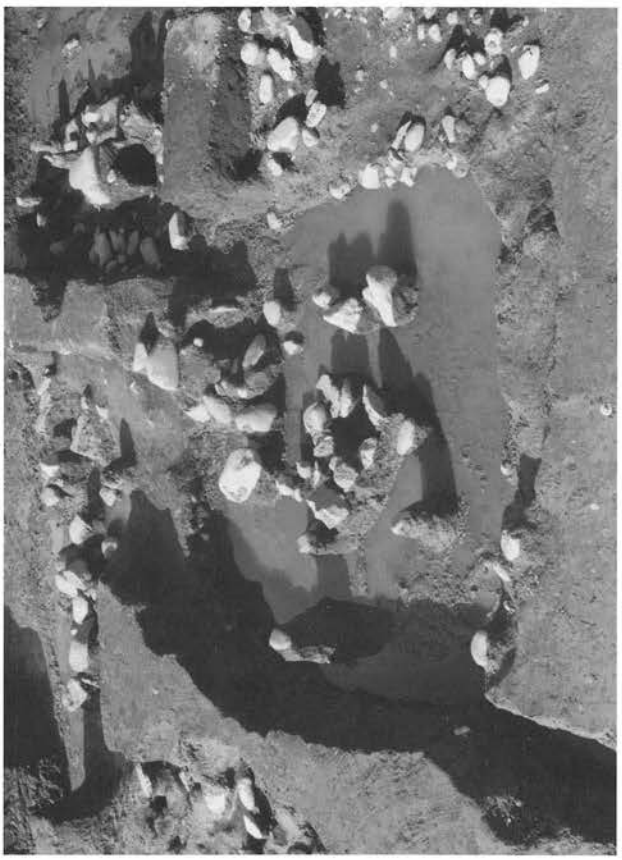
9 号住居

10号住居

11号住居

12号住居

16号住居



17a号住居

17b号住居

17c号住居

17d号住居

18a号・18b号住居

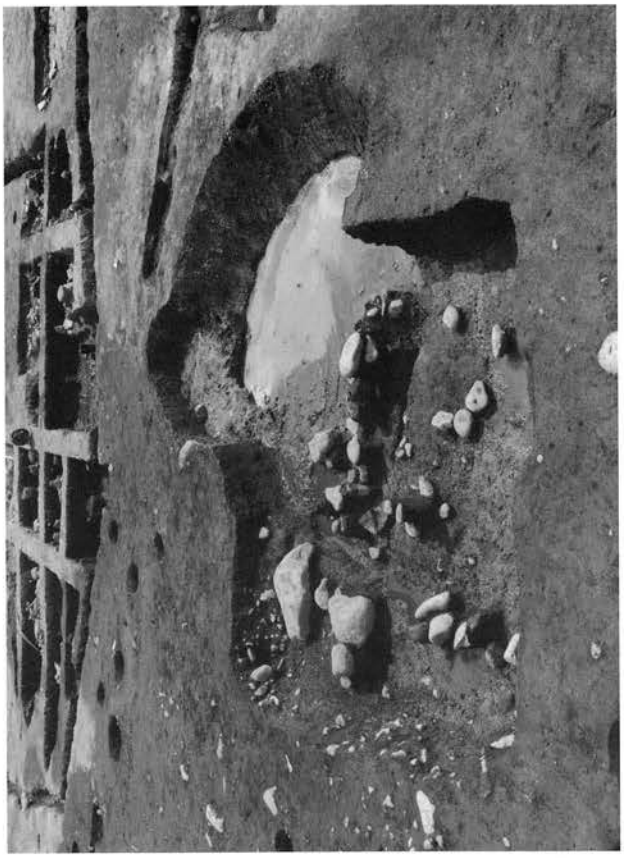
19a号・19b号住居

20号・22号住居

21号住居

26号住居

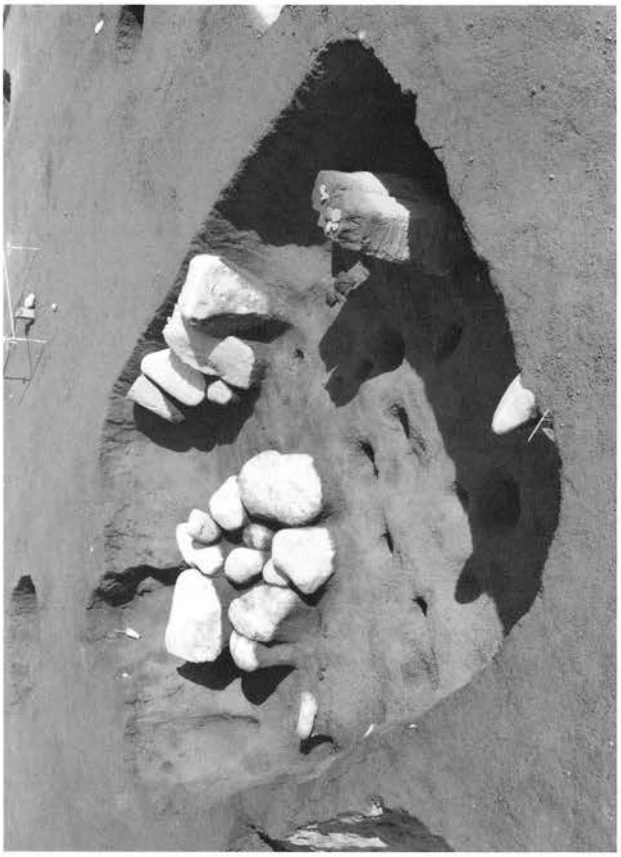
27号住居



28号・36号住居（右側が36号住居）

30号住居

32号住居



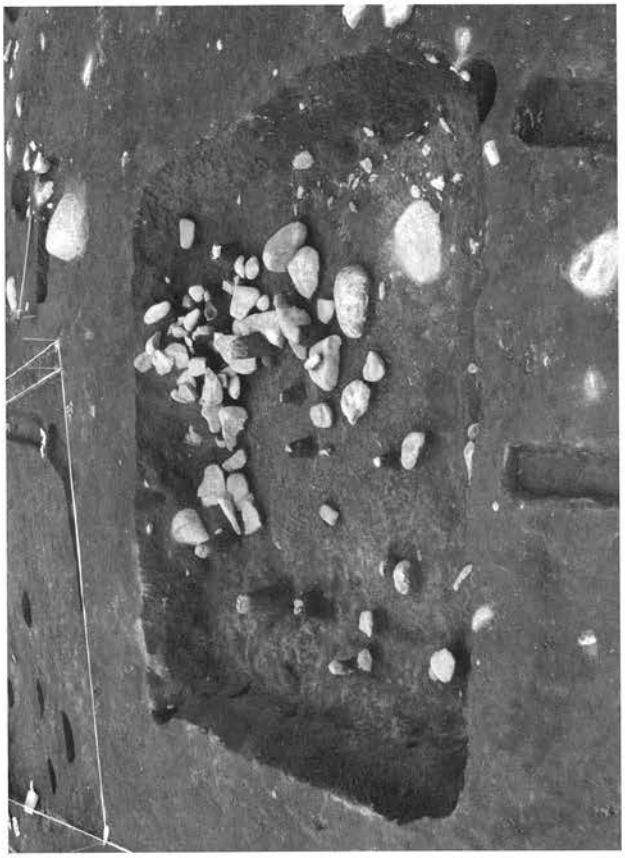
35号住居

37号住居

（左から）34号・38a号・38b号住居

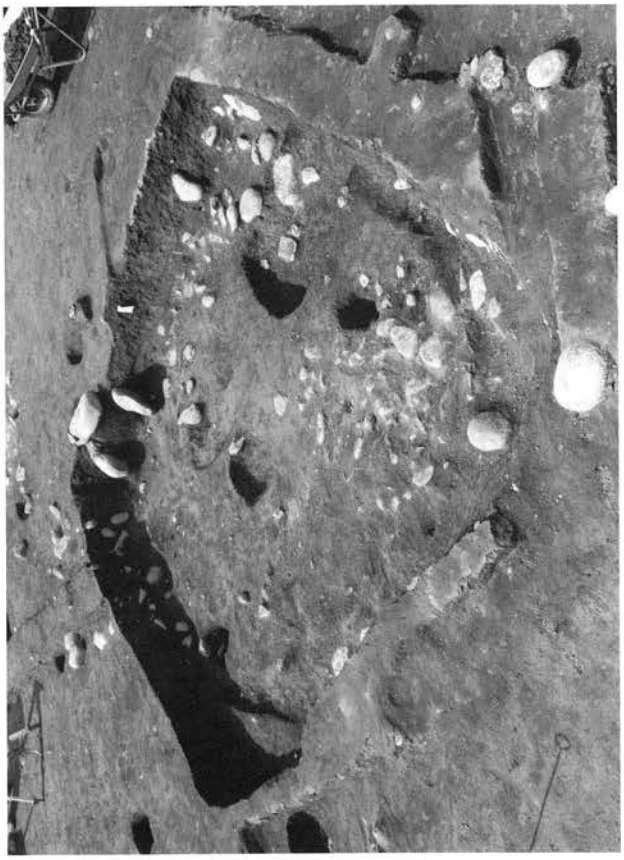
（上から）34号・38a号・38b号住居

41号住居

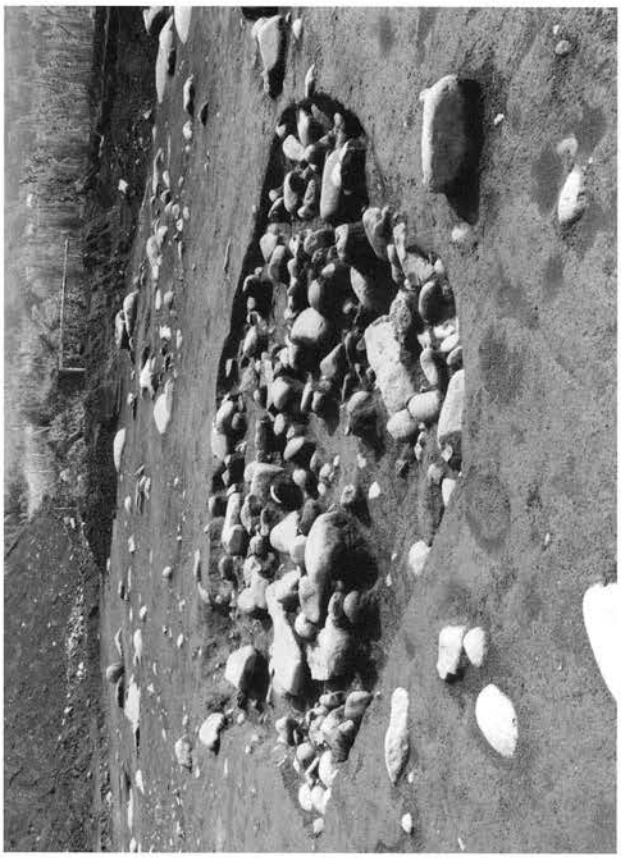


42号住居

43a号・43b号住居



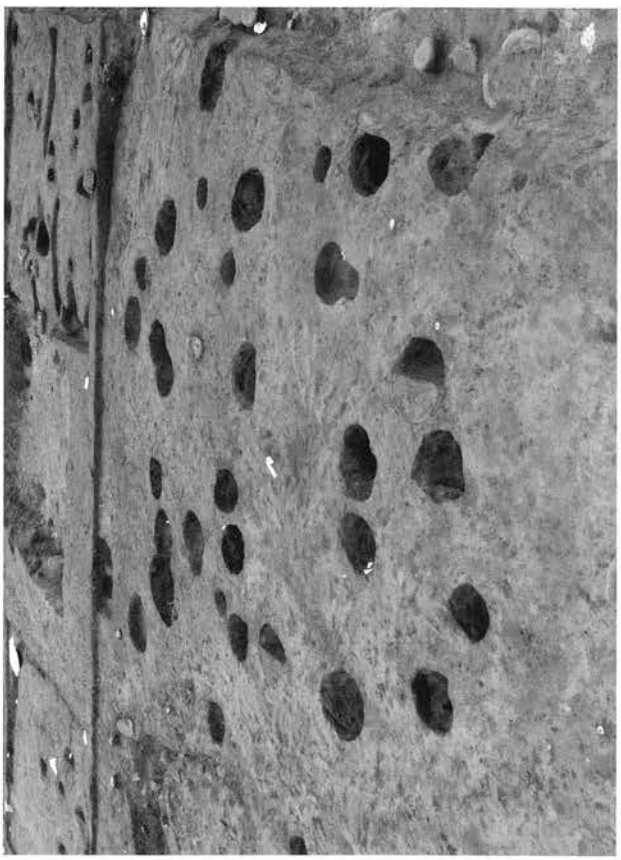
46号住居



51号住居

52号住居

１号溝跡

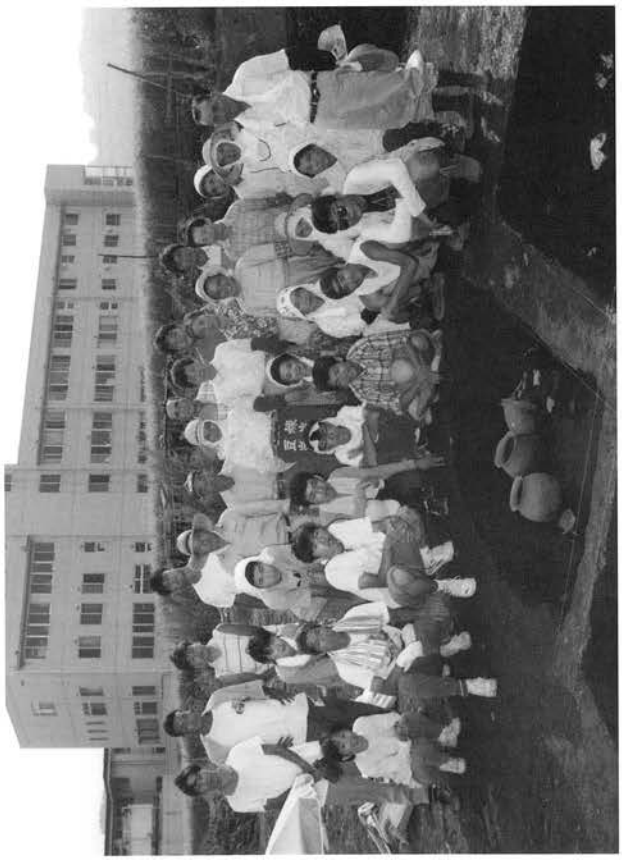


１号掘立柱建物

古墳時代の遺物

奈良時代の遺物

平安時代の遺物



調査参加者

腰巻北遺跡（第２次）
腰巻南遺跡（第３次）

塩川病院増築ほかの建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004
須玉町教育委員会

例　言

1. 本報告書は、塩川病院増築ほかの建設に伴う発掘調査をした、山梨県北巨摩郡須玉町 799-1 番地ほかに所在する腰巻北・腰巻南遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、須玉町教育委員会が調査主体となり実施した。
3. ＜発掘調査組織＞

   調査主体　　須玉町教育委員会　　教育長　藤巻宣夫

   調査担当　　須玉町教育委員会　　山路恭之助

   調査委員　　深沢裕三

   調査補助員

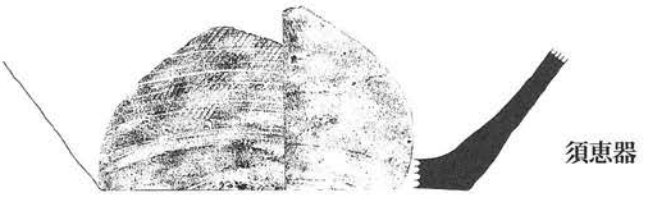
   浅川英光　角井保之助　伏見徳芳　深沢照明　樋口匂　深沢直江　宮崎夏子　白倉恵美子　石川モト子　小澤久恵　八巻まさ子　中込艶子　小尾嘉子　向井直子　小沢紀子

   整理員

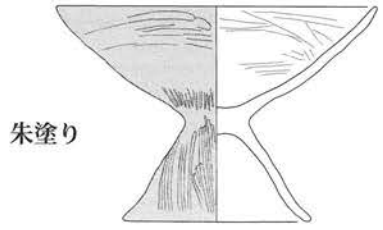
   高橋正明　高橋香精　市川道夫　岡本美恵子　市川博子　小尾裕美子　浅川佐知子　三井ちぐさ
4. 本書の執筆・編集　山路恭之助　深沢裕三
5. 本調査の出土品、諸記録は須玉町教育委員会が保管している。
6. 株式会社シン技術コンサルに写真測量・図化を委託した。

凡　例

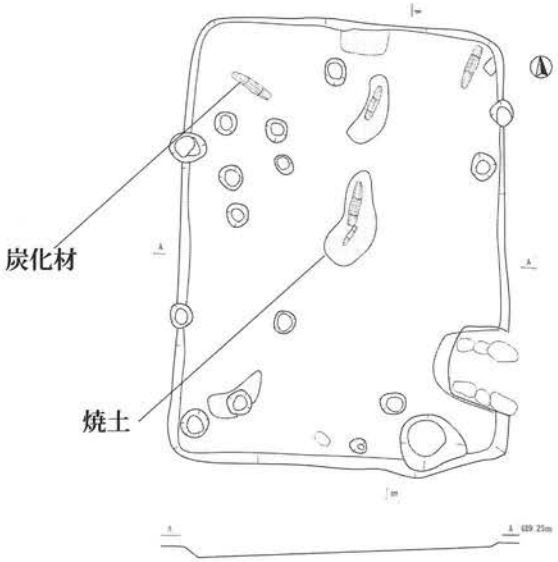
1. 図版中の網掛部等の意味するところは以下のとおりである。



須恵器



朱塗り



目　次

例言・凡例
第１章　調査に至る経緯と経過 1
第２章　遺跡の立地と環境 1
第３章　遺構と遺物 2

挿図目次

第　１図　北 - 全体図 10
第　２図　北 -1 号・8 号住居　2 号住居 11
第　３図　北 -3 号・5 号住居　4 号住居 12
第　４図　北 -6 号住居　7 号住居 13
第　５図　北 -9 号住居　19 号住居 14
第　６図　南 - 全体図 15
第　７図　南 -1 号・2 号住居　3 号住居 16
第　８図　南 -4 号住居　5 号住居 17
第　９図　南 -6 号住居　8 号住居 18
第 10 図　南 -9 号住居　10 号住居 19
第 11 図　南 -12 号住居　14 号住居 20
第 12 図　南 -15 号住居　16 号住居 21
第 13 図　南 -17 号（18 号）住居　17 号住居カマド 22
第 14 図　南 -20 号住居　22 号住居・溝 4・溝 5 23
第 15 図　南 - 溝 1　溝 2　溝 3 24
第 16 図　南 - 土坑 4　土坑 5・土坑 6 25
第 17 図　北 -1 号住居出土遺物 26
第 18 図　北 -1 号・2 号住居出土遺物 27
第 19 図　北 -2 号住居出土遺物 28
第 20 図　北 -3 号住居出土遺物 29
第 21 図　北 -3 号・4 号住居出土遺物 30
第 22 図　北 -4 号・6 号住居出土遺物 31
第 23 図　北 -6 号・7 号住居出土遺物 32
第 24 図　北 -15 号・19 号居住出土遺物 33
第 25 図　北 -27 号・29 号居住出土遺物 34
第 26 図　南 -1 号・2 号住居出土遺物 35
第 27 図　南 -3 号・4 号・5 号住居出土遺物 36
第 28 図　南 -5 号住居出土遺物 37
第 29 図　南 -6 号・8 号住居出土遺物 38
第 30 図　南 -8 号住居出土遺物 39
第 31 図　南 -8 号住居出土遺物 40
第 32 図　南 -8 号・9 号住居出土遺物 41
第 33 図　南 -10 号・11 号住居出土遺物 42

第 34 図　南 -12 号住居出土遺物 43
第 35 図　南 -12 号住居出土遺物 44
第 36 図　南 -12 号住居出土遺物 45
第 37 図　南 -14 号・15 号住居出土遺物 46
第 38 図　南 -15 号住居出土遺物 47
第 39 図　南 -16 号・17 号住居出土遺物 48
第 40 図　南 -17 号・18 号・19 号住居出土遺物 49
第 41 図　南 -19 号住居出土遺物 50
第 42 図　南 -19 号・20 号・21 号住居出土遺物 51
第 43 図　南 -21 号・22 号住居　溝 1 ～溝 3・土坑出土遺物 52
第 44 図　南 - 住居外出土遺物 53
第 45 図　南 - 住居外出土遺物 54
第 46 図　南 - 住居外出土遺物 55

写真図版目次

写真図版　1..北 - 発掘風景・北 -2 号住居・2 号 3 号 5 号住居 58
写真図版　2..北 -2 号カマド・北 -4 号住居・北 -6 号住 59
写真図版　3..北 -6 号カマド・北 -7 号住居・北 -9 号住居 60
写真図版　4..北 -11 号住居・北 -12 号 13 号 14 号住居・北 -15 号居カマド 61
写真図版　5..北 -19 号住居・北 -19 号住居カマド・北 -27 号住居 62
写真図版　6..北 -27 号住居カマド・北 -28 号 30 号住居・北 -28 号住居カマド 63
写真図版　7..南 - 発掘風景・南 -1 号 2 号 12 号住居・南 -4 号住居 64
写真図版　8..南 -4 号住出土遺物・南 -5 号住居・南 -6 号住居 65
写真図版　9..南 -6 号住居カマド・南 -8 号住居・南 -17 号 9 号住居 66
写真図版 10..南 -10 号住居・南 -12 号住居・南 -14 号住居 67
写真図版 11..南 -15 号住居・南 -17 号住居カマド・南 -20 号住居・溝 4・溝 5 68
写真図版 12..南 -22 号住居・南 - 溝 1 69

第１章　調査に至る経緯と経過

既存の塩川病院の西側約 1800 ㎡の土地に病院施設の増築をすることになり、須玉町教育委員会と塩川病院事務局並びに工事施工者早野組との三者の協議の結果、試掘調査後の平成 15 年２月３日、ただちに本調査に入った。調査区域の３分の１を占める土地所有者「長田氏邸」の移転前と移転後の二期に分けて調査は行われた。第一期は 15 年度の３月末まで。第二期は５月 13 日に再開し現場の実測を残して５月 20 日に発掘作業は終了した。調査の結果、縄文時代後期の住居１軒・弥生時代後期の住居 13 軒・平安時代の住居２軒のほか、溝５条・土坑６基・ピット多数が発見された。

第２章　立地と環境

本遺跡は、須玉町若神子から南東へ、塩川右岸の河岸段丘状にあって標高 489 mが測られる。平成６年度の介護支援センター「福寿の里」建設に伴う発掘調査が終了した腰巻遺跡が塩川病院を挟んだ東側に、平成８年度の須玉町デイサービスセンター設立に伴い発掘調査した腰巻北遺跡が病院の北側に位置している。共に縄文時代、古墳時代、そして平安時代の遺構と遺物が多く出土しているが、特に古墳時代後期鬼高期の集落趾であり、平成 13 年度、若神子城（古城）下の湯沢で発見された２基の古墳の被葬者が、腰巻遺跡、北遺跡の集落を統治した権力者である長（おさ）であろうとの指摘を、県内の考古学にたずさわる諸先生方から頂いている。

第３章　遺構と遺物

腰巻北遺跡（第１次）

（第１図～第５図・第17図～第25図　写真図版１～６）

表土下には暗褐色土が堆積し、次いで土器包含層の褐色土、その下が黄褐色シルト土層となっている。確認された遺構は、古墳時代後期の住居が16軒（1,2,3,5,6,7,8,12,13,14,15,16,17,19,27,28号住居、うち２号住居は焼失住居であった）平安時代初頭の住居が２軒（4,29号住居）、性格不明の方形竪穴遺構３（9,18,30号住居）、焼失した方形竪穴遺構１（11号住居）、また当調査区南端から方形プランを呈し、竈と思われる焼土を確認できた遺構が７軒（20,21,22,23,24,25,26号住居）であるが、そのほとんどが重複しており、あるものは住居の大半が調査区外に広がっている。７軒が検出された区域は盛土によって永久保存されることから、遺構の掘り下げは行わず、確認のみに終わった。本遺跡で検出された遺構の規模は、6m以上のもの３軒（1,4〔平安〕、６号住居）、4m以上のもの６軒、小型で3m台以下のもの５軒、住居の大半が地域外にある小型のもの５軒である。竈の位置は、平安時代の４号住居、29号住居は東壁に構築されており、古墳時代後期の住居全てが北竈であるのが、本遺跡の特色である。埼玉県五領遺跡の鬼高期住居（古墳時代後期）と同様に、竪穴の規模に著しい相違が認められ、竪穴住居の大小によって竈の大きさや構造を異にし、出土遺物の多寡も規模に比例していることから、すでに住居によって階級的な相違があった事がうかがえる。

出土遺物　古墳時代後期鬼高期の土師器坏、甕口縁部、胴部、底部破片、鉢、手捏ね土器、須恵器坏、須恵器甕胴部片、甑底部などである。平安時代の遺物としては、花弁状、放射状暗文を施した甲斐型土師器坏、「大徳」と読める墨書土器、在地系の内黒土器坏片、甲斐型甕口縁部片、胴部片に加え、小型丸底壷の完形が出土している。遺物年代は９世紀第４四半期から１０世紀第１四半期に比定される。鉄製品では、耳環２、刀子片、鉄鏃片各１点が出土している。

腰巻南遺跡（第２次）

1 号住居（第 7 図・第 26 図　写真図版 7）

規模形態東西 2.8m 南北 3.1m の方形の竪穴住居で、南西隅を 2 号住と重複し、これによって切られている。覆土は床面まで褐色土で床面は固くしまっており黄褐色の砂質土である。壁高は北壁が 2.6cm 東西が 20cm 前後で南壁は 1cm とかすかに遺存する。地床炉はなく柱穴は住居の壁に沿って等間隔に 5 本検出され、住居内には、住居中央ピット 1 長径 50.5cm 短径 40cm 深さ 43cm があり南壁中央に長径 35cm 短径 30cm 深さ 31.2cm のピット 2 があり西壁の南西寄りに長径 45cm 短径 40cm 深 56cm のピット 3 がある。

出土遺物　出土遺物数は少ない。弥生時代後期に比定される壷型土器片で赤色塗彩したものの他に、縄文時代中期末の深鉢片、平安時代の甕頸部片、中世の内耳土器、深緑色施釉陶器片、北宋銭（天聖元宝）が出土した。石器は小型打製石斧と思われるものが出土している。

2 号住居（第 7 図・第 26 図　写真図版 7）

規模形態は、東西 3.6m 南北 2.9m の隅丸方形の竪穴住居で、1 号住南西隅を切っている。覆土は黄褐色が斑点状に混入した褐色土で床はサラサラした淡黄色土で固くしまっている。壁高は北壁 18cm 南壁と西壁が 10cm、東壁は 5cm が測られる。地床炉はなく 1 号住と同様に住居の外側には柱穴と思われる穴が認められ、住居内の主軸上にピット 1 が 50cm × 30cm 深さ 24cm、ピット 2　40cm × 35cm 深さ 42cm があり、北西隅に直径 30cm 深さ 14cm のピット 3、南西隅に長径 40cm 短径 30cm 深さ 43cm のピット 4 がある。東壁際のピット 5 は梯子受穴で直径 35cm 深さ 52cm が測られる。

出土遺物　内、外ヘラ磨き後赤色塗彩の土器片と口唇に刻み目を施した甕形土器片のほかに中世以降の緑釉陶器片が出土している。石器では黒曜石の剥片石器と球状で安山岩の丸石が出土している。

3 号住居（第 7 図・第 27 図）

規模形態は、東西 3.7m 南北 3.2m の隅丸方形の竪穴住居で、覆土は 10cm 以下の褐色土で床面はやや固めながらも凹凸が激しい。壁高は東壁 10cm 西壁が 7cm、北壁は 4cm、南壁 6cm が測られる。東壁に 2 ヶ所南壁と西壁に各 1 ヶ所、直径 30cm ～ 35cm 深さ 22cm ～ 37cm の柱穴が壁と床を切って穿かれている。住居内には直径 20cm ～ 30cm の穴が 13 認められ、深さも 6cm から 20cm とさまざまであり、主柱、支柱の区別が判然としない。南西寄りに長径 7.5cm 短径 5cm 深さ 12cm の掘り込みがある。地床炉は認められない。

出土遺物　遺物数ほとんどなく一部欠損した礫器が出土している。

4 号住居（第 8 図・第 27 図　写真図版 7・8）

規模形態東西 2.7m 南北 3.0m のやや胴丸ぎみの竪穴住居で、覆土は炭化物混入しザラザラした褐色土が 6cm ～ 8cm 堆積して床は固く床の中央と北壁際と南壁と南西隅に炭化材が焼失のまま残っており、南西壁際の床面に認められる焼土層は東南の床に置かれた平石は長さ 30cm 幅 15cm 及び 10cm で表面が平らな安山岩で調理用に使用されたものかもしれない。壁高は北壁 8cm 南壁 7cm、東壁 10cm、西壁約 5cm が測られる。柱穴は住居内に 6 つのピットが認められる。直径は、25cm ～ 40cm、深さ 18cm ～ 28cm を測る。北壁の中央よりやや東に寄った柱穴は、直径 30cm 深さ 24cm で壁と住居の床を切って穿かれ西壁外、中央と南西隅と東壁の北寄りに直径 28cm ～ 40cm 深さ 13cm ～ 31cm の柱穴が認められた。

出土遺物　坏部が円錐形の高坏 **1** は丹彩しているが、坏部内側に赤色塗彩された破片、胴部をナデで施し内が櫛目痕のある甕形土器片の外に口縁下に突帯が巡る深鉢片、胴部に縄文を施文した深鉢片など縄文時代の遺物も若干出土している。住居内のピットから外にタテ刷毛目、内ヨコ刷毛目の甕形土器頸部片が出土している。

5号住居（第8図・第27図・第28図　写真図版8）

4号住居から約3.5 m南西に占地し、規模と形態は、東西3.6 m、南北3.4 mの方形竪穴住居で、覆土は6cm～8 cmの褐色土が堆積しており一部炭化物を含む黄褐色土が混入している。北壁からやや西寄りの床面に80cm×70cmの範囲に炭化材が混入したピンク色と赤色土の地床炉が認められた。かたわらに灰色粘土も遺存していた。主柱穴は主軸上の4本でピット1は直径25cm深さ32cm、ピット2は直径25cm深さ23cm、ピット3は直径35cm深さ24cm、ピット4は直径25cm深さ14cmが測られ、ピット2とピット4のそれぞれ南側に接し検出されたピットは深さが40cm～50cmで支柱穴であろうか。他に北西隅、住居の外に直径30cm深さ26cmの柱穴と東壁と住居の床面をきって長径50cm短径30cm深さ21cmの柱穴と直径35cm深さ15cmの柱穴の三つがある。住居の北東コーナーには長径85cm短径70cm深さ64cmの土坑があり、長さ65cm最大幅45cmの巨石が崩落していた。

出土遺物　壷に施文する櫛目より細かい櫛目文片で天竜川水系の甕形土器片が多い。波状文の甕型土器頸部の外、**3**は小型壷で底部を抜き、口縁が一部欠けているが内外研磨され、祭祀用かと思われる。**1**は煮沸具として供された甕形土器の口縁片で口唇に刻目を施し、内にススが付着している。丹彩の高坏片が細片で若干出土。**4**は台付甕の底と台との境にあたる破片も出土している。青磁片と施釉陶器片が覆土内から検出されている。

6号住居（第9図・第29図　写真図版8、9）

規模と形態は東西3.5 m南北4.7 mの隅丸方形を呈し、東壁の南側に6ヶの河原石を併立させてカマドを構築した平安時代の住居である。焼失した炭化材が北壁際に3本放射状に遺存し、西壁際にも焼土と炭化材が、南西コーナーのピット周辺から炭化粒子が35cm×60cmの範囲で検出されている。住居の中央部からは、1 m×40 cmの範囲に厚さ4 cmの砕けた炭化材と焼土質の赤褐色土が堆積している。

竈の脇、南東コーナーには直径60cm床面から22cmの深さの貯蔵穴を検出した。住居内の柱穴は11本あり、壁と床を切って穿かれたピットは、東壁際に1本、西壁に2本認められた。西壁を切って穿かれた穴は、長径45cm短径35cm深さ64cmで最も大きく廃絶後の土坑と考える。東壁と西壁際のピット1とピット2南西隅のピット3がそれぞれ直径30cmで深さも18cm～20cmが測られ主柱穴であろう。覆土は炭化粒子を多く含む褐色土でしっとりしていた。床面は中央から南全体が貼り床で、北側は軟弱である。壁はやや外反し北壁は13cm東壁12cm西壁10 cm南壁13cmを測る。

出土遺物　土師質土器片、甕口縁、胴部片、タタキ目がのこる須恵器甕片と底部片に混じって丹彩研磨された高坏片や細かい櫛目文の甕頸部の弥生土器の外に古墳時代後期鬼高式土器の体部に稜をもつ坏片が出土している。在地系土師器2ヶ**1**、**2**はほぼ完形で、山梨編年での底径/口径比は4.37％でIX期、10世紀第1四半期に位置づけたい。

7号住居

塩川病院の送迎用バスが駐車するコンクリート壁直下から8号住居と共に検出された遺構だが、幅1.4 m奥行80cmの範囲に半円状の落込みが認められるものの遺構の殆どが調査区域外であるため詳細な調査は出来なかった。

出土遺物　体部に櫛目文の甕形土器片、口唇に刻目を施した甕形土器口縁片のほかに縄文を地文にした器厚の厚い深鉢片、無文の厚手の深鉢片も出土している。

8号住居（第9図・第29図～第32図　写真図版9）

7号住の南側から検出された円形に近い隅丸方形の竪穴住居で、遺構の3分の2が駐車場下に隠れるものの北壁2.5 m、西壁4.5 m、南壁は1 mほどが遺存するものの、その殆どが撹乱されている。西壁から駐車場脇の2.5 mの範囲が住居の3分の1に当るものと考えられる。壁はやや外反し北壁30 cm、西壁32cm、南壁30cmを測る。床面全体が黄褐色砂質土の貼床で、固く踏みしめられている。主軸状に2本の柱穴がある。

北壁に近いピット1は直径30cm深さ39 cmで南壁に近いピット2は長径30cm短径20cmで深さ50cm余りが測

られ、梯子受穴と考えられる。出土遺物は丹彩された高坏片、甕などが遺構の中央辺りから出土している。

出土遺物　出土遺物を細片まで数えると200点近い内、3分の1を縄文時代中期後半から後期の深鉢片が占め、次いで弥生時代赤色塗彩の高坏片、口唇に刻み目を施しごく細かい櫛目文の壷形土器片、棒状浮文を縦に貼付けた広口壷口縁部などが3分の1、残りは平安時代の土師器片、須恵器片、中世から近世に亘る施釉陶器、磁器等である。駐車場追加調査によって半月形一孔の、磨製石包丁と長方形で孔のない石包丁を検出することが出来た。町内遺跡での初見である。

9号住居（第10図・第32図）

8号住居から約10m西へ隔てて検出された。隅丸方形を呈する竪穴住居で規模は東壁が削平され焼失するものの、東西3m南北3.2mの規模と思われる。壁の立上りは外反は少なく北壁が5cm、西壁2cm、南壁3cmと極めて浅い、覆土は褐色の自然堆積土である。床面は軟弱で地床炉と梯子受穴は見当らない。住居内の柱穴は4本ありピット1は長径30cm短径25cm深さは床面から38cm、ピット2は直径24cm深さは床面から12cm、ピット3は直径27cm深さは床面から16cm、ピット4は直径25cm深さは床面から21cmが測られる。南西コーナーの直径35cm深さ17cmの土坑が認められた。他の30cmと40cmのピットは住居廃絶後のものと考える。

出土遺物　出土遺物総数45点の内17点が縄文時代後期の深鉢片が占める。内外に刷毛目の壷形土器片の波状文片のほか赤色塗彩の高坏が壷形土器の細片など弥生時代後期の遺物が残りを占める。他に器体にタタキ目痕の須恵器片と蓮弁文の青磁片各1が出土している。

10号住居（第10図・第33図　写真図版10）

調査区域西側中央、4号住居の北側から検出された。規模と形態は東西2.8m、南北2.4mの隅丸方形を呈する。壁面はやや外傾し、壁高は東13cm、西5.4cm、北6.4cm、南4.5cmである。床面は、中央から南壁にかけ貼床を認められるが、北壁にかけては全体的に軟弱である。南壁寄り、ピット2、ピット3、ピット4の間で70cm×80cmの範囲は炭化材を含む炭化粒子と焼土が堆積した地床炉である。ピット1は長径35cm、短径25cm、深さ14cmが測られ、ピット2は、直径35cm、深さ18cm、ピット3は直径27cm、深さ15cm、ピット4は直径25cm、深さ14.5cmである。ピット5は直径30cm、深さ20cmで梯子受穴である。

出土遺物　外面がヘラ磨き後赤色塗彩、片面ヨコ刷毛目の高坏脚部**2**のほか壷形土器の頸部、胴部、底部の各片が10点余り出土している。

12号住居（11、12、13、21住）（第11図・第34図～第36図　図版10）

調査地区内の長田邸が移築前の調査で、3月に前庭の3分の1を削掘した際に11,12,13住の重複住居があると思っていたが、5月になって移転後の精査から11,12,13住は、1軒の12住が21住を切って構築されていると認識した。然し、これも精査が進行中に地床炉の発見から12住単一の住居であることが判明した。規模と形態は、東西5.1m南北9mで胴が張らない隅丸方形である。壁面はやや外傾し、壁高は北11cm～15cm、東10cm～13cm、西15cm～20cm、南17cm～20cmが測られる。壁下には床面から3cm～5cmの浅い溝が全周する。床面は、北壁際の幅約1.5mは軟弱ぎみながら全体的に貼床で固くしまっている。西壁ぞいの床面は、炭化粒子の中に赤色粒子が混ざった黒色土が14cm×12cmの範囲に認められ、そこから2m北の床面に、1字状で幅3cm、長さ約12cmほどの炭化材の一部と炭化粒子、赤色粒子が確認されている。炉は北側柱穴間にあって、南側に2ヶの炉石があり、東西80cm、南北100cm、深さ12cm舟底状に窪んでいた。

主柱穴は4本で、ピット1は、直径30cm、深さ30cm。ピット2は、長径60cm、短径50cm　、深さ27cm、ピット3は、長径40cm、短径30cm、深さ57cm。ピット4は、直径28cm深さ30cmで、ピット4は梯子受穴と思われる。住居中央から8本のピットと南壁際からも6本のピットが検出された。地床炉の北側のピット5は、直径30cm、深

さ 8cm と浅いが支柱穴と思われるが他は判然としない。

出土遺物　当該遺跡の中で最大の規模を持つ住居だけに出土遺物数も 170 点余りあり縄文時代の遺物は、抽象文で通称「わらじ虫」の中期中葉の深鉢片 **16**、蛇行隆線に爪形文を配した深鉢片など中期から中期末の破片が１０片出土している。石器類と陶器を除き、弥生時代後期の内外研摩し赤色塗彩の高坏片、口唇に刻み文、頸部に波状文の甕形土器片、信濃川水系の箱清水式土器で口縁に棒状突起貼付け文の甕形土器 **9** 等が出土している。石器では黒曜石小型石族 **3**、鋸葉状口径石族 **1** や打製石斧の茎部のみが１０点出土している。土製品では紡錘車の紡輪が **21**、他に全長５cm 余りの六角柱水晶と中心部に種子と見られる果実の化石化したもの **1** が出土している。

14 号住居（第 11 図・第 37 図　写真図版 10）

12 号住居の西に位置し、12 号住居に次いで大きい住居址で、東西６m、南北 6.1 mの規模で床面形は隅丸方形を呈する。壁はわずかに外反ぎみで、壁高は東 10cm ～ 13cm と高く、北と西は 8cm ～ 9cm 南は 3cm ～ 5cm と低い。覆土は、斑状の暗褐色土の混ざった褐色土が主で極めて細かい黄色砂質土も認められた。床面は、黄褐色砂質土の貼床で固く踏みしめられている。北壁寄り中央に、北と西を除いた１字状に囲んだ礫の石囲炉が、長軸 40cm、短軸 30cm の規模で認められ、石囲炉を囲んで南北１m、東西 75cm の範囲にロームブロックと炭化粒子が混ざった暗褐色土が皿状に広がり、深さは 12cm が測られた。炉の東隣に直径 110cm 深さ 128cm の皿状に窪みをもつ土坑と、直径 25cm ～ 30cm の柱穴が６本あって、北西に位置するピット３は深さが 17.4cm、南西隅のピット４は 20cm 南東隅のピット６が 23.5cm で、これらが住居の支柱と考えられる。他に長径 50cm 短径 45cm 深さ 15.4cm のピットと長径 55cm 短径 35cm 深さ 25cm のピットとがある。

出土遺物　縄文時代中期末の深鉢片３片のほかは、弥生時代の丹色塗彩した高坏片、櫛描波状文の甕片、内外磨きの壷型土器片等が 20 点余り出土している。住居内のピットからも内外を研磨し、赤色塗彩の高坏片が検出されている。

15 号住居（第 12 図・第 37 図・第 38 図　写真図版 11）

９号住の南東に隣接する住居で規模と形態は、東西 3.8 m、南北 3.7 mのやや五角形に近い隅丸方形である。覆土は、自然堆積した褐色土で、壁西はやや外傾し、壁高は北 25cm ～ 30cm、東 30cm、南 22cm ～ 26cm、西が 21cm が測られる。床は、全面的に貼床で、固く踏みしめられている。北壁に近い床面から、70cm × 65cm の範囲に、炭化粒子と炭化材が褐色土に混じって 2cm ～ 3cm の厚さで堆積し、西壁から住居中央へ向かって幅 15cm 長さ 70cm ほどの炭化材が横臥状に検出された。床から 12cm ～ 13cm の厚さが測られる。東壁と南壁際から焼失した柱と思われる炭化材が各１と北壁近くの床面からＬ字状に幅 15cm 長さ 30cm の炭化材２本が検出されている。柱穴は、４本で西壁に近い位置に３本（ピット 2、3、4）と南壁にピット１があって東床面からは検出できなかった。ピット１は直径 30cm、深さ 10cm、ピット２は東西 30cm、南北 22cm、深さ 32cm で梯子受穴である。ピット３は直径 20cm、深さ 24cm、ピット４は直径 25cm、深さ 9cm と浅い。

出土遺物　縄文時代中期末葉から後期の深鉢片が比較的多く出土したが全てが小片（80 点余り）、平安時代の須恵器甕の破片８点の外は弥生時代の台付甕 **10**、赤色塗彩した壷形土器片 **8**、彩色しない小型の壷形土器、内刷毛目の大壷底部 **11**、口唇に刻み文の甕形土器片は出土しないが波状文片や、内外研磨した壷形土器など、１２号住に次いで出土数は多い。茎部が欠けた黒曜石の小形石族２ヶ **1**、**2** と剥片が出土している。

16 号住居（第 12 図・第 39 図）

15 号住居から５m程南から検出された住居で、住居址の東と南部分が病院駐車場道路の調査外に入っている。平面形は、隅丸方形であろう。遺存する西壁は、約 2.7 m、北壁が 2.3 mの長さである。壁高は北が 7cm 西が 6cm を測り、壁面はやや外反する。床面は軟弱な黄褐色土で凹凸がある。柱穴は３本で北壁中央のピット１は直径 20cm 深さ 18cm、ピット２は長径 25cm 短径 22cm 深さ 10cm、西壁の土坑の脇ピット３は直径 25cm 深さ 27cm が測られる。

西壁を切って検出された土坑は直径 60cm 深さ 4cm と皿状の窪みをもつ。

出土遺物　出土数２０数片の内、縄文が地文の深鉢片、無文帯のもの、波状口縁下に沈線による区画文を施すもの、半截竹管工具による沈線の三角状区画文片のほか、14 点が縄文時代土器片で、両面研磨、赤色塗彩の高坏片、口唇に刻み目の甕形土器細片等弥生時代のもの９点と平安時代後期の羽釜のつばの破片などが出土している。住居の掘り込みが３cm ～７cm と浅い上に６m 道路の下に住居の殆どが隠れているため時代を決定づけることが出来ない。

17 号（18 号）住居（第 13 図・第 39 図・第 40 図　図版 11）

９号住居と 15、16 号住居に囲まれた位置から検出された。６号住居と同様の平安時代の住居である。隅丸長方形の平面形を呈し、調査の初段階で重複住居と思われたが、住居内西寄りが 2.5 mの範囲に撹乱を受けており、覆土中から戦時中使用されたマイカ（雲母）の細片が灰褐色粘土と共に出土し、遺構確認面から約 30cm の深さに達していた。床面を精査するに従い、１軒の住居址である事が判明した。竈は北壁東よりに位置し、左石の袖石と焼土、浅い掘り込みが検出された。焚口部の前方に床から浮いた状態で楕円形の河原石が出土している。床面は撹乱が認められた西側の 1.6 m～ 1.7 mの幅は軟弱ぎみで、中央から東側、全体の 2/3 は固くしまっている。ただ総じて床面の凹凸が著しい。竈周辺を除いて周溝はほぼ全周する。付属施設として土坑１とピット７が検出された。南壁の東寄りに住居址を切って土坑１が検出されている。

出土遺物　復元し、ほぼ完型の土師器坏 **2** 住居内土坑から出土の **4**、内黒土器小片、末広口縁型甕口縁、土師器甕底部片等、平安時代住居に伴う遺物 40 点余りの他に、縄文時代後期を主にした深鉢片 30 数点、弥生時代後期の赤色塗彩した壷形土器片、口唇に刻み目を施した甕形土器片など 10 数点に加え、中世～近世の施釉陶器椀口縁片などの遺物が２～３点出土している。土器の位置づけが可能な **2**、末広口縁型甕から山梨偏年でのⅦ期（9 世紀第３四半期）とⅨ期（10 世紀第１四半期）の時期の住居と考えたい。

19 号住居（第 40 図・第 41 図・第 42 図）

５号住南西寄りに黒褐色土の堆積層内から散逸的に縄文土器をはじめ、近世にかけての遺物を収集したが住居址の遺構検出には到らなかった。

出土遺物　縄文時代中期末の曽利式土器片 **12** を含め 35 点。弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのＳ字状口縁台付甕片 **2** が１点、平安時代９世紀第３四半期に出現し、11 世紀初頭までの末広型甕の口縁片以外の 70 点余りは、弥生時代後期の赤色塗彩の壷形土器や、口唇に刻み目、頸部に櫛描波状文の甕形土器片等である。

20 号住居（第 14 図・第 42 図　写真図版 11）

規模は 3.2 mのほぼ正方形に近い隅丸方形を呈し、住居内は北壁から幅 70cm、西壁から同じく幅 70cm、鍵手状の張出し部があり、黄褐色砂質土を掘り込んで 2.4 m方形の落ち込みを持つ。二段目の床面は固く踏み込まれ、炭化粒子と炭化材が東壁に沿って約 80cm の帯状に認められた。特に東壁下の 50cm の円形の範囲内から赤色焼土と炭化粒子が検出されている。壁高は北 5cm、西 8.4 cm が測られ、東は 27cm、南 28cm を測る。柱穴は西側張出し中央を切って穿かれている。直径 40cm、深さは遺構確認面から 30cm、ベッド状張出し部から 18cm が測られる。他に柱穴及び地床炉を検出できなかった。

出土遺物　遺構の構築年代不明の遺構であるが、遺物には縄文時代前期の繊維土器片１、刻み目を施した渦巻文片１は中期、そして外周をヘラ磨き、内側に刷け目の甕形土器片など弥生時代の土器片３、深緑色施釉陶器１に黒曜石剥片と砥石１が出土している。

22号住居（第14図・第43図　写真図版12）

調査区域内唯一検出された縄文時代住居である。耕作による削平によって遺存する壁は円形プランの東側と西側に認められるものの、北側の一部と南側は殆ど検出できなかった。遺存する東西の壁から約5.4 mの円形の竪穴住居と推定される。壁は東が7cm、北から西にかけ2cm ～ 3cmで、覆土は褐色土で床面は黄褐色土で炉の周りを除いて、よくしまって固い。

石囲炉は、住居址の中央よりやや北寄りにあって、3ヶの長方形礫が遺存していた。炉は長軸径90cm、短径85cmの褐色土が5cm ～ 6cm推積する中にあって、焼土は見当たらなかった。住居内のピットは10ヶあって、炉の西側と住居の南東壁際に沿って認められた。住居の南床面は東から西へ流れる2条の溝によって切られている。

出土遺物　出土した遺物は少なく、縄文時代の深鉢で無文の胴部片2、縦に三本の沈線を施文した深鉢片1と、摩耗が著しい底部片で、かすかに網代痕が認められるもの等4片の外は、弥生時代、波状文を施した壷形土器片1、外周ヘラ削り、内面布によるナデの甕形土器片1、そして近世の施釉陶器片1が出土している。

土坑（第16図・第43図）

土坑は住居周辺から検出された土坑と住居廃絶後に住居の中、又は住居の壁を切って穿かれた土坑の二種類に分けることが出来る。

(1) 住居周辺の土坑

土坑1　5号住居とL字状の1号溝との間から土坑2と並んで検出された遺構で、形状は楕円形で長径70cm、短径65cm深さ20cm、底面は皿状に窪む。

土坑2　土坑1の南脇に在って、径55cmの円形を呈し、深さ20cmの平底で土坑1と共に褐色土一層の自然堆積土である。

土坑3　土坑1、2と5号住との間に在って隅丸方形を呈し、南北120cm、東西95cm、深さ35cmを測る。底面は舟底状で土坑の東壁には巨石を挟んで4ヶの礫が壁際に一列に積まれていた。

土坑4　4号住から東へ4.5m隔てて検出された土坑で規模は南北140cm東西70cmの楕円形で深さ22cmが測られ壁に礫が露出する。

土坑5と6　共に14号住から約2m南へ隔てて位置し、土坑5は径100cmの円形で深さ14cm。土坑6は長径70cm短径60cm深さ16cmで共に舟底を呈し、覆土は褐色土一層で底面は黄褐色砂質土である。

土坑7　10号住居の北壁寄りに在って、長径60cm短径50cmの楕円形で深さ12cmで底面は平らで黄褐色砂質土の地山を検出した。

（2）住居内或は住居を切る土坑

土坑8　5号住の北東隅にあって長径85cm短径70cmの円形を呈し、摺鉢状の底は遺構確認面から63cm、住居床面からは約50cmが測られる。長さ65cm幅45cmの巨石が土坑の半分を塞ぐように崩落している。

土坑9　14住居内の北壁沿い、やや東寄りの床面を掘り込む。遺構確認面から約27cm、床面から12cmが測られる。床面は平らで黄褐色砂質土が床面を覆う。

土坑10　16号住の西壁隅を切って掘られ、長径70cmの円形で遺構確認面から10cm、床面から3.5cmを測り、皿状の底面を呈する。

土坑11　17号住の中央から東寄りの南壁を切り、平面形80cmの円形で摺鉢状の底径は50cmで住居の確認面から40cm弱、住居の床面から10cmが測られる。

溝の規模と形態（第 15 図・第 43 図　写真図版 11・12）

溝 1　5 号住居を囲むようにＬ字状を呈する長さは 12m 幅は 30cm ～ 35cm で深さは 12cm ～ 35cm が測られ北東へ流れる。底は黄褐色砂質土で多少の凹凸は認められるが砂や小砂利は認められない。

出土遺物　縄文が地文の深鉢片、無文帯の深鉢口縁片、地文が縄文で沈線による区画文を施した深鉢片など 6 片、波状文の甕形土器頸部片、台付甕の台部、内外研磨し朱彩の壷形土器片は、格子目文と棒状貼付文が遺存する **2** など弥生時代後期の遺物 20 点余りと須恵器片 2 と施釉陶器片 1 が出土している。

溝 2　17 号住の西から南壁に沿って流下する。長さは 7.5m で幅 70cm ～ 90cm、深さは 17 住確認面から 5cm ～ 7cm が測られ、溝内は礫が多く途中で消滅する。

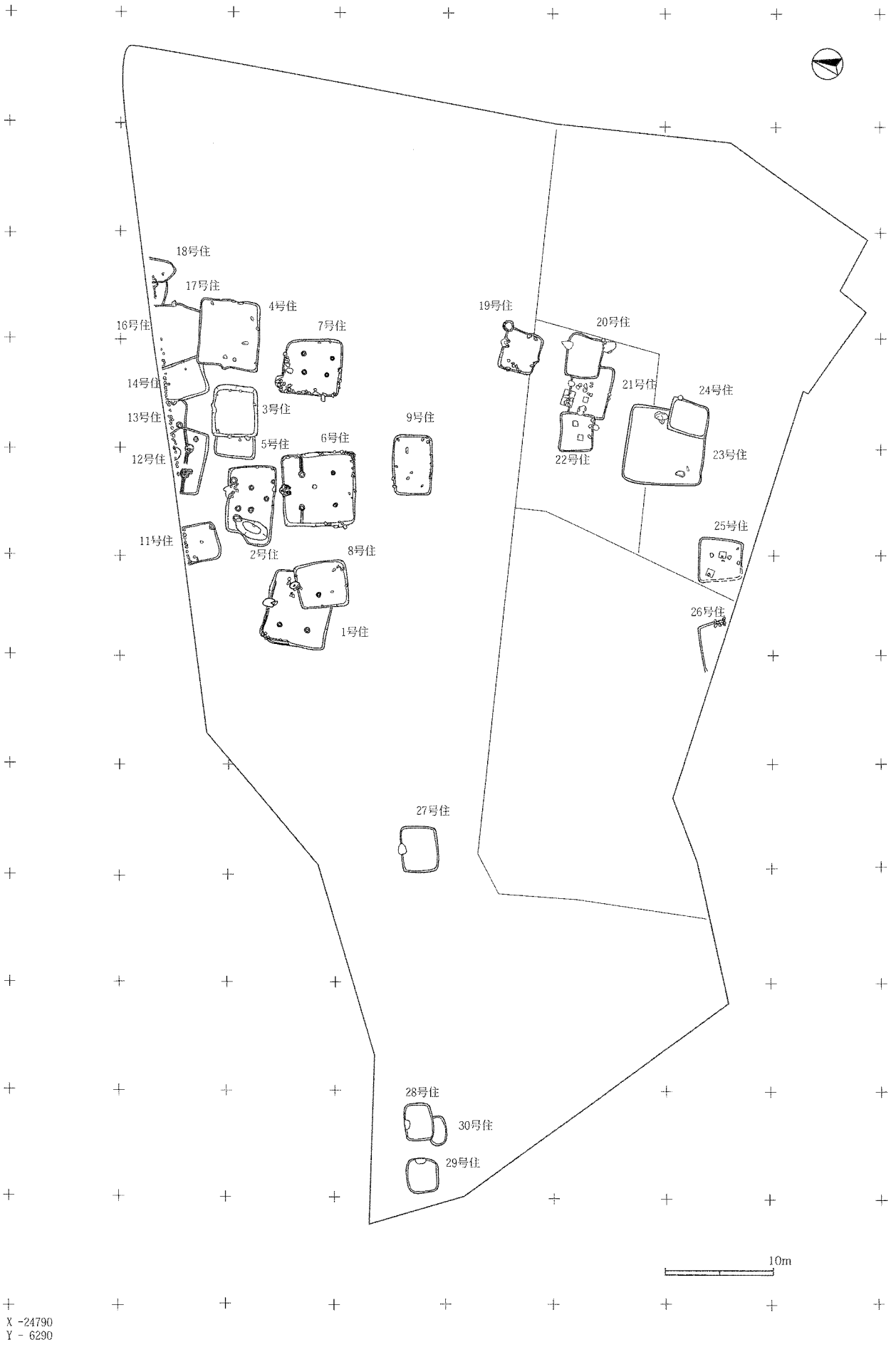
出土遺物　無文帯の深鉢口縁部破片 1 の外は、弥生時代後期の赤彩土器片、外のみ朱塗りの壷形土器片、甕形土器片が 4 点と、平安時代の蓮弁文の青磁片が出土している。石器では打痕がある **1** の鼓石が出土している .

溝 3　2 号住と 3 号住の間にあって東から西へ流下する溝で長さは 10.5m、幅 60cm ～ 90cm で溝壁は 3cm で中央部分は 6cm ～ 7cm の舟底形を呈する。底は凹凸がはげしく、少量ながら砂が認められた。

出土遺物　無文の胴部に隆帯を貼付した深鉢片、地文が縄文に沈線文を施した深鉢片、円形区画を半裁竹管土器で施文した深鉢片など縄文時代後期を主に 6 片、朱塗りの壷形土器細片、赤彩土器片など弥生時代後期の土器片 11 点が出土している。

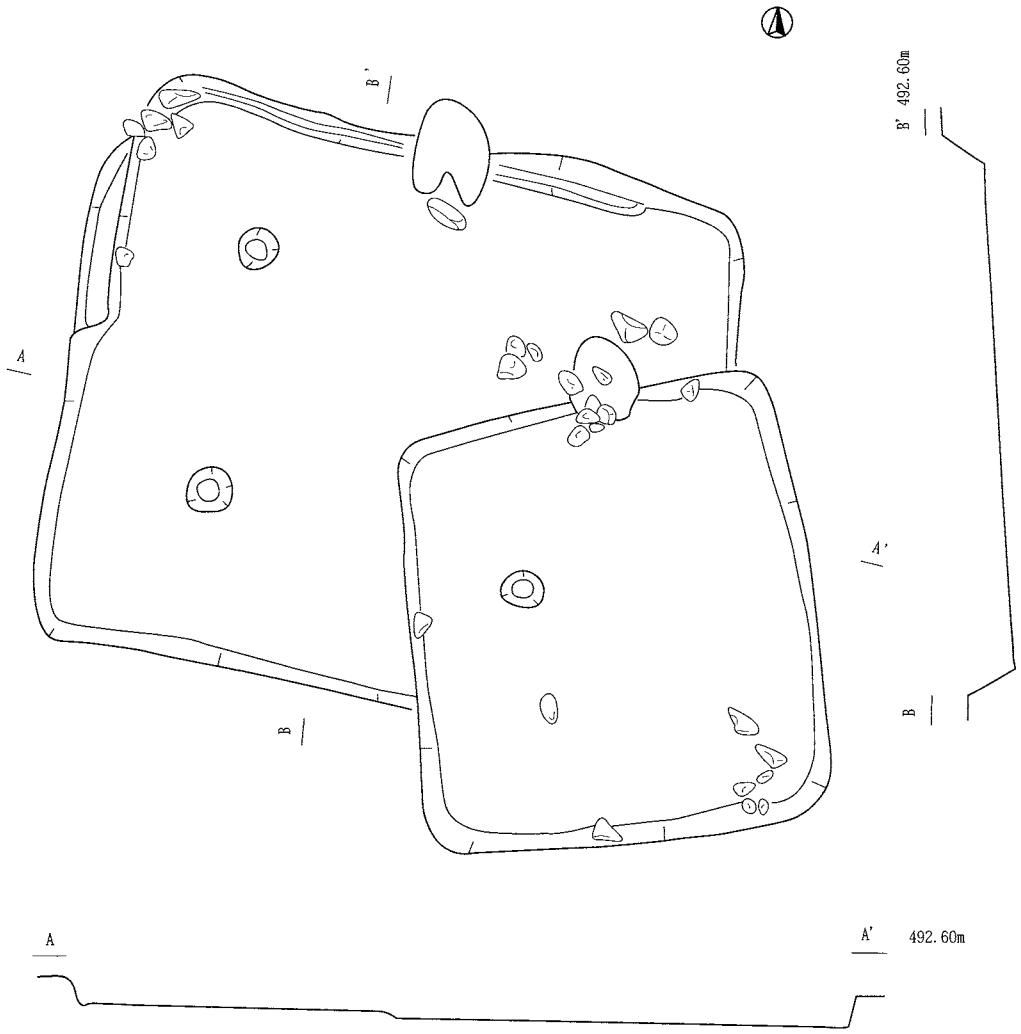
溝 4　調査区の北端から検出され、塩川病院北側駐車場下から西へ 22 号住を切って西、調査外へ延び、19m まで確認できた。幅は 50cm ～ 60cm、深さは東で 6cm ～ 7cm と浅く西へ流れる程深く 14cm ～ 15cm となる。底は平坦で黄褐色砂質土の地山である。

溝 5　溝 4 と同じように駐車場下から西へ流れ、途中で溝 4 に切られている。長さは 20m、幅 35cm ～ 40cm で溝の深さは 4cm ～ 5cm で浅く、溝 4 と溝 5 が交錯する周辺に砂が少量ながら堆積している。

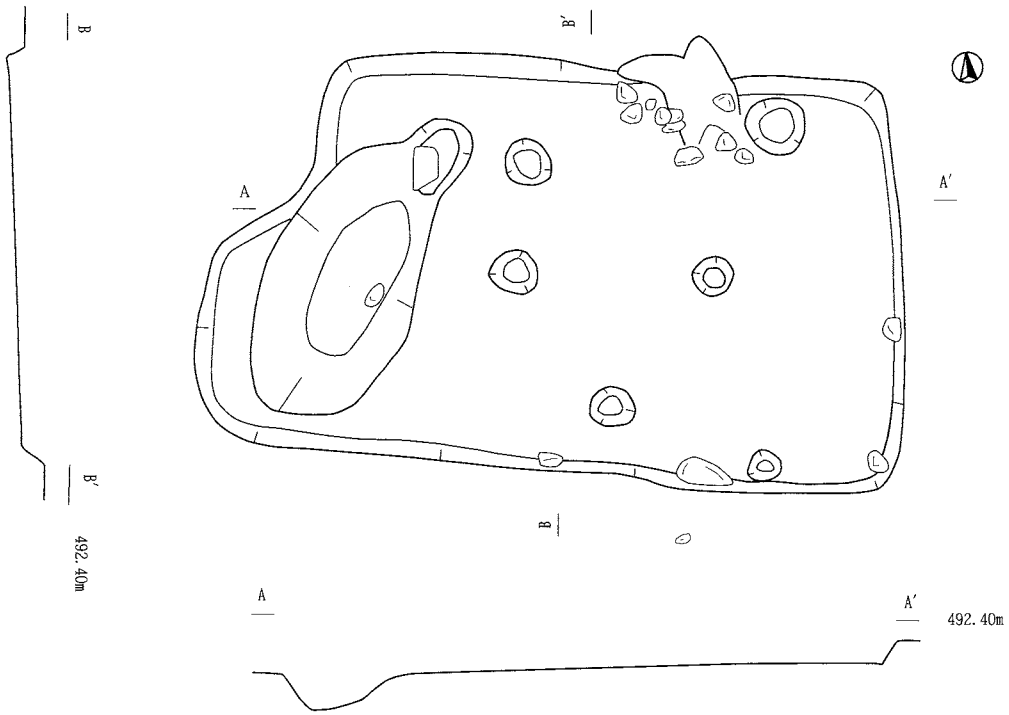


第１図　腰巻北全体図（1/500）

北-1号・8号住居

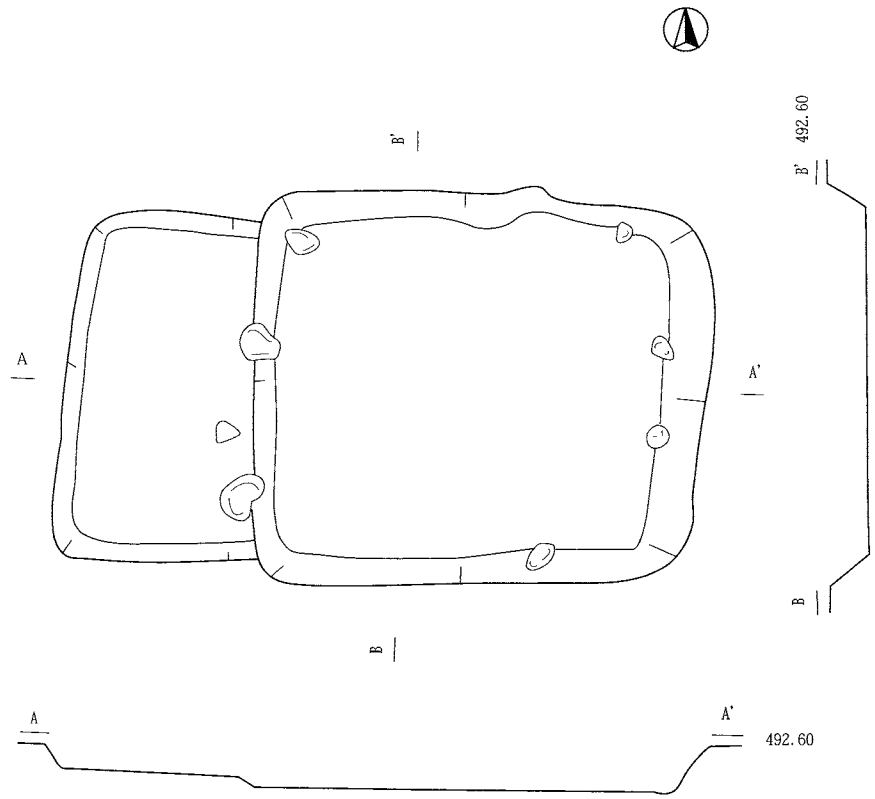


北-2号住居

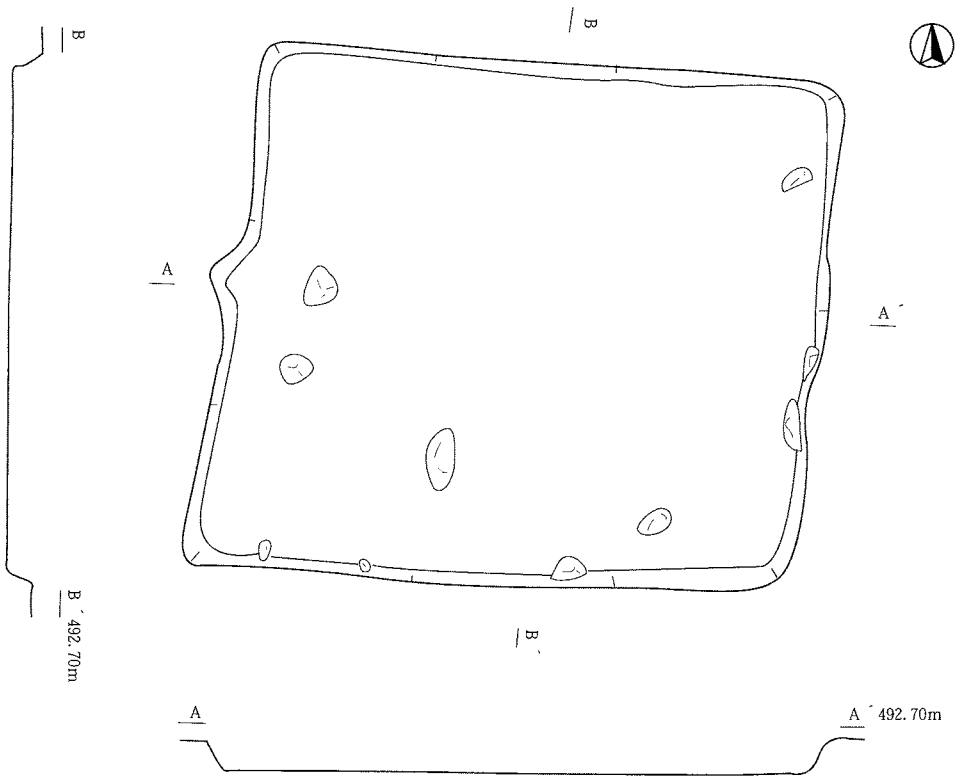


第2図　北-1号・8号住居（1/80）　2号住居（1/80）

北-3号・5号住居

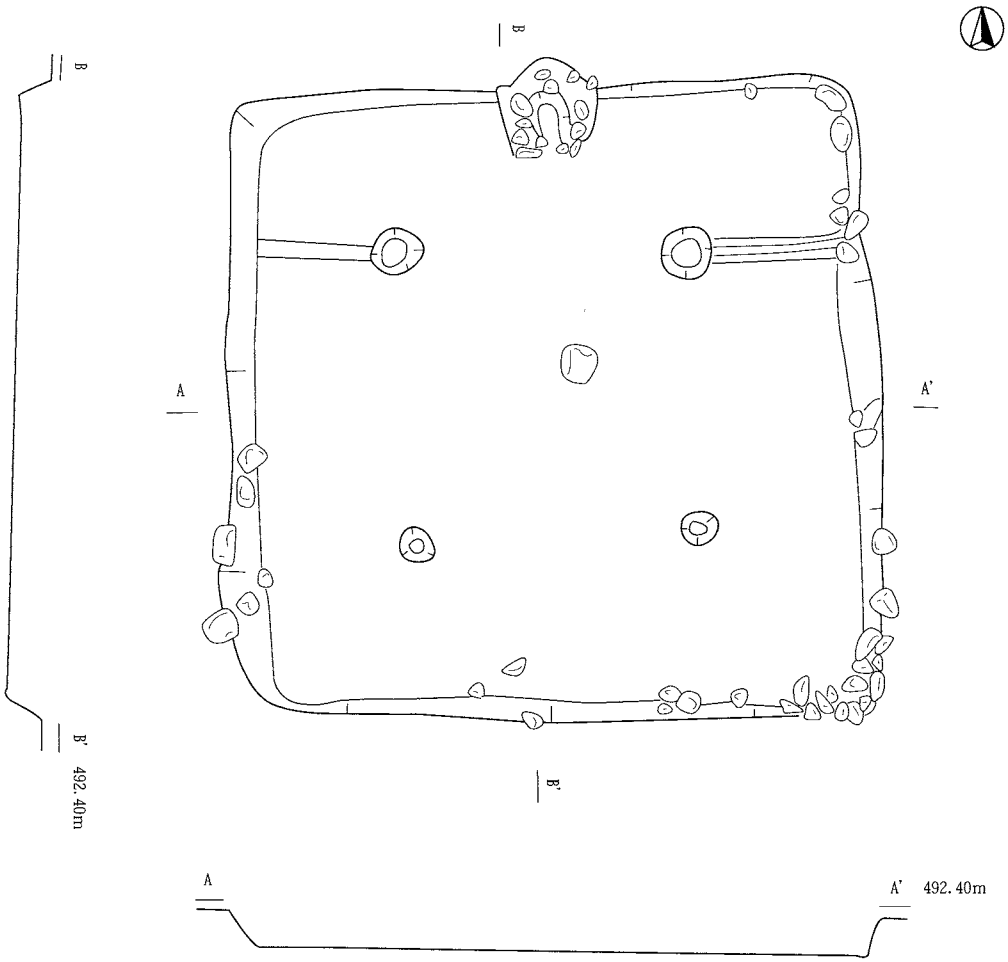


北-4号住居

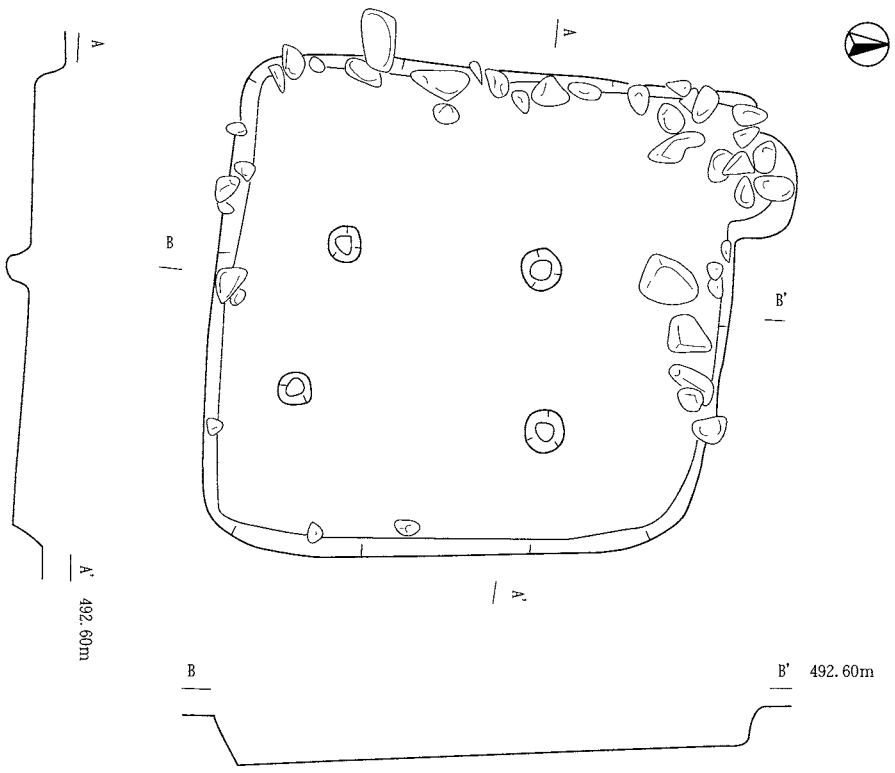


第3図　北-3号・5号住居（1/80）　4号住居（1/80）

北-6号住居

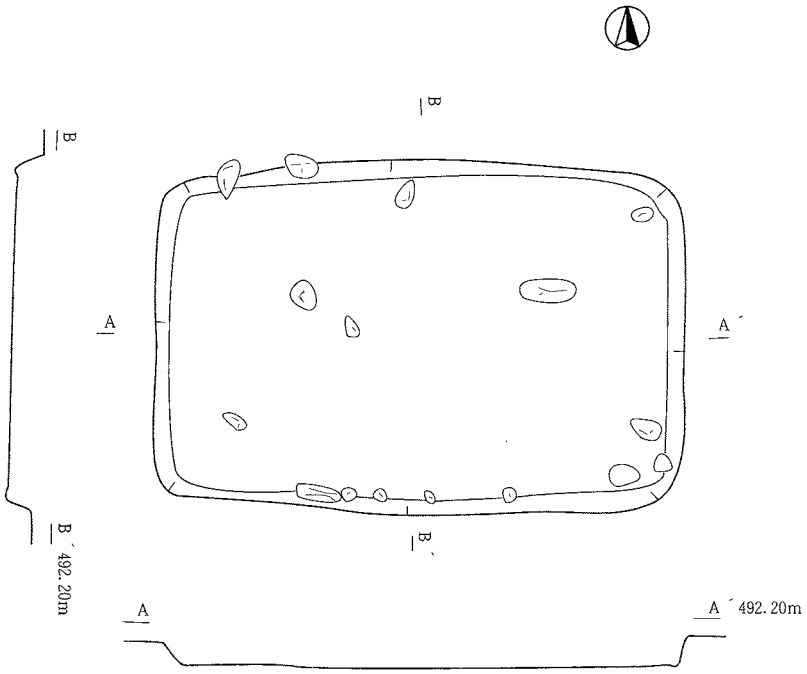


北-7号住居

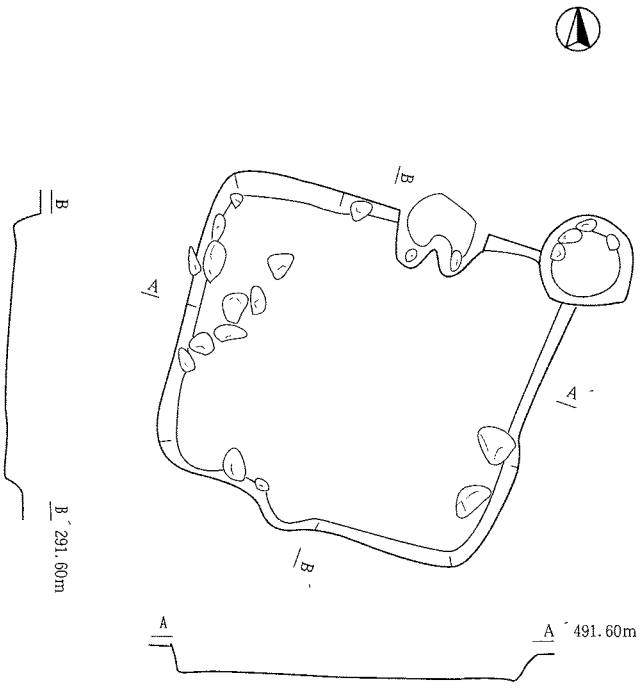


第4図　北-6号住居（1/80）　7号住居（1/80）

北-9号住居



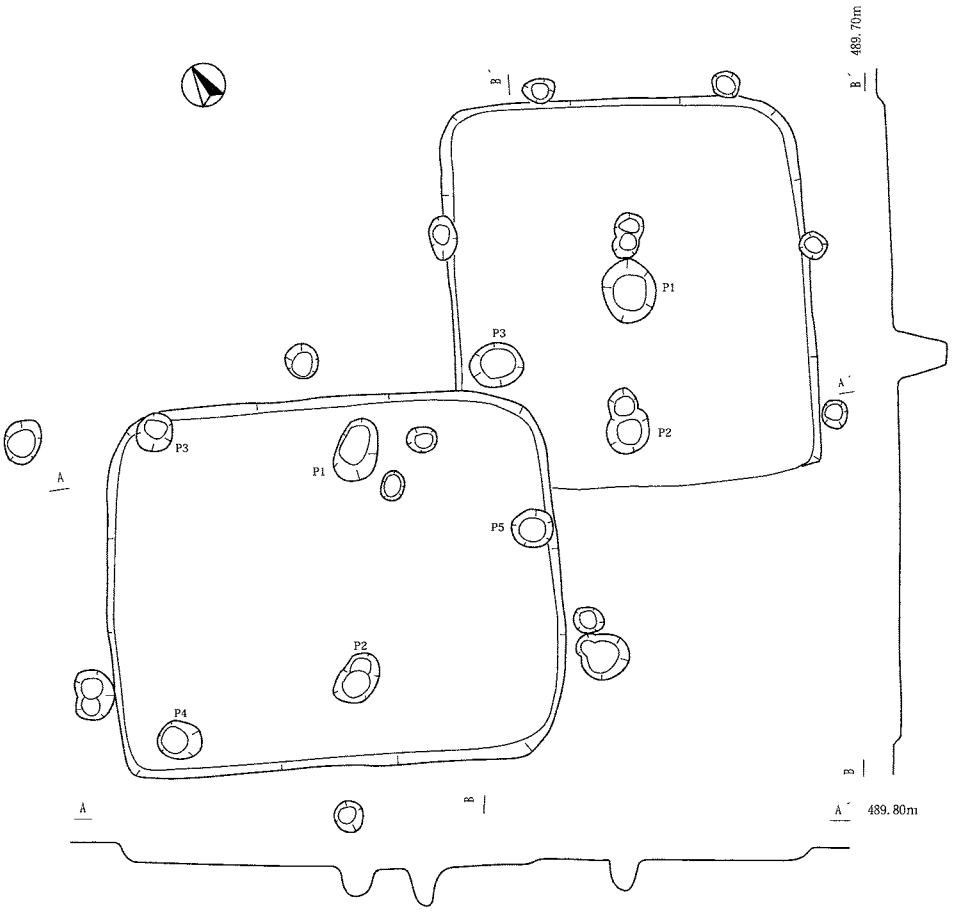
北-19号住居



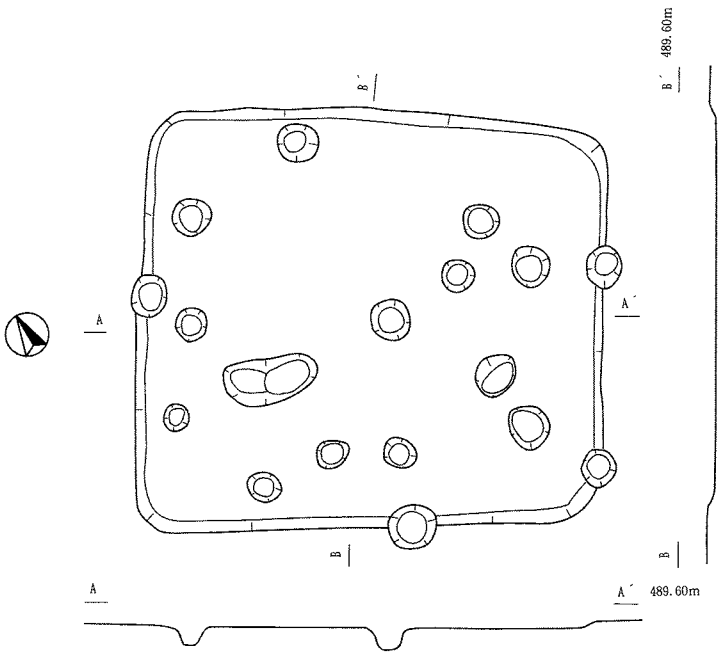
第5図　北-9号住居（1/80）　19号住居（1/80）

第６図　腰巻南全体図（1/300）

南-1号・2号住居

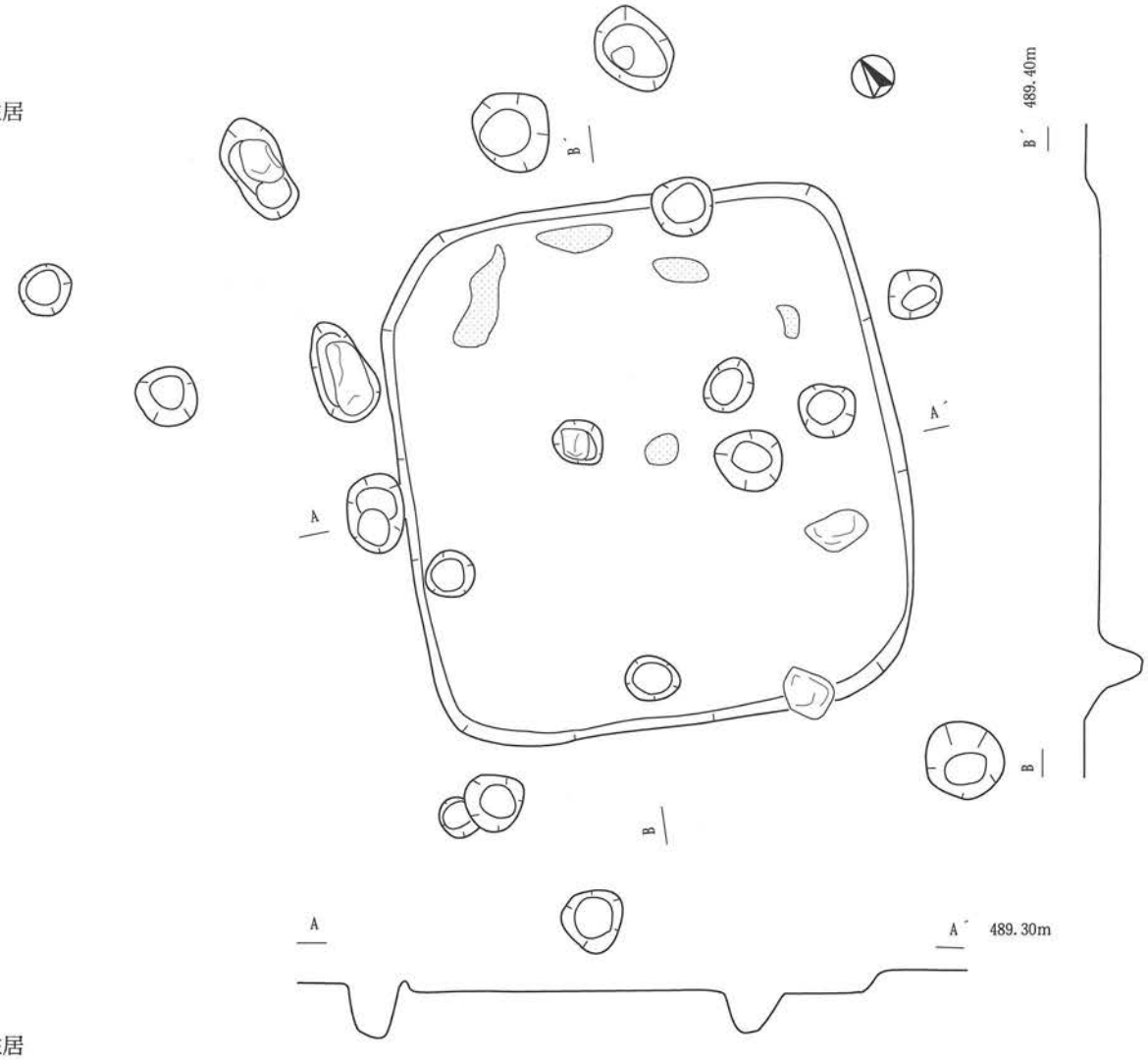


南-3号住居

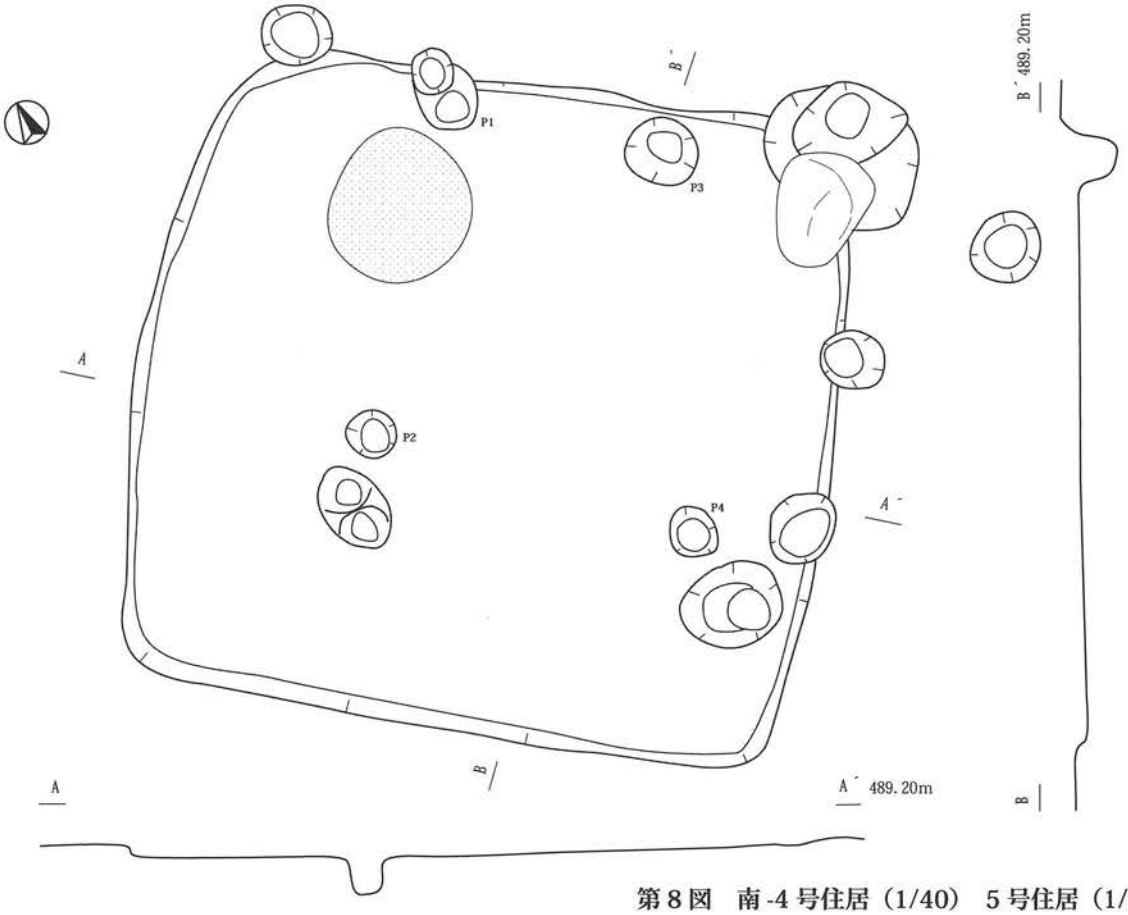


第7図　南-1号・2号住居（1/60）　3号住居（1/60）

南 -4 号住居

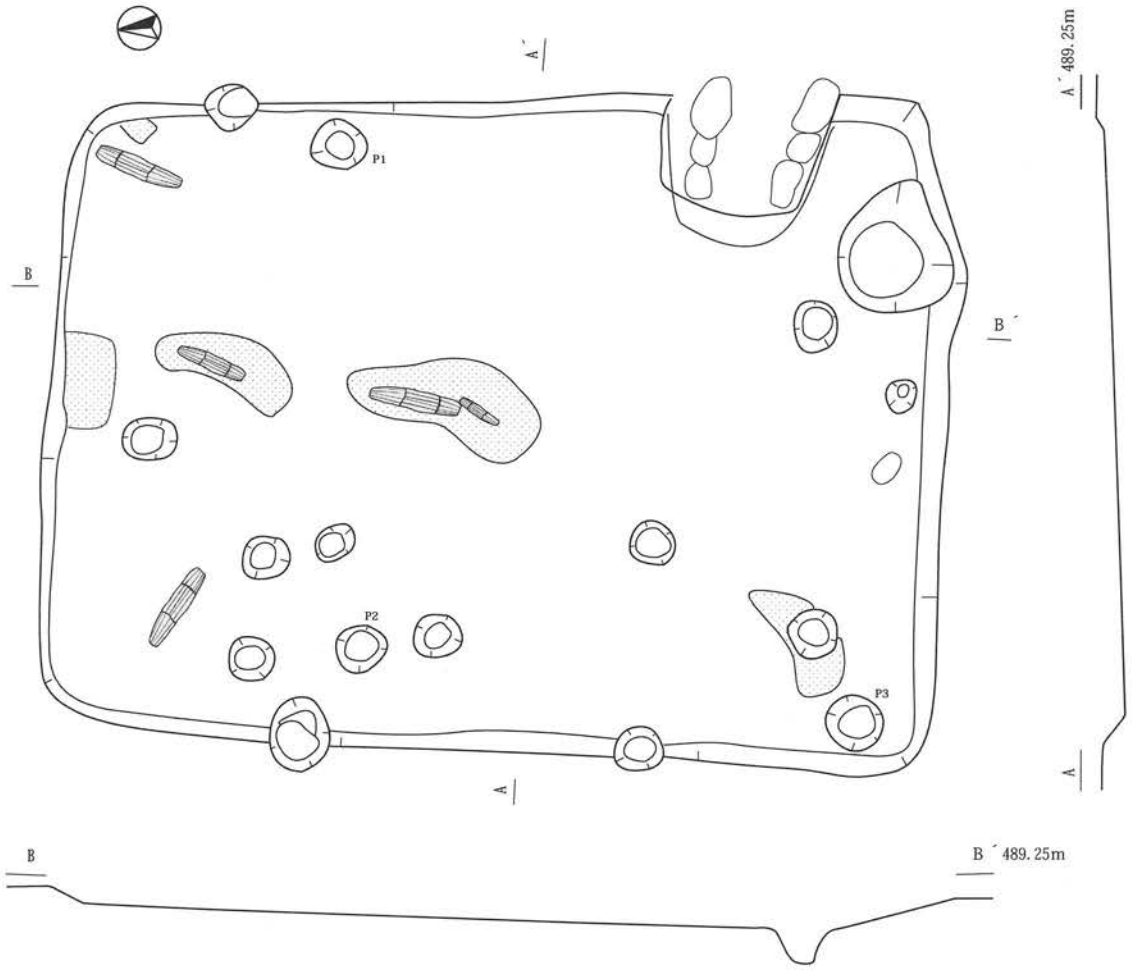


南 -5 号住居

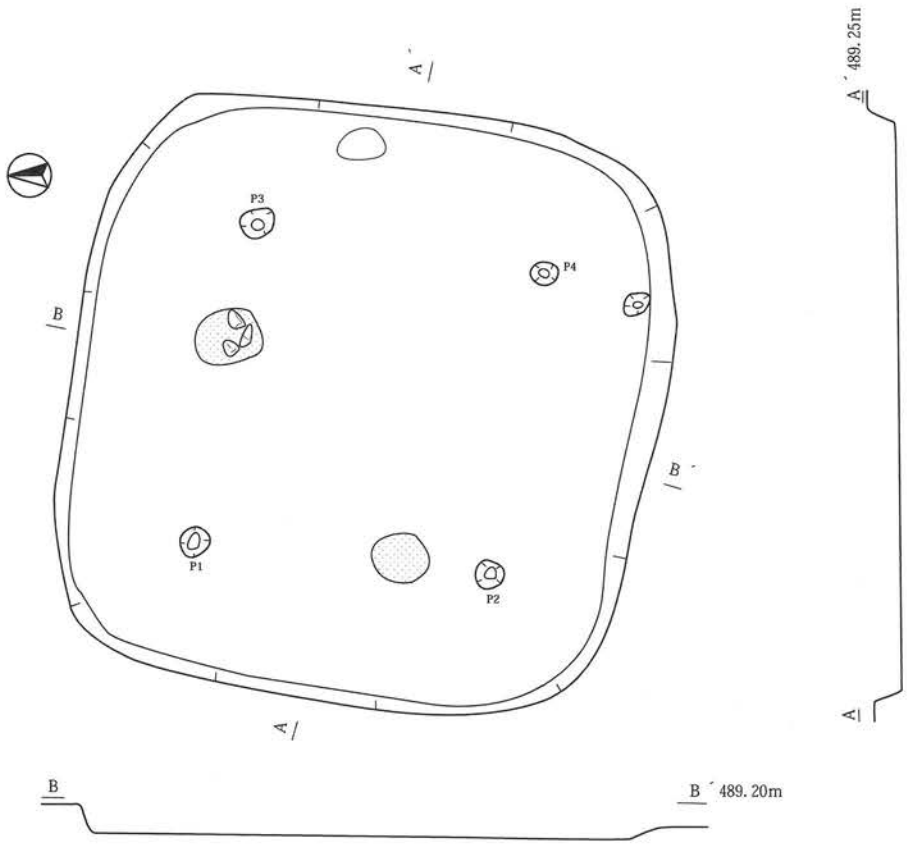


第 8 図　南 -4 号住居（1/40）　5 号住居（1/40）

南-6号住居

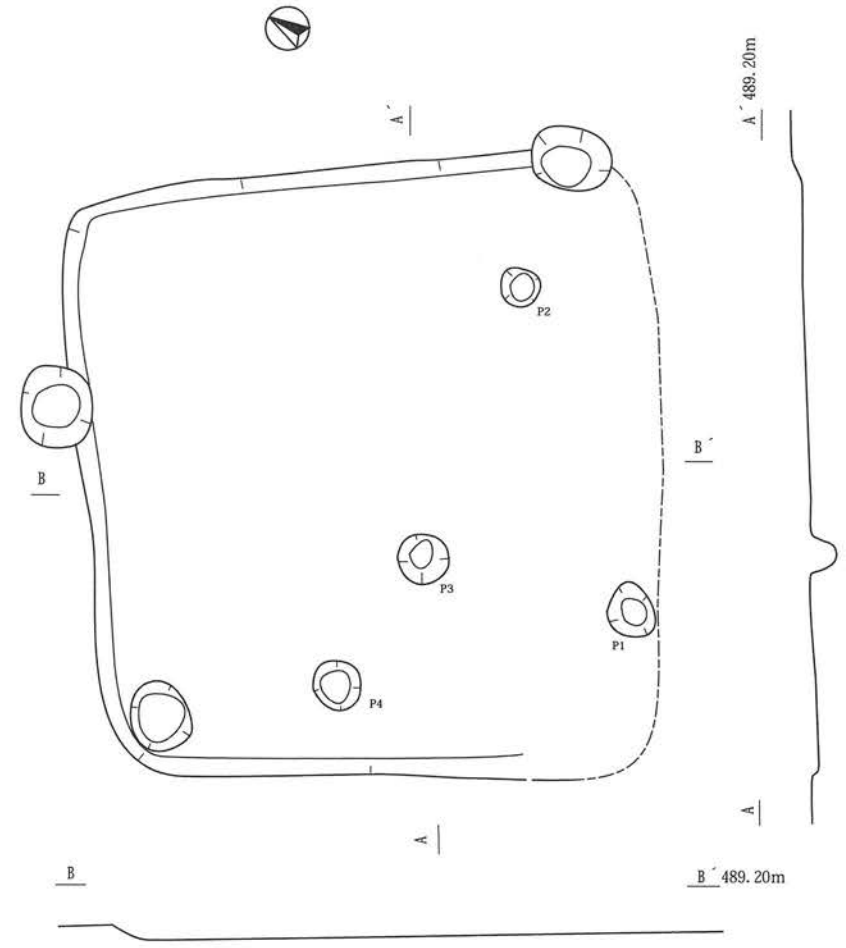


南-8号住居

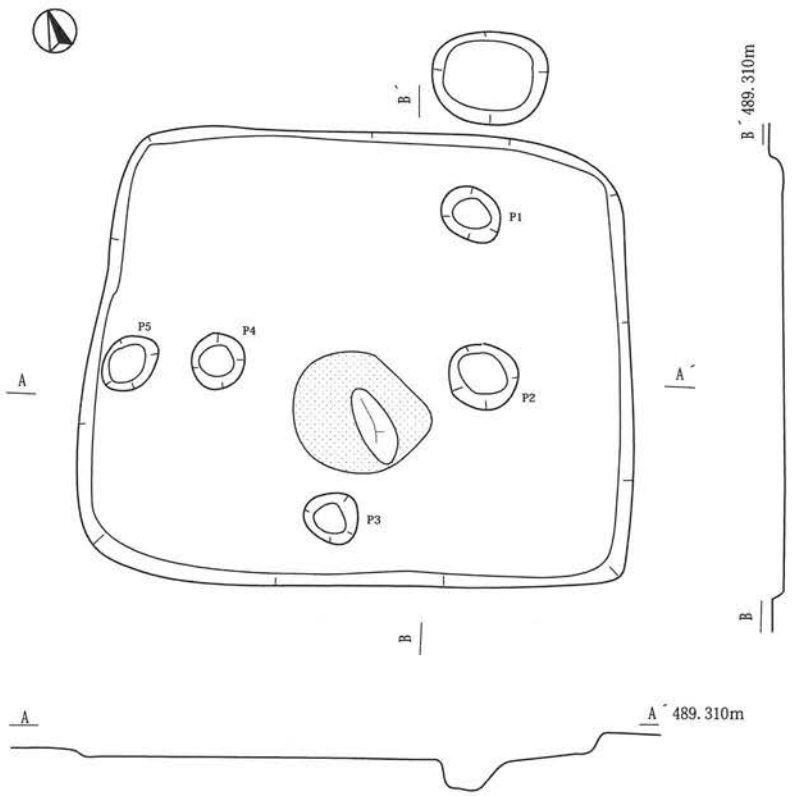


第9図　南-6号住居（1/40）　8号住居（1/80）

南 -9 号住居

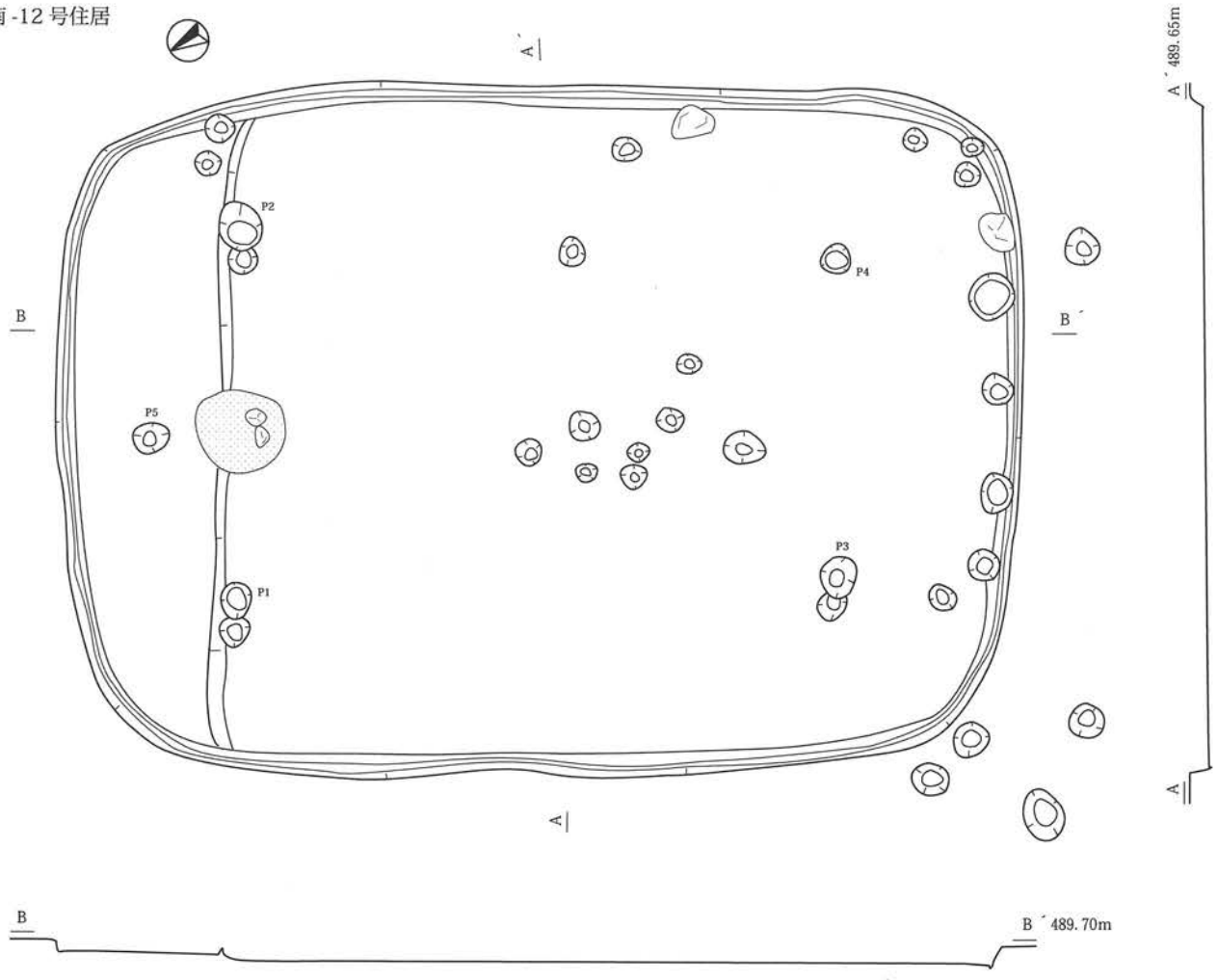


南 -10 号住居

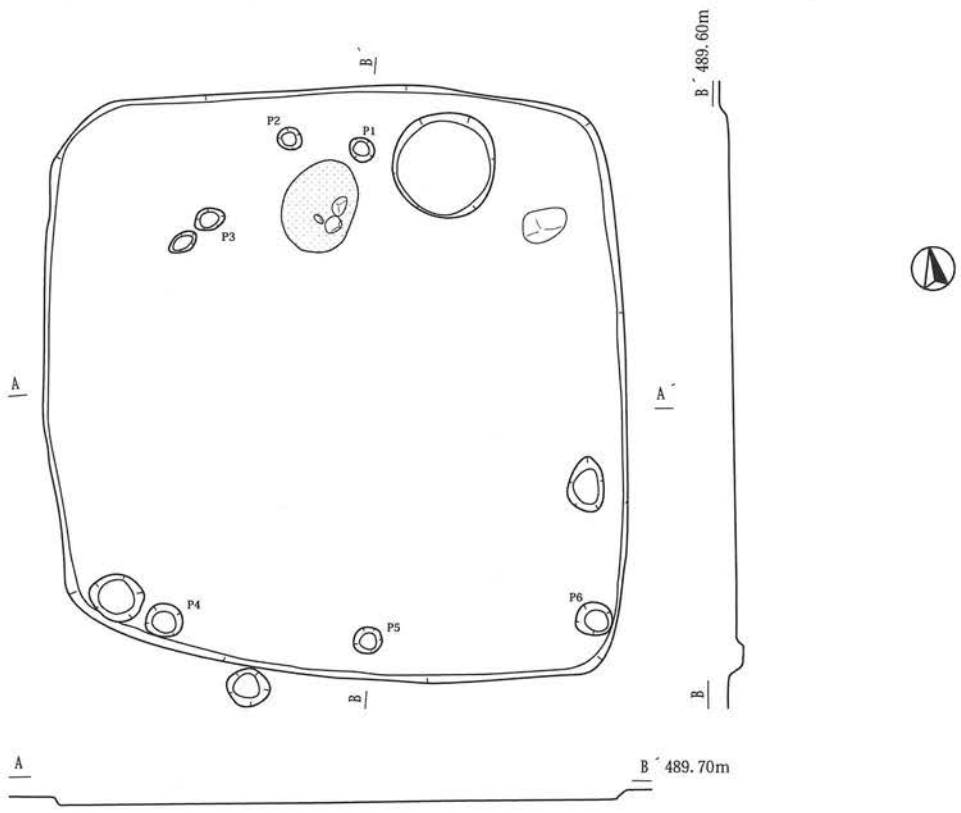


第 10 図　南 -9 号住居（1/40）　10 号住居（1/40）

南-12 号住居

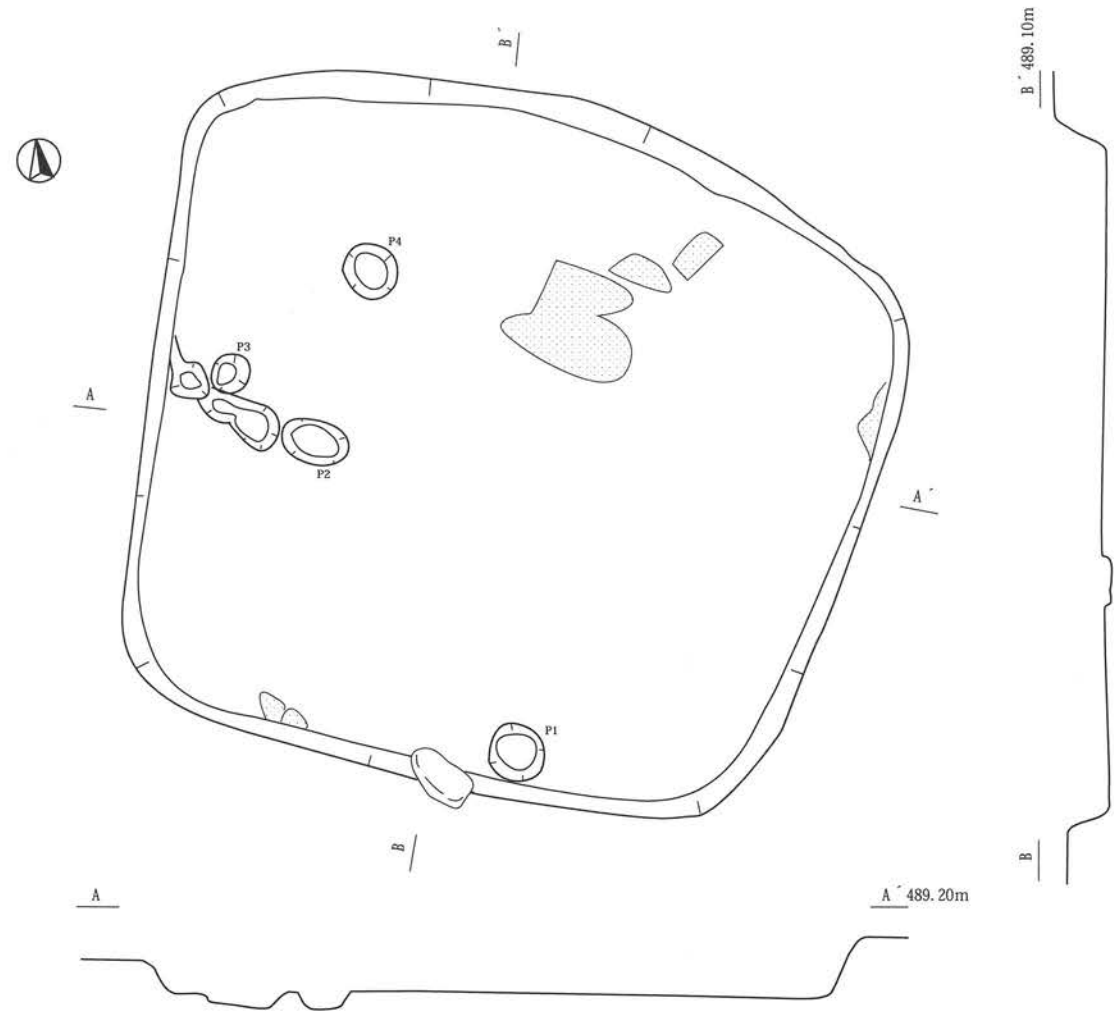


南-14 号住居

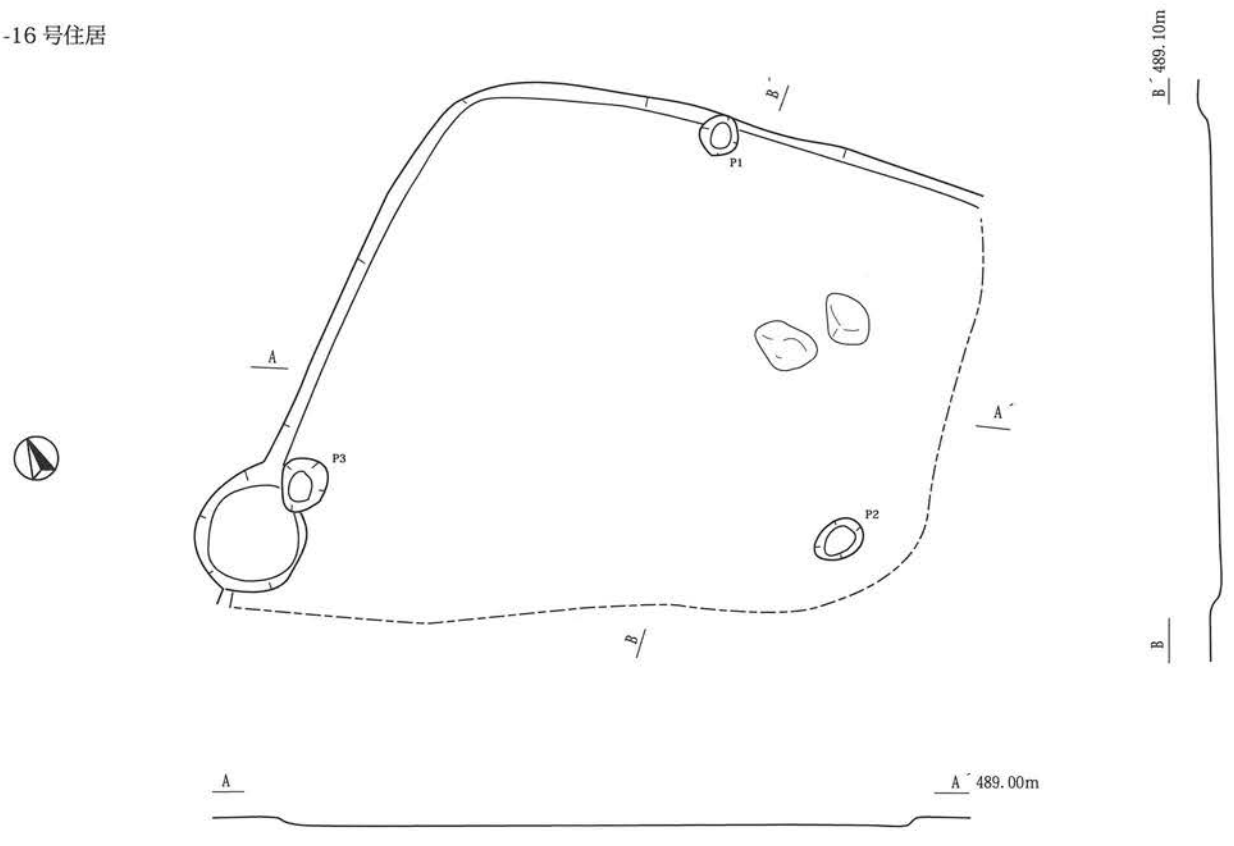


第 11 図　南-12 号住居（1/80）　14 号住居（1/80）

南-15 号住居

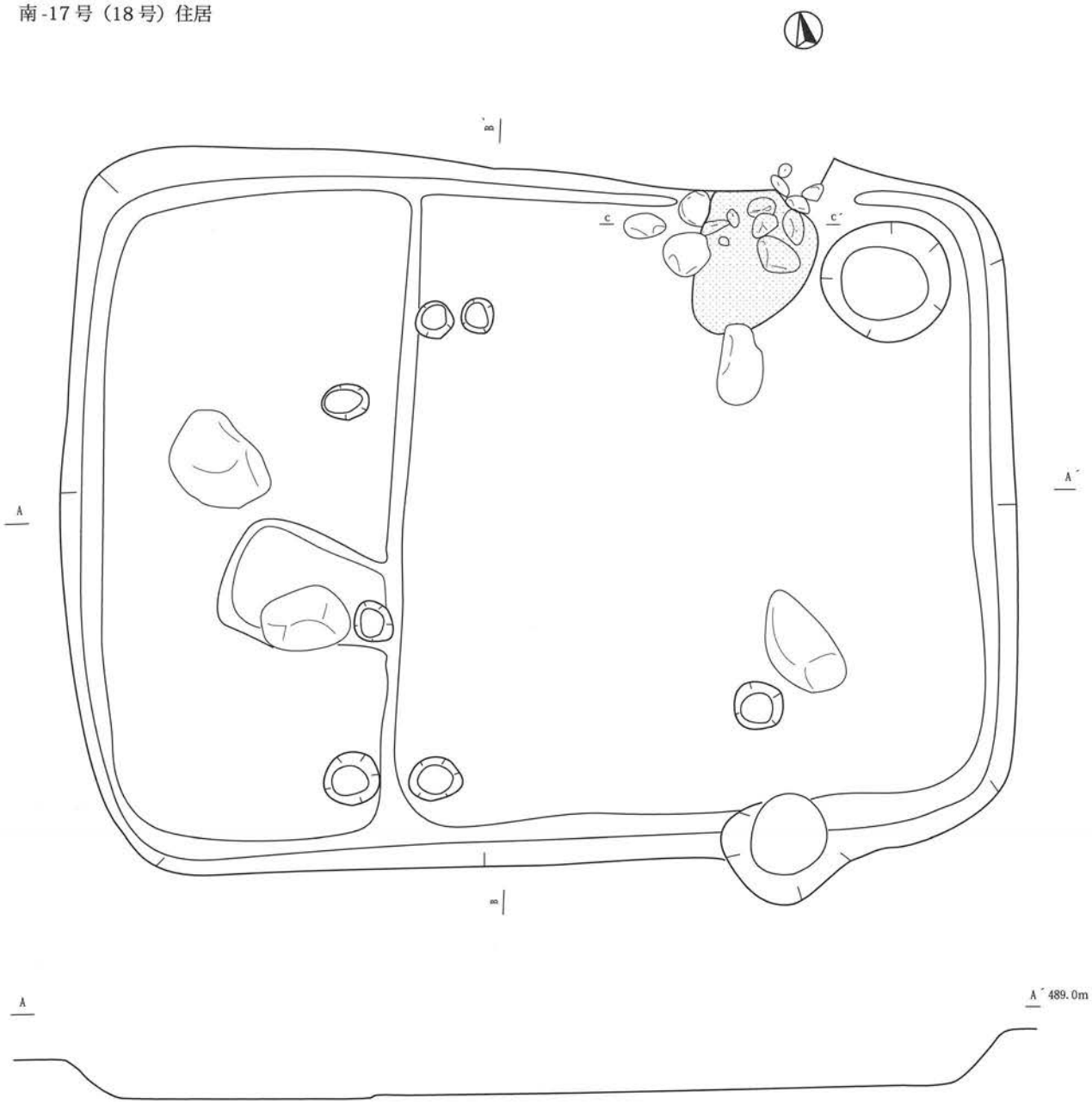


南-16 号住居

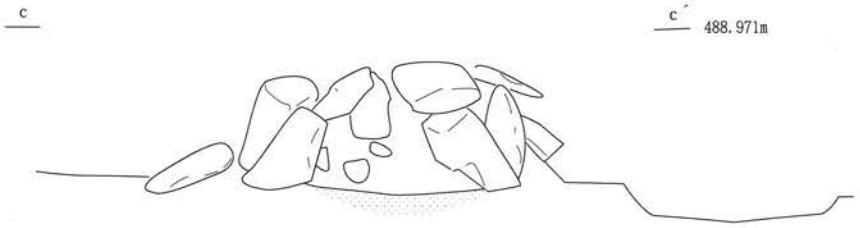


第 12 図　南-15 号住居（1/40）　16 号住居（1/40）

南-17号（18号）住居

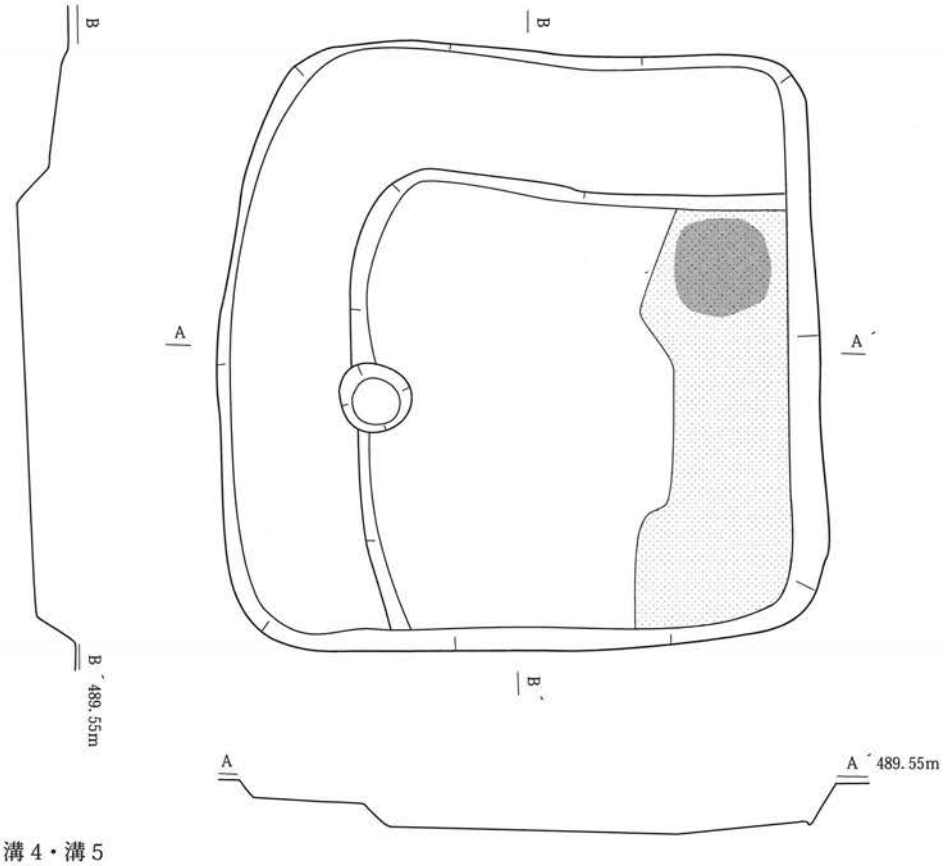


南-17号住居カマド

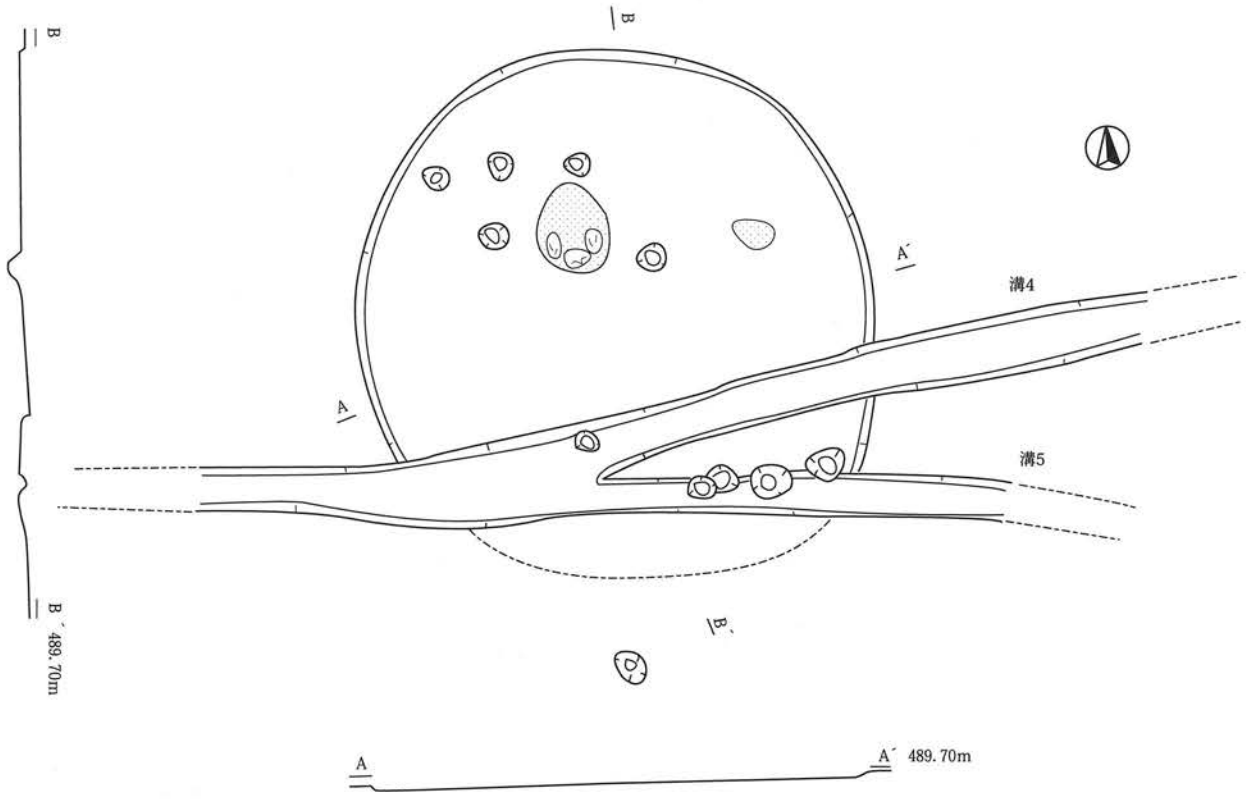


第13図　南-17号（18号）住居（1/40）　17号住居カマド（1/20）

南-20号住居

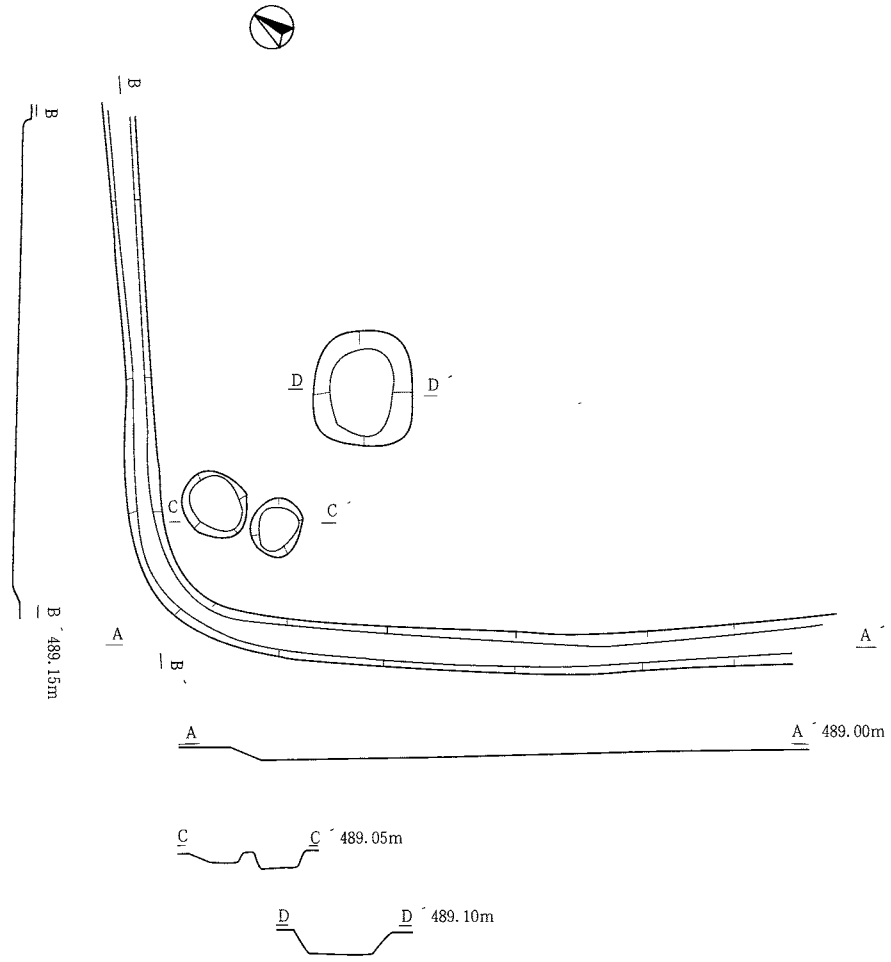


南-22号住居・溝4・溝5

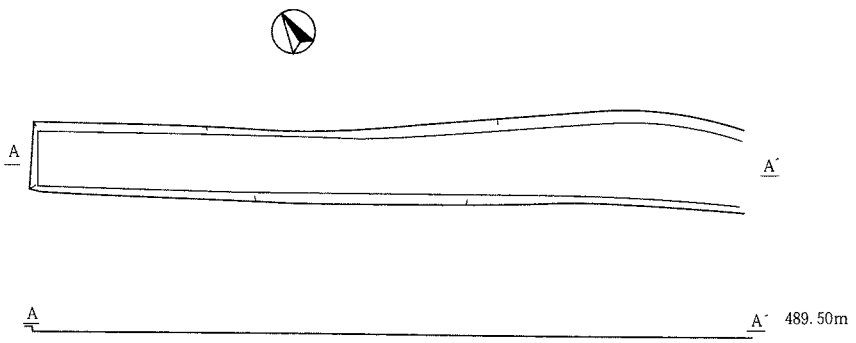


第14図　南-20号住居（1/40）　22号住居・溝4・溝5（1/80）

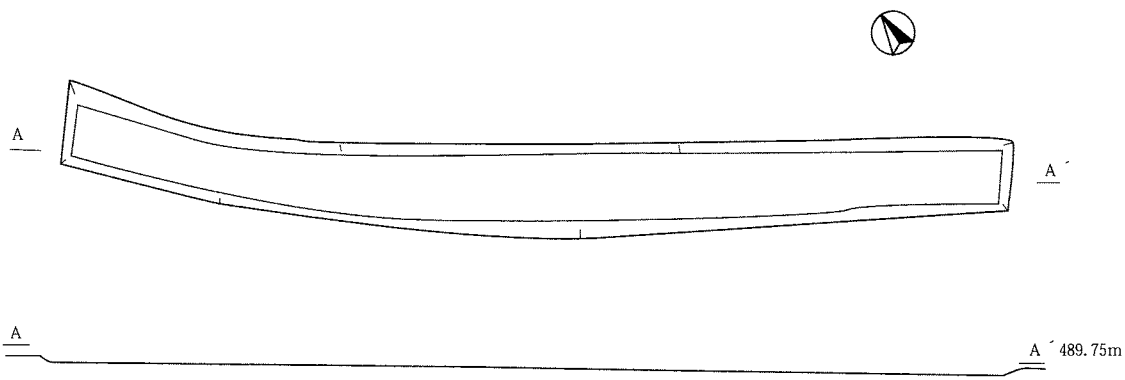
南 - 溝 1



南 - 溝 2

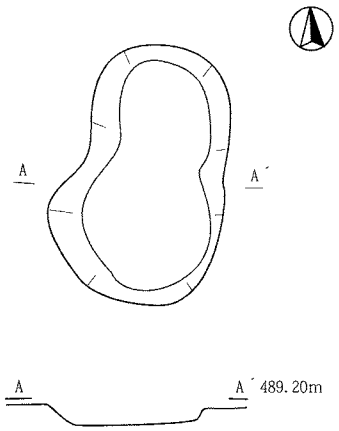


南 - 溝 3

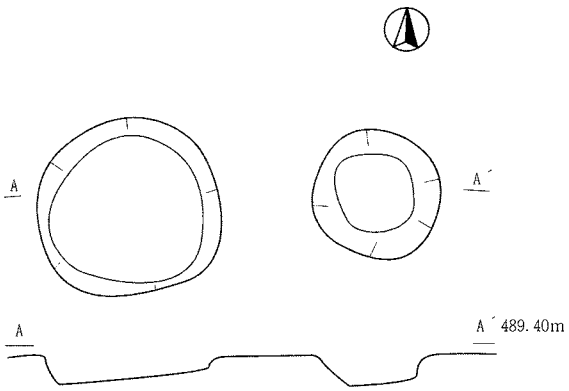


第 15 図　南 - 溝 1（1/80）　溝 2・溝 3（1/80）

南 - 土坑 4

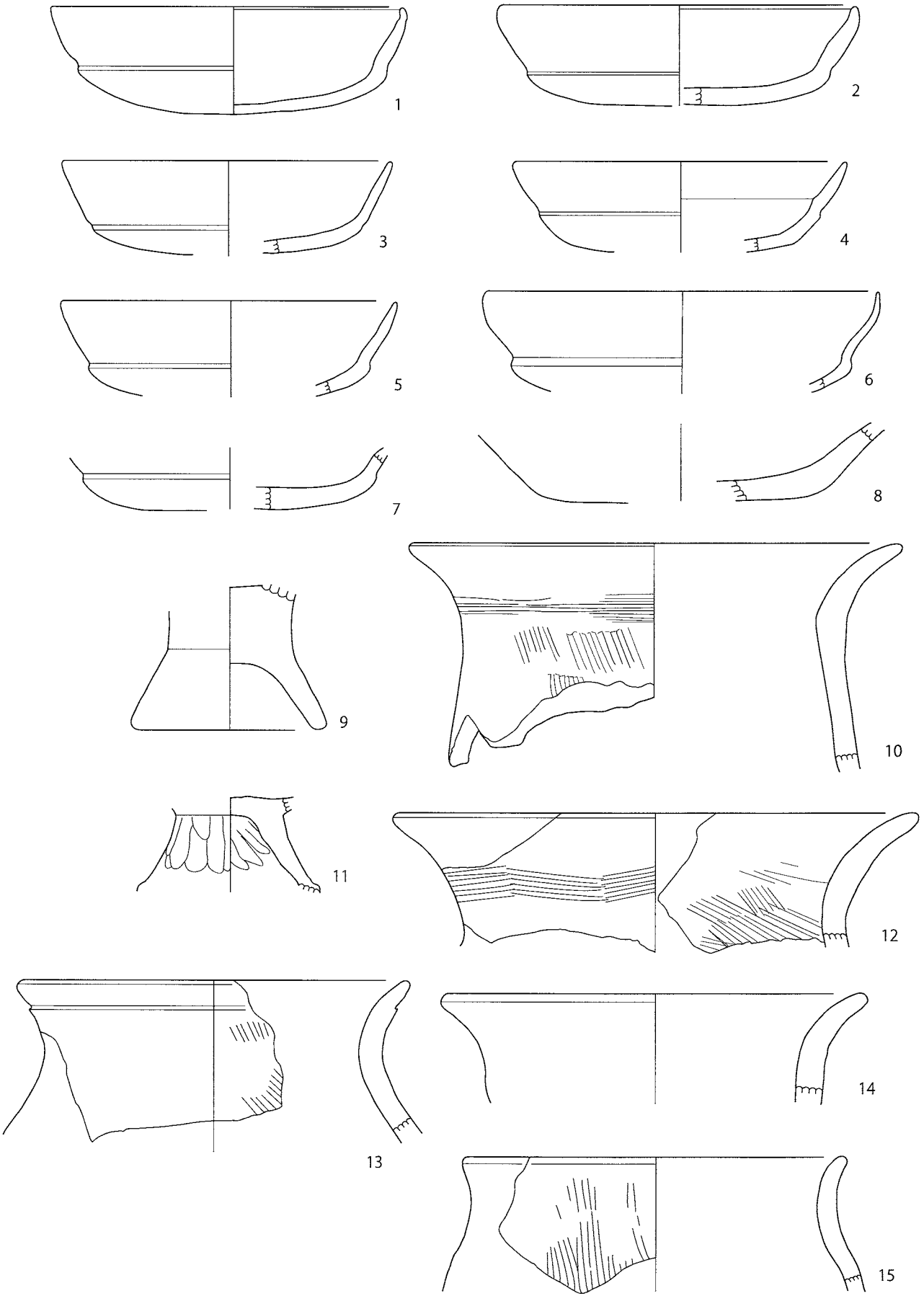


南 - 土坑 5・土坑 6



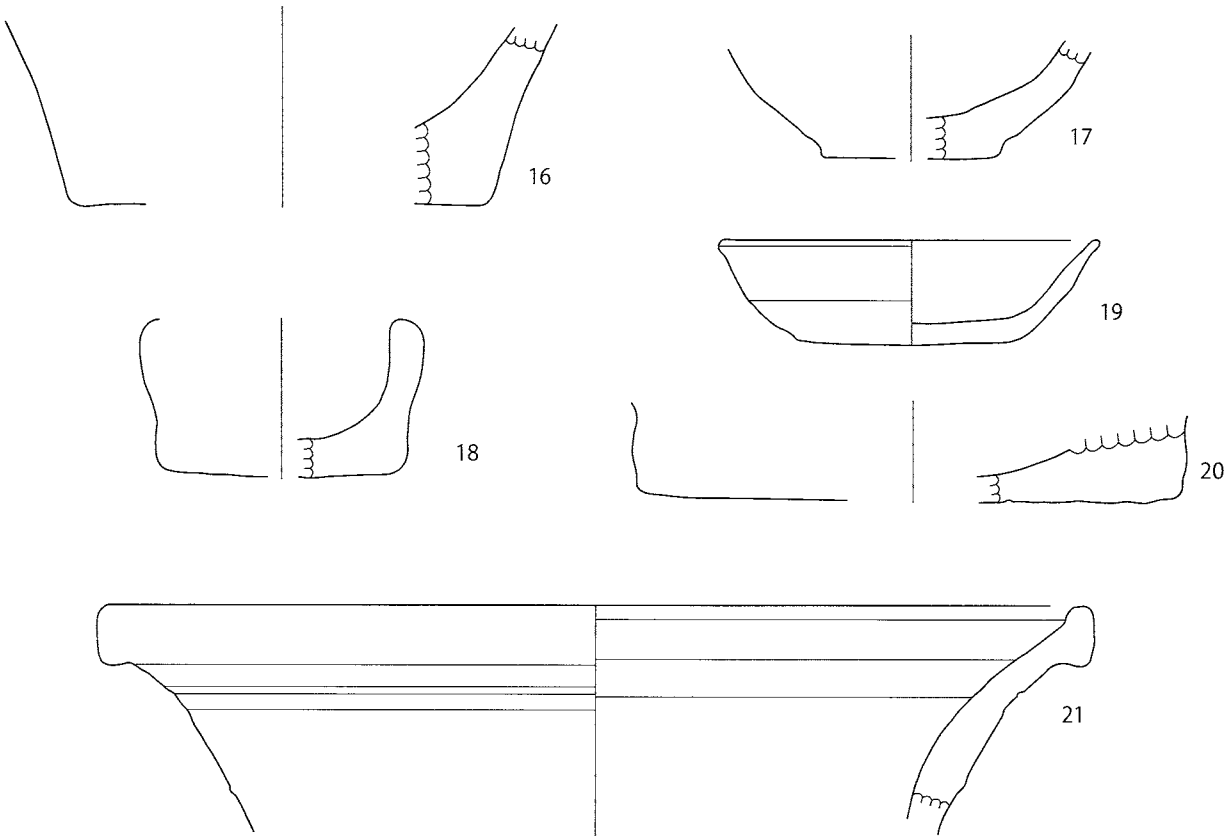
第 16 図　南 - 土坑 4　土坑 5・土坑 6（1/40）

北 -1 号住

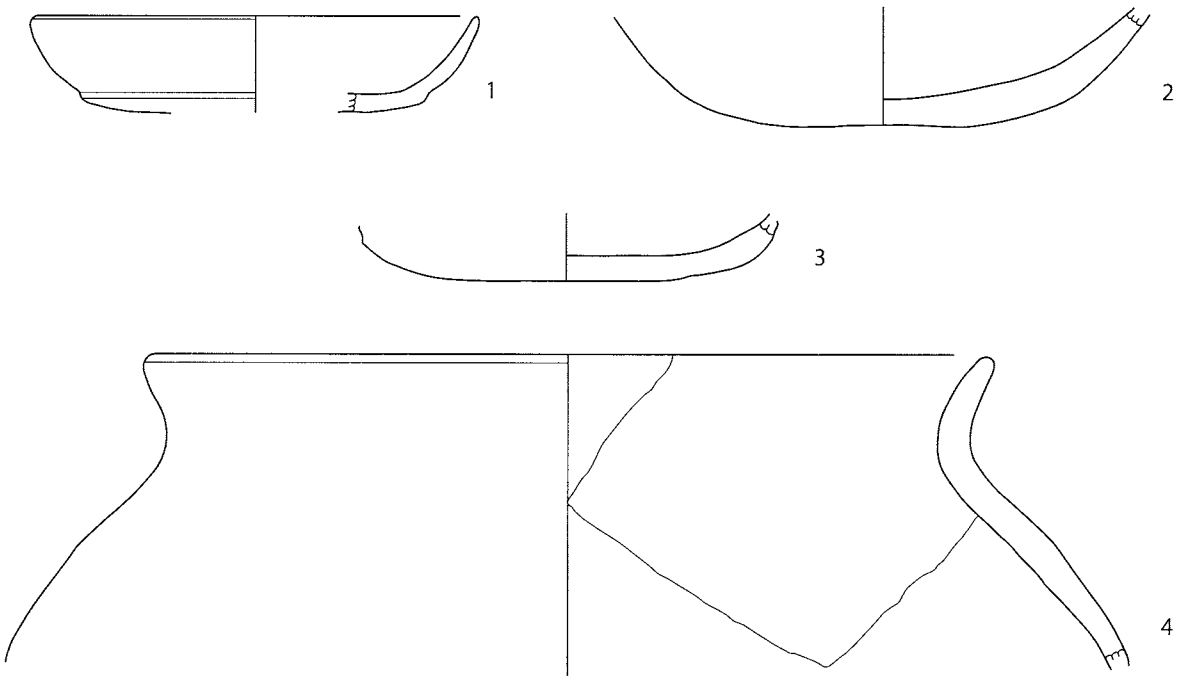


第 17 図　北 -1 号住居出土遺物（1/2）

北-1 号住

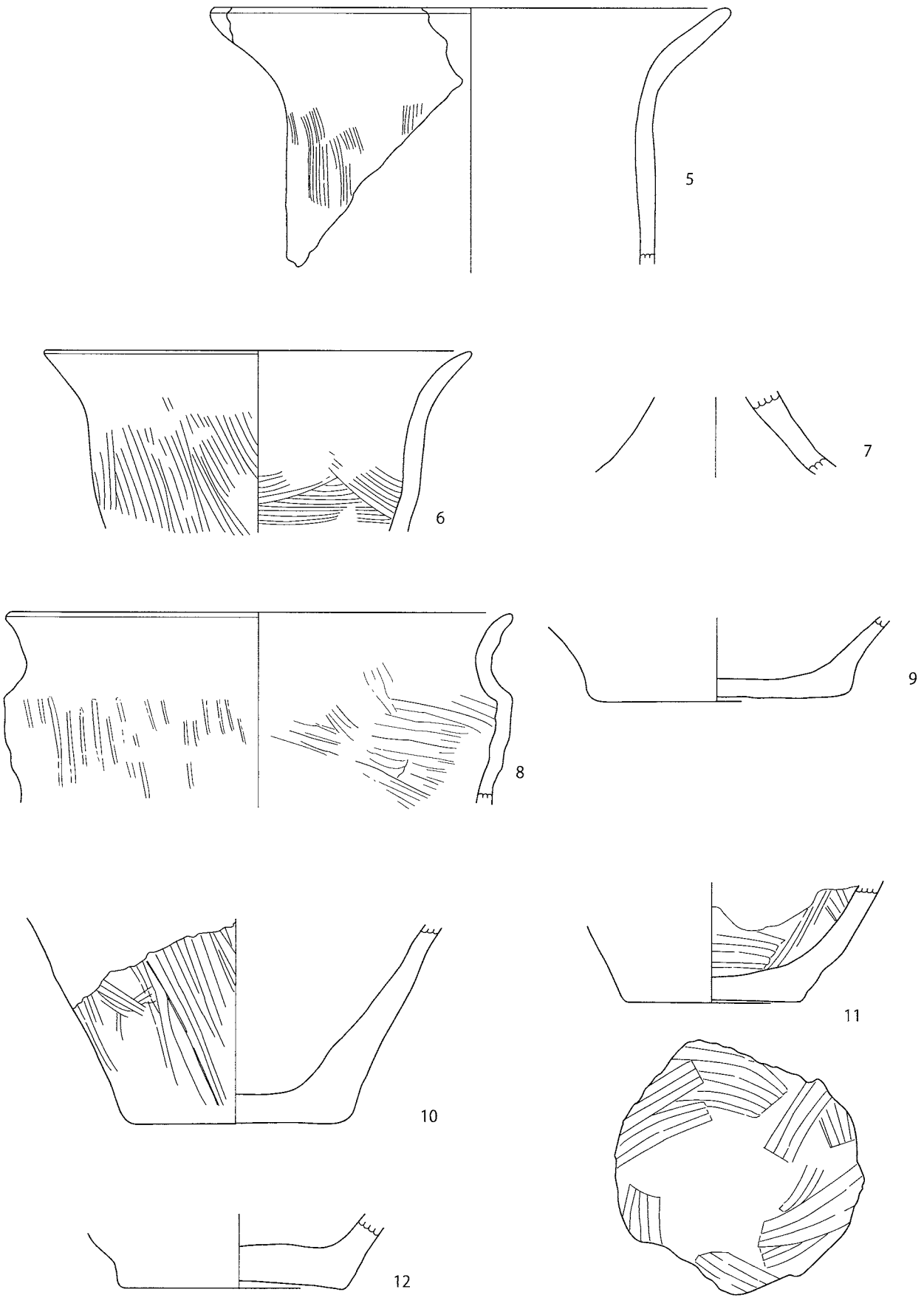


北-2 号住

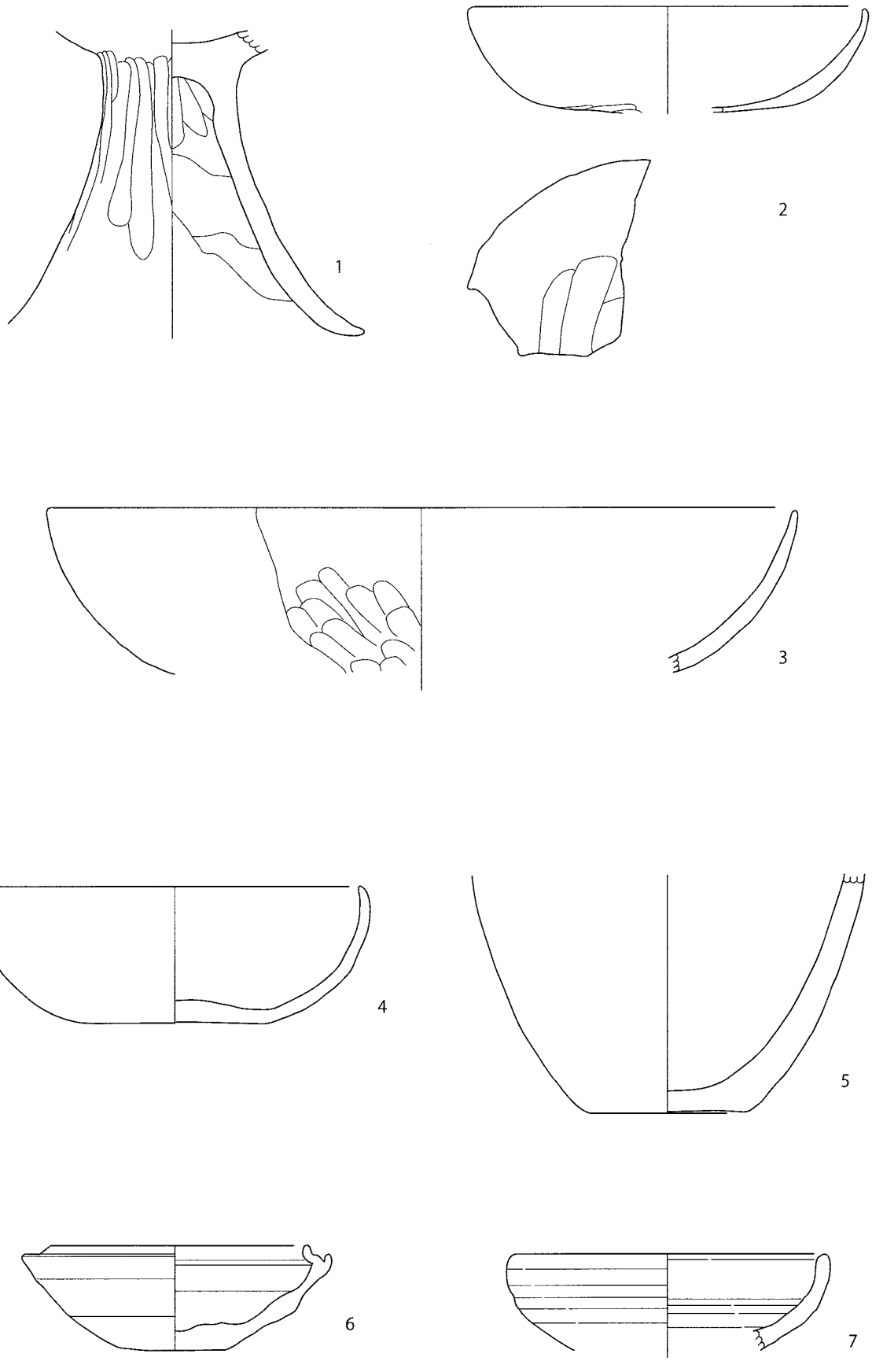


第 18 図　北-1 号・2 号住居出土遺物（1/2）

北 -2 号住

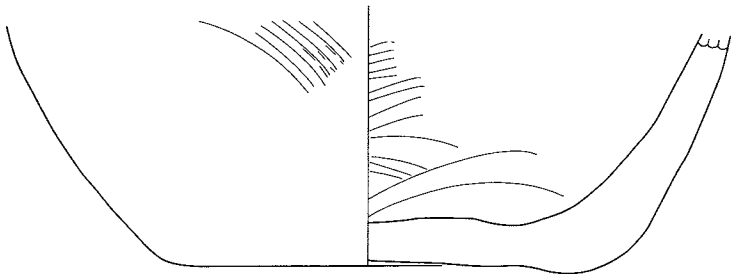


第 19 図　北 - 2 号住居出土遺物（1/2）

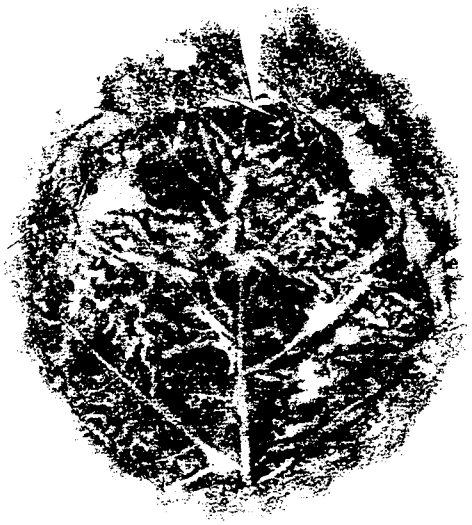


第 20 図　北 - 3 号住居出土遺物（1/2）

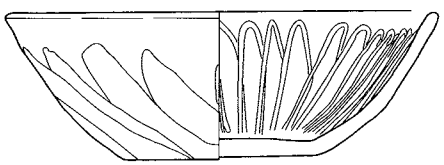
北-3 号住



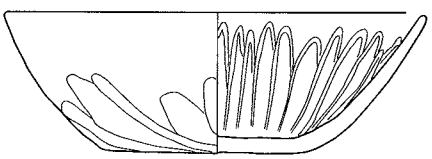
8



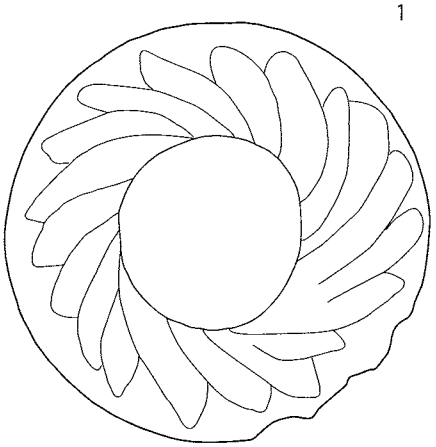
北-4 号住

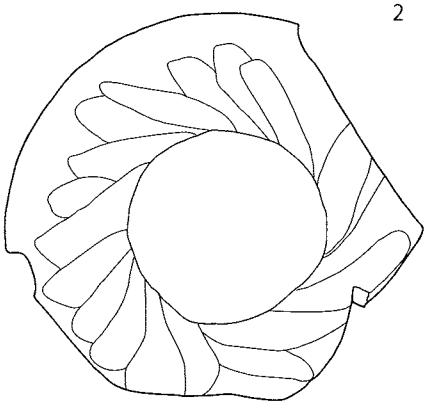


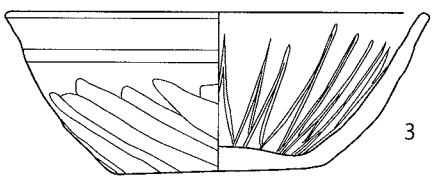
1



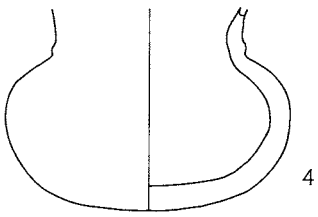
2







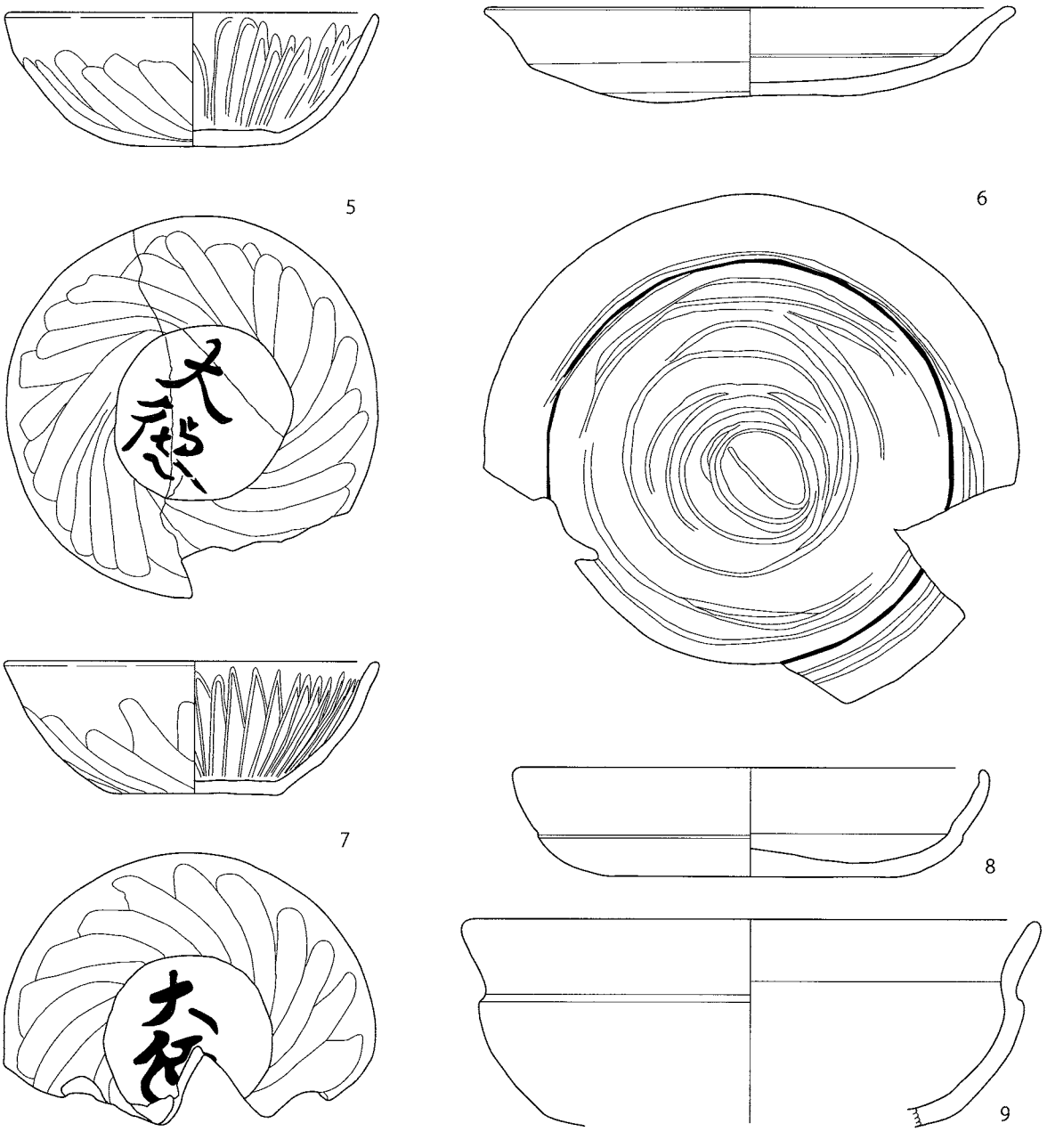
3



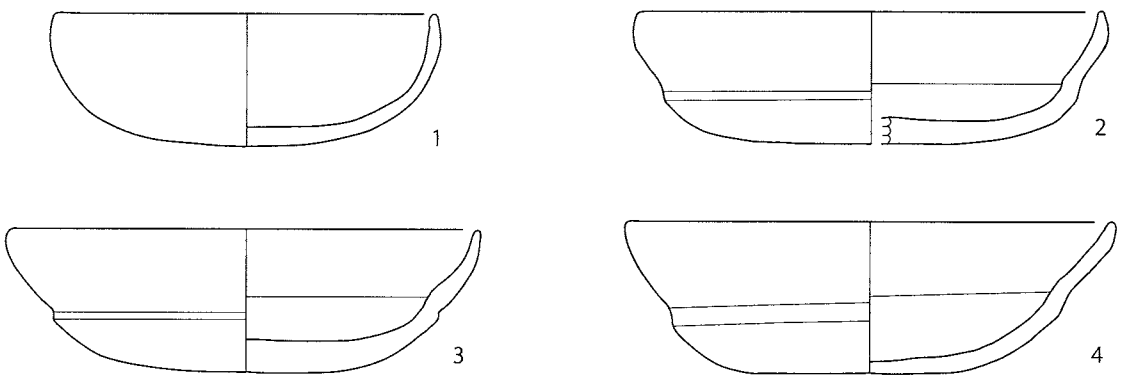
4

第 21 図　北 -3 号・4 号住居出土遺物（1/2）

北-4 号住

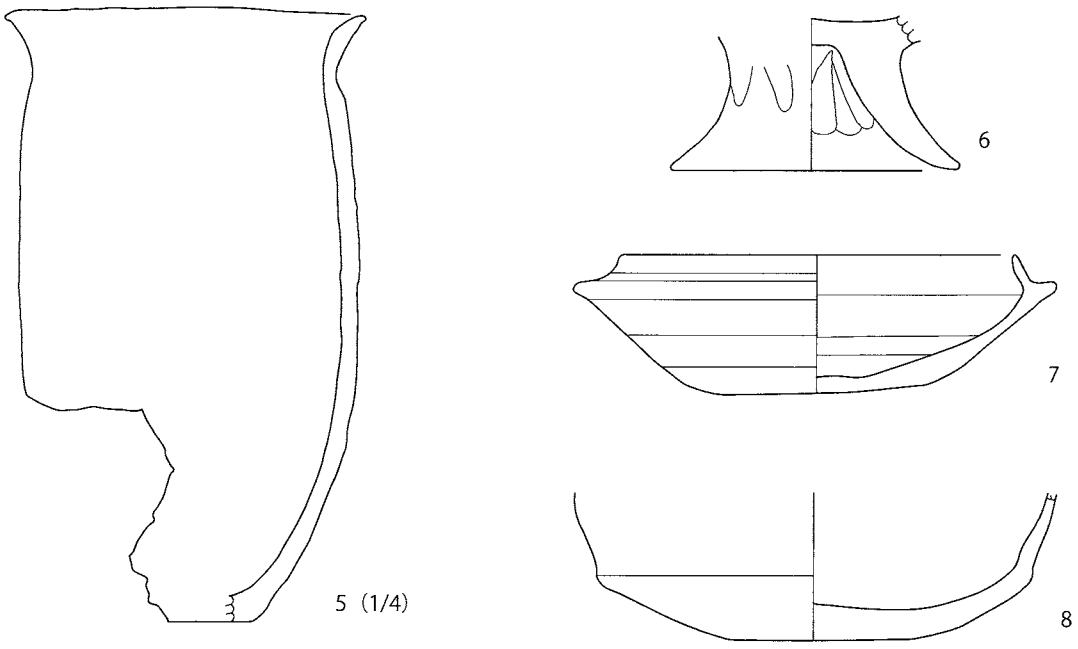


北-6 号住

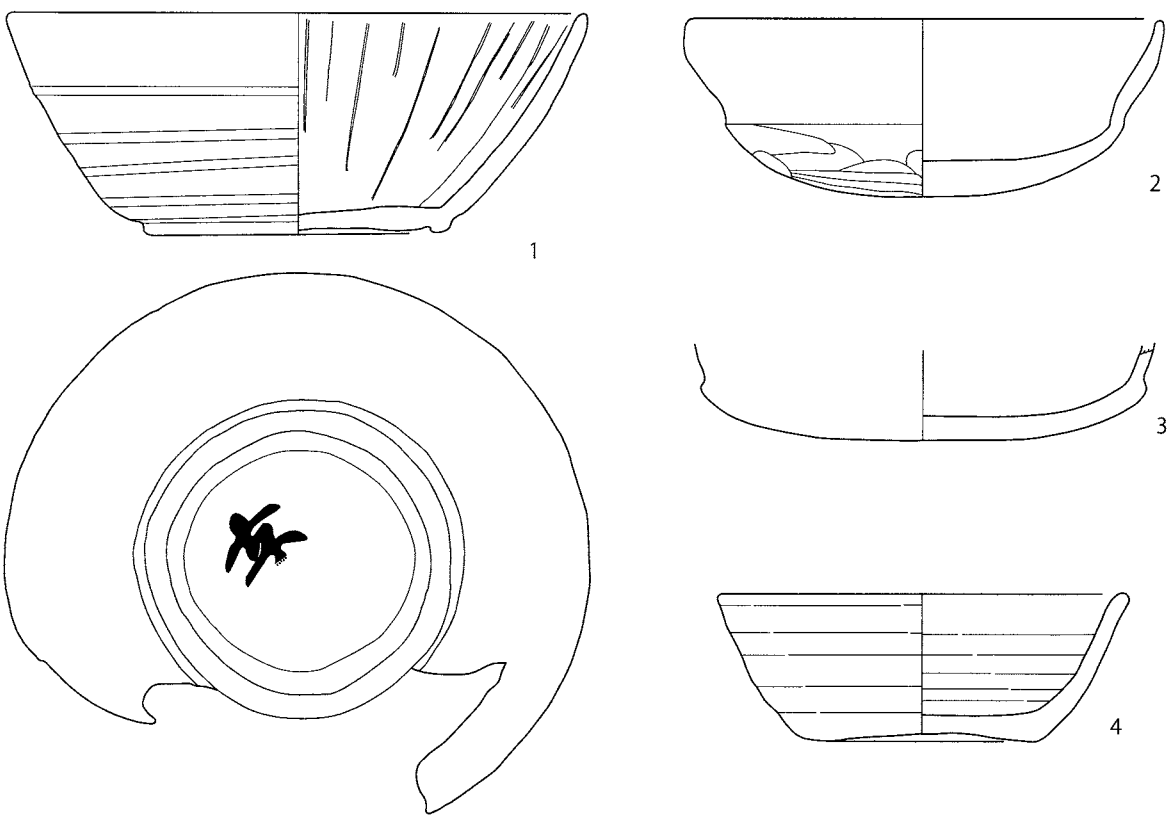


第 22 図　北-4 号・6 号住居出土遺物（1/2）

北-6号住

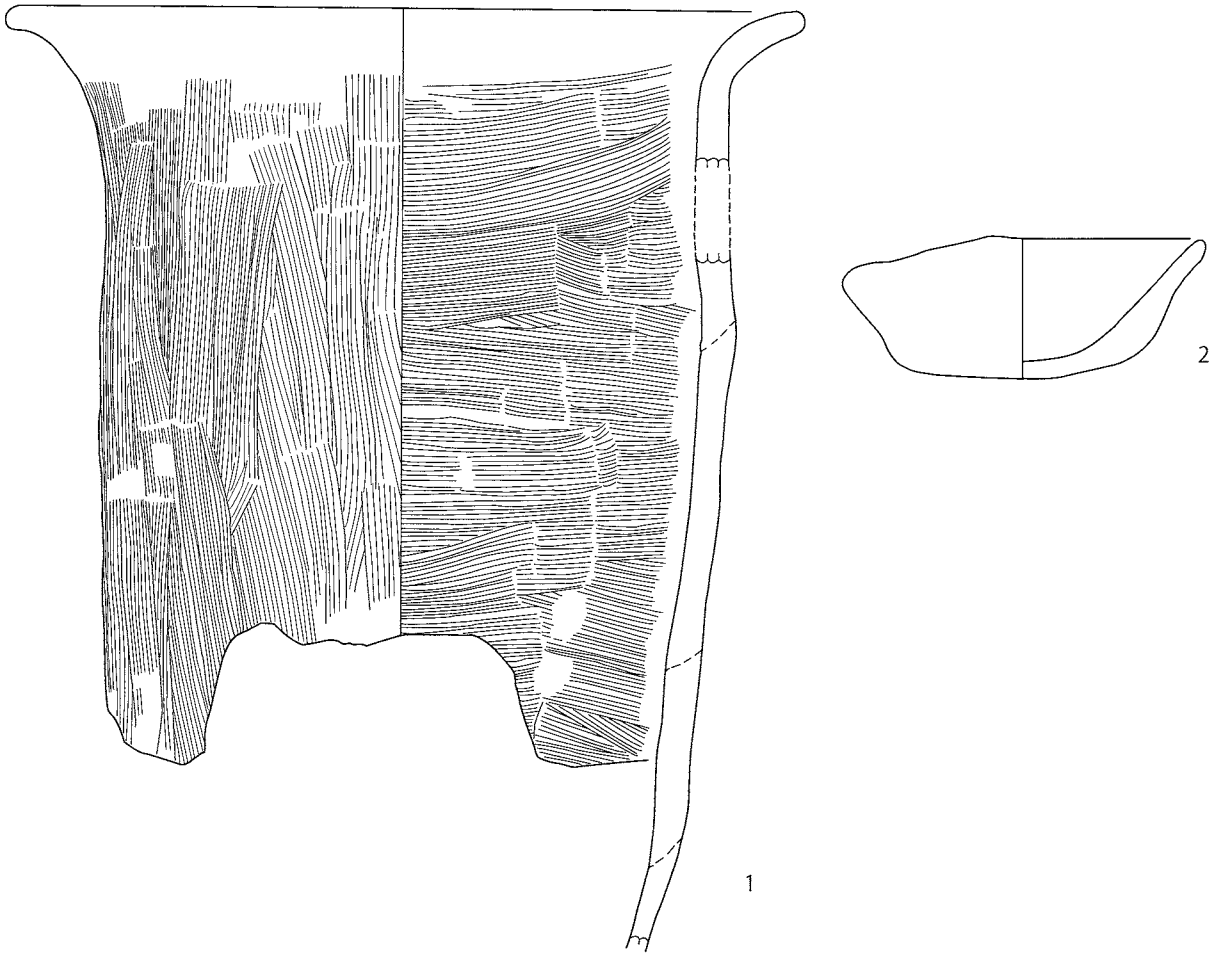


北-7号住

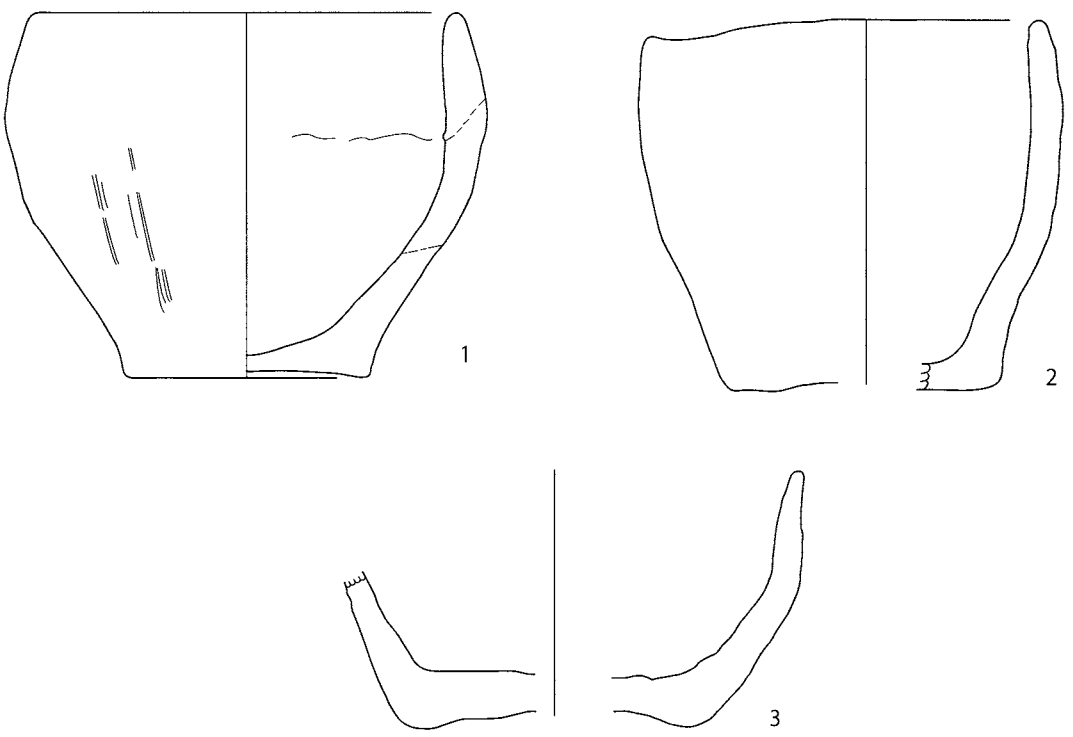


第23図　北-6号・7号住居出土遺物（1/2）

北-15 号住

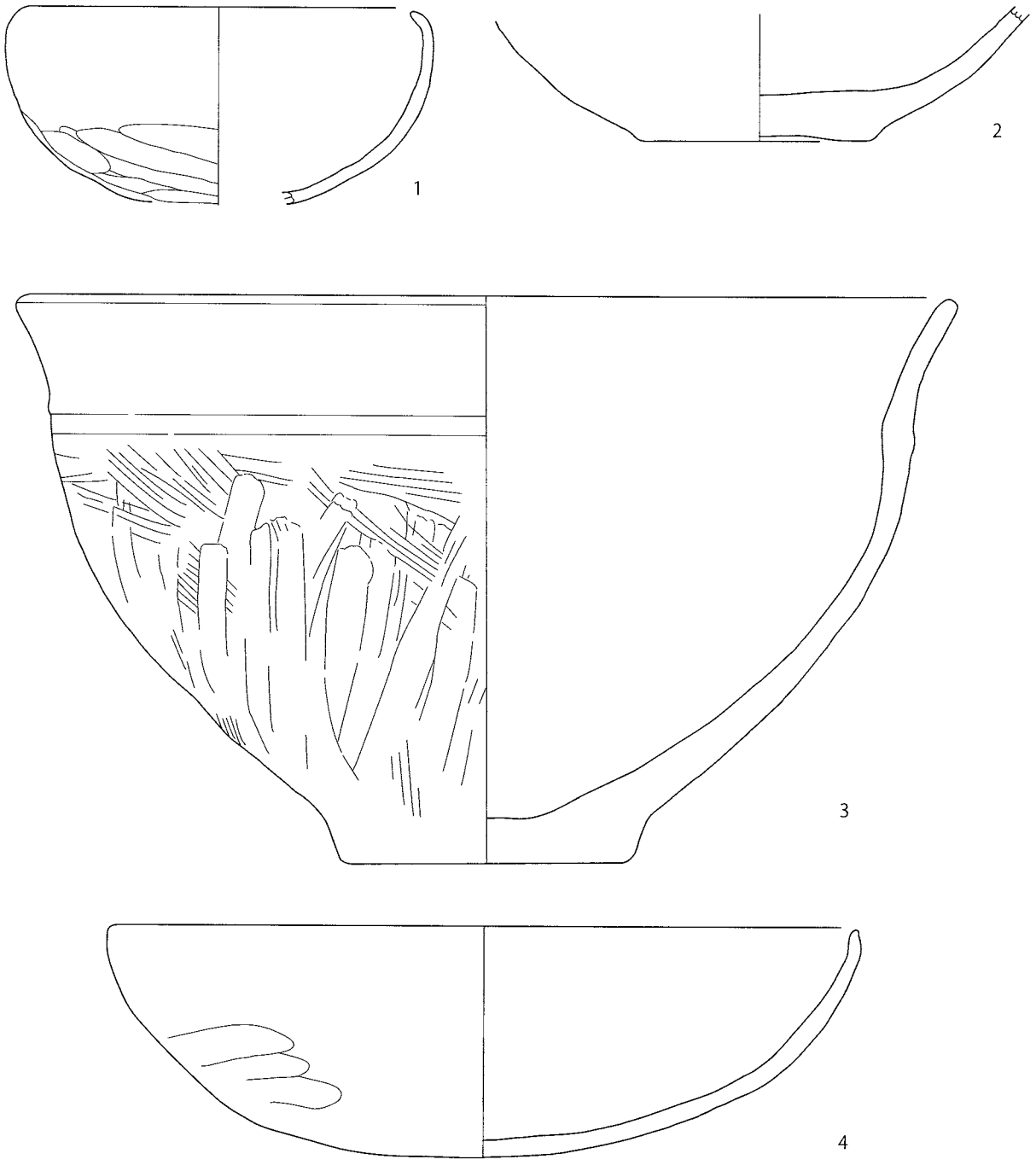


北-19 号住

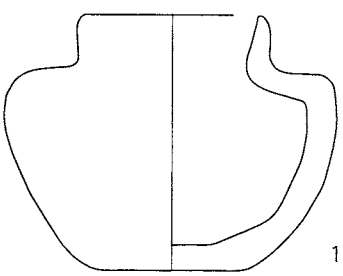


第 24 図　北-15 号・19 号住居出土遺物（1/2）

北-27号住

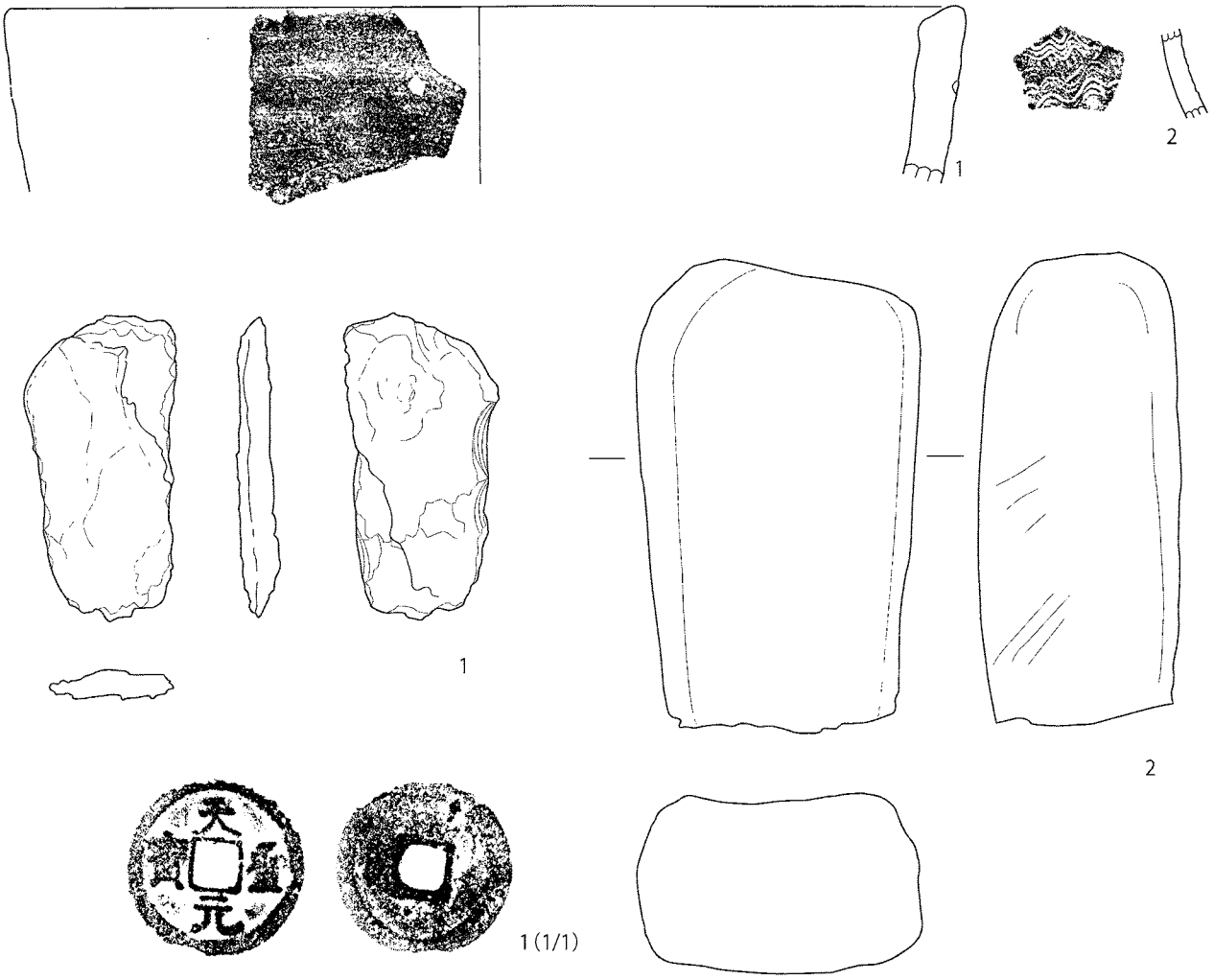


北-29号住

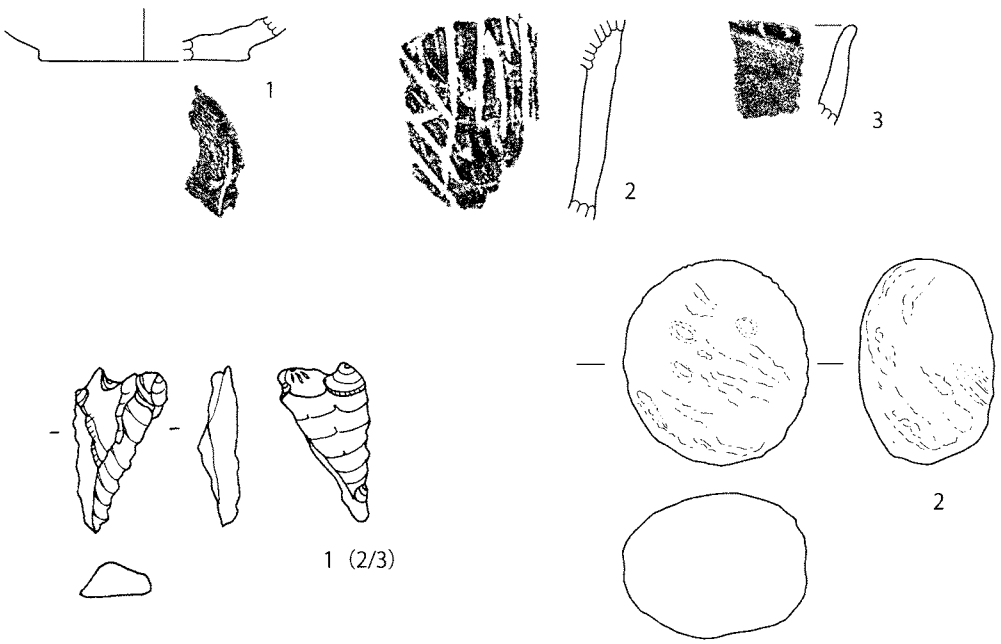


第25図　北-27号・29号住居出土遺物（1/2）

南-1号住

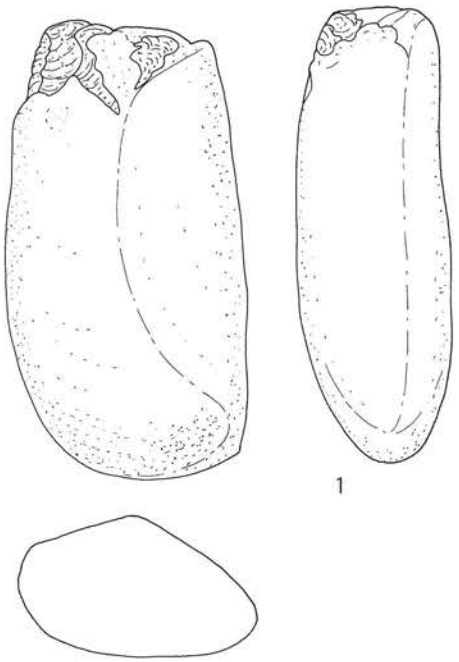


南-2号住

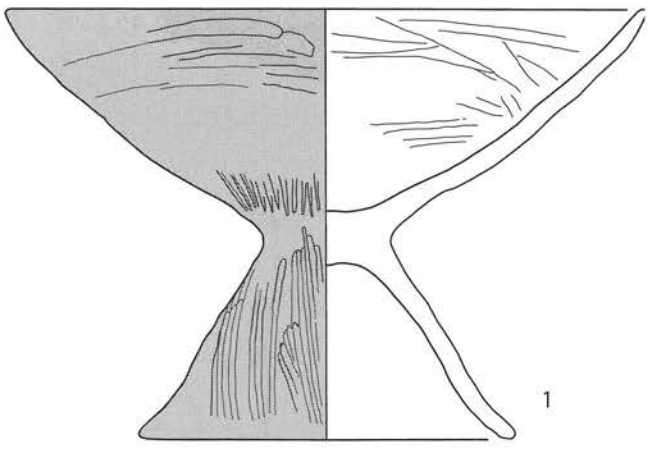


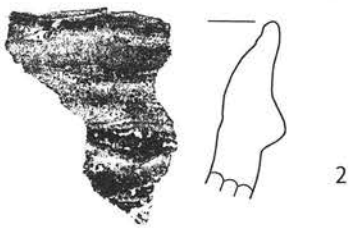
第26図　南-1号・2号住居出土遺物（1/2）

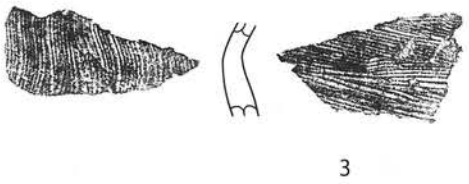
南 -3 号住



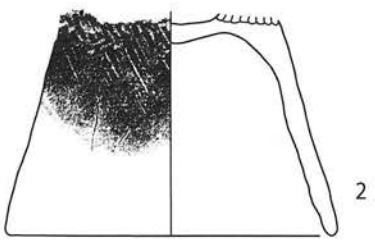
南 -4 号住

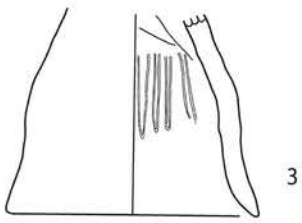




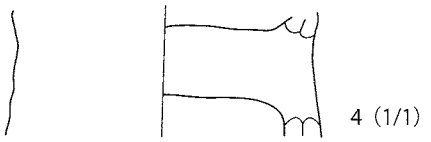


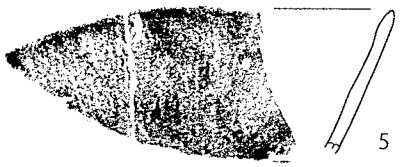
南 -5 号住

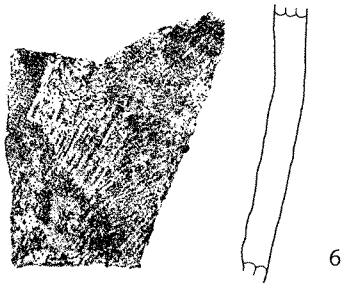


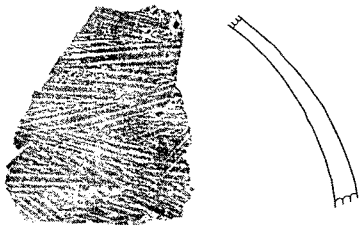


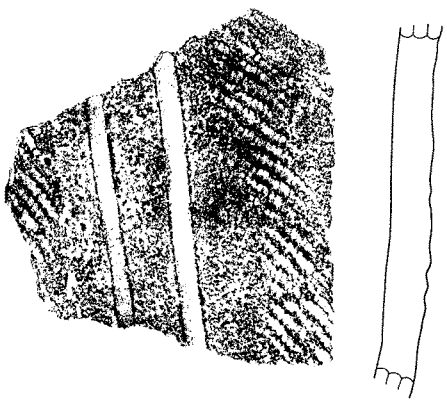
第 27 図　南 -3 号・4 号・5 住居出土遺物（1/2）





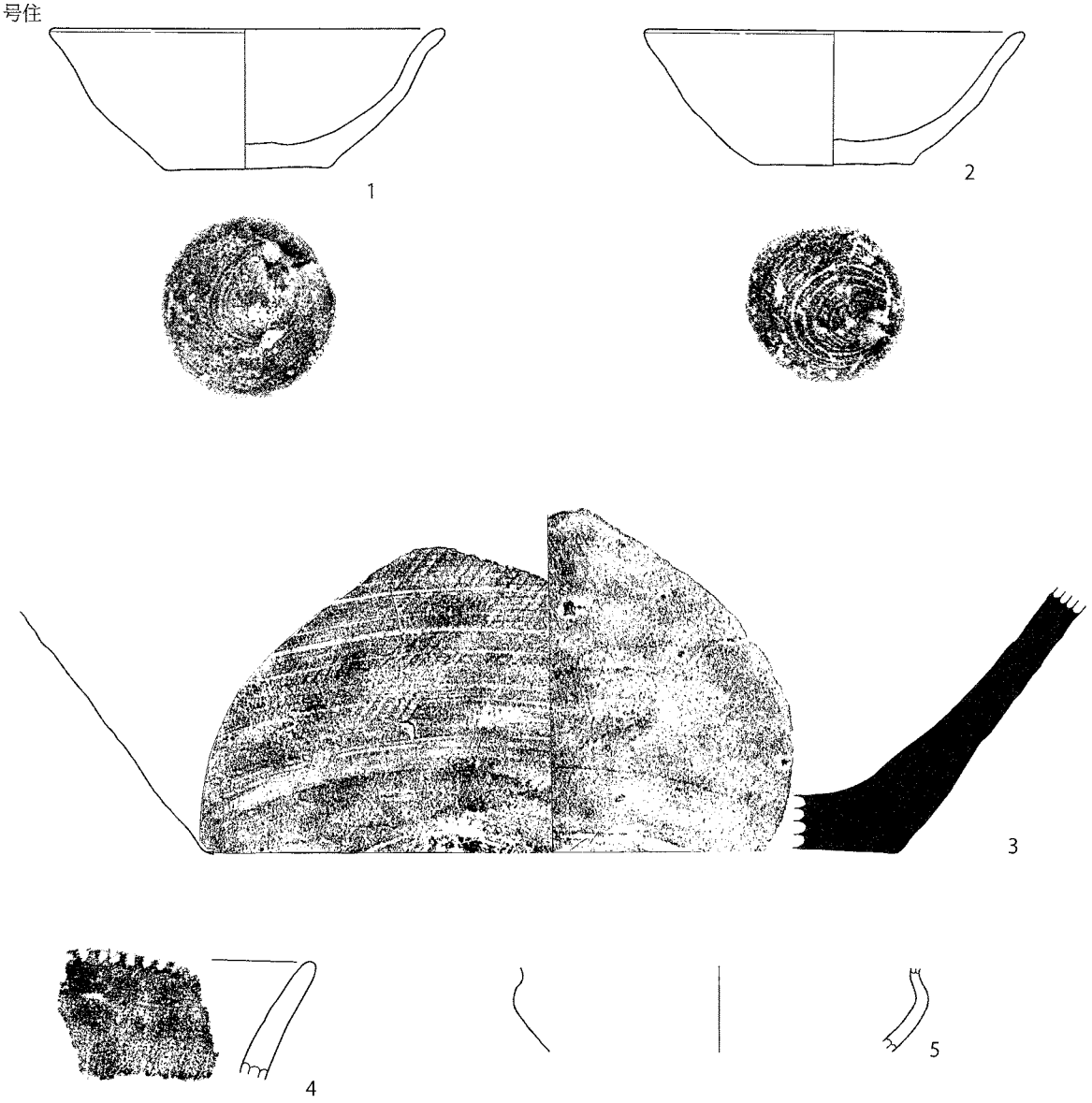




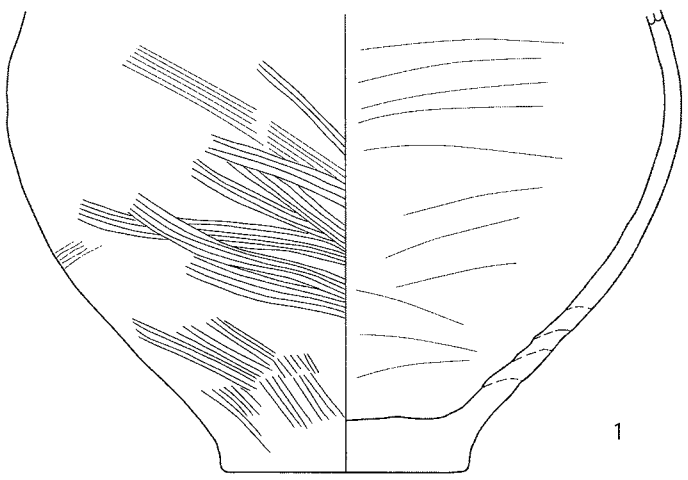


第 28 図　南 -5 住居出土遺物（1/2）

南-6 号住

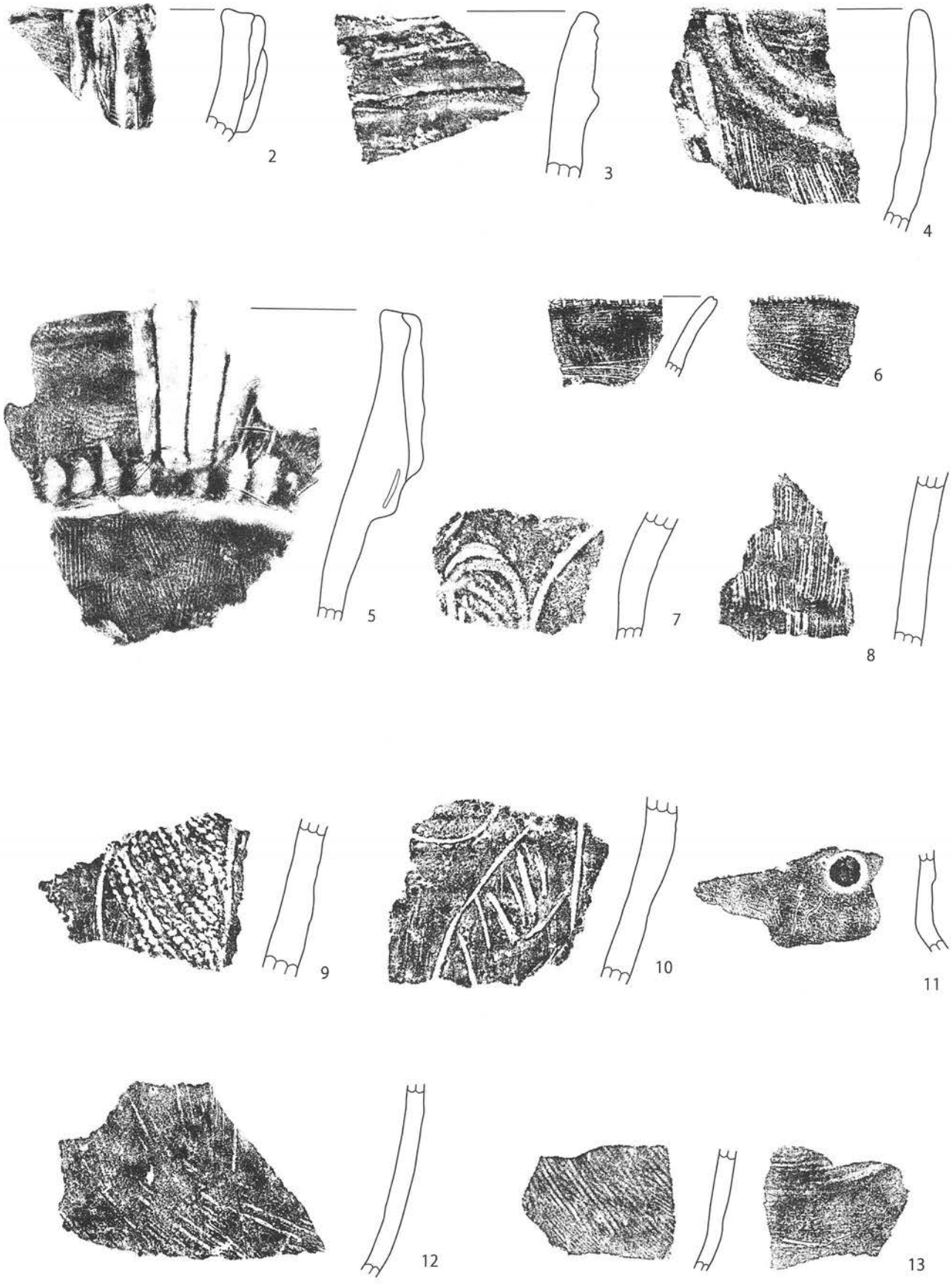


南-8 号住



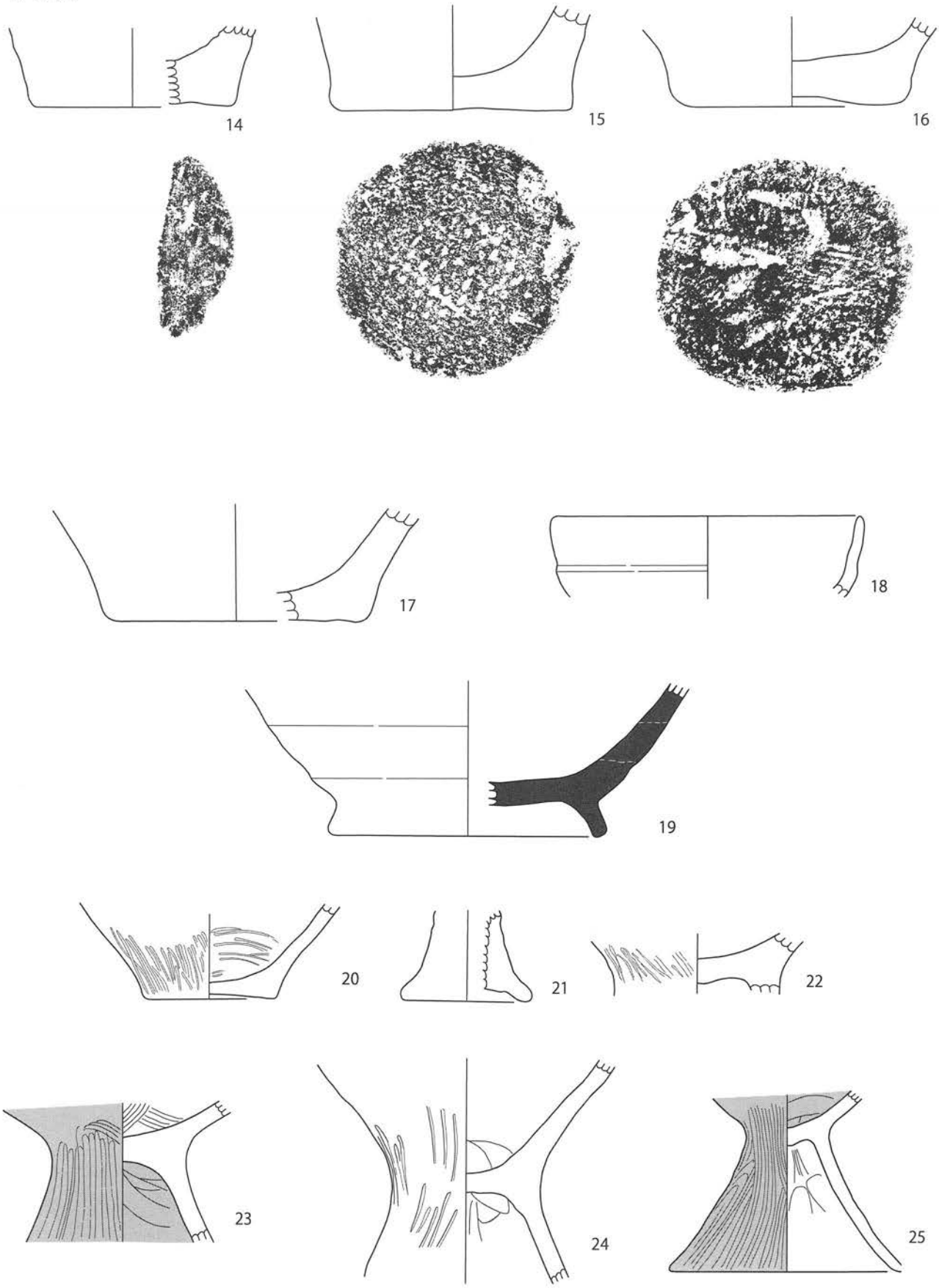
第 29 図　南-6 号・8 号住居出土遺物（1/2）

南 -8 号住



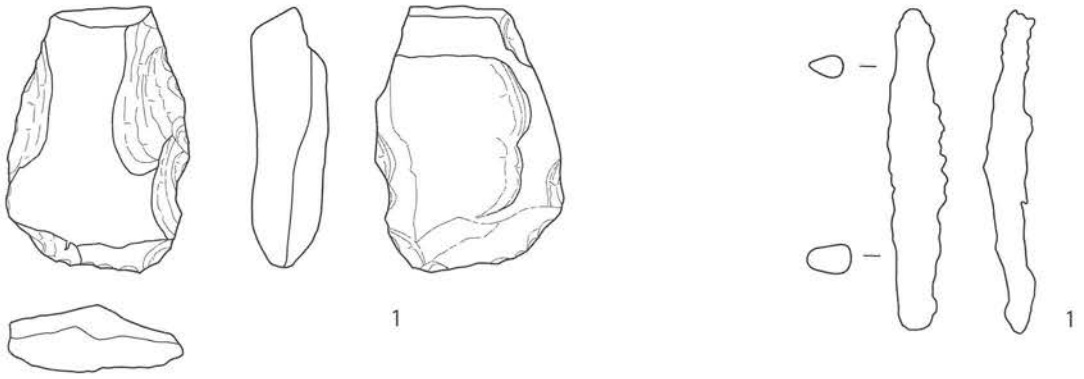
第 30 図　南 -8 号住居出土遺物（1/2）

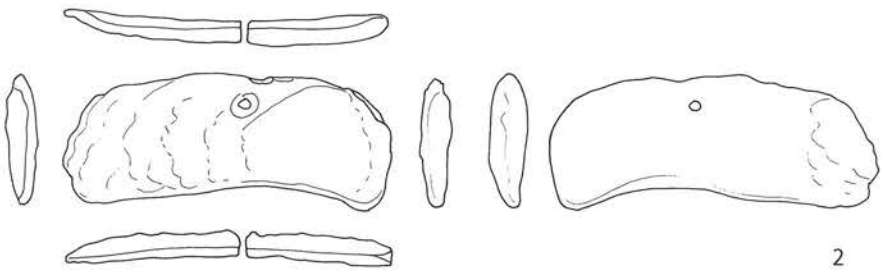
南-8号住

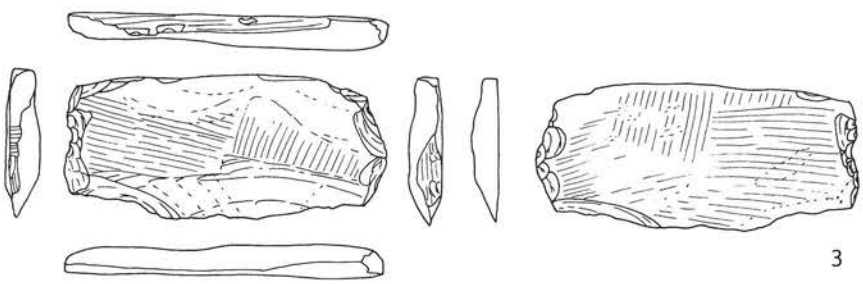


第31図　南-8号住居出土遺物（1/2）

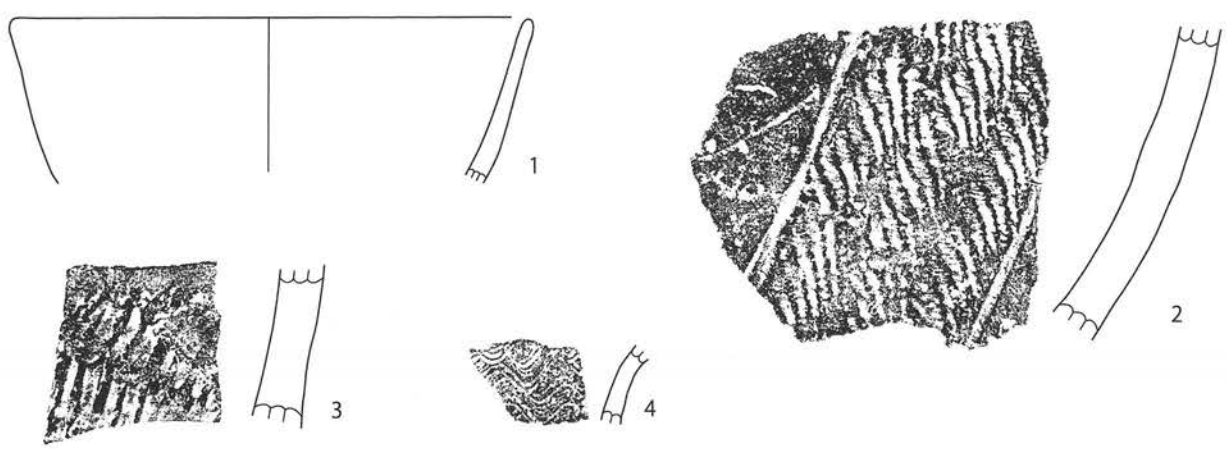
南-8 号住





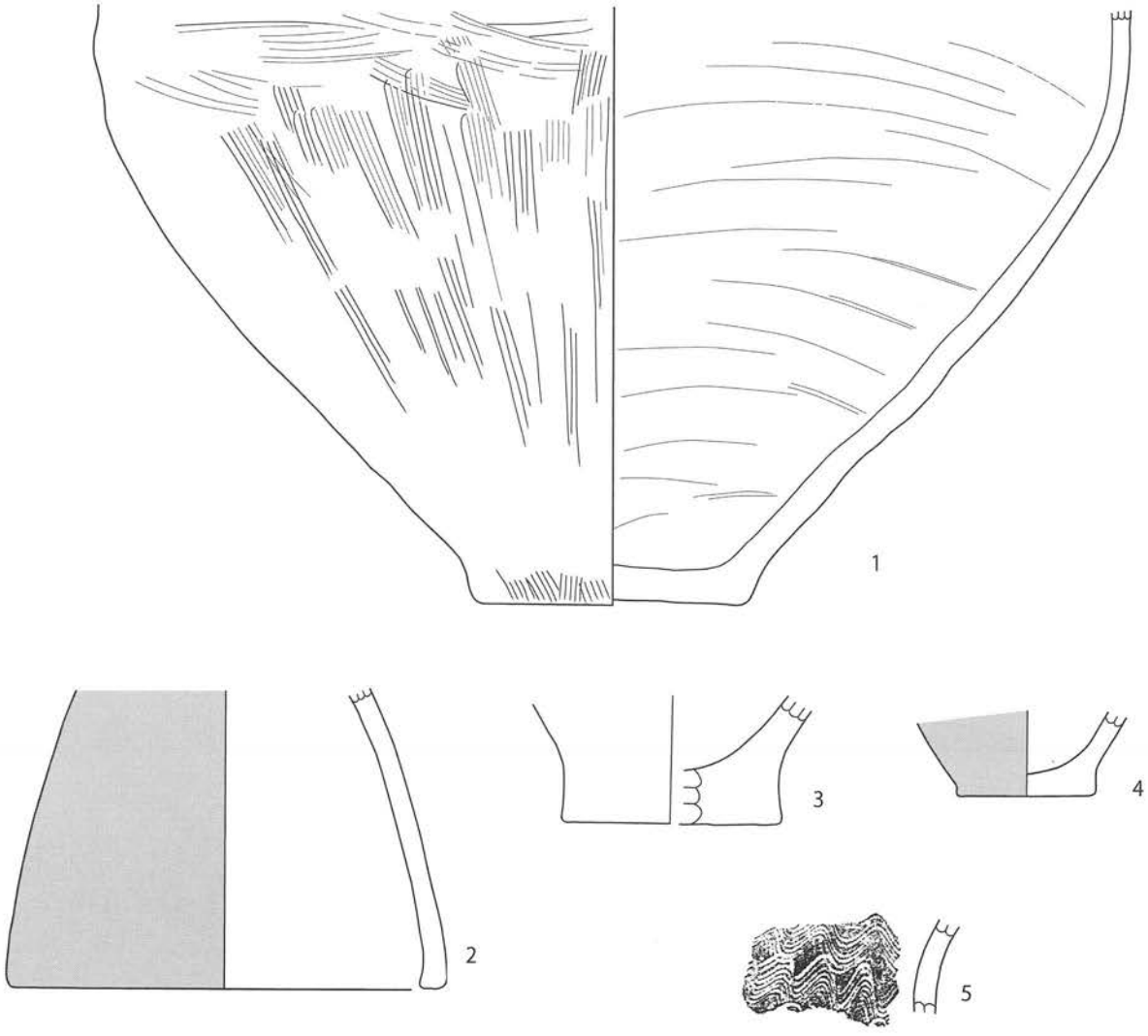


南-9 号住

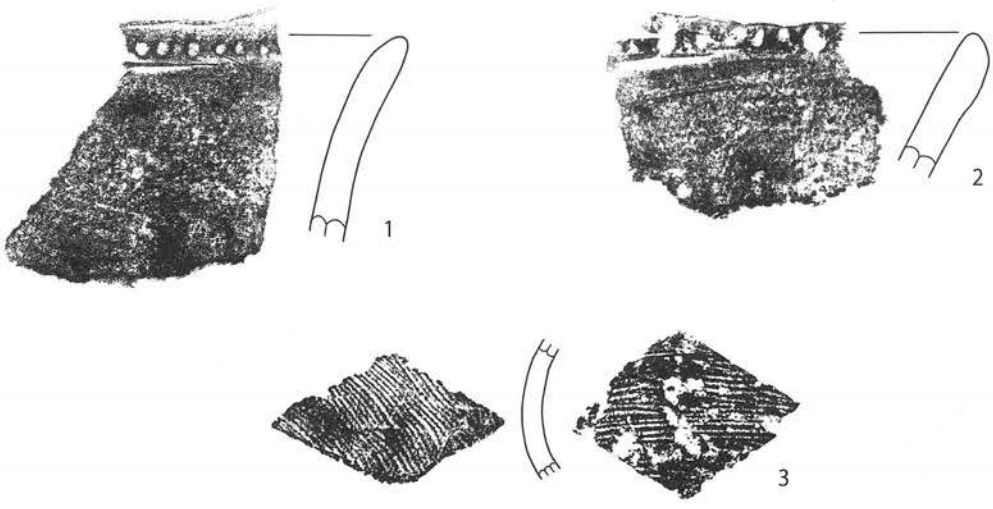


第 32 図　南-8 号・9 号住居出土遺物（1/2）

南-10 号住

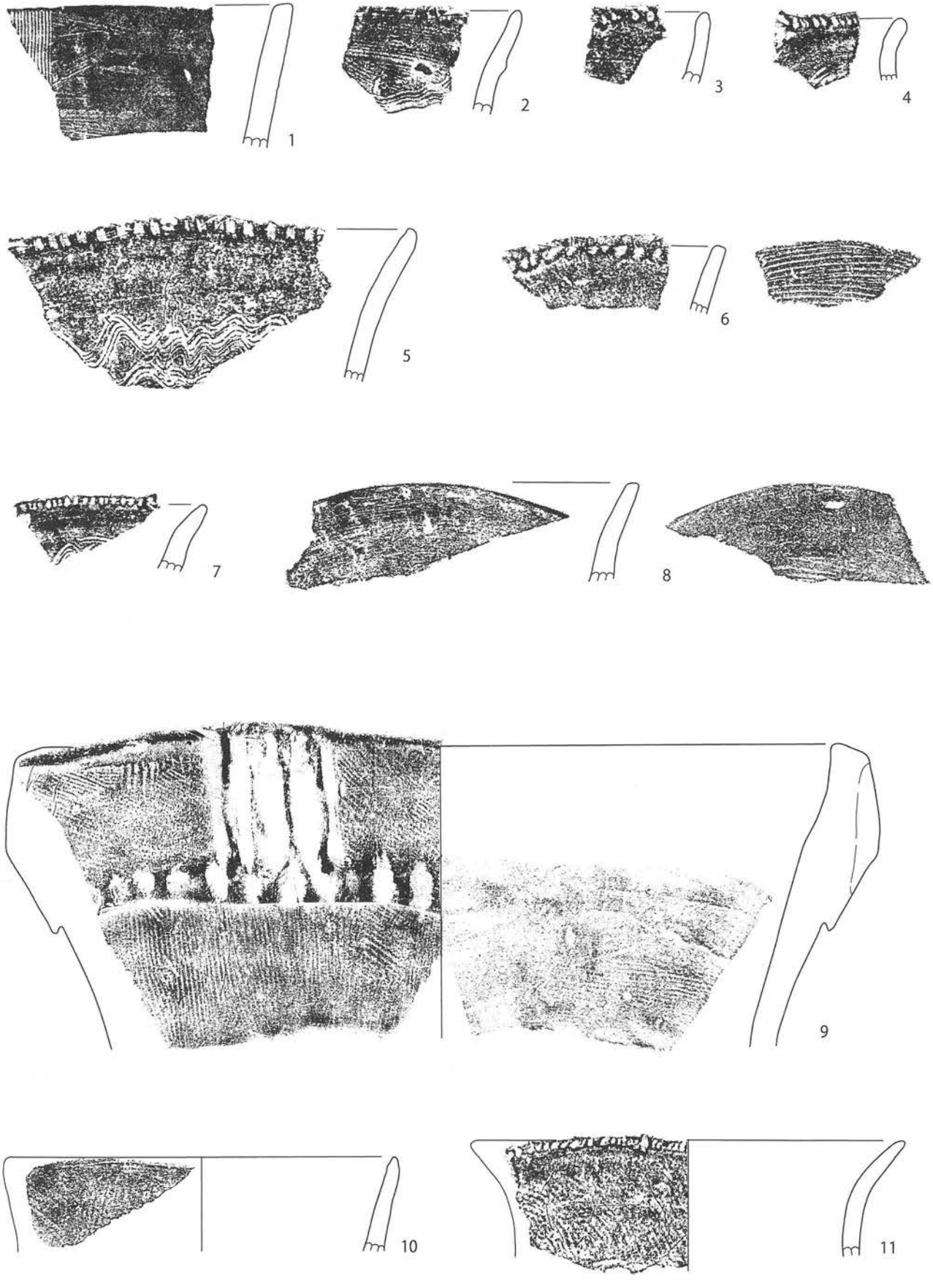


南-11 号住

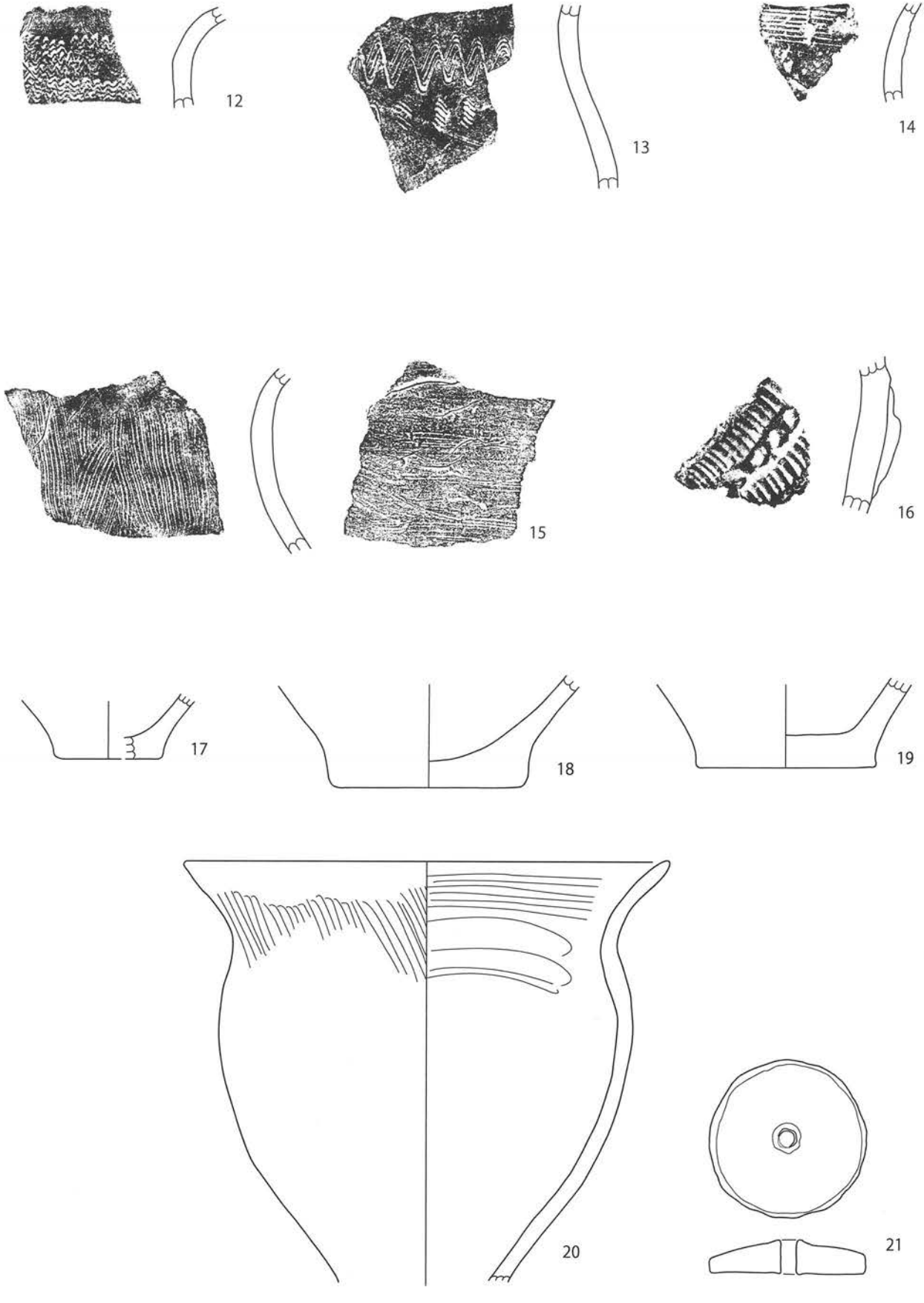


第 33 図　南-10 号・11 号住居出土遺物（1/2）

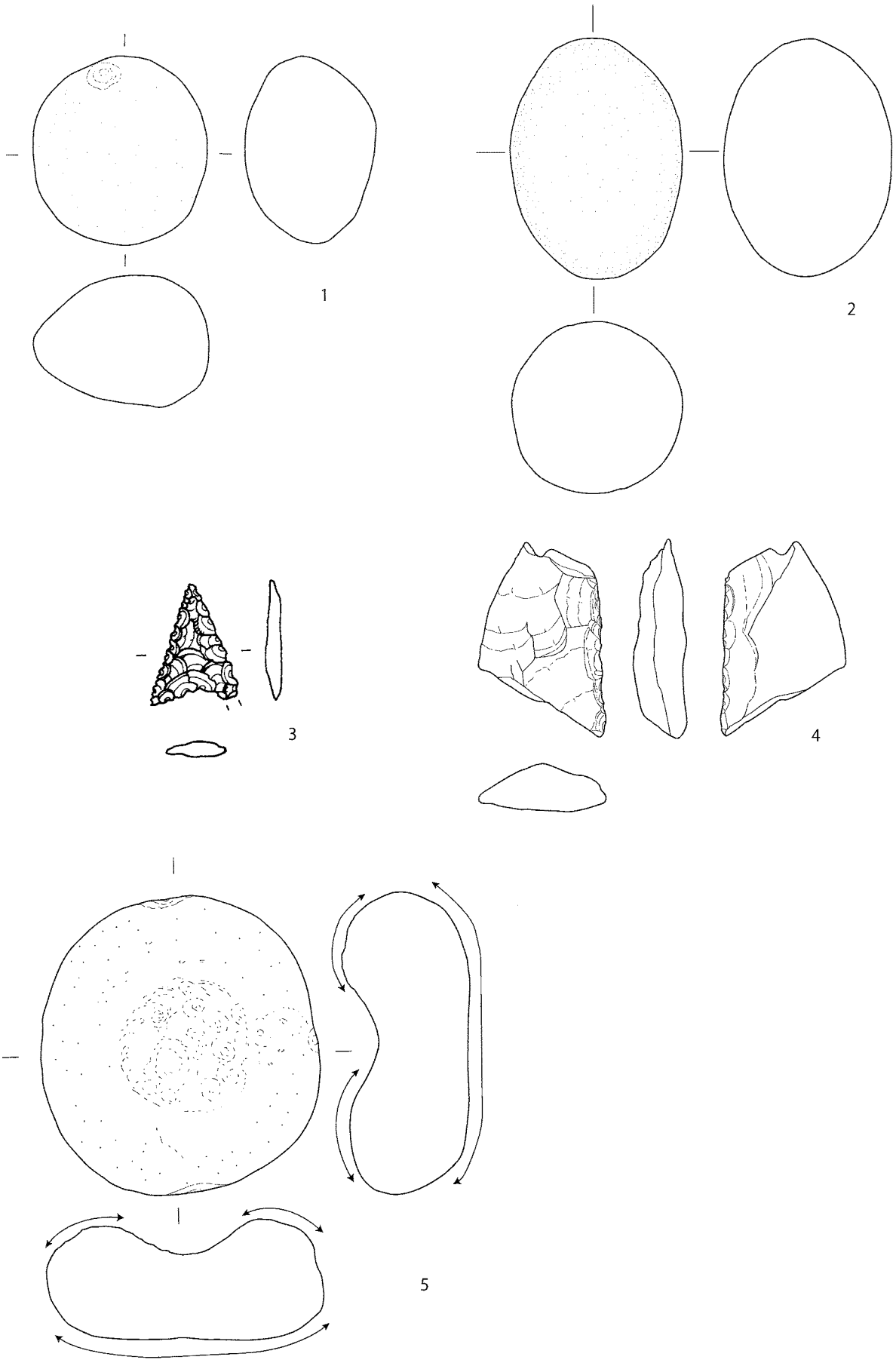
南 -12 号住



第 34 図　南 -12 号住居出土遺物（1/2）

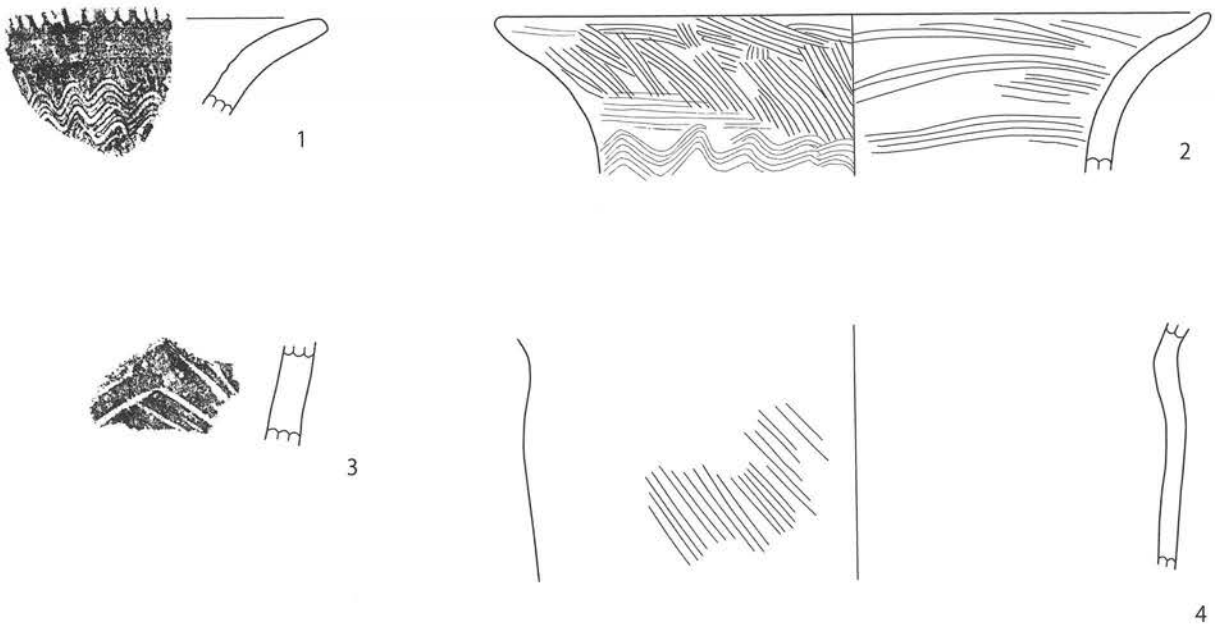


第 35 図　南-12 号住居出土遺物（1/2）

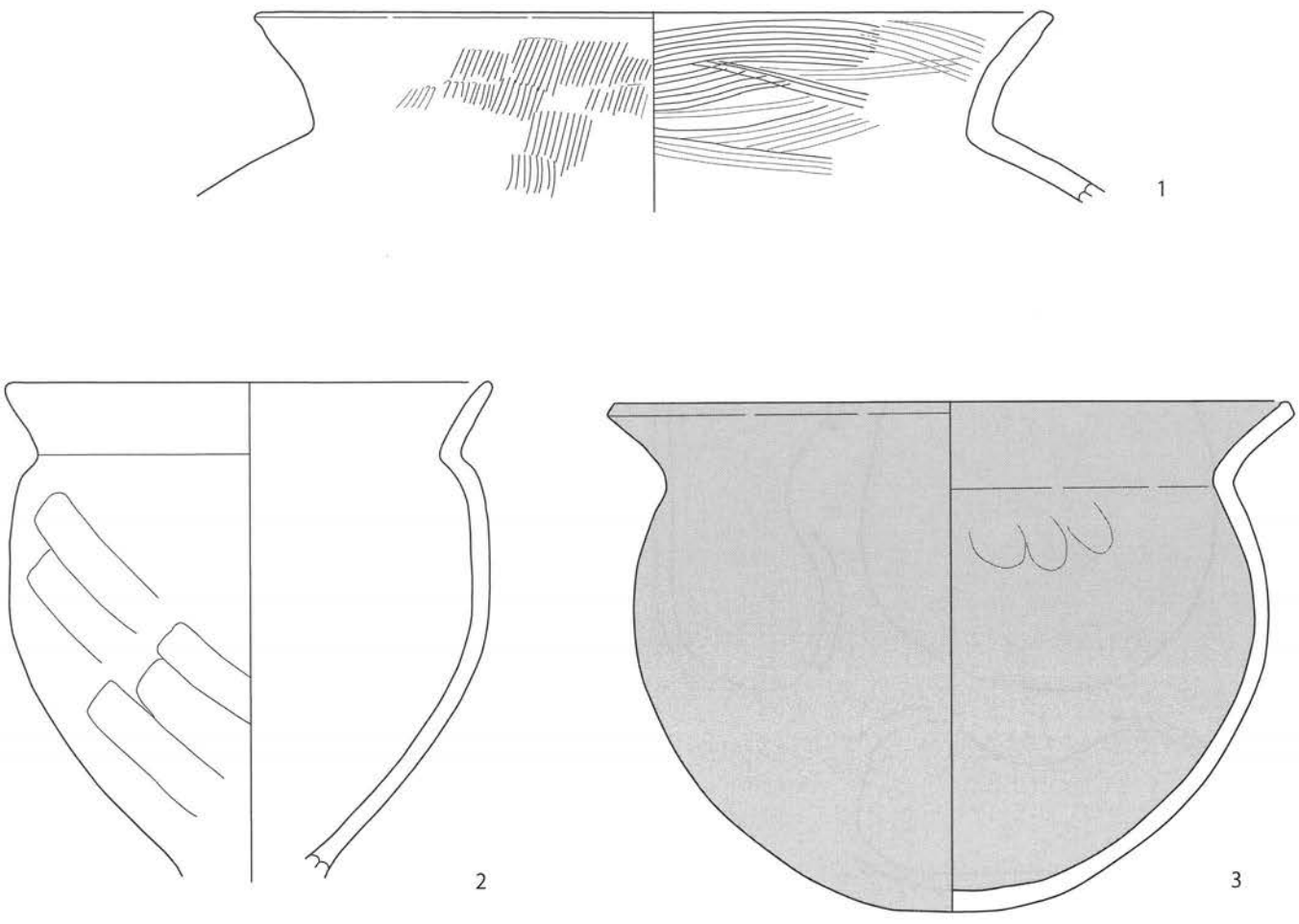


第 36 図　南 -12 号住居出土遺物（1/2）

南 -14 号住

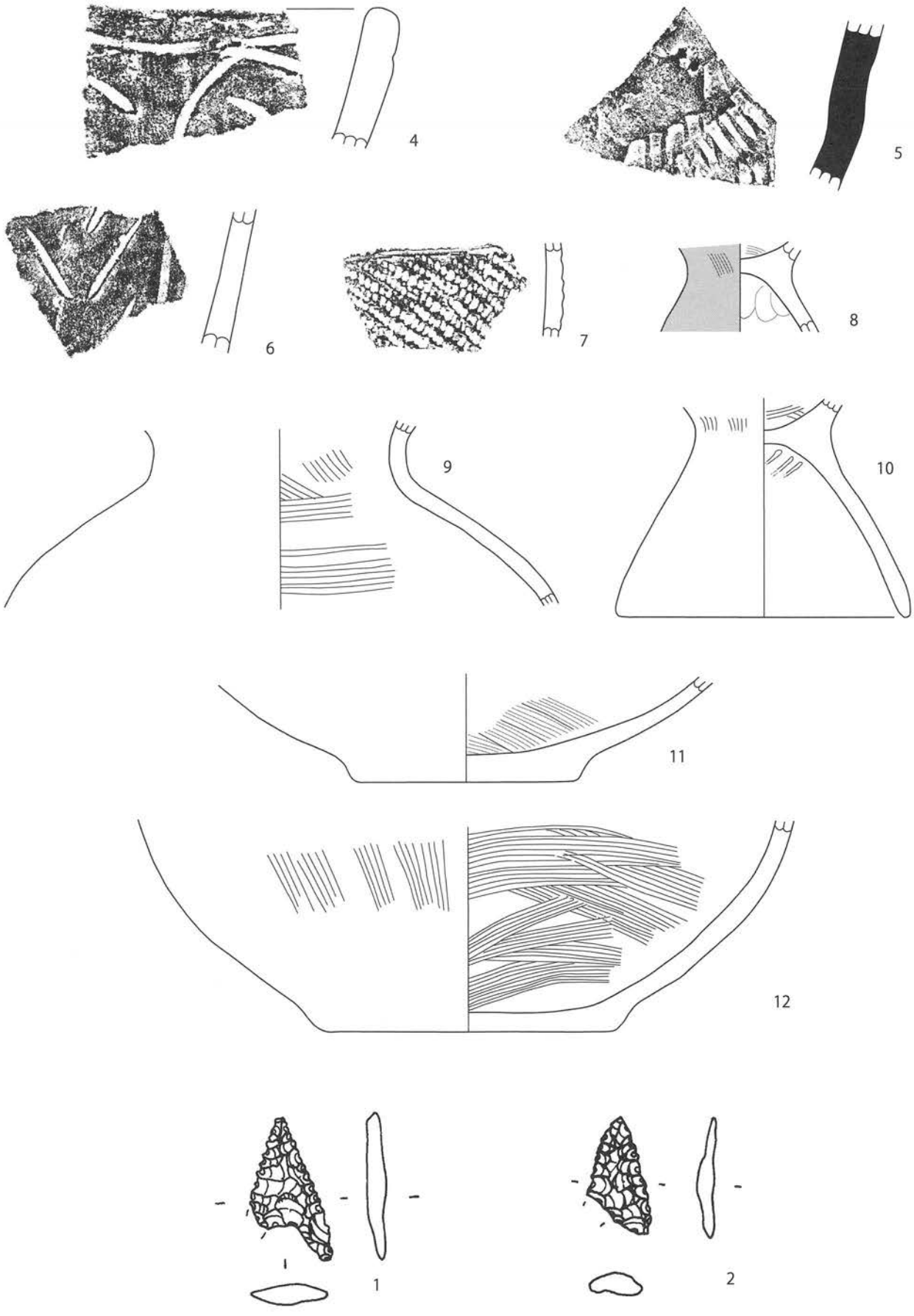


南 -15 号住



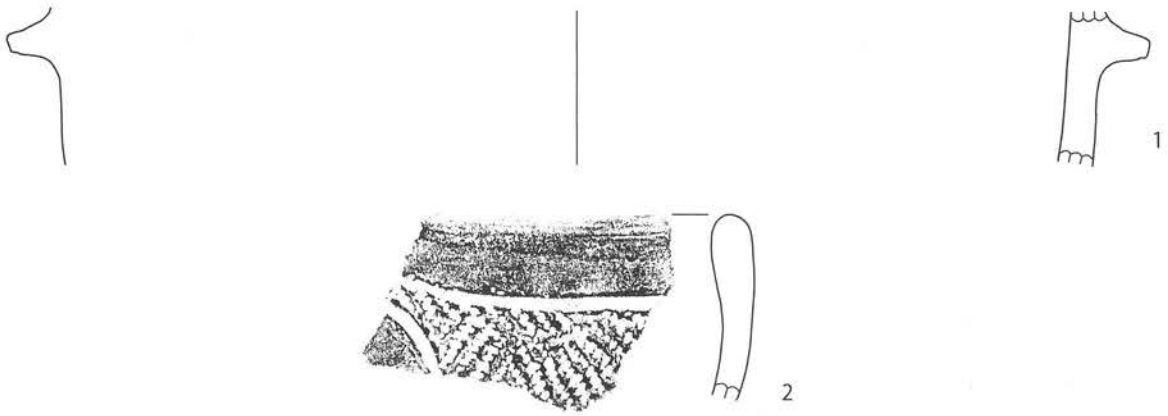
第 37 図　南 -14 号・15 号住居出土遺物（1/2）

南 -15 号住

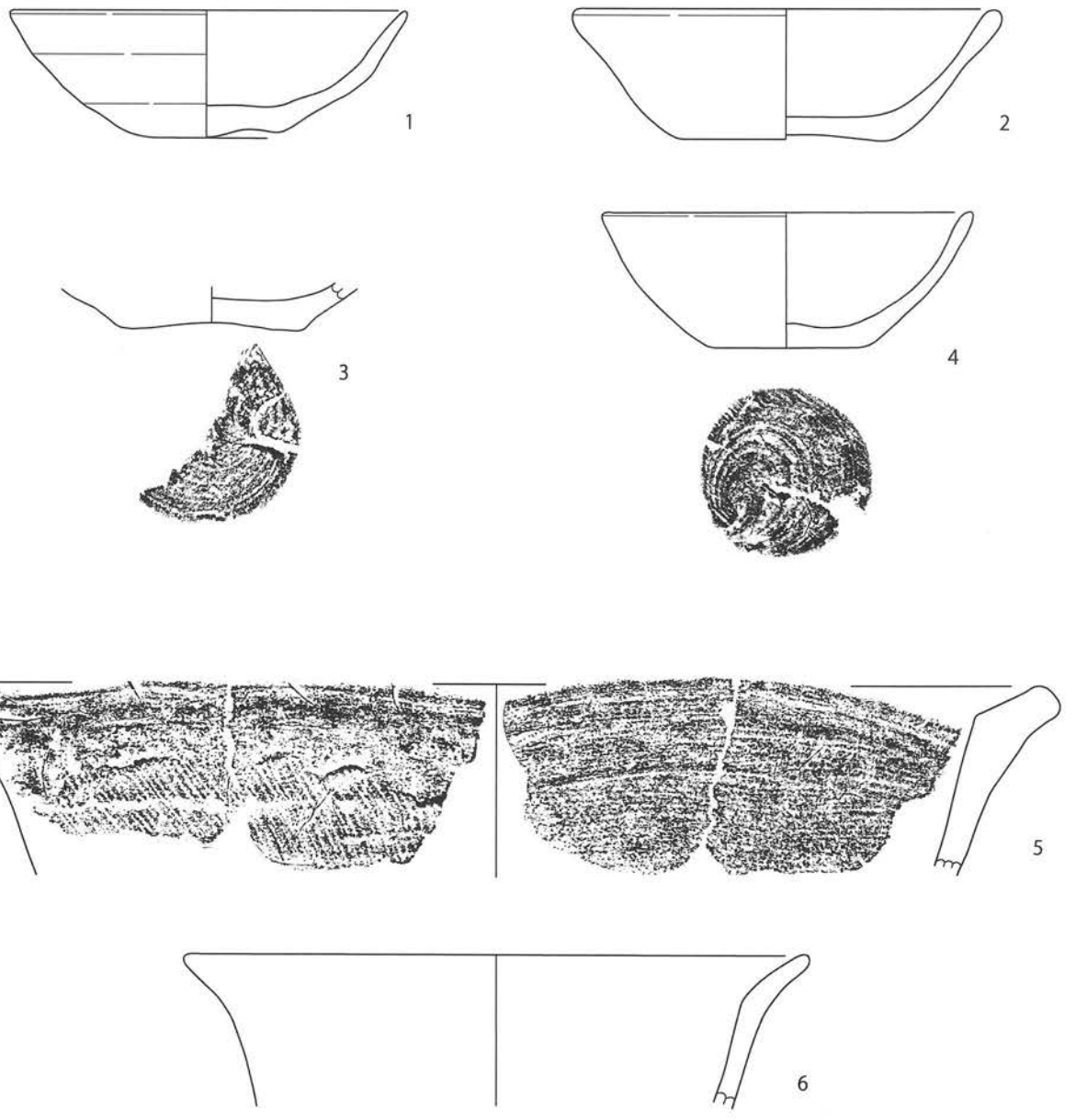


第 38 図　南 -15 号住居出土遺物（1/2）

南-16号住

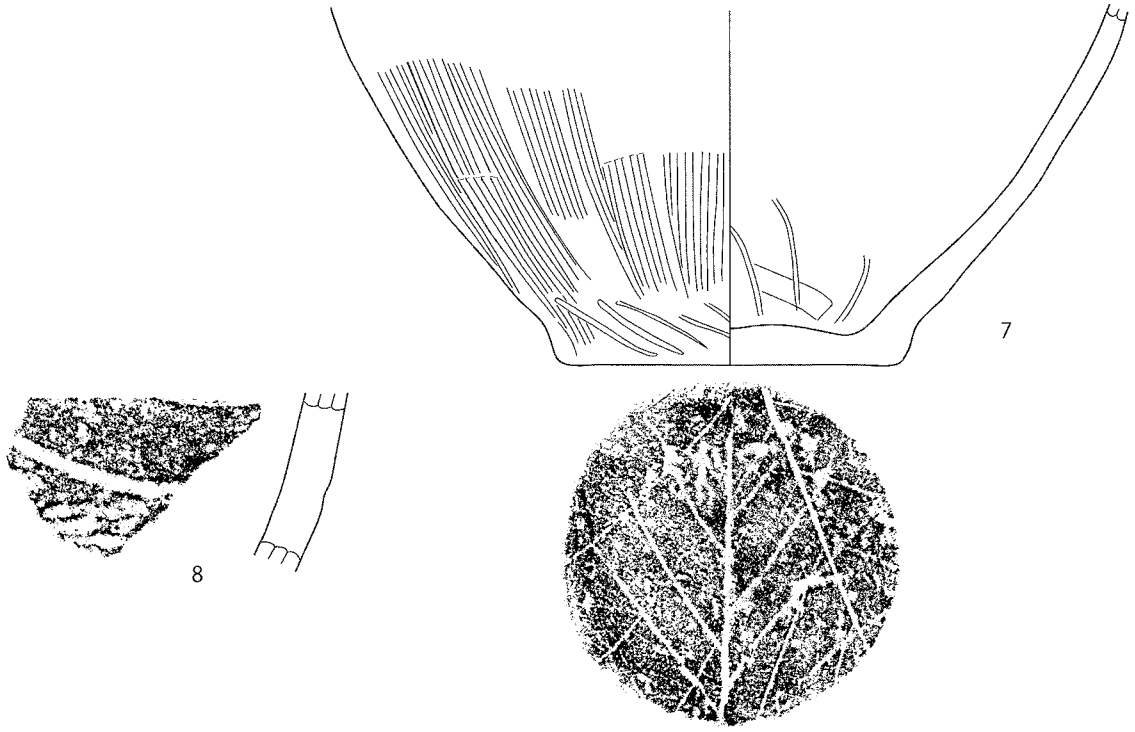


南-17号住

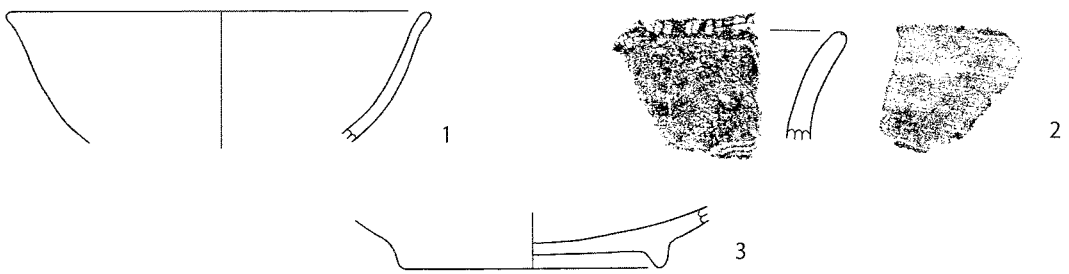


第39図　南-16号・17号住居出土遺物（1/2）

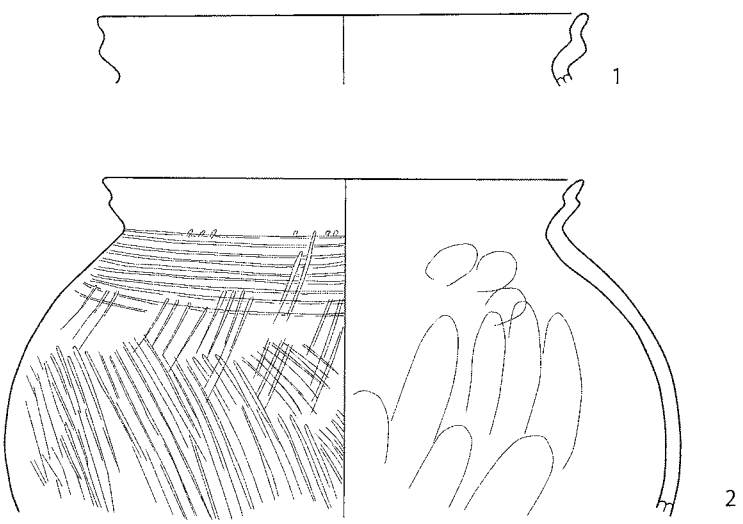
南-17 号住



南-18 号住

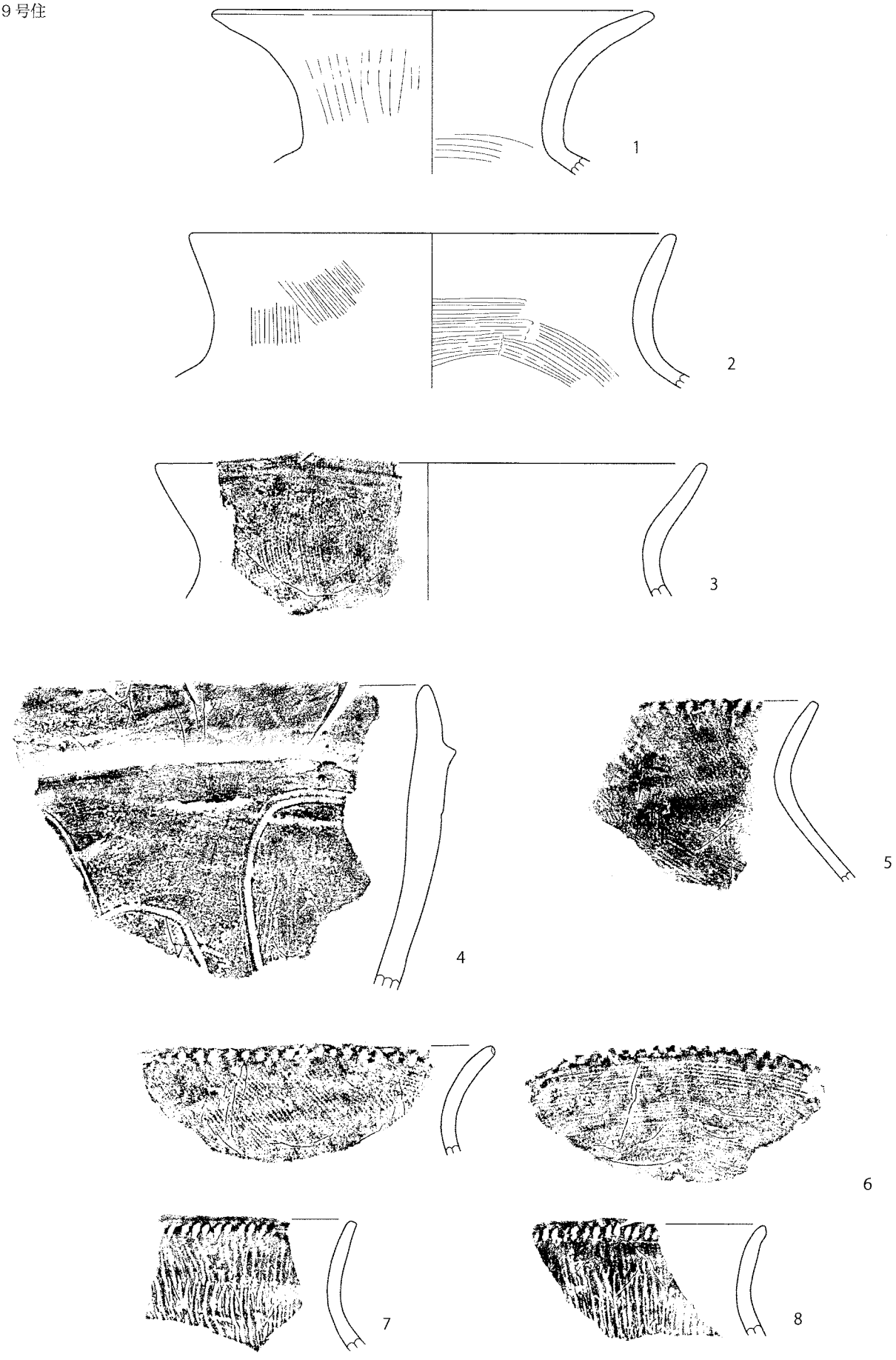


南-19 号住



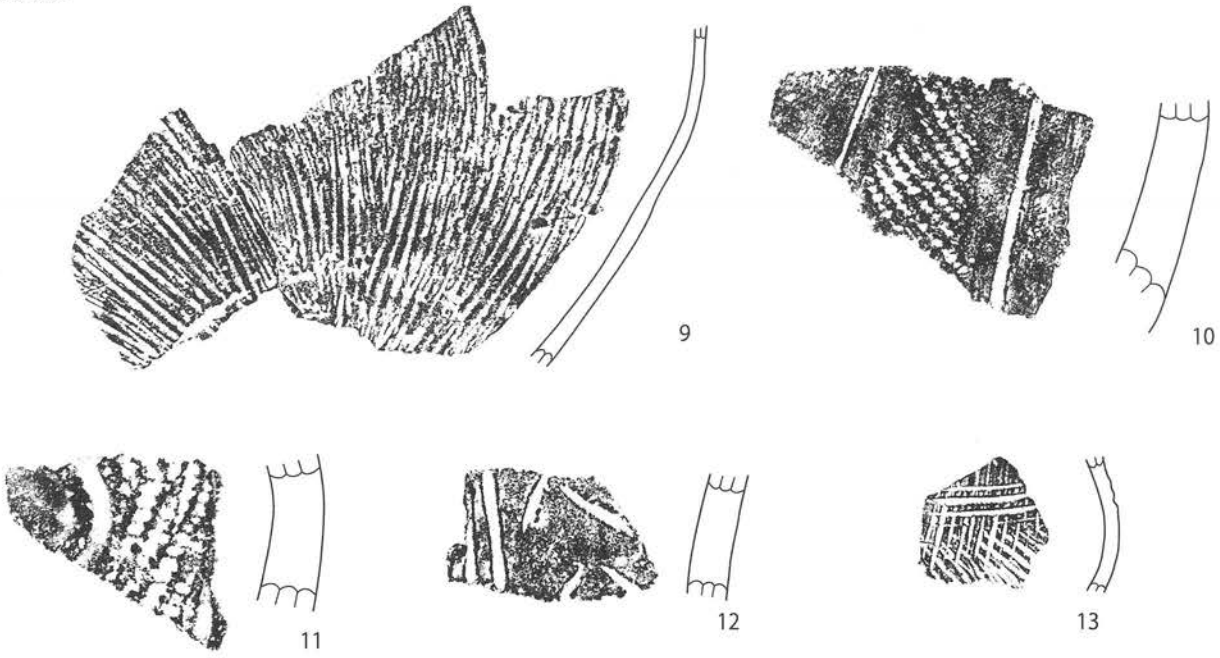
第 40 図　南-17 号・18 号・19 号住居出土遺物（1/2）

南-19 号住

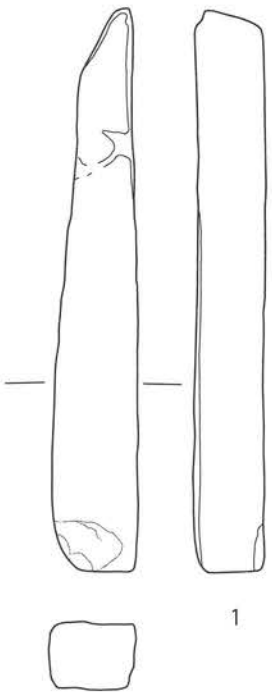


第 41 図　南 -19 号住居出土遺物（1/2）

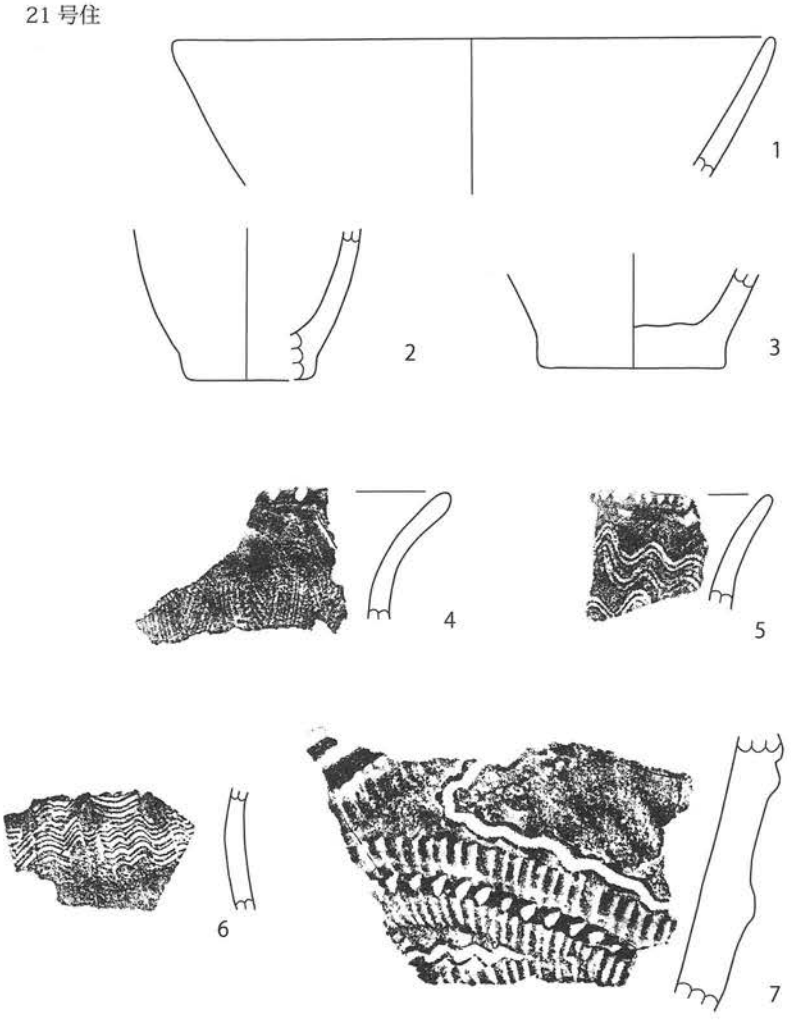
南 -19 号住



南 -20 号住

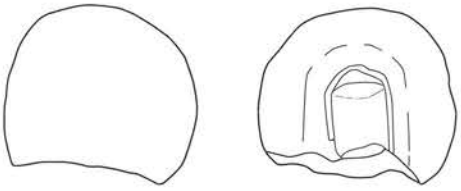


21 号住

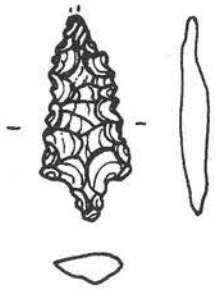


第 42 図　南 -19 号・20 号・21 号住居出土遺物（1/2）

南 -21 号住



1



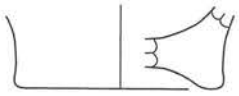
1

南 -22 号住

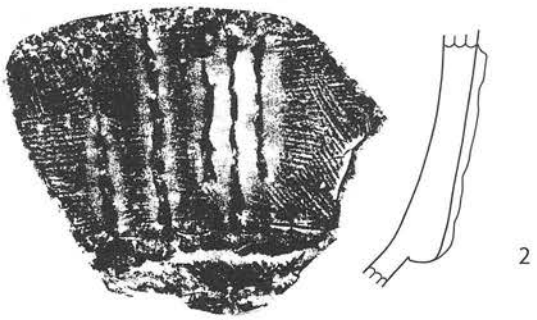
1

2

南 - 溝 1

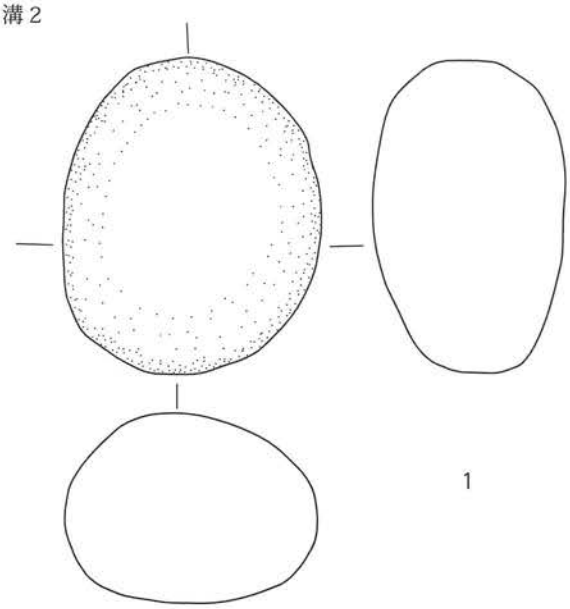


1



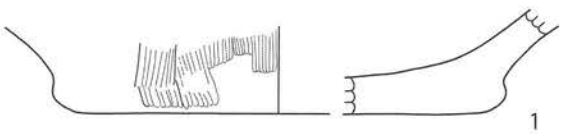
2

南 - 溝 2



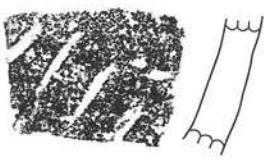
1

南 - 溝 3



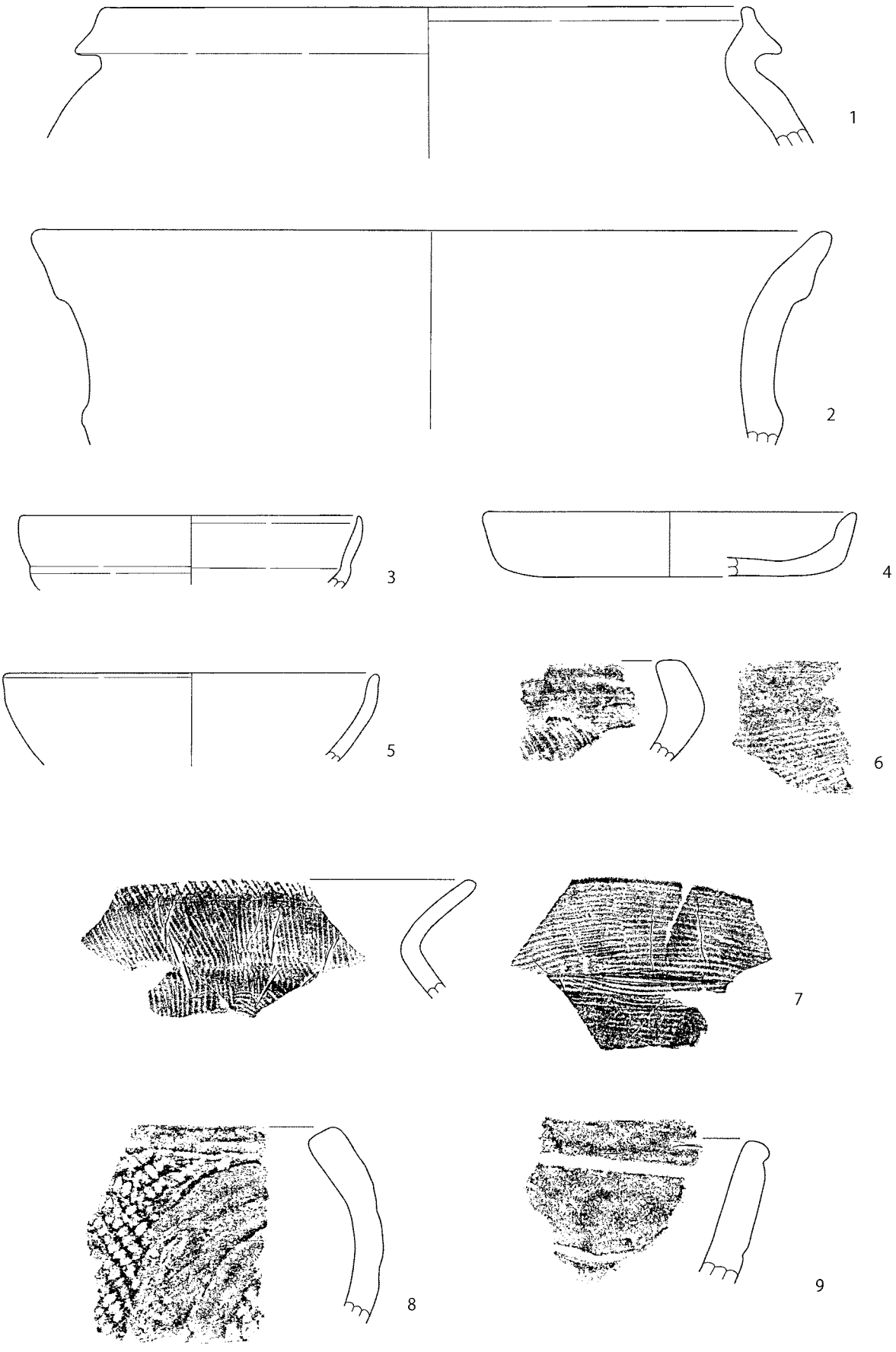
1

南 - 土坑 3



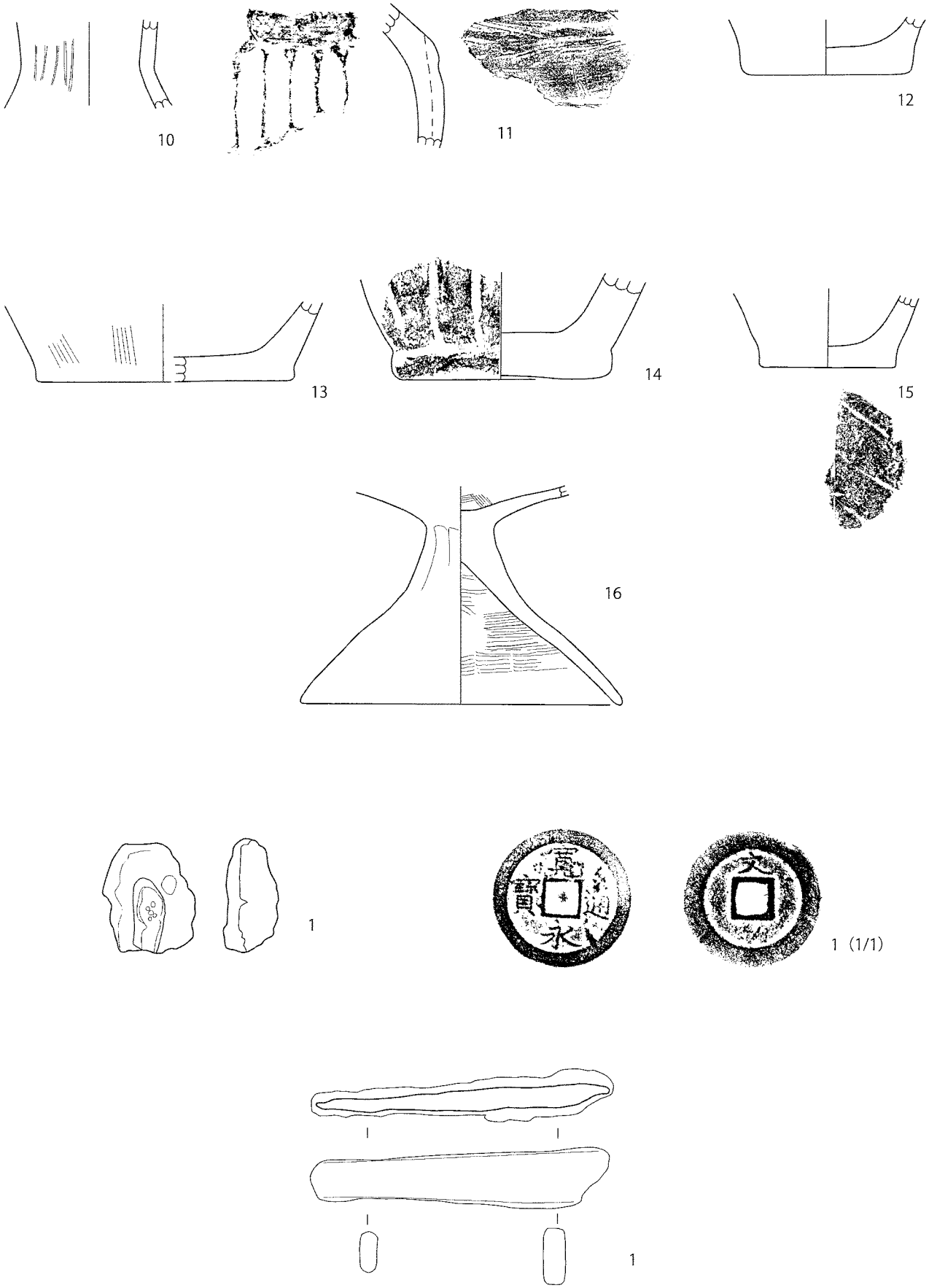
1

第 43 図　南 -21 号・22 号住　溝 1・溝 2・溝 3　土坑 3　出土遺物（1/2）

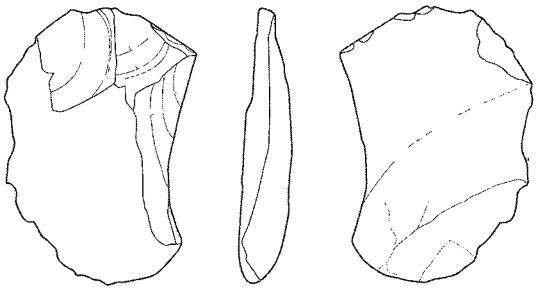


第 44 図　南 - 住居外出土遺物（1/2）

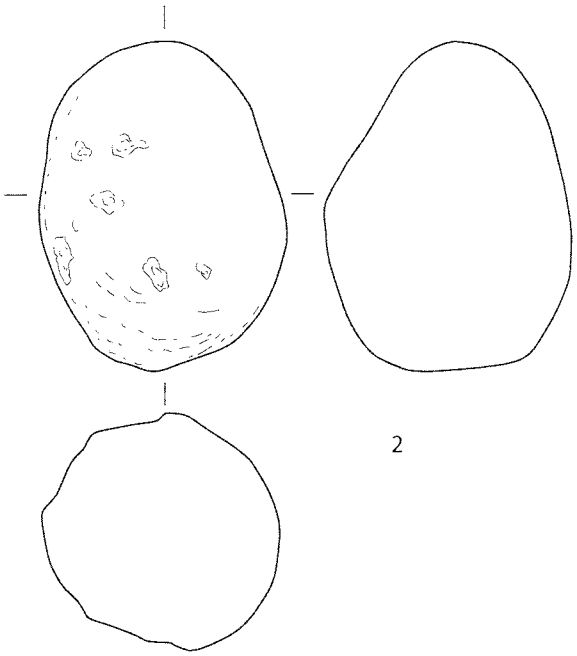
南 - 住居外



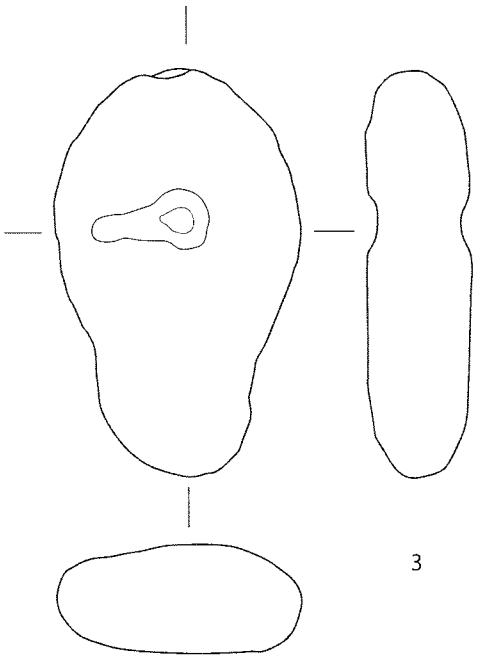
第 45 図　南 - 住居外出土遺物（1/2）



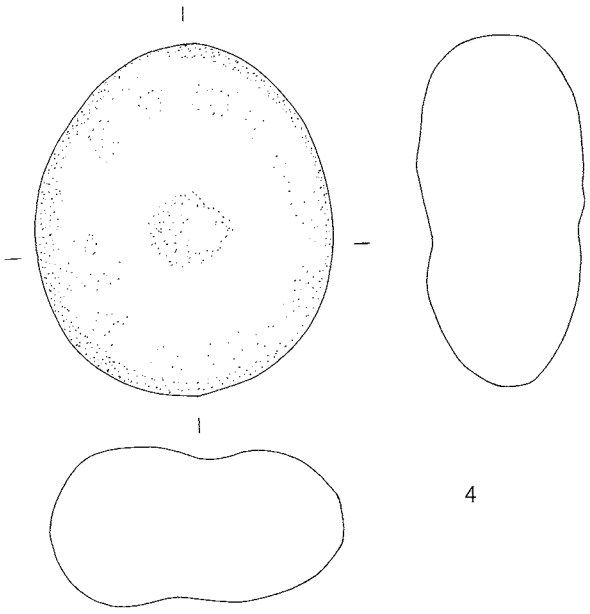
1



2



3

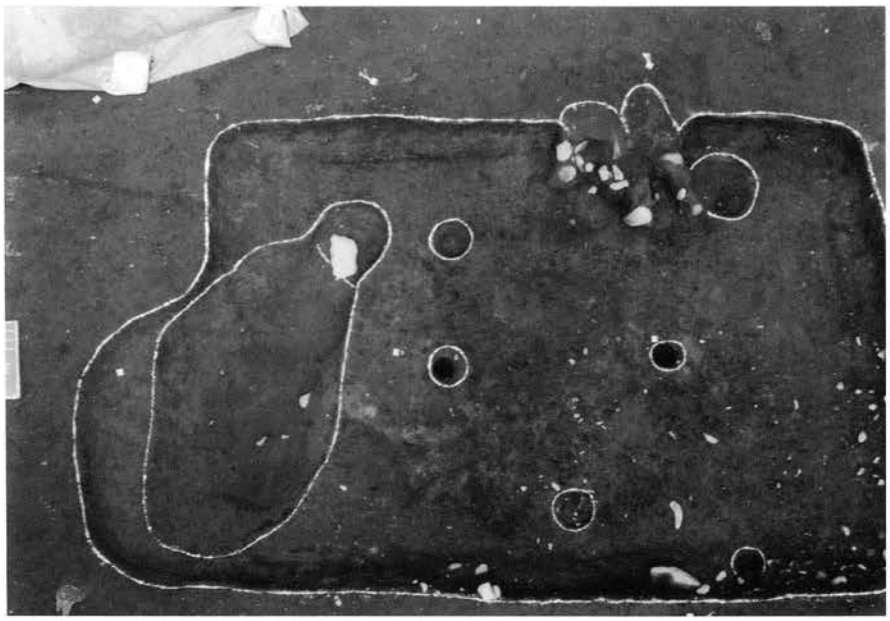


4

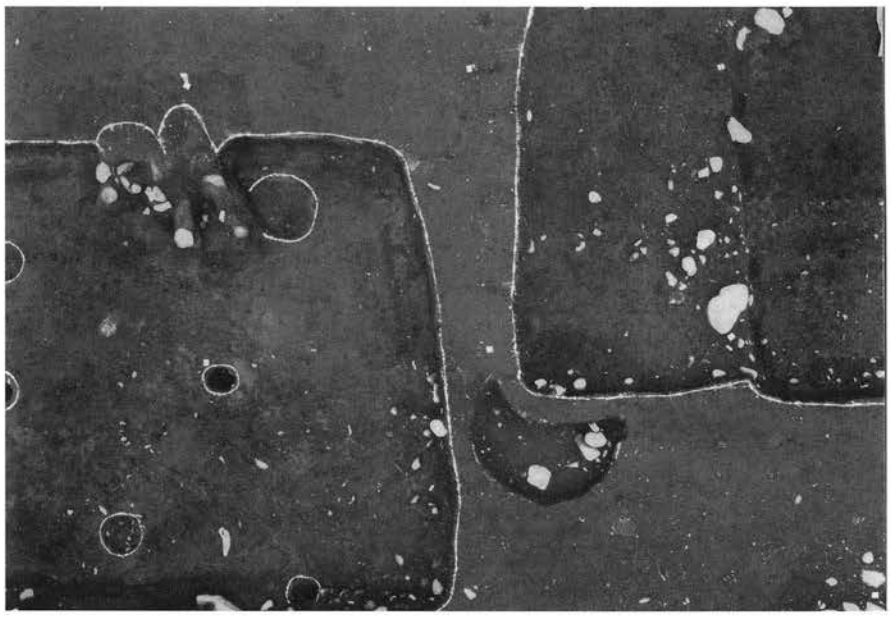
第 46 図　南 - 住居外出土遺物（1/2）

写真図版

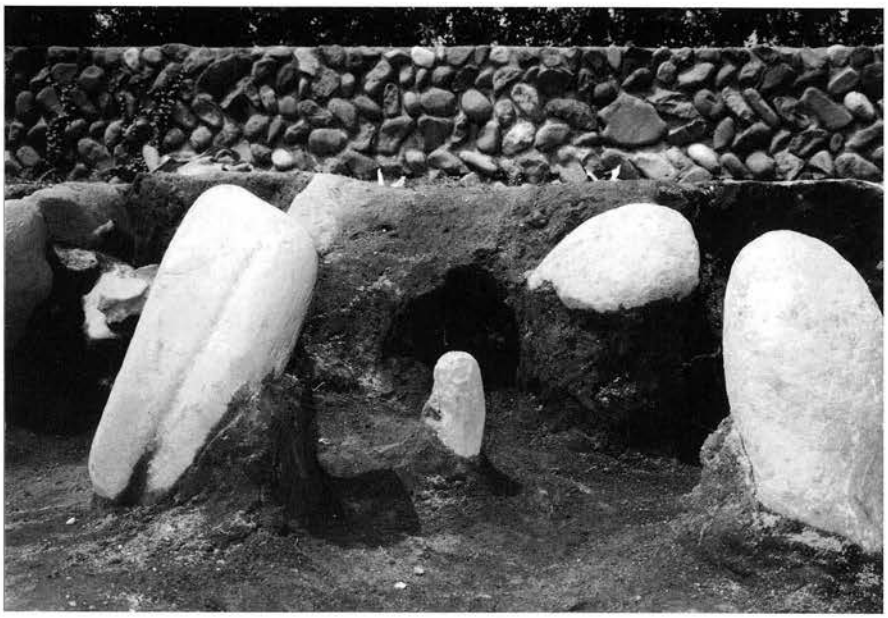
腰巻北遺跡発掘風景



北 -2 号住居

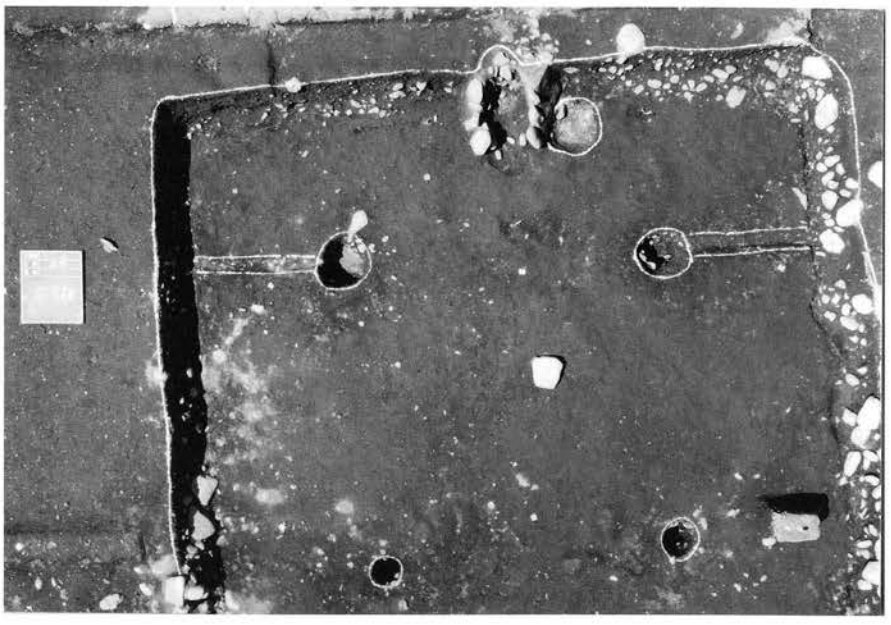


北 -2 号 3 号 5 号住居



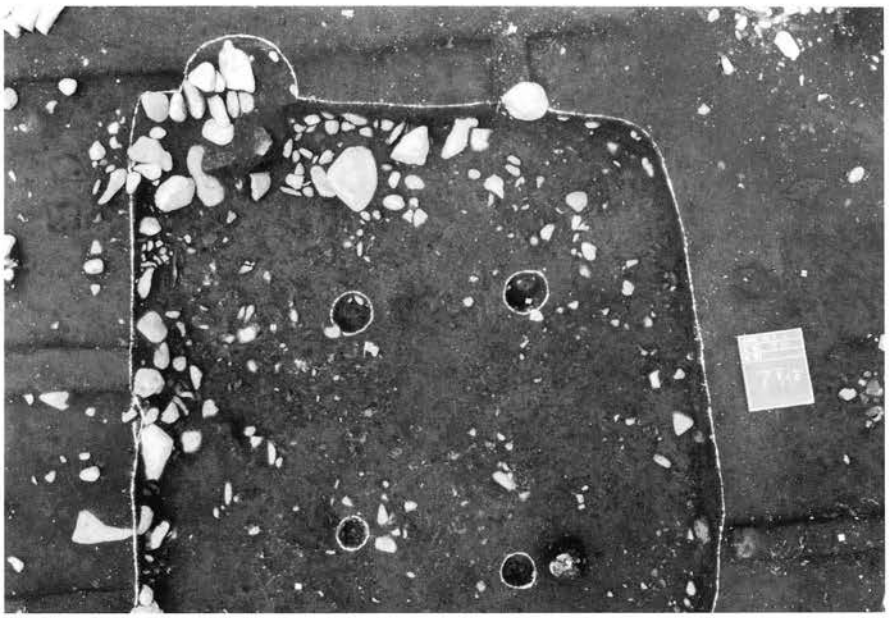
北 -2 号住居カマド

北 -4 号住居

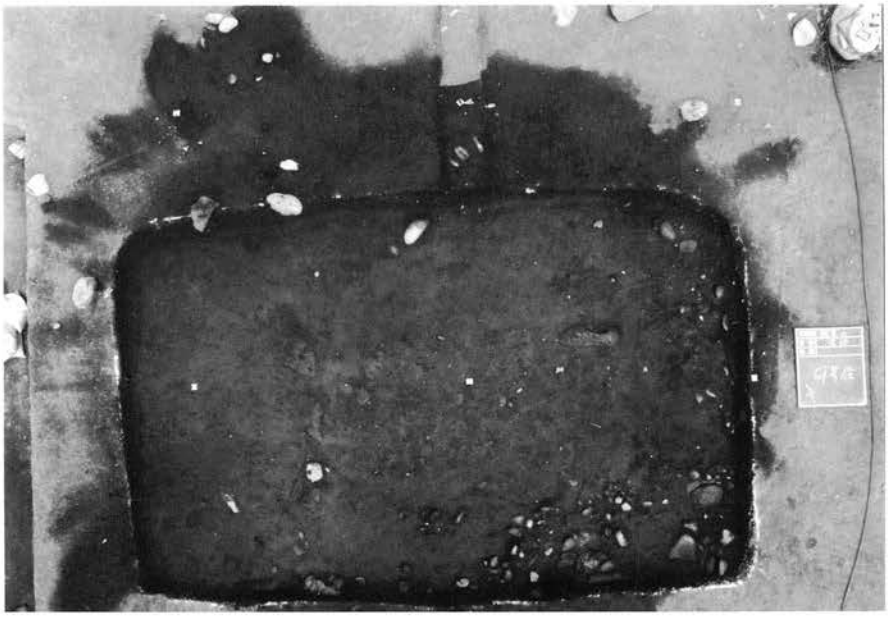


北 -6 号住居

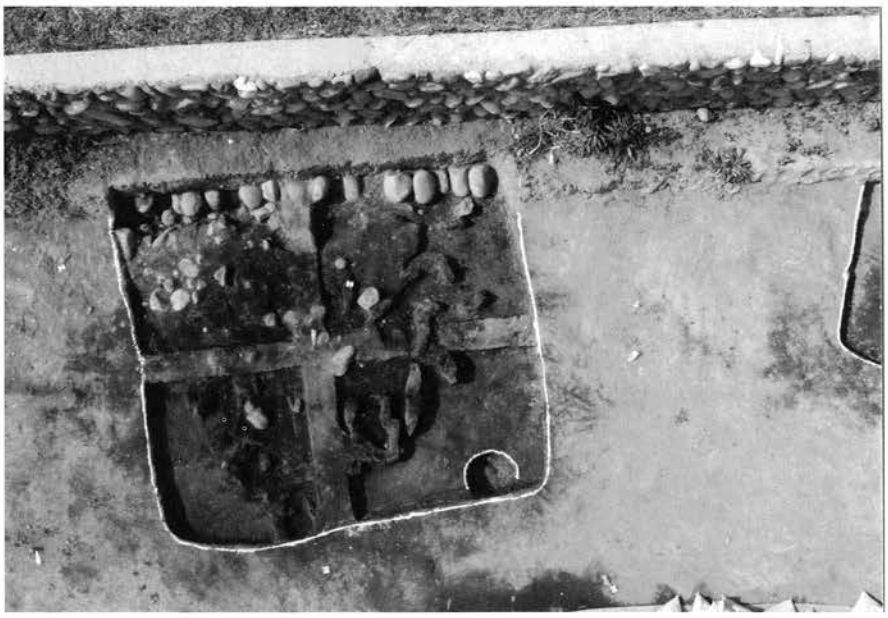
北 -6 号住居カマド



北 -7 号住居



北 -9 号住居

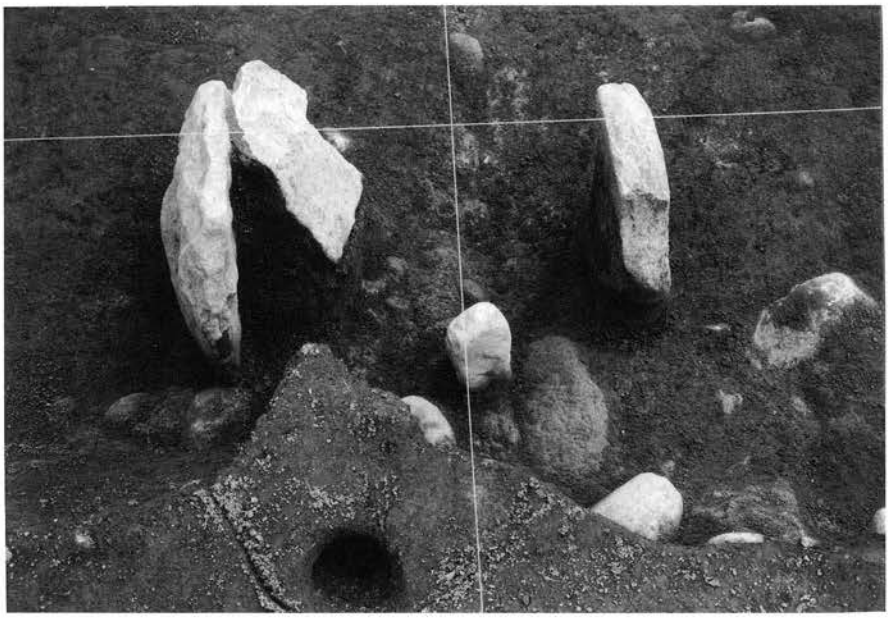


北 -11 号住居

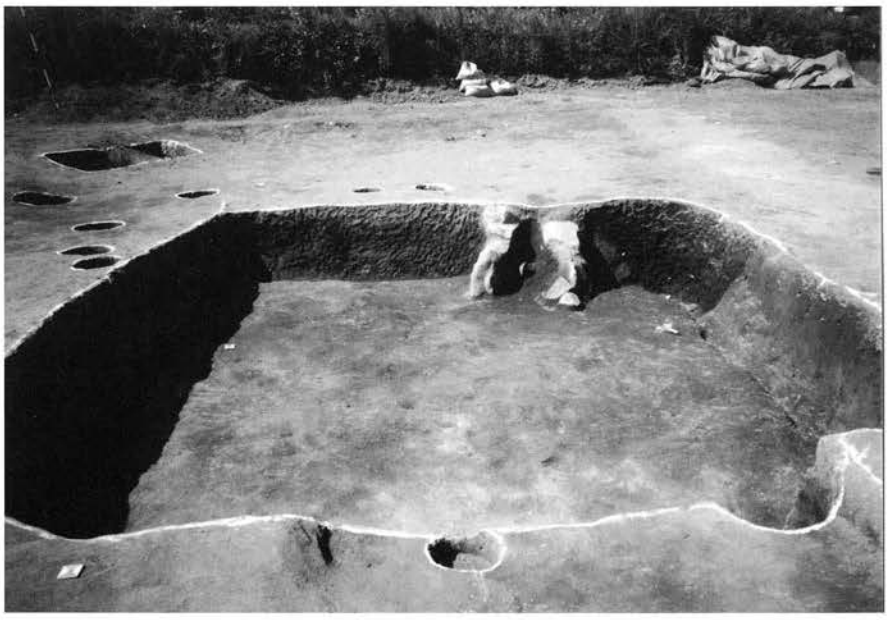
北 -12 号 13 号
14 号住居

北 -15 号住居カマド

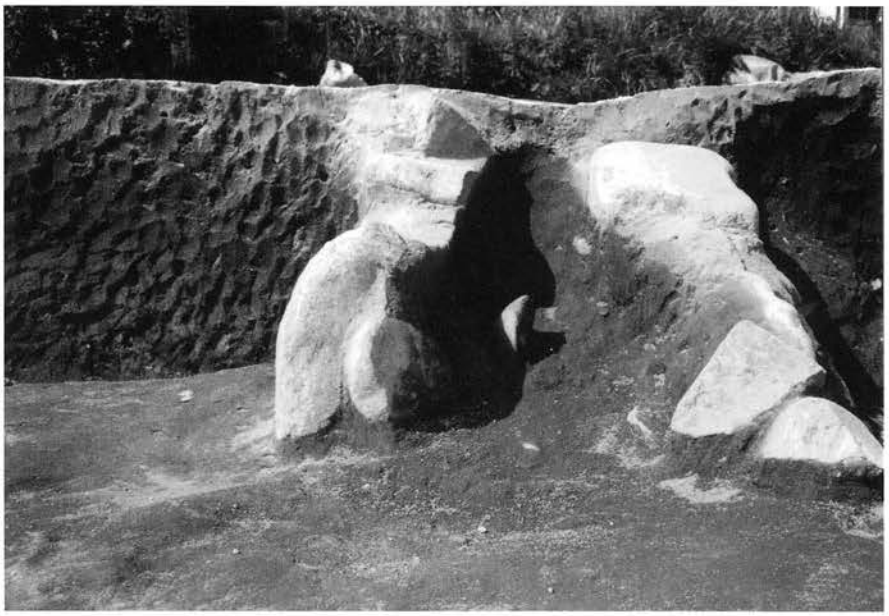
北 -19 号住居



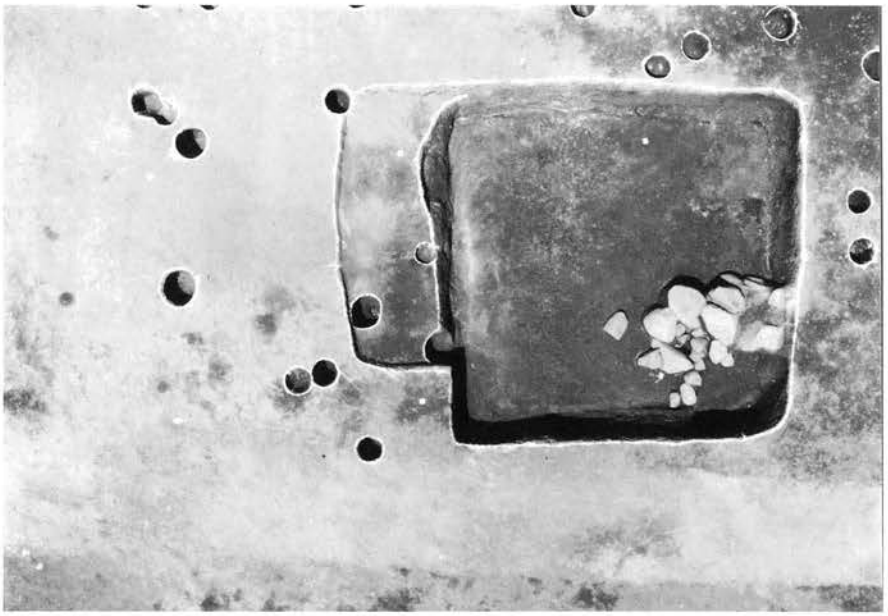
北 -19 号住居カマド



北 -27 号住居



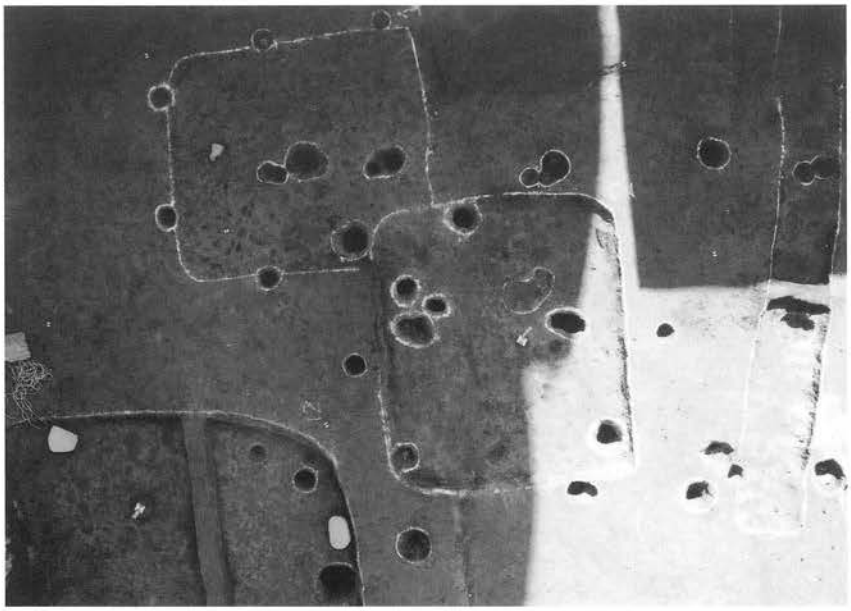
北 -27 号住居カマド



北 -28 号 30 号住居

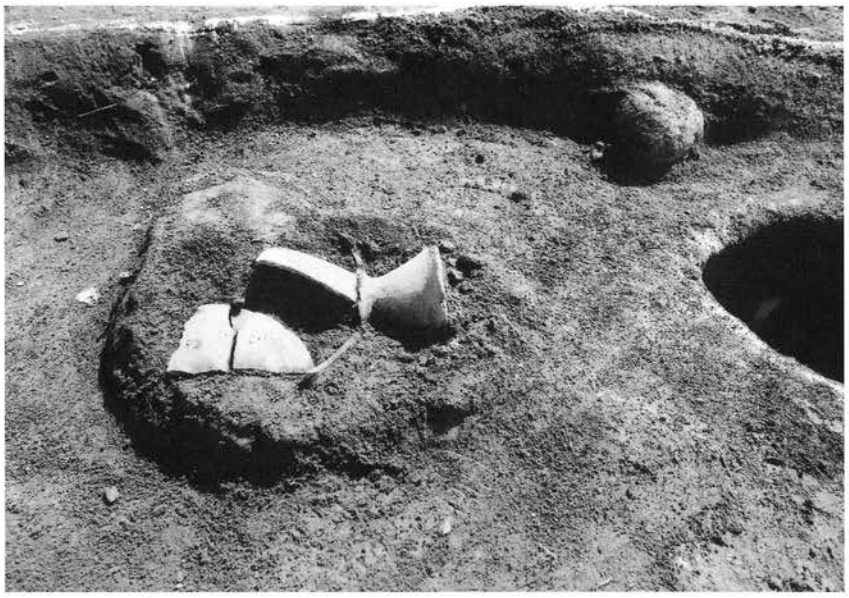
北 -28 号住居カマド

腰巻南遺跡発掘風景

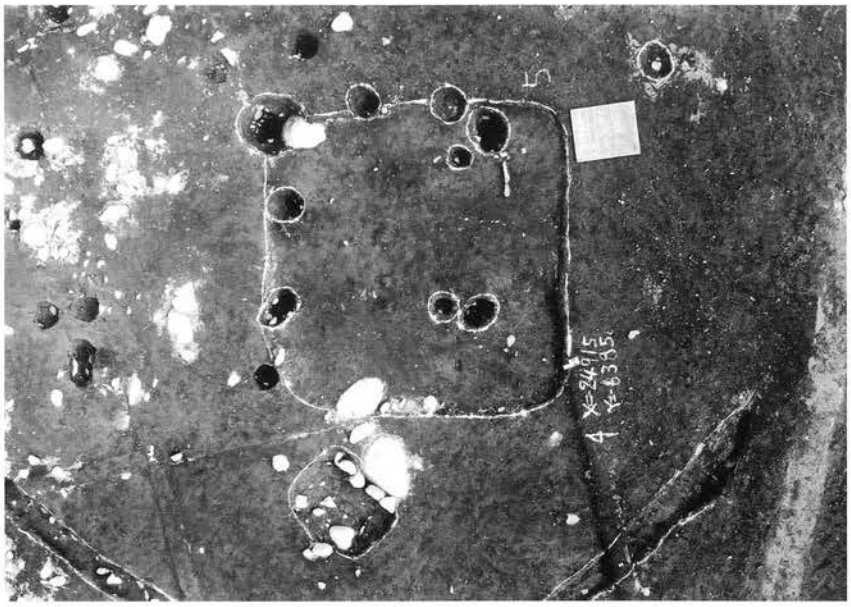


南 -1 号・2 号・12 号住居

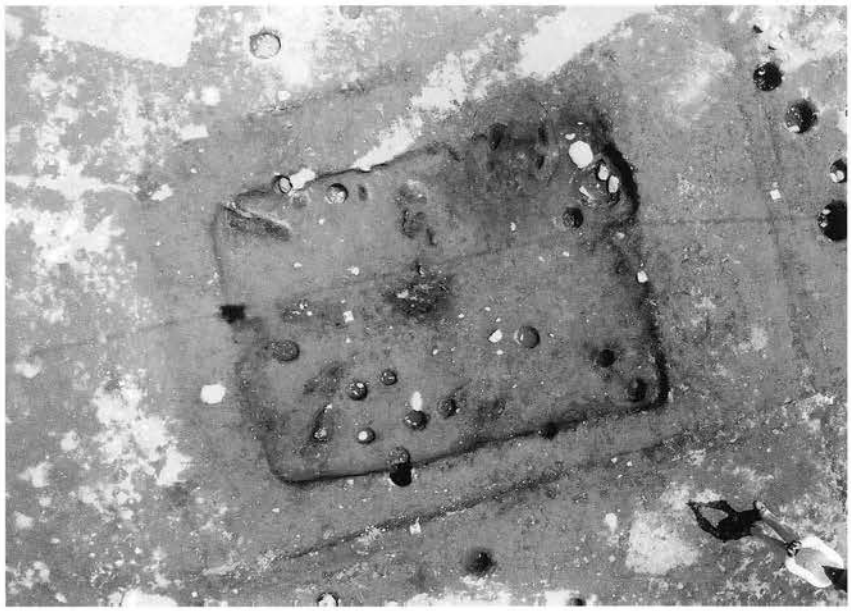
南 -4 号住居



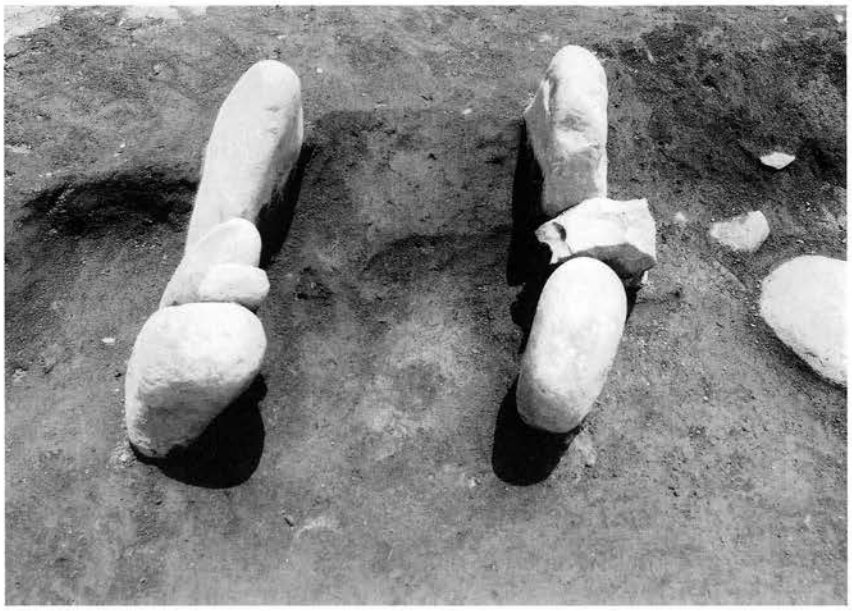
南 -4 号住出土遺物



南 -5 号住居

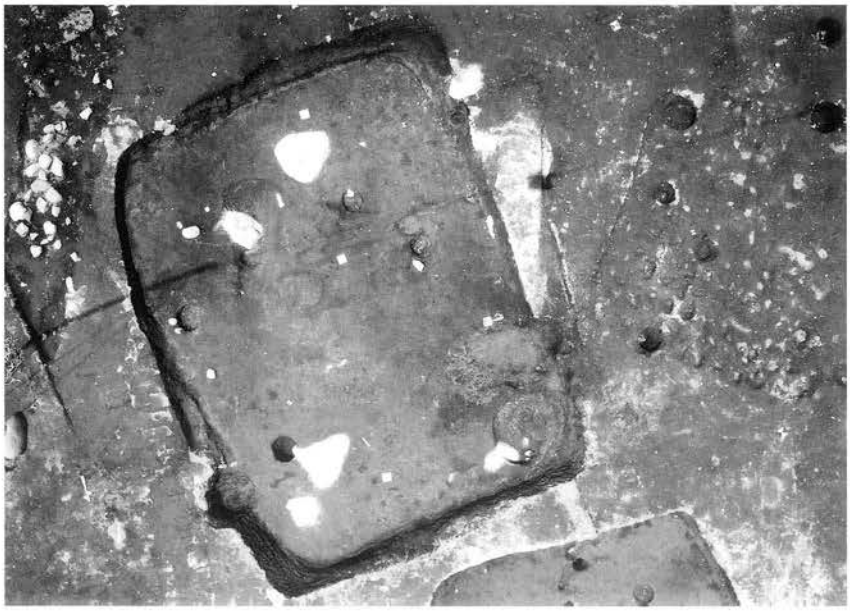


南 -6 号住居



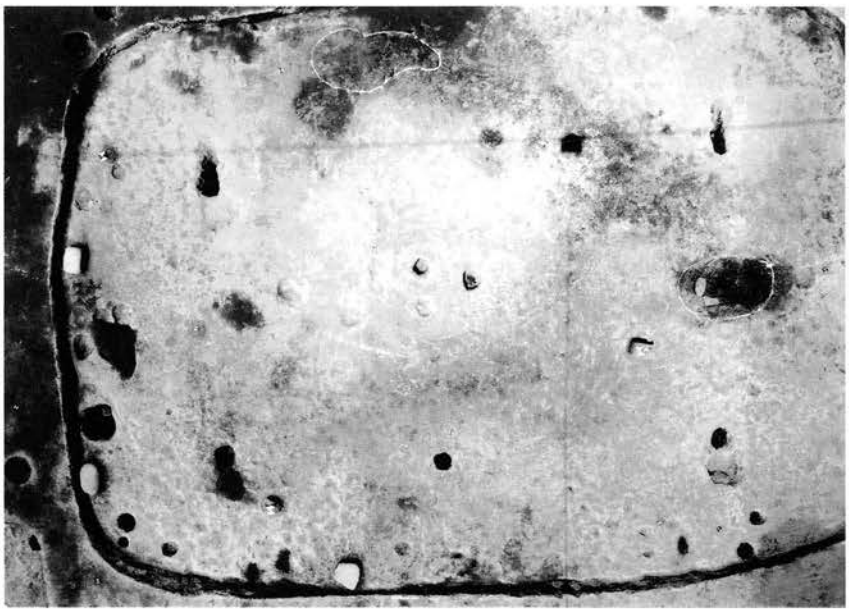
南 -6 号住居カマド

南 -8 号住居

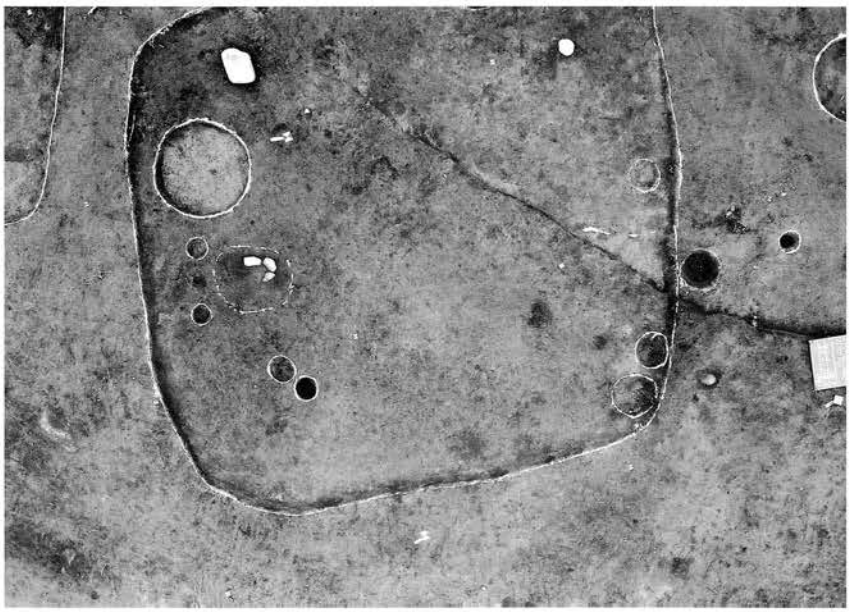


南 -17 号・9 号住居

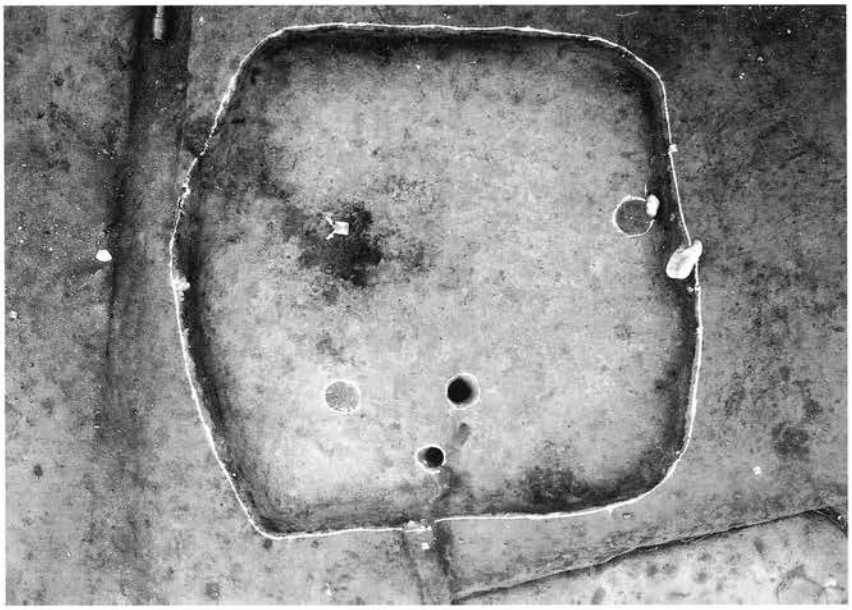
南 -10 号住居



南 -12 号住居



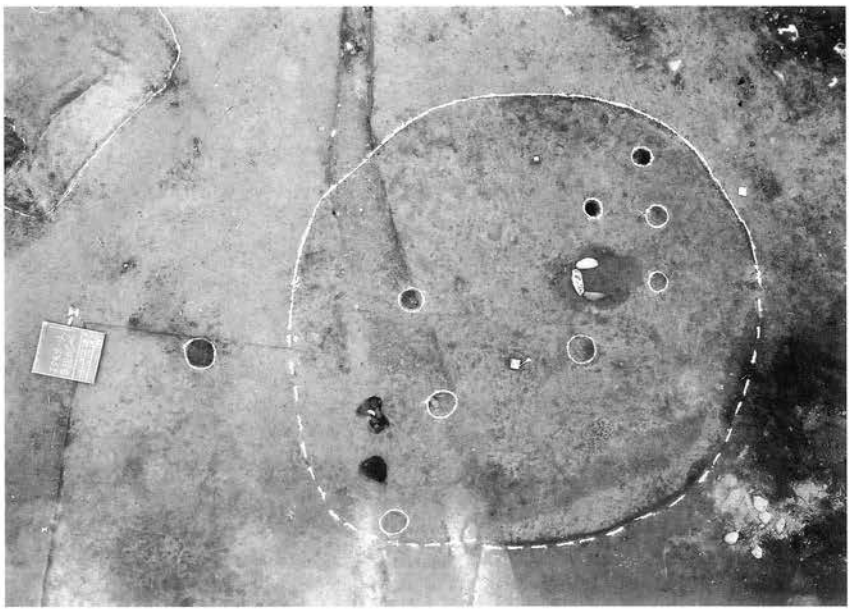
南 -14 号住居



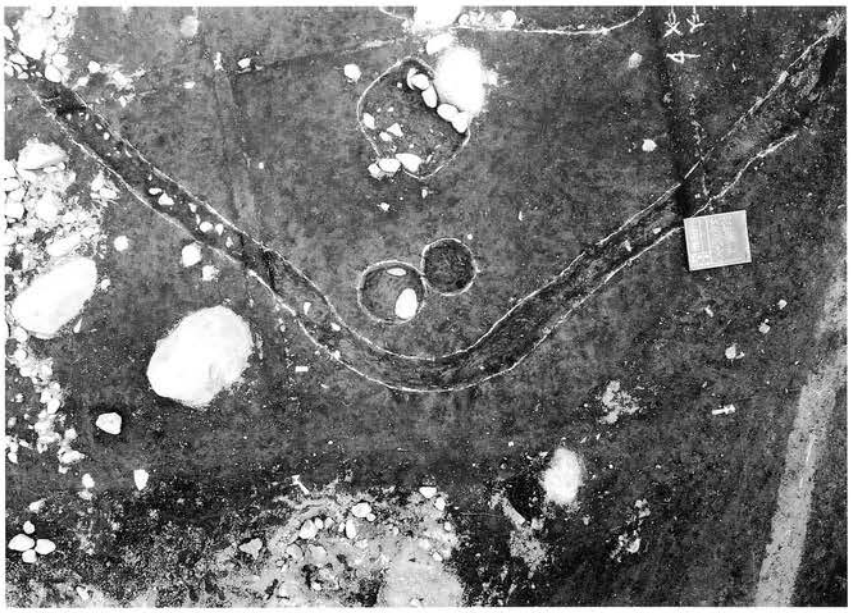
南 -15 号住居

南 -17 号住居カマド

南 - 溝 4・溝 5
20 号住居



南 -22 号住居



南 - 溝 1

報告書抄録

ふりがな	こしまきいせき　　こしまききたいせき　　こしまきみなみいせき
書名	**腰巻遺跡（第1次）　腰巻北遺跡（第2次）　腰巻南遺跡（第3次）**
副題	塩川病院増築ほかの建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ	-
編著者名	佐野隆 山路恭之助　深沢裕三
発行者	須玉町教育委員会　　明野村教育委員会
編集機関	須玉町教育委員会　　明野村埋蔵文化財センター
所在地・電話	〒408-0112 山梨県北巨摩郡須玉町若神子 521-17　TEL 0551-20-6111 〒407-0204 山梨県北巨摩郡明野村上手 8310　　TEL 0551-25-2019
調査原因	塩川病院増築ほかの建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
発行日	平成 15 年 3 月 31 日

ふりがな	こしまきいせき
所収遺跡	**腰巻遺跡（第1次）**
所在地	山梨県北巨摩郡須玉町藤田字腰巻
位置	北緯 35° 46′ 43″　　東経 138° 25′ 40″
調査原因	老人保健施設建設事業
調査期間	平成 6 年 6 月20日～平成 6 年 9 月13日
調査機関	明野村教育委員会　須玉町教育委員会
調査面積	4600㎡
主な時代	縄文時代、古墳時代後期、奈良時代、平安時代
主な遺構	古墳時代後期住居、奈良時代住居、平安時代住居、奈良平安時代建物
主な遺物	縄文土器・石器、古墳時代～平安時代の土師器、須恵器、石製品、石器、金属製品

ふりがな	こしまききたいせき
所収遺跡	**腰巻北遺跡（第2次）**
所在地	山梨県北巨摩郡須玉町藤田 799-1 他
位置	北緯 35° 46′　　東経 138° 25′
調査原因	須玉町デイサービスセンター建設に伴う工事
調査期間	平成 8 年 3 月 1 日～ 7 月 31 日
調査機関	須玉町教育委員会
調査面積	4700㎡
主な時代	古墳時代、平安時代
主な遺構	古墳時代住居、平安時代住居
主な遺物	古墳時代後期、平安時代の土器

ふりがな	こしまきみなみいせき
所収遺跡	**腰巻南遺跡（第3次）**
所在地	山梨県北巨摩郡須玉町藤田 728 他
位置	北緯 35° 46′　　東経 138° 25′
調査原因	塩川病院増築建設に伴う工事
調査期間	平成15年 2 月 3 日～ 5 月20日
調査機関	須玉町教育委員会
調査面積	1800㎡
主な時代	縄文時代、弥生時代、平安時代
主な遺構	縄文時代住居、弥生時代住居、平安時代住居、土坑、溝、ピット
主な遺物	弥生時代、平安時代の土器及び弥生時代の石包丁

腰巻遺跡　（第１次）
腰巻北遺跡（第２次）
腰巻南遺跡（第３次）

平成 15 年 3 月 31 日発行

編　集　　須玉町教育委員会
　　明野村教育委員会

発　行　　須玉町教育委員会
　　明野村教育委員会

印　刷　　有限会社 高速プリント